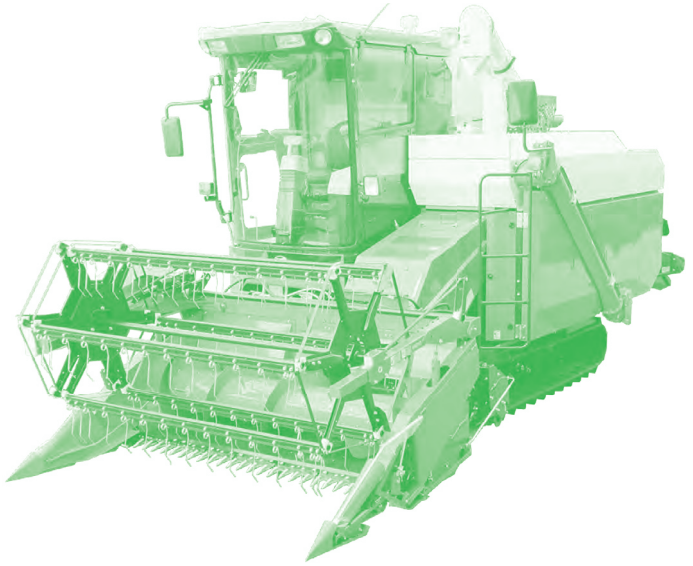
コンバイン

取扱説明書

MCH1140



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、エアコン装備（キャビン仕様）の場合、「簡易点検の実施」、「記録の保管」を実施することが義務化されました。
詳しくは、巻末の「フロン排出抑制法によるお客様点検」と「簡易点検記録表」をお読みください。

輸出または非居住者に提供する場合

当社製品ならびに技術資料を、輸出または非居住者に提供する場合は、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の法規制を順守ください。
なお、お客様の違反に伴う損害について、当社は責任を負いません。

車両銘板とエンジン銘板

車両銘板とエンジン銘板には、アフターサービスをお受けになるときなどに必要な情報が記載されています。
車両銘板は、乗降ステップの内側の位置（図1）に、エンジン銘板は、シリンダヘッド上面（図2）にそれぞれ貼り付けられています。

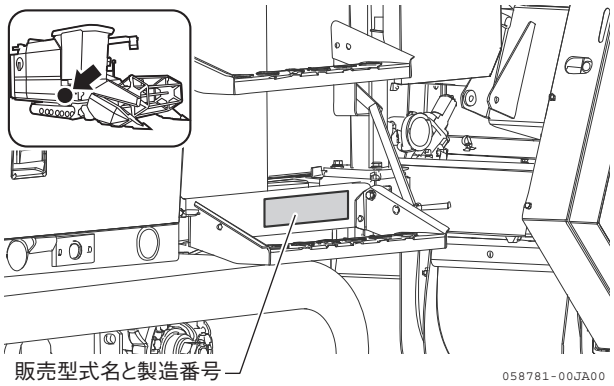


図 1 車両銘板

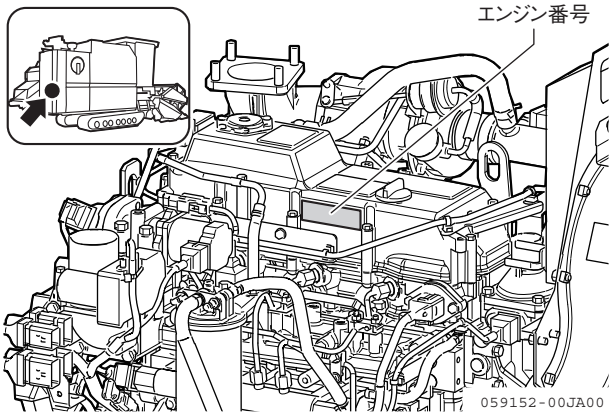


図 2 エンジン銘板

販売型式名､製造番号などを記入してください

コンバインの製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などを以下の表に記入してください。

販売型式名：	アタッチメント型式名および製造番号：
区分：	
製造番号：	
エンジン型式：	
エンジン番号：	

※ご購入のコンバインによっては、該当しない項目もあります。
※アフターサービス、保証については、（284ページ）をご参照ください。

お客様へのお知らせ

[重要]

このコンバインは排出ガス規制対応のためコモンレールエンジン、排気フィルター(DPF※)を搭載しています。

日常点検項目や、使用する燃料・オイルは、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みいただき徹底をお願いします。

※ Diesel Particulate Filter; ディーゼル パティキュレート フィルター

1. ウォーターセパレータを表1に従って定期的に点検し、水が溜まっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼きつくおそれがあります。

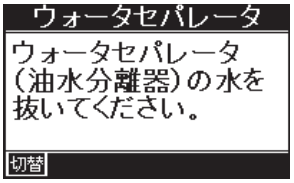
表 1 ウォーターセパレータ

水抜き・洗浄	1回目:50時間目 2回目以降:100時間ごと

特にセンターディスプレイに下の警報画面が表示された場合は、ウォータセパレータに水が溜まっていますので、速やかに中の水を抜いてください。



F4030945



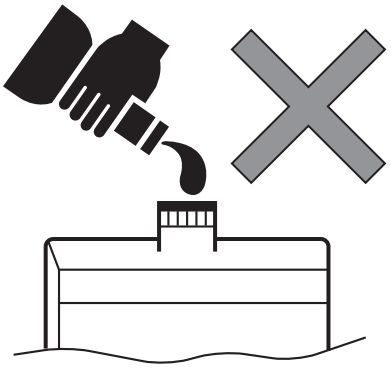
F4030953

2. 燃料コシ器内のエレメントは、表2に従って、定期的に交換してください。守らないと、エンジン出力が低下するおそれがあります。

表 2 燃料コシ器エレメント

燃料コシ器エレメント	交換	300時間ごと

3. 燃料は市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物等を加えないでください。添加物等で燃料噴射ノズルが目詰まりを起こし、エンジン出力が低下するおそれがあります。



4. このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品および排出ガスの後処理装置である排気フィルターを使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板の容器のご使用は避け、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。
5. エンジンオイルは必ず表のものを使用してください。

表 3 エンジンオイル

	指定オイル	一般販売店の相当オイル	
		JX日鉱日石エネルギー(ENEOS)	コスモ石油
エンジンオイル	DPF搭載機専用ディーゼルエンジンオイル 10W-30 DH-2	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30相当品(DH-2級、API分類、CJ-4級)	

⚠警告

コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。守らないと、整備不良によるコンバインの故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。



はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、三菱コンバインをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、コンバインの取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書をシート後のポケットに入れ、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書を本製品と共におわたしください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1章必ずお読みください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書の表紙裏の記入欄にコンバインの製造番号、エンジンの番号、キーナンバーなどを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンバインは、路上（公道）走行できません。

このコンバインは、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。
※積載するトラックの選定は、道路交通法を守ってください。（詳しくは8 ページをご覧ください。）

説明記号の見方

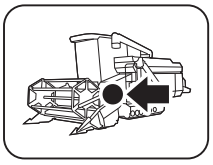
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、ケガを負う可能性があるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明個所の位置と、見ている方向を示します。
また、本書の「左側」や、「右側」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。「左旋回」、「右旋回」という記載は前進方向を基準として示します。

●印：位置　　⬅印：見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の他に、大豆・小豆・そばなどの作物の刈取・収穫用作業機としての農業用にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、しないでください。大豆・小豆・そばの場合は、必ず作業前に専用キットに交換し、各部の調整を必ず行ってください。
（詳細は、専用キットの取扱説明書をご覧ください。）
使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

型式：MCH1140

仕様：Ｊ：　ロングハイラグクローラ仕様
　　Ｍ：　セカンドモア仕様
　　Ｓ：　スプレッダ仕様
　　なし：標準ヘッダ仕様（刈幅 2060 mm）
　　Ｗ：　ワイドヘッダ仕様（刈幅 2590 mm）
　　Ｗ3：スーパーワイドヘッダ仕様（刈幅 2970 mm）
　　Ｃ：　キャビン仕様
　　Ｈ：　北海道仕様

本製品の使用条件について

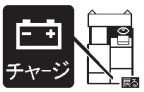
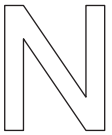
本製品は、収穫用のコンバインとして設計、製造されています。
表の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

傾斜度	11度(18%)以下

運転操作のシンボルマーク

コンバインを安全に能率よく操作、作業していただくために、以下のシンボルマークをコンバインおよび取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。なお、各シンボルマークのさらに詳しい説明については、本書第2章「運転のしかた」に記載しています。

 059214-00X00	ウインカパイロットランプ		もみ満量	 059216-00X00	セカンドモア高さ
	エンジン回転高速		油圧警報表示	 059217-00X00	リール高さ
	エンジン回転低速		バッテリーチャージ	 059218-00X00	リール変速
 059213-00X00	エンジン回転		エンジン冷却水		燃料残量表示
	ホーン	 059215-00X00	ブザー停止		
	前照灯		グレンタンク		
	積算計		Eモード		ニュートラル（中立）
	排気フィルター再生				

関係法規

排出ガス規制について

このコンバインは、道路運送車両法の特定特殊自動車排出ガス規制に適合しています。
規制適合を維持していくためには「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」（280 ページ）に従って、エンジンオイル・オイルフィルター・燃料フィルター、およびエアクリーナーエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。
定期的なメンテナンスを怠り、排出ガス基準値をクリアできなかった場合は、罰則が課せられる場合があります。

ディーゼル燃料について

燃料規格について

表 2 燃料規格

ディーゼル燃料規格	地域
JIS K2204 3 号軽油	日本
ASTM D975-05 No.1 D S15 No.2 D S15	米国
EN590:2004	EU（欧州連合）

その他の燃料基準

- 燃料のセタン価は45 以上であること。
  なお、（EGR 付電子制御式）エンジンについては硫黄分0.1 %未満の燃料の使用が必須です。
  一般的に、高硫黄燃料を使用しますと、シリンダ内の硫酸腐食を発生させるおそれがあります。
  特にアメリカ合衆国・カナダにおいては Ultra Low Sulfur 燃料を使用すること。
- ディーゼル燃料には、灯油、使用済みのエンジンオイル、または余りの燃料を混ぜないでください。
- 燃料内の水および沈殿物は、全体の体積の0.05%未満であること。
- 燃料タンク、および燃料を取り扱う装置類は、常に清潔にすること。
- 品質が悪い燃料は、エンジン性能を低下させます。また、エンジン損傷の原因となります。
- 燃料添加剤の使用はお控えください。一部の燃料添加剤は、エンジン性能が低下する原因となります。
  詳細は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへお問い合わせください。
- 灰分は、全体の体積の0.01%未満であること。
- 残留炭素分は、全体の体積の0.35%未満であること。ただし、推奨値は0.1%未満。
- 芳香族分は、全体の体積の 35%未満であること。ただし、推奨値は30%未満。
- PAH（多環芳香族炭化水素）は、全体の体積の10%未満であること。
- 金属分（ナトリウム、マグネシウム、ケイ素、アルミニウム）は、1 mass ppm 以下であること。（JPI-5S-44-95 試験分析手法）
- 潤滑性 - HFRR 試験での WS1.4 の摩耗きずが、最大で460μm までとする。

バイオディーゼル燃料について

- 「揮発油の等の品質の確保に関する法律」で定める軽油規格を満足する B5 以下のバイオディーゼル燃料であることを確認してください。
- バイオ燃料は、必ず正規のディーゼル燃料販売店で購入してください。

目次

総目次

車両銘板とエンジン銘板 1

販売型式名、製造番号などを記入してください 1
お客様へのお知らせ 2

はじめに 3

関係法規 8
排出ガス規制について 8
ディーゼル燃料について 8
燃料規格について 8
バイオディーゼル燃料について 8

1章　必ずお読みください 16

安全な作業をするために必ずお守りください。.. 16
運転（作業）する人について 16
運転（作業）するコンバインについて 18
運搬するときの注意事項 27
駐車・格納するときの注意事項 30
点検・給油・整備するときの注意事項 32
無線リモコンを操作するとき 39
その他の注意事項 39
安全銘板 40
安全銘板の貼り付け位置 40
安全銘板の手入れについて 53

2章　運転のしかた 54

各部のはたらきと使いかた 54
フロントコラム部 54
ハンドル部 56
センターディスプレイ部 57
サイドコラム部（スイッチ・ダイヤル類） 61
オールマイティシフトレバー部 67
オーガマルチリモコン 70
オーガ先端 73
無線リモコンオーガ 73
オーガリターンスイッチ 75
その他の操作関係 75
その他 78
キャビン関係 81
ならし運転（最初の50時間）について 87
運転前の点検 88
点検のしかた 90
運転前の準備 91
コンバインへの乗降のしかた 91
シート位置の調節のしかた 92
マルチハンドルの前後調節のしかた 93
メンテナンスモードについて 94
操作機能の変更のしかた 97
エンジンの始動と停止 99
始動のしかた 99
暖機運転のしかた 102
エンジンの停止のしかた 102
運転操作 103
発進・走行のしかた 103
変速のしかた 105
旋回のしかた 105
停車・駐車のしかた 107
移動走行のしかた 108
夜間運転のしかた 111
エアコンの使いかた 111

3章　作業のしかた 113

刈取作業前の準備 113
刈取りできる作物の条件について 113
刈取り作業ができるほ場の条件について 114
ほ場の準備と刈取方法について 114
コンバインの準備のしかた 116
ほ場への出入りのしかた 121
デュアルモニターについて 122
作業について 123
刈取操作のしかた 123
作物や作業条件に合わせた各部の調節 130
警報装置が作動したときの処置 132
自動装置について 132
こく粒の排出のしかた 146

4章　お手入れのしかた 152

各部の脱着・オープンのしかた 152
各部脱着・オープン一覧 152
主なカバーのなまえ 153
ロータカバーのオープンのしかた 155
グレンタンクのオープンのしかた 156
脱こく左前・左後カバーのオープンのしかた 157
エンジン後カバーのオープンのしかた 158
脱こく側板の外しかた 159
スプレッダ（オプション）のオープンのしかた 159
脱こく下網の脱着のしかた 159
ヘッダ部の脱着のしかた 160
揺動装置の脱着のしかた 164
作業後の手入れについて 167
作業後の手入れのしかた 167
コンバインの洗浄のしかた 167

刈取部ストッパ（刈取部固定）の
セットのしかた 168
各部の掃除のしかた....170
各部の注油のしかた....175
グリスアップのしかた....177
点検・整備のしかた 180
定期点検・整備の時期について 181
定期点検一覧表 182
オイル・グリス・不凍液一覧表 185
給油・給水一覧表 185
メンテナンス時間のリセットのしかた....186
燃料の点検・補給のしかた....187
オイルの点検・補給・交換のしかた 188
冷却水の点検・補給・交換のしかた 193
エンジンオイルエレメントの交換のしかた.195
燃料フィルターの交換のしかた 196
排気フィルターの再生のしかた 197
ウォータセパレータエレメントの
点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた.....202
燃料タンクのドレン抜きのしかた 204
燃料の空気（エア）抜きのしかた 204
エアクリーナーの掃除・交換のしかた....204
プレクリーナーの掃除のしかた 205
防塵装置の掃除のしかた....206
作動油タンクオイルの
点検・補給・交換のしかた 208
HST フィルターの交換のしかた....210
ウォッシャー液の補充のしかた 210
バッテリーの点検・整備のしかた 211
パイプ類の点検のしかた....214
電気配線の点検のしかた....214
ヒューズ・スローブローヒューズの
点検・交換のしかた....214
刈刃の調節のしかた....216
プラットホーム底板とスクリューコンベアの
すき間調節のしかた....216
リール変速ベルトの交換のしかた 217
プラットホーム底板とオーガフィンガの
すき間調節のしかた....218
フィーダチェンの張り調節のしかた 218
プラットホームオーガリミットクラッチの
点検・調節のしかた....219
リール調節のしかた....220
各部チェンの点検・調節のしかた 222
各部ベルトの点検・調節のしかた 225
駐車ブレーキの点検・調節のしかた 235
クローラの点検・調節のしかた 236
強力ピンの交換のしかた....237
送信機の電池の交換のしかた....237
排出ガスの色について....239
クーラーガス（冷媒）の点検のしかた....239
不調診断のしかた 242
センターディスプレイの
注意画面について 242
センターディスプレイの
異常表示と処置のしかた 257
センターディスプレイに表示されない
不調について 261
チェッカ機能について 268

5章　保管のしかた 271

短期保管するときは（2か月以内）.... 271
保管のしかた 271
長期保管するときは（2か月以上）.... 272
保管のしかた 272
保管中の整備のしかた 273

6章　輸送のしかた 274

トラックへの積み・降ろしのしかた 274
アユミ板について 274
トラックの準備 274
コンバインの積み込みかた 275
トラックに積み込んだら 276
コンバインの降ろしかた 277
積み・降ろし中の停止・発進のしかた 278

7章　仕様 279

主要諸元 279
主要消耗部品の点検・交換時期の目安表 280

8章　廃棄物の処理について 283

廃棄するときは 283
廃油、不凍液の処理 283
バッテリーの処理 283
冷媒ガス（フロン類）の処理 283
ホース類の処理 283

9章　サービスと保証について 284

保証書は大切に保管してください 284
アフターサービスをお受けになるときは 284

10章 索引 285

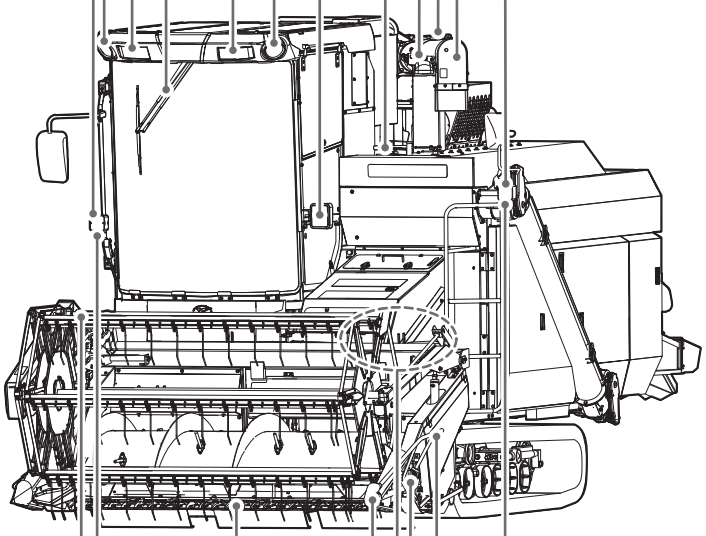
11章 部品リスト(部品早見表) 287

オプション 287
主要消耗部品 288

フロン排出抑制法によるお客様点検 ... 293

イラスト目次

外観



送塵調節レバー
P77

ヘッドライト
P55

オーガモニターカメラ
P86

フロントワイパー
P82

作業灯（オーガ）
P55

作業灯（キャビン）
P55

排出オーガ
P70, 73

方向指示器（右）
P54

方向指示器（左）
P54

リール
P129

車幅灯（左）
P55

車幅灯（右）
P55

サイドデバイダ
P116

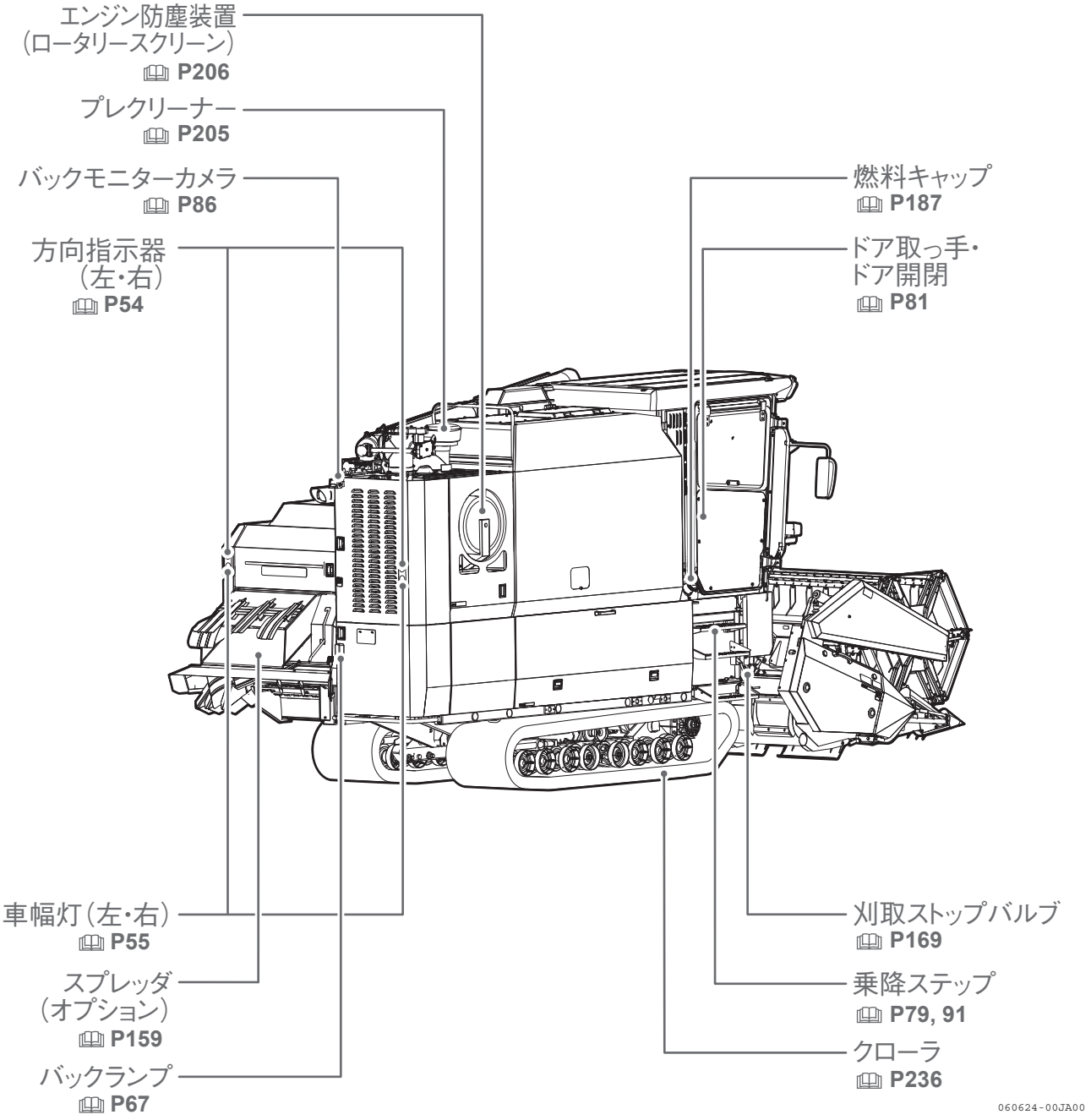
刈刃
P216

センサソリ切換レバー
P62

デバイダヘッド
P116

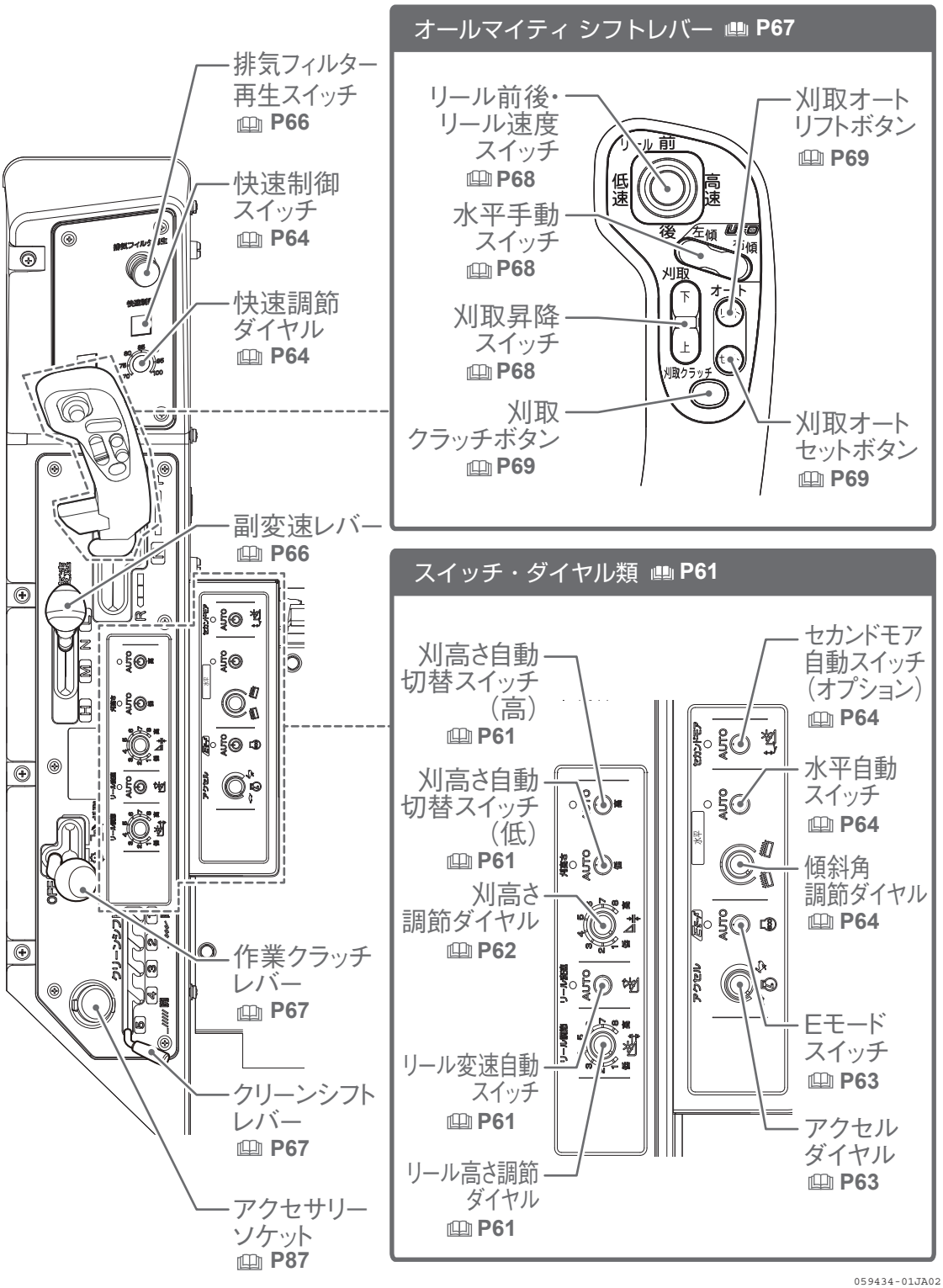
刈取部ストッパ
P168

060623-00JA00


エンジン防塵装置
(ロータリースクリーン)
P206
プレクリーナー
P205
バックモニターカメラ
P86
方向指示器
(左・右)
P54
燃料キャップ
P187
ドア取っ手・
ドア開閉
P81
車幅灯(左・右)
P55
スプレッダ
(オプション)
P159
バックランプ
P67
刈取ストップバルブ
P169
乗降ステップ
P79, 91
クローラ
P236
060624-00JA00

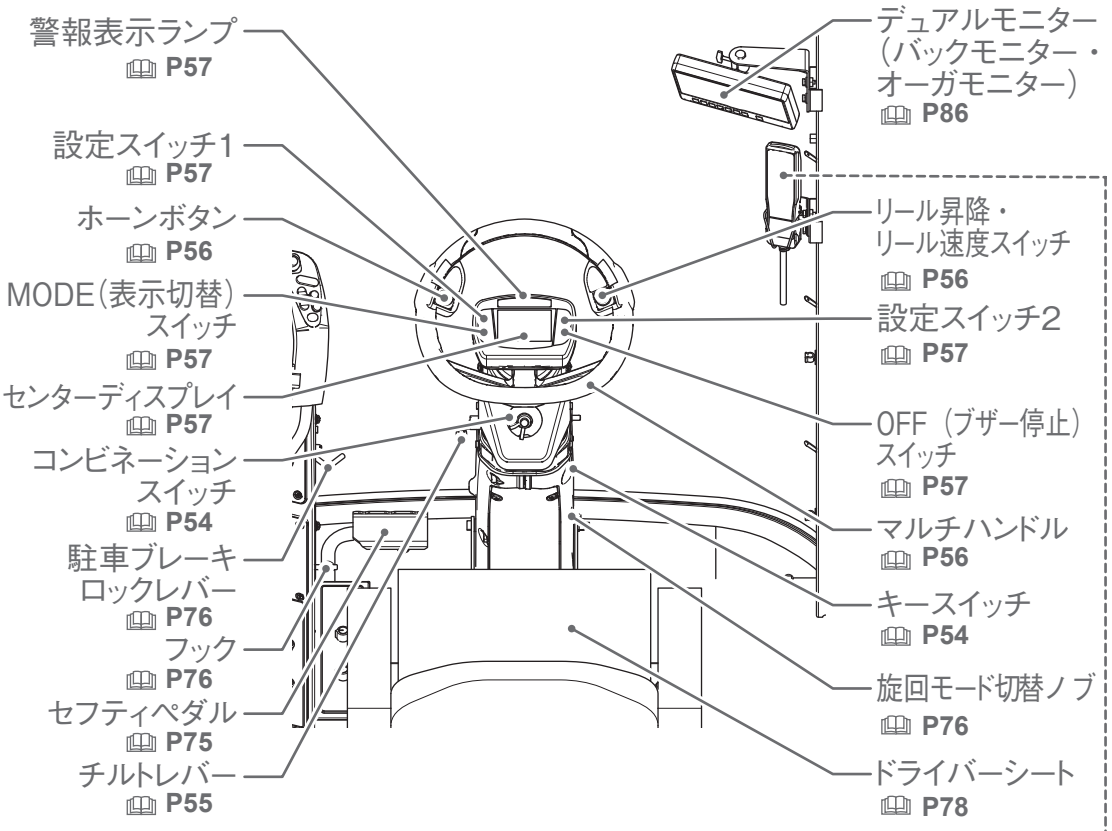
運転操作部

■ サイドコラム部周辺

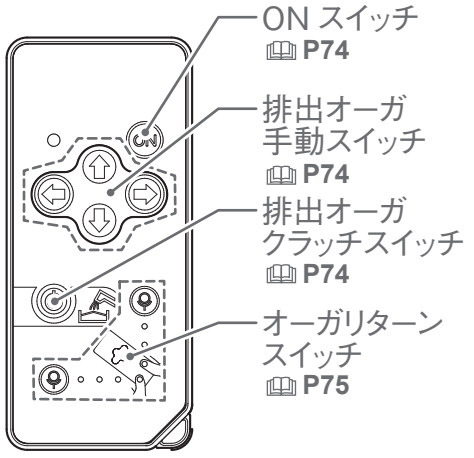


059434-01JA02

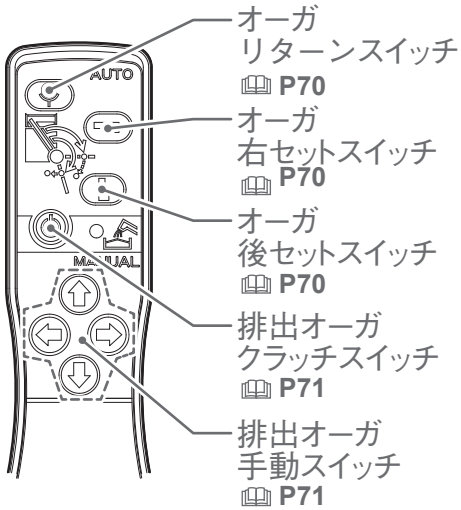
■ フロントコラム部・ハンドル部



無線リモコン P73

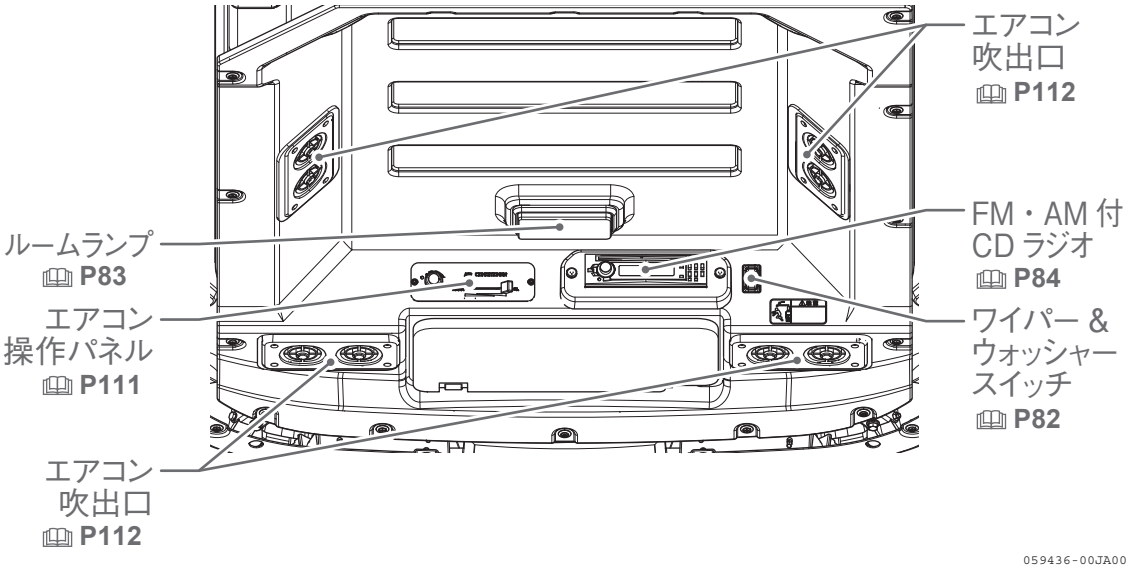


オーガマルチリモコン P70



059435-00JA00

■ キャビン天井


エアコン
吹出口
P112
FM・AM 付
CD ラジオ
P84
ワイパー &
ウォッシャー
スイッチ
P82
ルームランプ
P83
エアコン
操作パネル
P111
エアコン
吹出口
P112
059436-00JA00

安全な作業をするために必ずお守りください。

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡事故を含む事故や損害事故の破損が生じる場合があります。
  ※ご購入いただいた製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

⚠印付きのマークは、安全上、特に重要な項目です。必ずお守りください。

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う可能性があるものを示します。
[重要]	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

運転(作業)する人について

⚠警告

■ コンバインおよび装着するアタッチメントの取扱説明書および安全銘板の内容を十分に理解する

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害事故につながるおそれがあります。



■ 取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しない

作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。また、取扱説明書の内容が理解できない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡してください。

【守らないと】
誤作動などにより、傷害事故につながるおそれがあります。

⚠警告

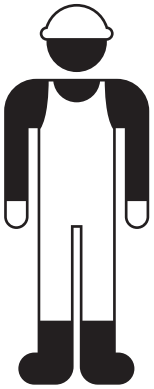
■ 体調が悪いとき、運転が未熟な人は運転をしない

つぎの項目にあてはまるときは、コンバインを運転しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- お酒を飲んだとき。
- 妊娠中の人。
- 18才未満の人。

【守らないと】
誤作動などにより、傷害事故につながるおそれがあります。

■ 作業に適した服装をする



- だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
- 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
- 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】
コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒して傷害事故につながるおそれがあります。

■ コンバインを他人に貸すときは



取り扱い方法や、安全な使いかたをよく説明し、使用前に必ず「取扱説明書」を読むように指導してください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害事故につながるおそれがあります。

運転(作業)するコンバインについて

⚠危険

■ ワラクズの上で絶対に作業しない

ワラクズが堆積している付近にコンバインを止めて、作業をしないでください。

【守らないと】

エンジン周辺の熱でワラクズが高温になり、火災を引き起こすおそれがあります。



■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、十分周囲に注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

また、補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせてください。作業中は、ホーンなどでお互いに合図し合ってください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ 使用する前には、必ず各部を点検する

コンバインを使用するときは、必ず運転前（作業前）点検を行い、異常な箇所は整備してください。

- 紛失、または損傷した部品は必ず交換してください。
- クラッチ・ブレーキ・ハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損した部品があれば必ず交換してください。
- ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。
- 異音や異常な振動がないか点検してください。

【守らないと】

整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。



[参考]

運転前（作業前）点検箇所については、91ページ「運転前の準備」を参照ください。

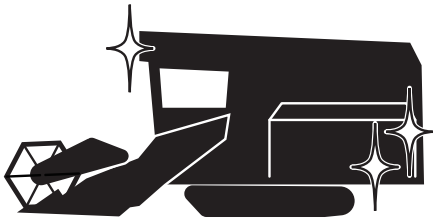
⚠警告

■ コンバインは常に掃除しておく

バッテリー、配線、排出ガス出口、エンジンの周辺部にゴミや燃料の付着がないか確認し、付着がある場合は、必ず取り除いてください。

【守らないと】

付着物に引火して、火災の原因になります。

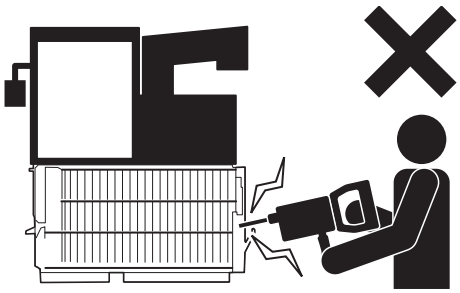


■ コンバインは改造しない

コンバインの改造は絶対にしないでください。

【守らないと】

コンバインの安全性がそこなわれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■ エンジンを始動するときは運転席に座る

エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、駐車ブレーキがかかっていること、各作業クラッチ（作業クラッチ・オーガ）が「OFF」位置にあることを確認してください。

ブースター端子や安全スイッチを直結して、エンジンを始動しないでください。

【守らないと】

コンバインが突然動きだし、転落や傷害事故を引き起こすおそれがあります。

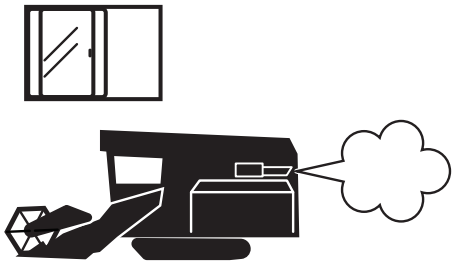
■ 排出ガスに十分注意する

倉庫や車庫など、閉め切った屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内でエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気を十分に行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、死亡事故につながるおそれがあります。



⚠警告

■ 寒冷時には必ず暖機運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから必ず暖機運転を長く行ってください。その際、駐車ブレーキをかならずかけてください。

【守らないと】

駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤作動する可能性があり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ブレーキのききや各レバー類の作動点検をおこなう

ブレーキの効き具合や、マルチハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な走行ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

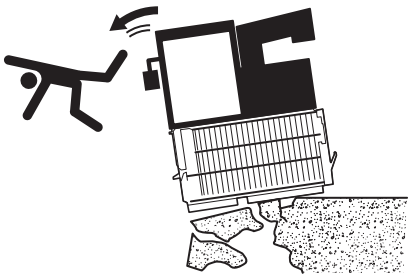
■ 道路の端に寄りすぎない

溝・穴の近くや路肩など、コンバインの重みでくずれるおそれがある場所では、運転しないでください。

草の茂った場所や水たまりは、隠れて見えない窪地などがあるおそれがあります。必ずコンバインから降りて確認してください。走行時は、路肩との距離を十分にとってください。

【守らないと】

転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■ グレンタンク内にこく粒が入っているときは

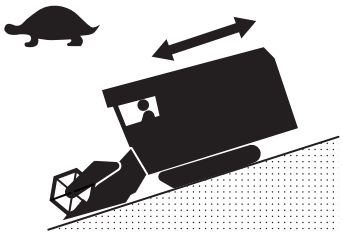
グレンタンク内にこく粒が入っていると、コンバインの重心が高くなり危険です。あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右の傾きが11度以上）での作業および走行はしないでください。

【守らないと】

バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 坂道を走行するときは

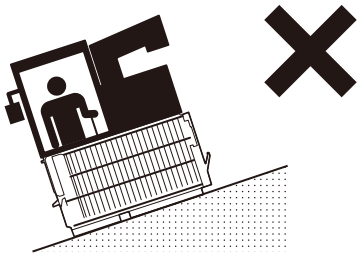


坂道を走行するときは、つぎの項目を必ず守ってください。

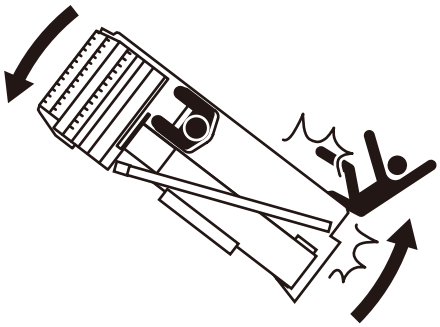
- 坂道の途中では駐車しないでください。
- 副変速を操作しないでください。
- 高速（移動）走行、急旋回をしないでください。
- 坂道を斜めに走行しないでください。

【守らないと】

コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■ 慎重な運転をする



スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転をしてください。
走行時は、路肩との距離を十分にとってください。

- 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
- 旋回をするときは、コンバインの速度を落としてください。
- 坂道や凹凸道、カーブの多い場所では、コンバインの速度を落としてください。
- わき見運転や、手放し運転は絶対にしないでください。

【守らないと】

転倒や追突事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業部の回転が止まるまで触れない



脱こく部や刈取部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。また、コンベア部チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】

回転するこぎ歯に触れてケガをしたり、コンバインが急に動き出して、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ エンジンや排気フィルター周辺部、排出ガス出口、プーリ駆動部の周辺のゴミは取り除く



作業中は、エンジンや排気フィルター周辺部、排出ガス出口、プーリ駆動部に付着しているワラクズ・ゴミ・燃料などを、時々取り除いてください。また、取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、作業関係レバーを全て「OFF」位置にして高温部が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】

付着物に引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 手刈りした作物をプラットホームに投げ込まない



【守らないと】

回転する刃やリールに巻き込まれ、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 刈取部の下にもぐったり、手足を突っ込まない



【守らないと】

刈取部が下がったときに、挟まれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ドアを開放したまま作業しない

【守らないと】

作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や身体が挟まれるおそれがあります。

■ 異常と思ったらエンジンをすぐに止める

異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、各作業クラッチ（作業クラッチ・オーガ）を「OFF」にしてから点検してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ こく粒排出作業中は、排出口に手を入れない



こく粒排出作業中は、排出オーガ内部でコンベアが回転しているので、排出口に手を入れないでください。

【守らないと】

ケガをするおそれがあります。

■ 傾斜地でエンジンを切ると、排出オーガが動き出すおそれがある

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合わせる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合せしてください。また作業中は、ホーンなどでお互いに合図し合って行ってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 詰りを取り除くときは、エンジンを停止する

脱こく部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けてください。また、コンベア部・チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠注意

■ 必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。電気配線は50時間または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。燃料パイプなどのゴムホース類は、時間が経過すると劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良により、燃料・熱湯・作動油が漏れて、火災やヤケドを引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ コンバインの始動時、発進時は、周囲の安全を確認する

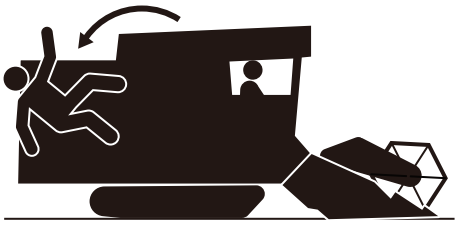


コンバインの始動や発進をするときは、周囲に合図をして、安全を確認してからゆっくりと発進してください。

- 周囲に人や障害物がないか確認してください。特に子供やペットには十分注意してください。
- オーガやコンバインにあたる障害物がないかを確認してください。
- コンバインを発進するときや、作業クラッチレバーを操作するときは、ホーンをならすなど周囲に合図をしてから行ってください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 運転者以外はコンバインに乗らない



このコンバインの乗車定員は1名です。運転者以外の人をコンバインに乗せたり、周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】
振り落とされたりして思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ デバイダヘッドを外し、サイドデバイダ・排出オーガを収納する

デバイダヘッドを外し、サイドデバイダは内側に、排出オーガはオーガレストに収納してください。

【守らないと】
人や物に接触して、思わぬ事故を引き起こす原因になります。

■ 関係法規を守り、ヘルメットを着用する

移動走行時は関係法規を守り、安全のため必ずヘルメットを着用してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠注意

■ ほ場を出る前に自動機能を「切」にする

ほ場以外で走行するときは、つぎの自動機能を「切」位置にしてください。

- リール高さ、リール変速自動
- セカンドモア（オプション）自動
- 水平（傾斜角制御機能）
- 刈高さ自動

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ あぜを乗り越えるときは、最低速度であぜに対して直角に渡る

あぜを乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ずあぜに対して直角に渡ってください。

【守らないと】
バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

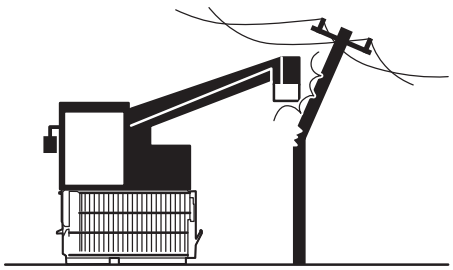
■ 夜間作業をするときは、作業灯を使用する



夜間作業をするときは、作業灯を点灯し、周囲が確認できる状態で作業をしてください。

【守らないと】
周囲の状況がわかりにくく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ 排出オーガを操作するときは、周囲の障害物に注意する



排出オーガを上昇・下降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確かめ、ゆっくりと操作してください。

【守らないと】
接触事故を引き起こすおそれがあります。

■ 排出オーガの先端には、籾袋などを吊り下げ、作業をしないでください

【守らないと】
排出オーガの変形や籾詰まりの事故および駆動系の破損のおそれがあります。

⚠注意

■ 刈取作業時以外はEモードスイッチを「切」にする

【守らないと】

Eモードスイッチを「入」にしたままではアクセルダイヤルでのエンジン回転調節ができないため、思わぬ事故の原因になります。

■ 暖機運転時、運転席から離れるときなどは駐車ブレーキをかける

つぎのようなことを行う場合、必ず安全のためオールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、駐車ブレーキがかかっていること、各作業クラッチ（作業クラッチ・オーガ）が「OFF」位置にあることを確認してください。

【守らないと】

コンバインが突然動きだし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝越え時は最低速度で、コンバインを溝に対して直角に合わせる

ほ場の出入りで、急斜面の登り降りや溝越えをするときは、コンバインを斜面や溝に対して直角に合わせ、低速で走行してください。

【守らないと】

コンバインが転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝や高いあぜを渡るとき、段差を乗り越えるときはアユミ板を使用する



ほ場に入るとき、溝や高いあぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。使用するアユミ板はつぎの基準にあったものにしてください。

- 丈夫ですべり止めのあるもの
- 段差の4倍以上の長さがあるもの
- 幅、強度がコンバインに適したもの。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

運搬するときの注意事項

⚠警告

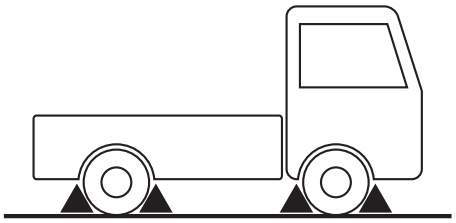
■ ほ場間の移動には、十分に強度のあるトラックを使う

積載荷重6t以上のトラックを使用してください。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

■ コンバインを積み込むトラックには、必ず車止めをする



コンバインを積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1 速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけ、さらにタイヤに車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

アユミ板は丈夫ですべり止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が 15 度以下になる長さのものを使用してください。また、アユミ板は段差の4倍以上の長さがあるものを使用してください。

【守らないと】

アユミ板が折れて転倒したり、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、事前にアユミ板の平行や安定を確認する



アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。積み・降ろしをするときは、アユミ板の先端のツメがトラックの荷台後方にあるフックにかかっている事を確認してください。荷台にアユミ板のツメをかけるフックがないトラックへの積み・降ろしは行わないでください。

特にコンバインがアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分注意してください。

【守らないと】

積み・降ろし中にバランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 積み・降ろし作業は、1人で行わない



積み・降ろし作業を行う場合は、アユミ板を使い、コンバインに乗って補助者の指示に従い、遅いスピードで積み・降ろし作業を行ってください。また、クローラがアユミ板から外れないように注意してください。

【守らないと】

万一、事故が発生した場合に、コンバインの下敷きになるなど、重大な事故をまねくおそれがあります。

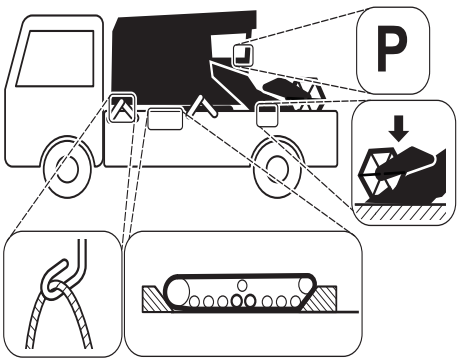
■ 運搬するときは、コンバインのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、コンバインのエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

運搬中、荷台からコンバインが転落して、事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み込んだコンバインをトラックにロープで確実に固定する



丈夫なロープをコンバインのロープフックにかけ、トラックと確実に固定してください。

【守らないと】

運搬中に、荷台からコンバインが転落して、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

コンバインのロープフックの位置は 276 ページをご覧ください。

■ トラックでの輸送時には、コンバインの各カバーを固定する

カバー類や折りたたみができる部品などは、運搬中、風圧で脱落するおそれがありますので、確実に固定するか、外して荷台に置いてください。グレンタンク部、脱こくサイドカバー・グレンタンク下部カバーも確実にロックしてください。

【守らないと】

風圧で脱落し、事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 長距離輸送をするときはご相談ください

トラックによる長距離輸送の場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご連絡ください。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。

■ 積み・降ろしは平たんで安定した場所で行う

トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物がなく、平たんで安定した場所で行ってください。

【守らないと】

転落、転倒事故を引き起こすおそれがあります。

■ 傾斜した荷台・アユミ板の上では、副変速操作、進路変更をしない

積み・降ろしをするときは、ゆっくりとした速度で、アユミ板に対して直角に進み、途中で副変速操作やハンドルを切らない（進路を変更しない）ようにしてください。

【守らないと】

コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスがくずれて転倒し、傷害事故の原因となります。



駐車・格納するときの注意事項

⚠危険

■ 燃えやすいものが堆積した場所に駐車しない



乾燥した草やワラなど、燃えやすいものが堆積した場所にコンバインを駐車しないでください。

【守らないと】

堆積物に引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ シートはコンバインの排気フィルター周辺や排出ガス出口、エンジンが十分に冷えてからかける

コンバインにシートをかけるときは、排気フィルター周辺や排出ガス出口、エンジンが十分に冷えてから行ってください。

【守らないと】

高温の状態でシートをかけると、シートに引火して火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ グレンタンクを開くときは

グレンタンクを開くときは、つぎの事項を必ず守ってください。

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。

【守らないと】

グレンタンクが不意に回動し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

グレンタンクの開きかたは156ページをご覧ください。

■ 駐車するときは、平たんで安定した場所に止める

コンバインを駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、刈取部を接地させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

また、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、各作業クラッチ（作業クラッチレバー・オーガ）が「OFF」位置にあることを確認してください。

コンバインから離れるときは、必ずキーを抜いてください。

【守らないと】

コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

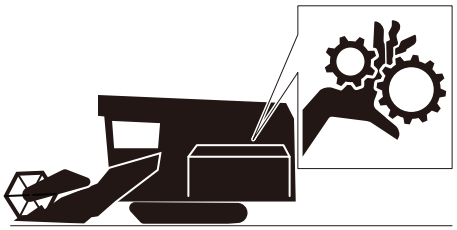
■ ロータカバーを開閉するとき

ロータカバー開閉時は、つぎの事項に注意してください。

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- ロータの扱歯に注意し、素手で触らないでください。
- ロータカバーを閉じるときは、ロックハンドルが「ロック」位置にあることを確認してください。。

【守らないと】

回転部などでケガをするおそれがあります。また、作業中にロータカバーが開いたときは、ロータ内からの作物等の飛散により、ケガをするおそれがあります。

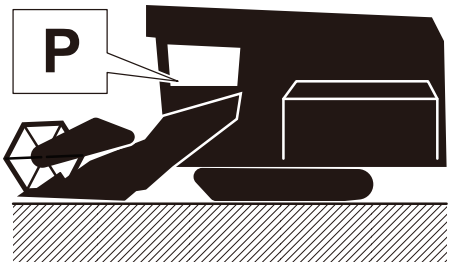


■ 掃除をするときは､必ずエンジンを停止し､駐車ブレーキをかける

掃除をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転刃や刈刃などで手を挟まれて、ケガをするおそれがあります。

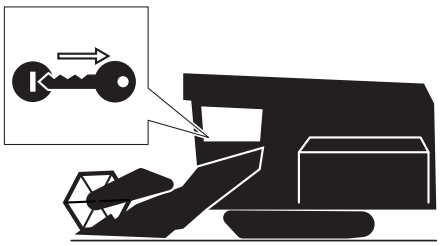


■ 格納時には､バッテリーをコンバインから外し､キーを抜いておくこと

格納するときは、バッテリーをコンバインから外し、キーを抜いて保管してください。

【守らないと】

事故を起こすおそれがあります。



■ 1日の作業終了後は､各部を掃除する

1日の作業が終わったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ゴミなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】

火災の原因になります。

■ 平たんな場所にコンバインを保管する

コンバインは、平たんな場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキをかけて保管してください。

【守らないと】

不意にコンバインが動きだし、思わぬ事故の原因になります。



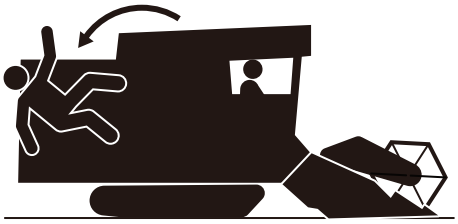
⚠警告

■ 運転席以外の場所にのらない

脱こく上やエンジンルームなど高い場所の整備や手入れをする場合は、脚立などを使用してください。

【守らないと】

エンジンルームの上などは高温となっているためヤケドを負ったり、バランスをくずして高いところから転落しケガをするおそれがあります。



点検・給油・整備するときの注意事項

⚠危険

■ 燃料を補給するときは火気厳禁

燃料を補給するときは、くわえタバコや裸火照明をしないでください。また、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

燃料に引火してヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。



■ 注油・給油は、エンジンが冷えてから行う

エンジン回転中やエンジンが高温の間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料やオイルに引火してヤケドや火災の原因になります。

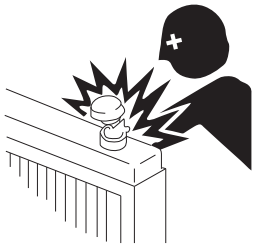
■ ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを外さない

ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

また、エンジン停止後30分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

【守らないと】

熱湯が噴き出して、ヤケドをするおそれがあります。



⚠危険

■ バッテリーを点検するときは火気厳禁



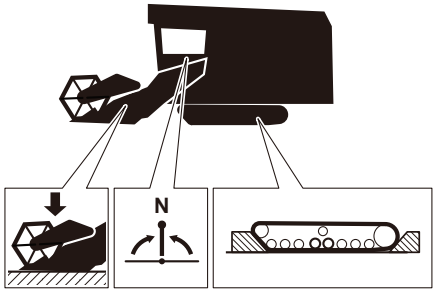
液槽キャップを開けると、バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスがでます。バッテリーを点検するときや、液槽キャップを開けるときは、絶対に火気を近づけないでください。

【守らないと】

ガスに引火して、ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 点検・給油・整備は平たんで安定した場所で行う



点検・給油・整備をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にコンバインを駐車し、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラに車止めをしてください。また、刈取部は地面に接地させ、オールマイティシフトレバー、副変速レバーが「N」(中立) 位置にあること、作業クラッチレバーが「OFF」位置にあることと、回転部が停止されていることを確認してください。

【守らないと】

コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料を補給した後は、燃料キャップを締める

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいに拭き取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

⚠警告

■ 電気部品や電気配線を点検する

電気配線が他の部品のエッジ部に接触していないか、配線の被覆がはがれていないか、配線の固定部がゆるんでいないか点検し、不備がある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

ショートして、火災の原因になります。

■ バッテリー液を「下限(Lower)」以下にしない

バッテリー液が「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にする

バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にし、バッテリーや配線に付着しているワラクズ・ゴミを取り除き、排気穴をふさがないようにしてください。

【守らないと】

火災の原因になります。

■ バッテリーを点検するときは、保護メガネとゴム手袋を着用し、バッテリー液を体や衣服につけない



バッテリーに入っている電解液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、ヤケドや失明のおそれがあります。

■ バッテリーの取り付け・取り外しは、正しい手順で行う

バッテリー端子を外すときは、(－) 側のケーブルから外し、取り付けるときは(＋)側のケーブルから取り付けてください。

【守らないと】

ショートによるヤケドや火災の原因になります。

⚠警告

■ 必ず指定のバッテリーを使用する

バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された型式のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

[参考]

指定バッテリー：115D31R

■ コモンレールエンジンの不調はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください

サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら、ご自身で分解・修理をせず、必ずお買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。

【守らないと】

高圧燃料により傷害事故のおそれがあります。

■ 刈取部を上げて作業するときは、必ず刈取部ストッパをかける

刈取部を上げて作業をするときは、刈取部ストッパで必ず固定してください。

【守らないと】

刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

[参考]

刈取部ストッパのしかたは168ページをご覧ください。

■ 各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止する

各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります

⚠警告

■ 定期的に各部のベルトを確認する

各部のベルトは定期的に確認し、損傷している場合は交換し、張りがゆるい場合は正規の寸法に調節してください。

【守らないと】

ベルトの切損やスリップにより、火災の原因になるおそれがあります。

■ ブレーキの点検整備は必ず行う

ブレーキのききが悪いとたいへん危険です。必ずブレーキの点検整備を行ってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

ブレーキの調整については235ページをご覧ください。

■ 操作レバー、スイッチ類は必ず点検する

各操作レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は、必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な作業ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ マルチハンドルのきき具合を必ず点検・整備する

マルチハンドルの切れ角と旋回半径（きき具合）が同じか点検してください。異なる場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。

【守らないと】

正常な走行ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないかまた張り具合が適正か点検してください。摩耗やキズが激しい場合は、新しいクローラに交換し、張り具合が適正でない場合は、適正な張り状態に調節してください。

【守らないと】

クローラの耳切れや破損により横滑りや転倒事故の原因になります。

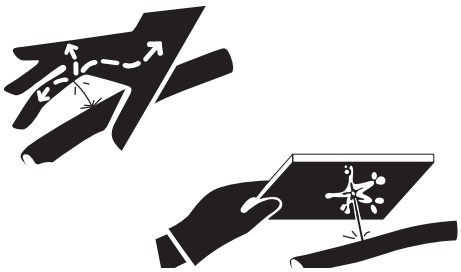
■ 油圧ホースを外すときは、回路内の圧力を抜く

油圧の継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を抜いてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚を突き破るほどの力があり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの油漏れは、厚紙や板などを使って点検する



高圧油に手や体が直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、ただちに医師の治療を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に侵入した場合、強度のアレルギーを引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 排気フィルター周辺が高温のときは絶対にさわらない



【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

⚠注意

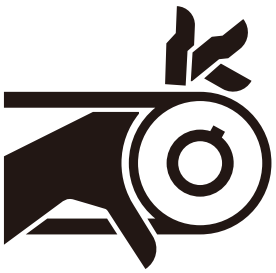
■ 点検・整備を行うときは、高温部が十分に冷めてから

点検・整備を行うときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。

■ 外したカバー類は必ず元通りに取り付ける



点検・整備などで外したカバー類は必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

コンバインに巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

■ 回転部に注油するときは、必ずエンジンを停止する



回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

■ 刈刃の手入れ・交換には、厚手の手袋を着用し、刃先をさわらない

刈刃の手入れ・交換時には、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。

また、刈刃は重いので、脱着をするときは、必ず二人以上で行ってください。

【守らないと】

ケガをするおそれがあります。

無線リモコンを操作するとき

⚠注意

■ コンバインが必ず見える状態で操作する

【守らないと】
思わぬときに排出オーガが動作してけがをする場合があります。

[参考]

- 周囲の状況により電波が弱かったり、ノイズや混信がある場合は、安全機能が働いて、リモコンが動作しない場合があります。
- 近くで複数の無線リモコン操作を行うと、混信などにより動作しない場合があります。

その他の注意事項

⚠警告

■ 農薬との接触を避ける

農薬の取扱説明書に吸入禁止などの指示がある場合には、マスクなどの防具を使用してください。キャビン内部でもマスクを使用してください。
【守らないと】
作業者の健康を害するおそれがあります。

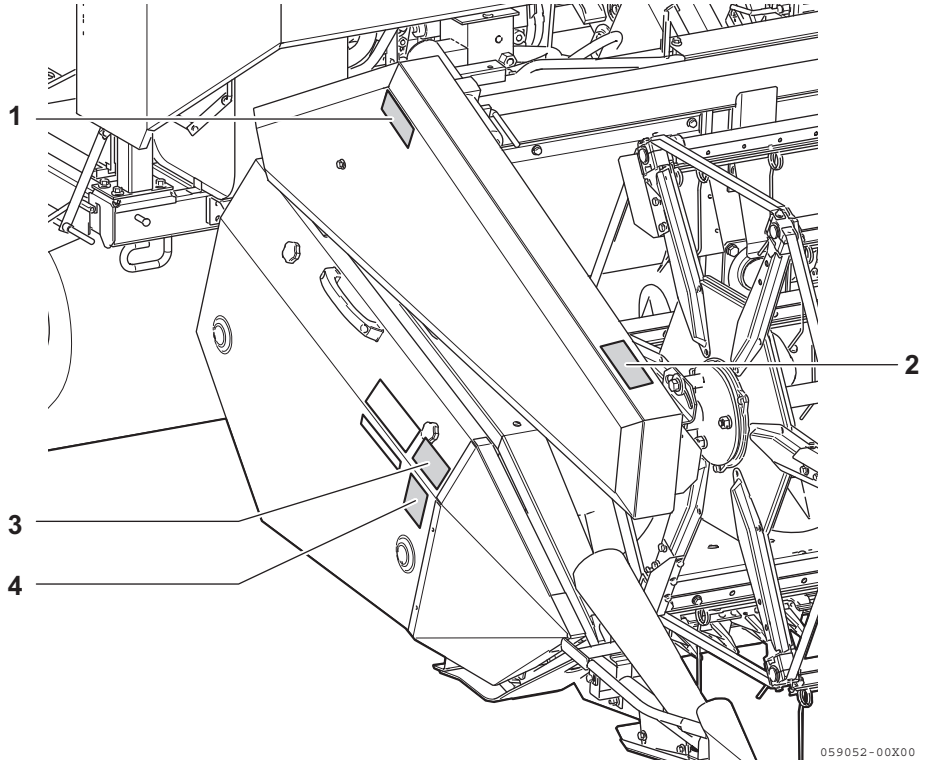
[重要]

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。
廃油・使用済みの冷却水などは、地面・河川には絶対に流さないでください。
エアコンのフロンガスは、大気汚染につながる物質です。国で定められた法律に基づいて、ガスの回収、リサイクルを実施してください。正しい処分方法がわからないときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。
【守らないと】
環境汚染につながります。

安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は作業をはじめる前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。
常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1. 1E8980-97340　警告(PF)



2. 1E6684-97110　警告(リール)

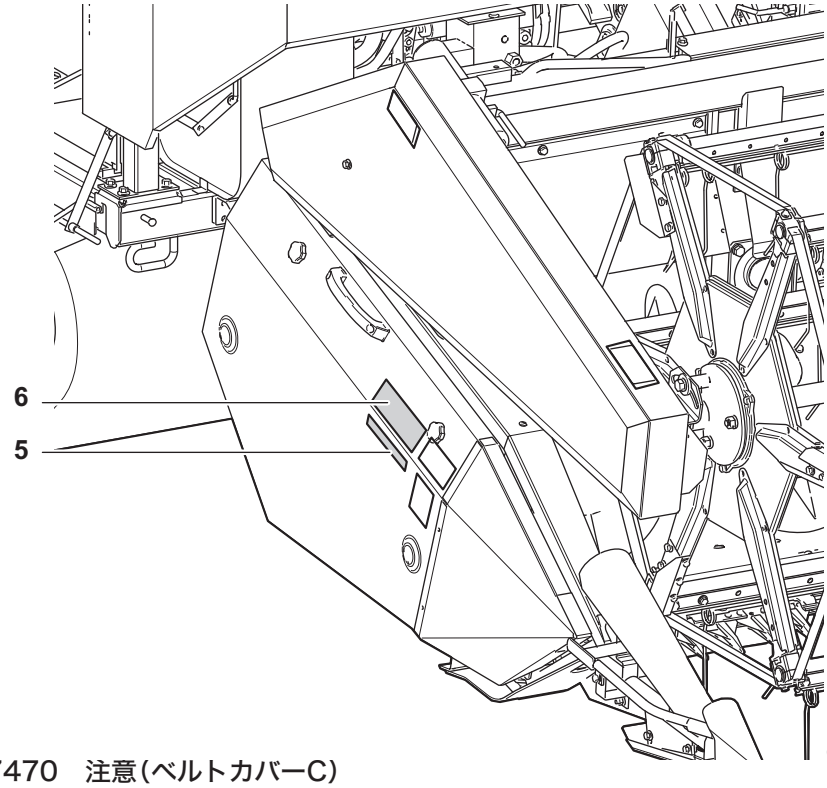


3. 1E8450-97520　注意(デバイダ)

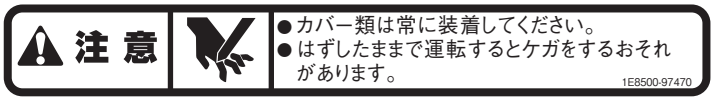


4. 1E8500-97460　注意(エンジン停止)



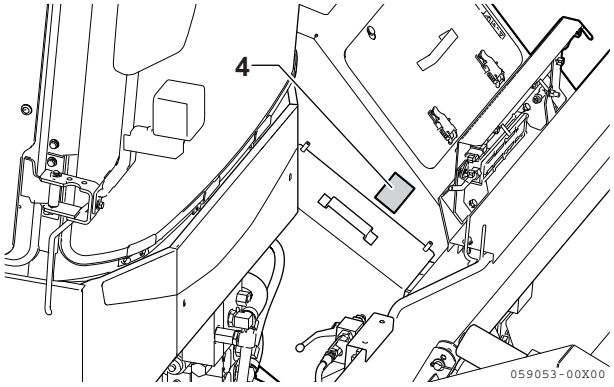


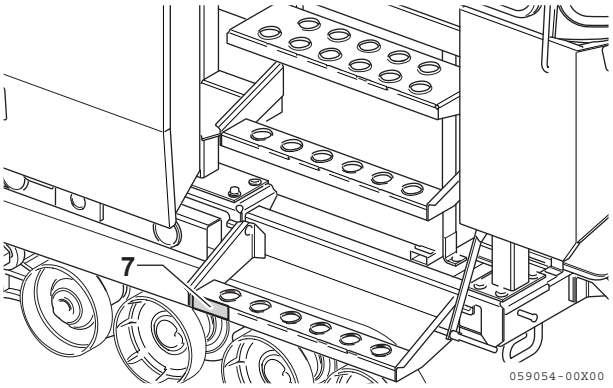
5. 1E8500-97470　注意(ベルトカバーC)



6. 1E8500-97320　警告(点検 A)



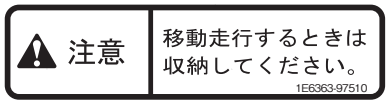


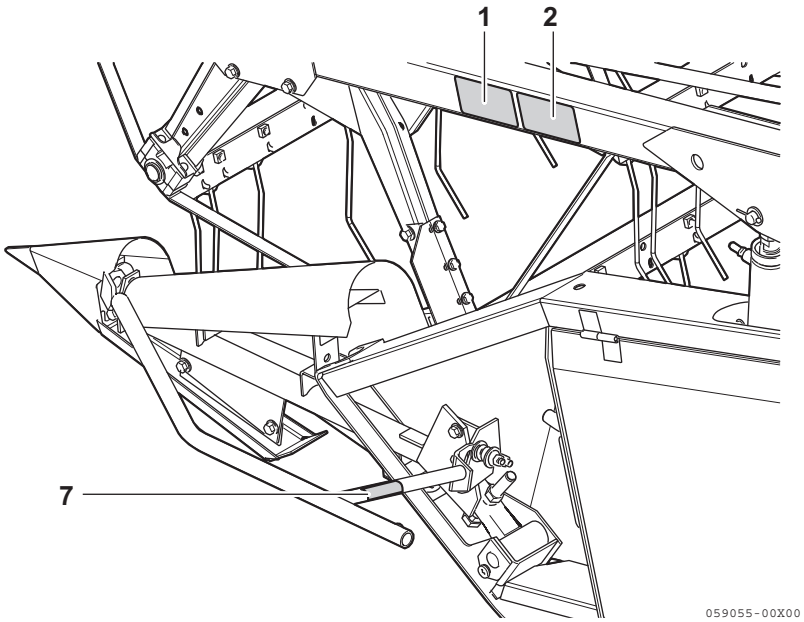


4. 1E8500-97460　注意(エンジン停止)



7. 1E6363-97510　注意(収納)





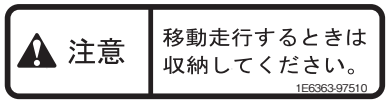
1. 1E8980-97340　警告(PF)

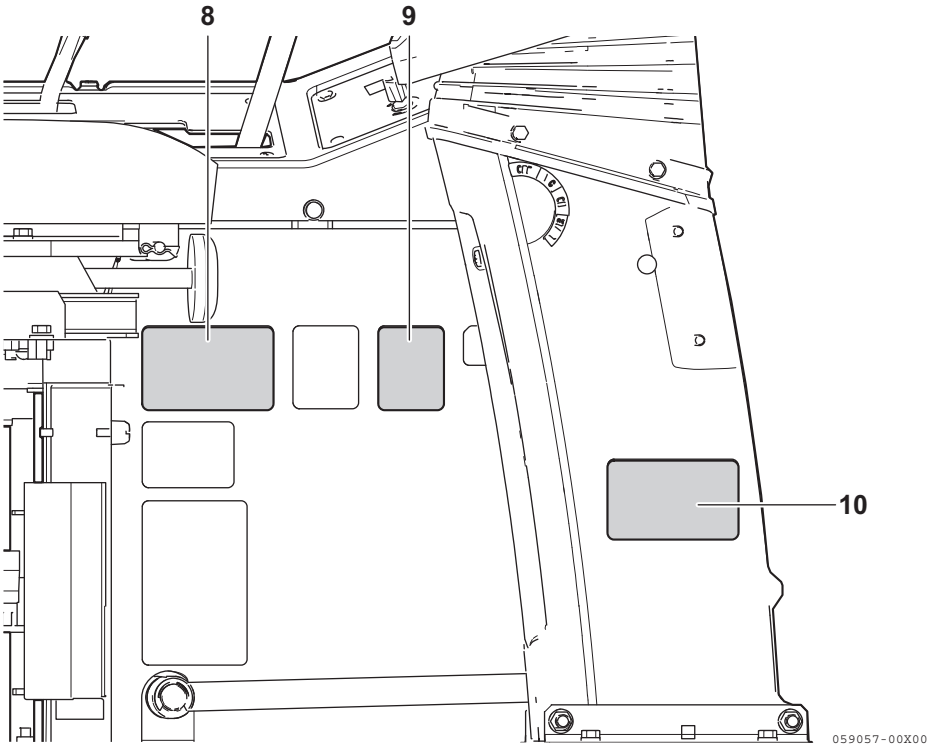


2. 1E6684-97110　警告(リール)

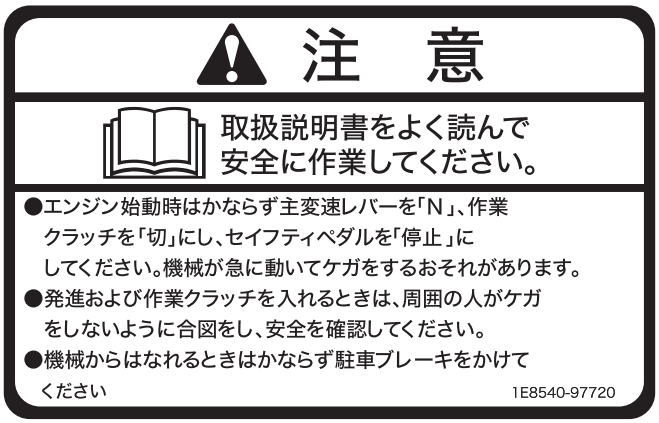


7. 1E6363-97510　注意(収納)





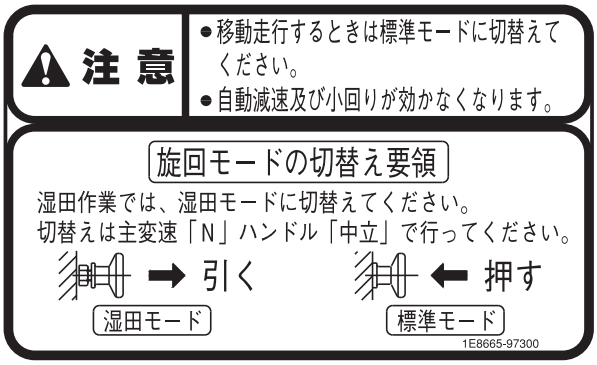
8. 1E8540-97720　注意（取扱 S）

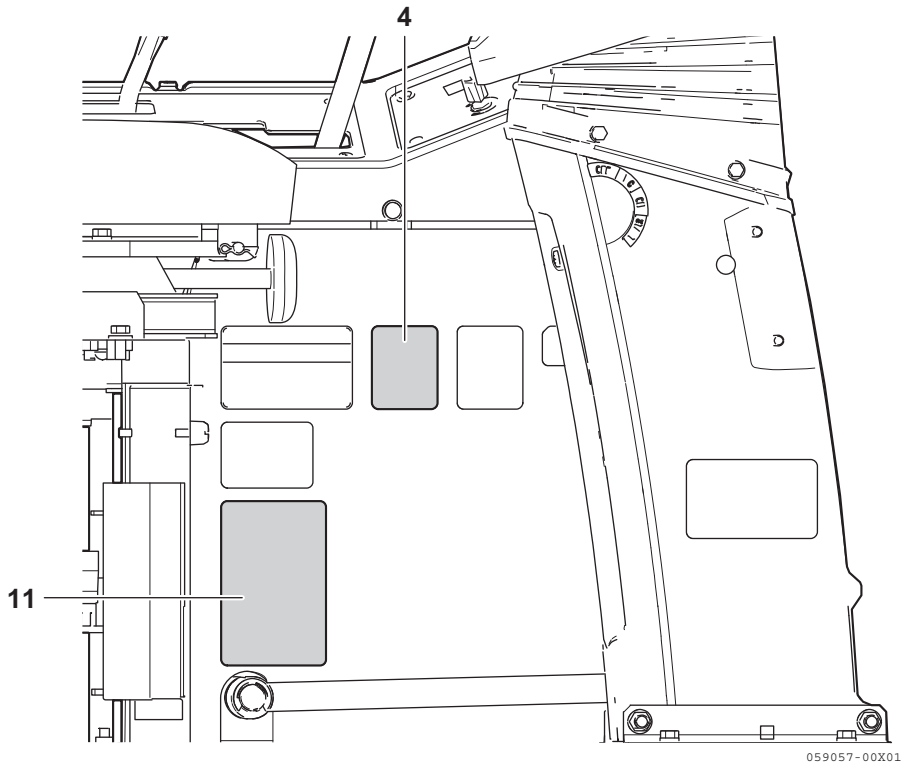


9. 1E8500-97411　注意（注油）



10. 1E8665-97300　注意（旋回モード）

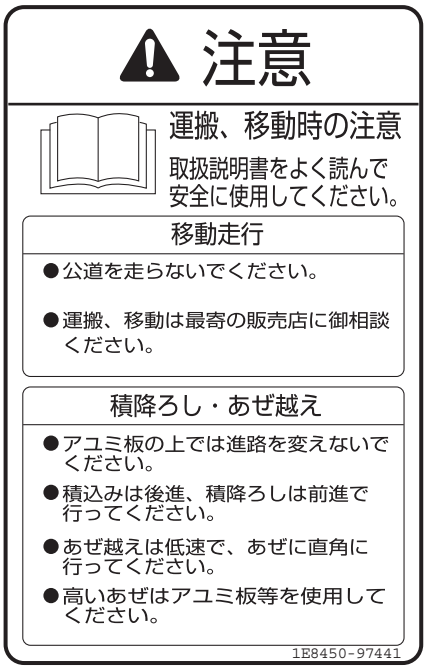


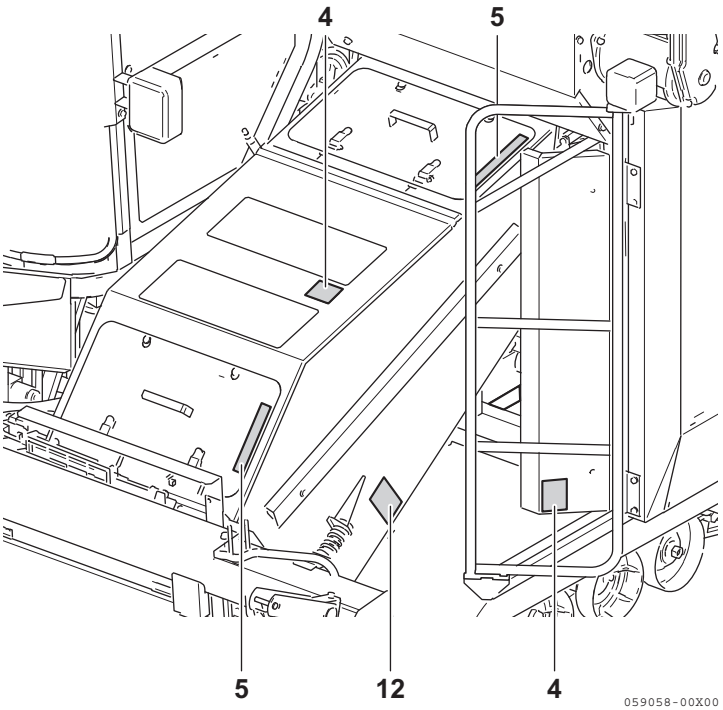


4. 1E8500-97460　注意（エンジン停止）



11. 1E8450-97441　注意（運搬・移動）





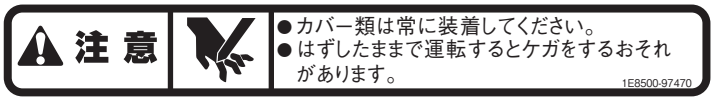
4. 1E8500-97460　注意(エンジン停止)

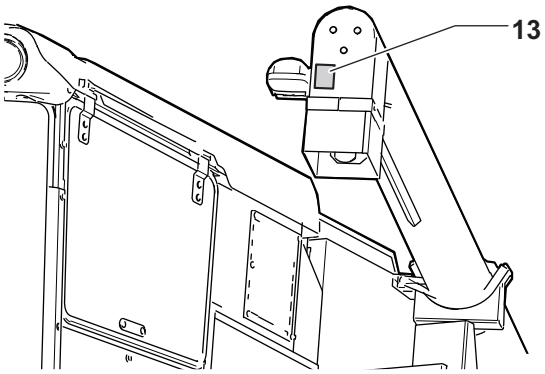


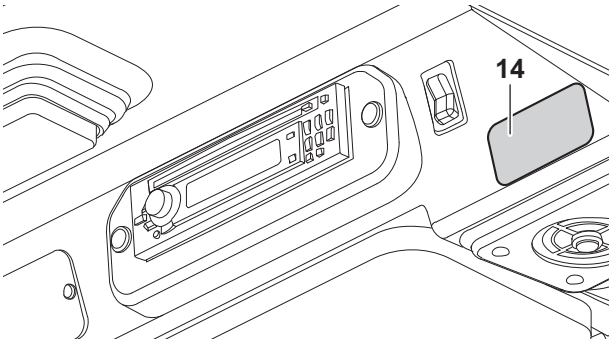
12. 1E6684-97100　警告(刈取点検)

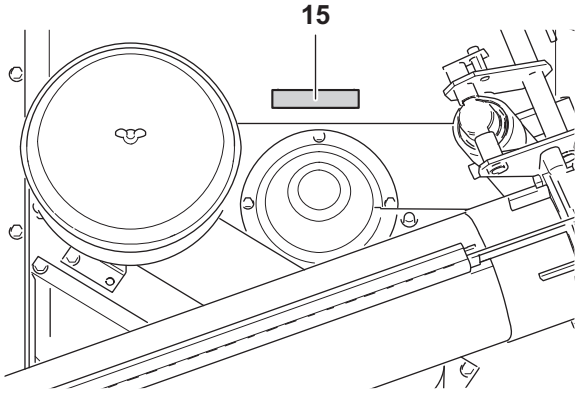


5. 1E8500-97470　注意(ベルトカバー C)









※エンジン上部にある、ラジエータカバー付近に貼ってあります。

059060-00JA00

13. 1E8510-97310　警告（点検E）

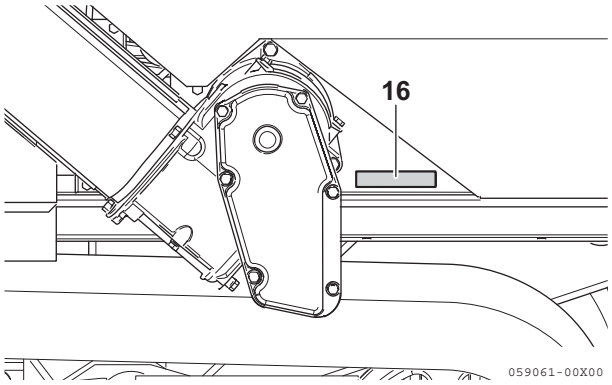


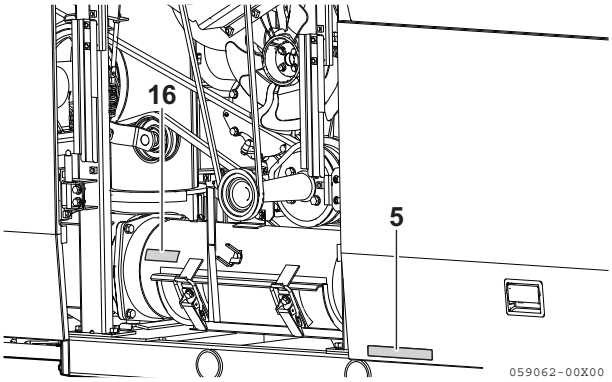
15. 1E8500-97220　危険（ラジエータ）



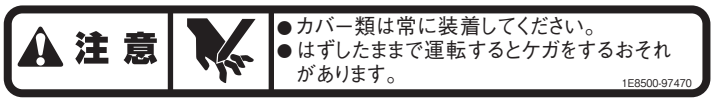
14. 1E8505-97400　注意（オーガ操作）





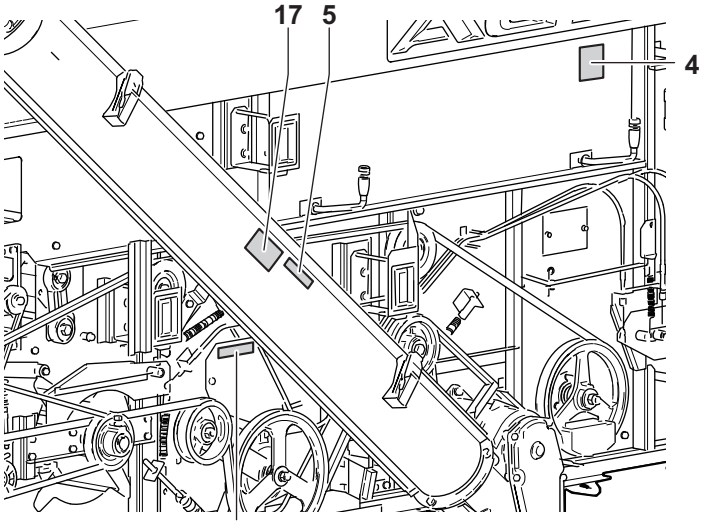


5. 1E8500-97470　注意（ベルトカバーC）



16. 1E8500-97450　注意（コンベア樋）





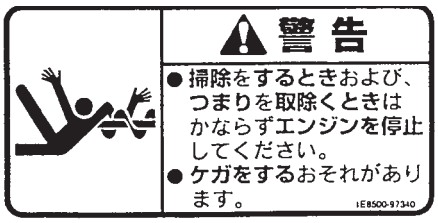
4. 1E8500-97460　注意(エンジン停止)



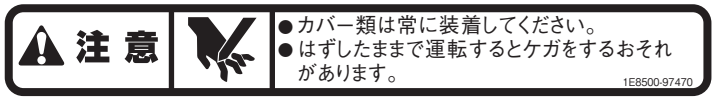
16. 1E8500-97450　注意(コンベア樋)

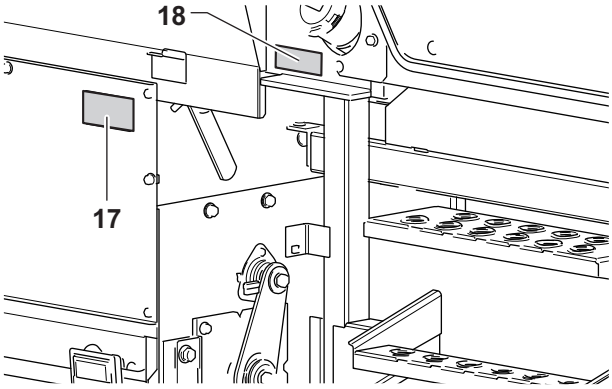


17. 1E8500-97340　警告(点検C)

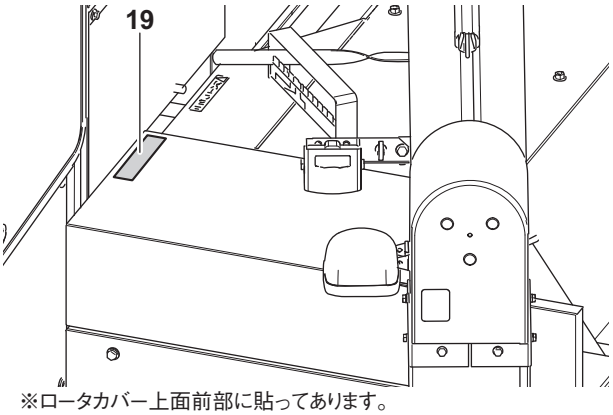


5. 1E8500-97470　注意(ベルトカバーC)

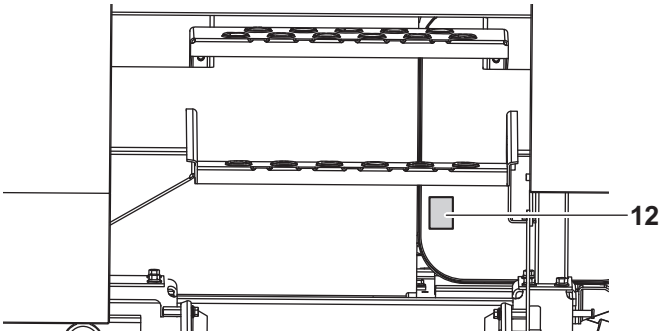




※グレンタンク下部カバーを外しています。



※ロータカバー上面前部に貼ってあります。



059064-00JA00

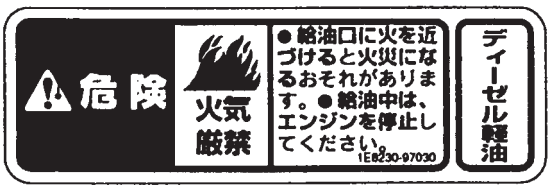
12. 1E6684-97100　警告(刈取点検)



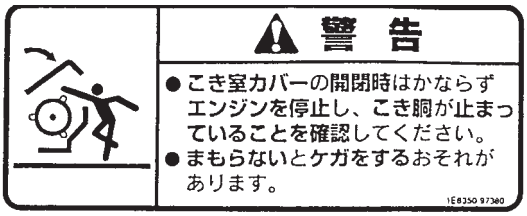
17. 1E8500-97340　警告(点検C)

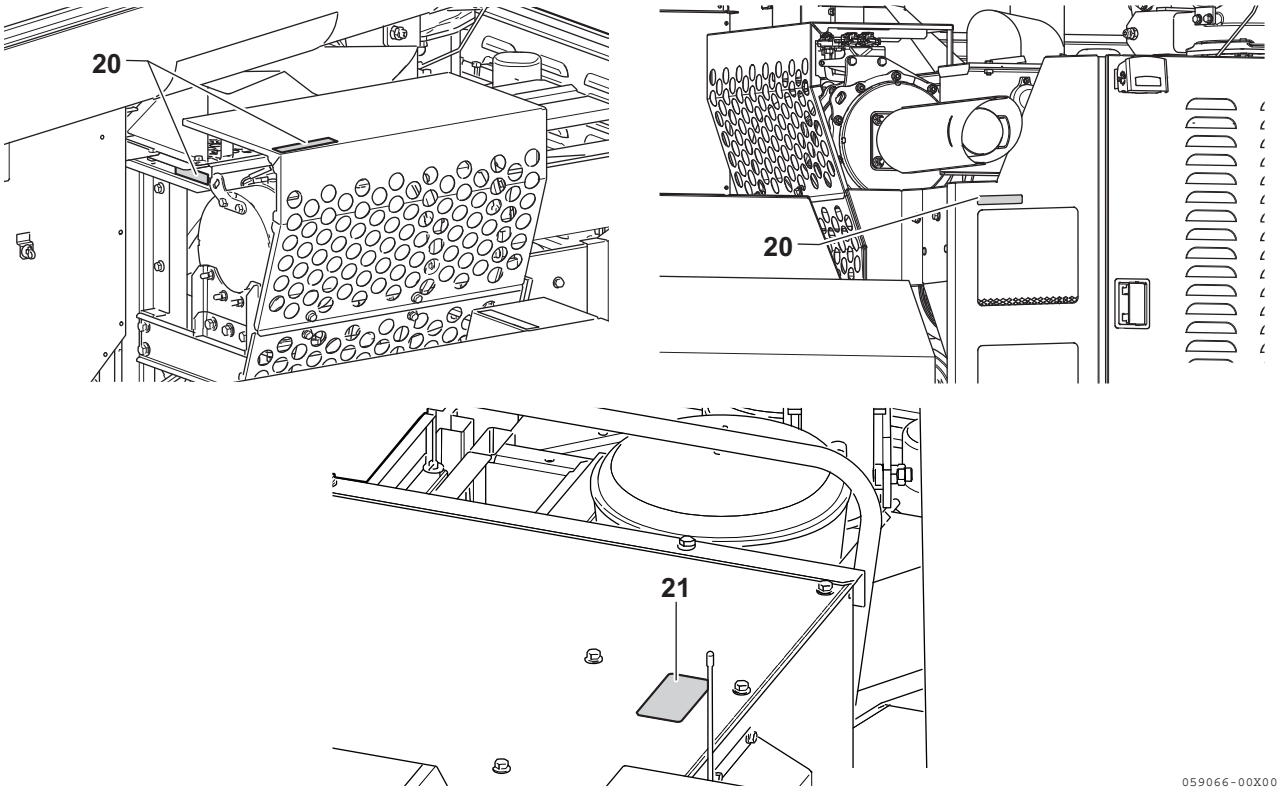


18. 1E8230-97030　危険(火気厳禁B)



19. 1E8350-97380　警告(こき室カバーB)



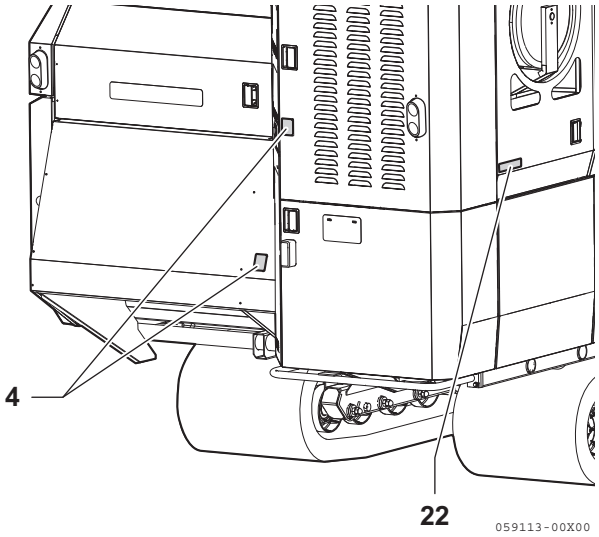


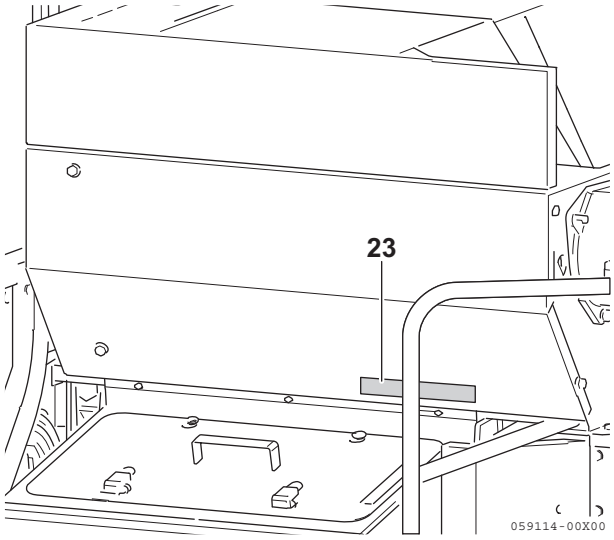
20. 1E5120-86720　注意(マフラー)



21. 1E6684-97120　警告(バケット)



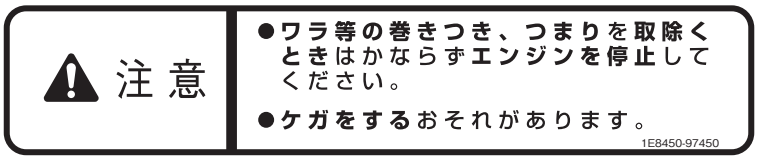




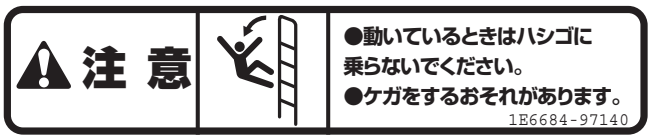
4. 1E8500-97460　注意(エンジン停止)



22. 1E8450-97450　注意(点検)



23. 1E6684-97140　注意(ラダー)



安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。剥がれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
  安全銘板はお買い上げの特販店、またはJAに注文してください。

各部のはたらきと使いかた

フロントコラム部

フロントコラム部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

キースイッチ

⚠警告

コンバインを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。
子供などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

エンジンの始動・停止に使用します。

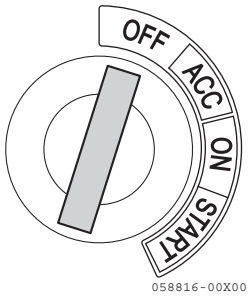


図 2-1 キースイッチ

「OFF（切）」位置
…エンジンが停止します。（電流が流れず、キーを抜き取れます）
「ACC」位置
… ラジオ・CD を聞くことができます。また、アクセサリーソケットが使用できます。
「ON（入）」位置
… 各電装品スイッチに電流が流れます。
「START（始動）」位置
…セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離します。キーは自動的に「ON」位置に戻り、連続運転になります。

[参考]

- 寒冷時には、キースイッチを「ON」位置にしてから、数秒間はヒータが作動し、エンジンの始動を容易にします。ヒータ作動時には、センターディスプレイに「ヒータ作動中」と表示されます。
- 作業クラッチレバーが「脱こく」位置の場合には、安全のためにセルモータは回転しません。
- 「ACC」位置にしたまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

コンビネーションスイッチ

■ ウインカスイッチ

方向指示器を点滅させるときに使用します。

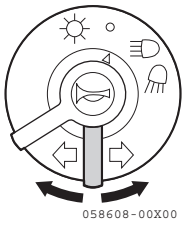


図 2-2 ウインカスイッチ

左へ倒す……左側が点滅します。
右へ倒す……右側が点滅します。

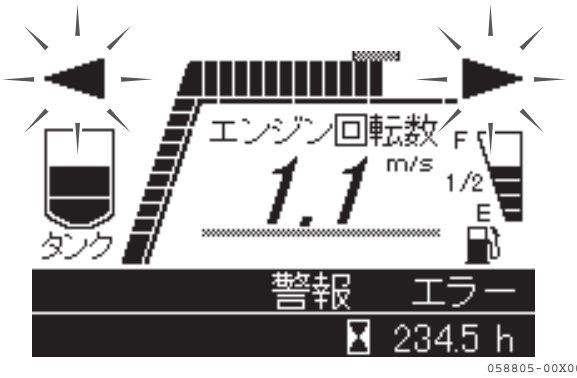


図 2-3 ウインカパイロットランプ

キースイッチを「ON」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時にセンターディスプレイのウインカパイロットランプも点滅します。

■ ライトスイッチ(作業灯スイッチ兼用)

ヘッドライトの照射、および作業灯（キャビン・オーガ先端）を点灯させるときに使用します。
ヘッドライト、作業灯を点灯させると車幅灯（前側左右、後側左右）も点灯します。

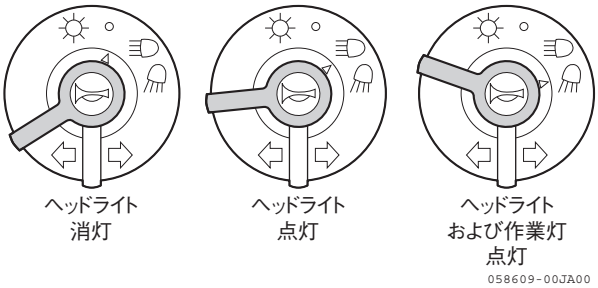


図 2-4 ライトスイッチ

キースイッチを「ON」位置にして、ライトスイッチを右（点灯）側に回すと、ヘッドライトが照射し、左（消灯）側に回すと消灯します。

■ ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

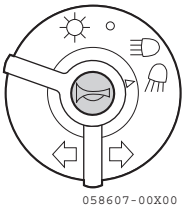


図 2-5 ホーンボタン

キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

チルトレバー

マルチハンドルの前後の角度を調節するときに使用します。好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。（93ページ参照）

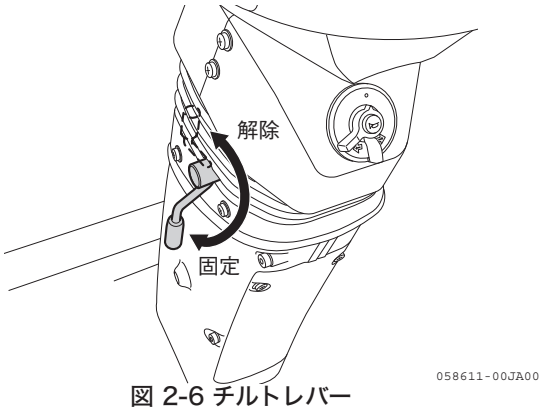


図 2-6 チルトレバー

「解除」方向……ハンドルの固定が解除されます。
「固定」方向……ハンドルが固定されます。

ハンドル部

ハンドル部周辺のスイッチ、ボタンについて説明します。

マルチハンドル

コンバインを旋回させるときに使用します。

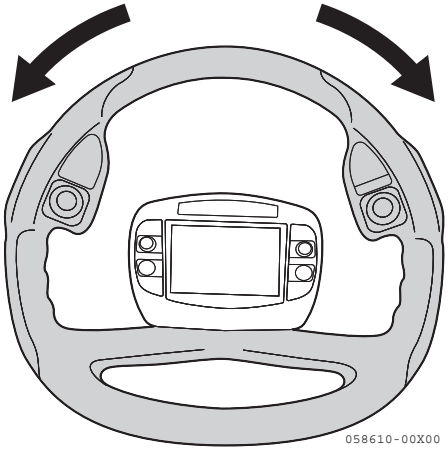


図 2-7 マルチハンドル

マルチハンドルを右へ回すとコンバインが右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。
さらにマルチハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラの回転差が大きくなり、旋回半径が小さくなります。

リール昇降･リール速度スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部のリール昇降･リール速度を調節するときに使用します。

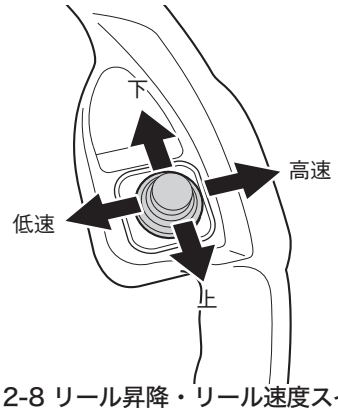


図 2-8 リール昇降・リール速度スイッチ

■ リール昇降機能

「下」側……リールが下降します。
「上」側……リールが上昇します。

■ リール回転速度調節機能

「低速」側……リール回転が遅くなります。
「高速」側……リール回転が速くなります。

[重要]

オールマイティシフトレバー部のリール速度スイッチとマルチハンドル部のリール速度スイッチを同時に異なる方向へ操作した場合、リール速度を調節することができません。

ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

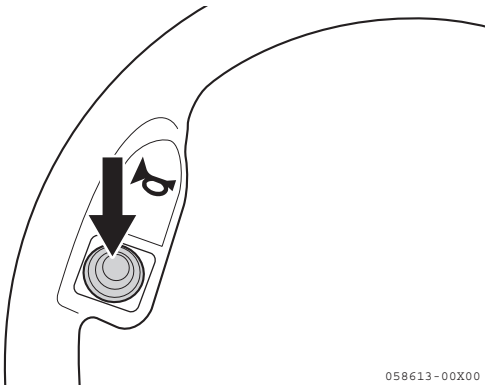


図 2-9 ホーンボタン

キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

センターディスプレイ部

運転中の各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所をモニター画面の文字やグラフィックとブザーで知らせます。

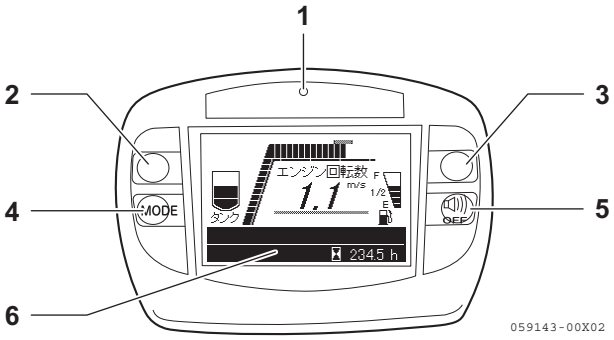


図 2-10 センターディスプレイ部

1. 警報表示ランプ

各部の状態や、各部の状態に異常があったときに点灯し、ブザーが鳴ります。
また、異常内容はセンターディスプレイに表示されます。

2. 設定スイッチ1

設定を変更するときに使用します。

3. 設定スイッチ２

設定を変更するときに使用します。

4. MODE(表示切替)スイッチ

警報画面などで、表示内容を切り替えるとき、および「設定メニュー」の画面に切り替えるときに使用します。

5. OFF(ブザー停止)スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。

つぎの警報の場合は、OFF（ブザー停止）スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

- エンジン系統（チャージ・油圧・水温）
- タンクシグナル
- 燃料残量
- もみ満量警報
- オーガ未収納警報

つぎの警報の場合は、OFF（ブザー停止）スイッチを押してもブザーは鳴り止みません。

- オーバーロードモニター
- ロータ・１番・２番詰まり警報
- スプレッダ警報（オプション装着時）
- 排気フィルター再生要求（リセット再生、駐車再生）

[参考]

警報装置については、242ページを参照してください。

6. センターディスプレイ

運転中のコンバインの情報を文字とグラフィックで表示します。主な表示内容について以下に紹介します。

■ メンテナンス情報の画面

エンジンオイル交換など、メンテナンスが必要になったときに文字で表示します。

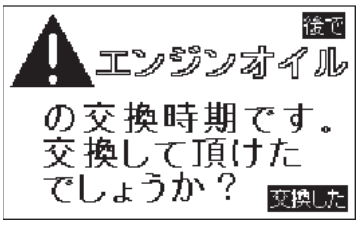


図 2-11 メンテナンス情報の画面

■ 動作表示の画面

エンジンスタート時に、ヒータの作動を表示します。



図 2-12 動作表示の画面

■ 通常走行時の画面

オープニング画面表示の後、作業クラッチレバーが「OFF」位置のときに表示します。

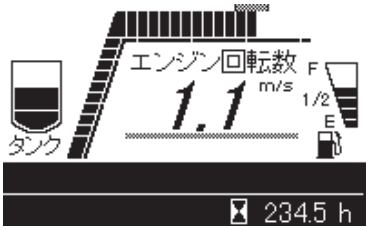


図 2-13 通常走行時の画面

■ 通常作業時の画面

エンジン始動後、作業クラッチレバーが「脱こく」位置にしたときに表示します。

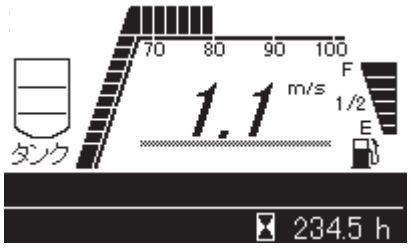


図 2-14 通常作業時の画面

■ 異常箇所表示画面

各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所をセンターディスプレイとブザーで知らせます。また、画面上部の警報表示ランプが点灯します。

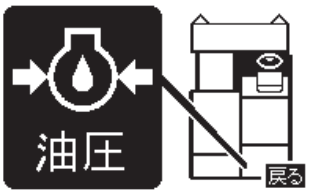


図 2-15 異常箇所表示画面

キースイッチを「OFF」位置にすると、表示をリセットできます。

センターディスプレイについて

センターディスプレイでは、作業時に必要な情報を表示するモニター画面と、機能変更や微調整を行うメンテナンスモード（→ 94 ページ参照）の機能を持っています。
モニター画面について説明します。

■ 通常走行時の画面

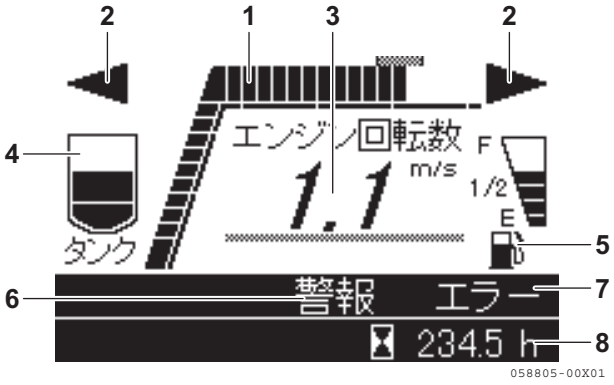


図 2-16 通常走行時の画面

■ 通常作業時の画面

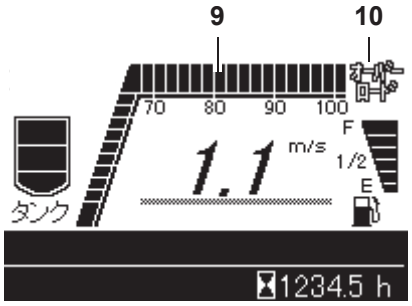


図 2-17 通常作業時の画面

1. 回転計

エンジン回転数を表示します。

2. ウインカパイロットランプ

ウインカスイッチを操作したときに点滅します。

3. 走行速度

車速を表示します。

4. グレンタンクモニター

グレンタンク内がほぼ満量になると、ブザーが断続に鳴り、グレンタンクモニターが「3/3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量の画面を交互に表示します。

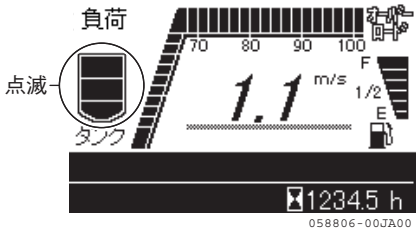


図 2-18 グレンタンクモニター



図 2-19 もみ満量画面

OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みますが「3/3」のタンクシグナルランプは点滅したままです。

表 2-1 グレンタンク充てん状況

充てん状況	ブザー	内容
3／3 	断続音	グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。
2／3 	停止	グレンタンク内に、こく粒が2/3充てんされています。
1／3 	停止	グレンタンク内に、こく粒が1/3充てんされています。

[参考]

排出オーガにてこく粒を排出するとグレンタンク内のこく粒が無くなる少し前に、センサが感知し、ブザーが断続で数秒間鳴ります。



5. 燃料残量表示

燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに、⛽が点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。（このとき、燃料の残量はおよそ 15L です。）OFF（ブザー停止）スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。⛽は点滅したままです。



また、キースイッチ「ON」位置で燃料給油時に満量になると、ブザーが断続で鳴ります。

6. 警報表示

警報が発生したときに、警報が解除されるまでは「警報」の文字が表示されます。

7. センサーエラー表示

各種センサにエラーが発生したときに、画面隅に「エラー」の文字が点滅します。

■ エラーコードの表示方法

OFF（ブザー停止）スイッチを５秒間以上押し続けると画面表示が切り替わり、エラーの発生したセンサの名称とセンサの状態、そのセンサが入力されているコントローラの名称が表示されます。

もう一度OFF（ブザー停止）スイッチを押すと元の画面表示に戻ります。

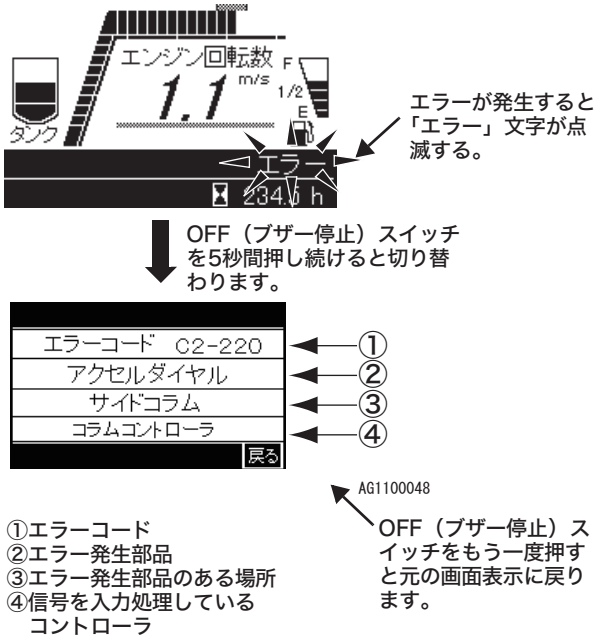


図 2-20 エラーコードの表示方法

8. アワメータ(作業時間表示)

エンジンの使用時間の表示と、作業時間の表示をします。エンジンの使用時間を表示しているときは「砂時計マーク」を表示し、作業時間を表示しているときは「作業」の表示をします。

エンジンの使用時間はエンジンを始動すると、カウントを始めます。作業時間はエンジンが回転中で作業クラッチを「刈取」位置にすると、カウントを始めます。

エンジン使用時間、作業時間の切り替え、および作業時間のリセットは、MODE（表示切替）スイッチで「設定メニュー」の画面に切り替えて行うことができます。(97ページ参照)

〈エンジン使用時間の画面〉

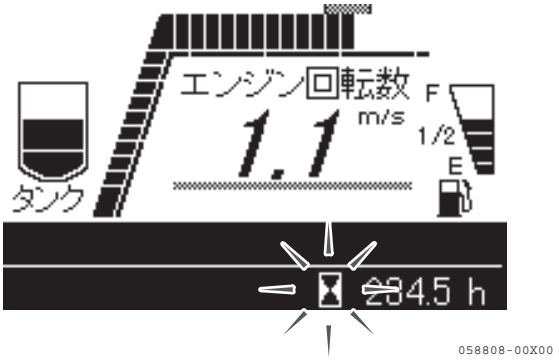


図 2-21 エンジン使用時間の画面

〈作業時間の画面〉

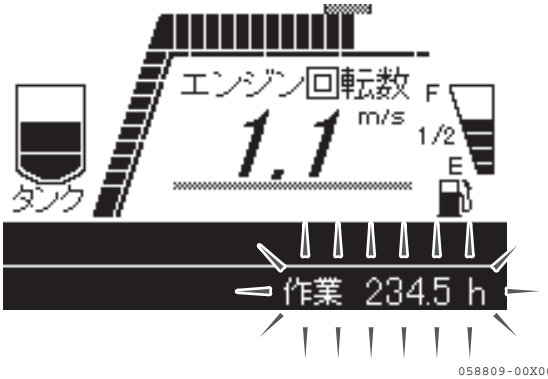


図 2-22 作業時間の画面

9. ロードモニター

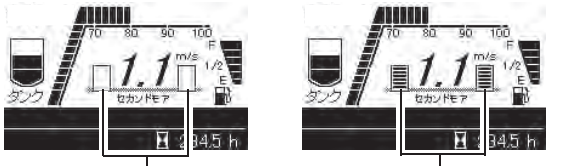
エンジン負荷を表します。

10.オーバーロードモニター

エンジン負荷が過負荷になったときに、「オーバロード」の文字が点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。OFF（ブザー停止）スイッチではブザーを停止することができません。

11.セカンドモアモニター(オプション)

セカンドモアの状態を表示します。



セカンドモア上昇(収納状態)　セカンドモア下降(作業状態)

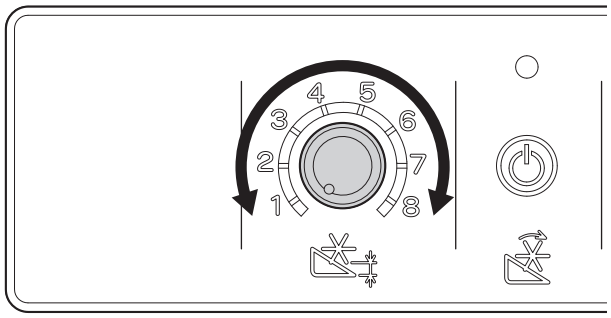
図 2-23 セカンドモアモニター

サイドコラム部(スイッチ・ダイヤル類)

サイドコラム部周辺のレバーやダイヤル、スイッチについて説明します。

リール高さ調節ダイヤル

刈取オートセット作動時のリール高さを調節するときに使用します。



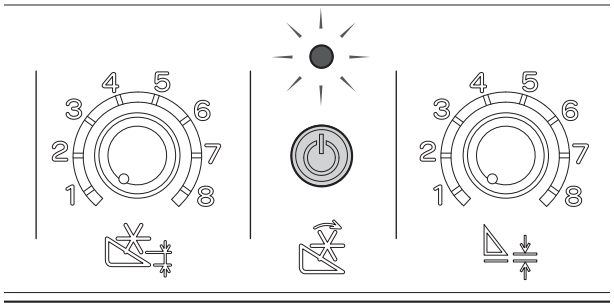
059342-00X01

図 2-24 リール高さ調節ダイヤル

「低」側へ回す…リールが下がります。
「高」側へ回す…リールが上がります。

リール変速自動スイッチ

リールの回転速度と作業速度とを同調させるときに使用します。



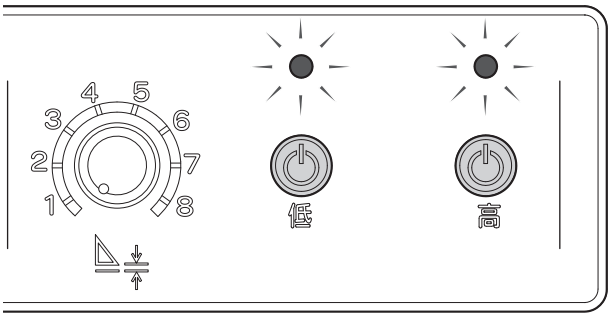
059343-00X01

図 2-25 リール変速自動スイッチ

「入」(ランプ点灯)…リール同調制御がはたらきます。
「切」(ランプ点灯)…リール同調制御が切れます。

刈高さ自動切替スイッチ

刈高さを自動制御するときに使用します。
(135ページ参照)



059344-00JA00

図 2-26 刈高さ自動切替スイッチ

■ 低刈モード

刈取部のセンサソリが地面に接地する高さで刈取作業を行うときに使用します。
「低」スイッチを押す(「低」ランプ点灯)
……刈高さを低刈モードで自動制御します。
「低」ランプ点灯中に「低」スイッチを押す
(「低」ランプ消灯)
……刈高さの自動制御が切れます。
「低」ランプ点灯中に「高」スイッチを押す
(「低」ランプ消灯し、「高」ランプが点灯)
……刈高さを高刈モードで自動制御します。

■ 高刈モード

刈取部のセンサソリが地面に接地しない高さで刈取作業を行うときに使用します。
「高」スイッチを押す(「高」ランプ点灯)
……刈高さを高刈モードで自動制御します。
「高」ランプ点灯中に「高」スイッチを押す
(「高」ランプ消灯)
……刈高さの自動制御が切れます。
「高」ランプ点灯中に「低」スイッチを押す
(「高」ランプ消灯し、「低」ランプが点灯)
……刈高さを低刈モードで自動制御します。

■ センサソリ切替レバーについて

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」または「高」位置（ランプ点灯）で、刈取作業を行うときは、センサソリ切替レバーを「自動」位置にしてください。
  自動位置には「標準」、「低刈」の2つのセット位置があります。
  「標準」… 通常の低刈モードで作業するとき
  「低刈」…「標準」よりもさらに低い位置で作業したいとき

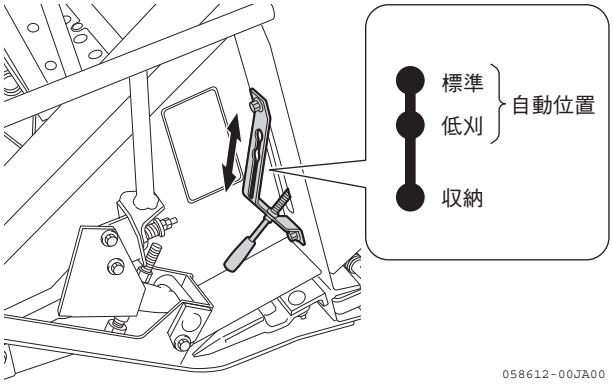


図 2-27 センサソリ切替レバー

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」・「高」ランプいずれも消灯の場合に刈取作業を行うときは、センサソリ切替レバーを「収納」位置にしてください。

[重要]

- **刈高さ自動制御が作動中に、刈取昇降スイッチを操作すると、手動操作による操作が優先されます。**
- **後進するとき、センサソリが土を引っかけないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。**

[参考]

センサソリ切替レバーを操作するときは、刈取部を地面に接地させた状態で行うと、軽く操作できます。

刈高さ調節ダイヤル

刈高さ自動制御の刈高さを調節するときに使用します。

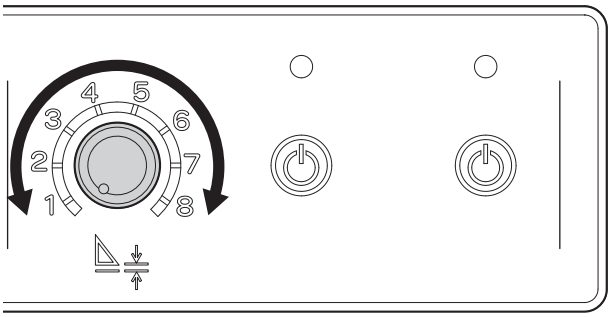


図 2-28 刈高さ調節ダイヤル

作業クラッチレバーが「刈取」のとき、刈高さ自動切替スイッチの「低」または「高」を押すとランプが点灯し、刈取部が刈高さ調節ダイヤルで設定した高さになり停止します。

「高」方向に回す……刈取部が上がります。
「低」方向に回す……刈取部が下がります。

■ 低刈モード

刈取部のセンサソリが地面に接地する高さで、刈取作業を行います。

■ 高刈モード

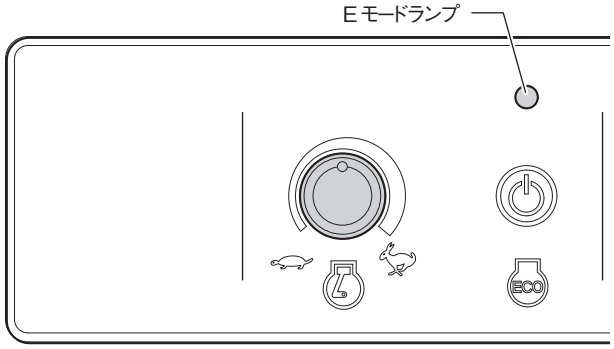
刈取部のセンサソリが地面に接地しない高さで、刈取作業を行います。センサソリが地面に接すると「クイックリフト」が作動し、刈取が上昇しますが、30cm走行すると、もとの高さに下降します。

[参考]

「クイックリフト」とは、高刈モードのときに刈取部のセンサソリが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止が働き、刈取部が自動的に上昇する機能のことです。

アクセルダイヤル

エンジン回転の調整をするときに使用します。（Eモードスイッチが「切」（Eモードランプ消灯）のとき、アクセル調整ができます。）



059345-00JA02

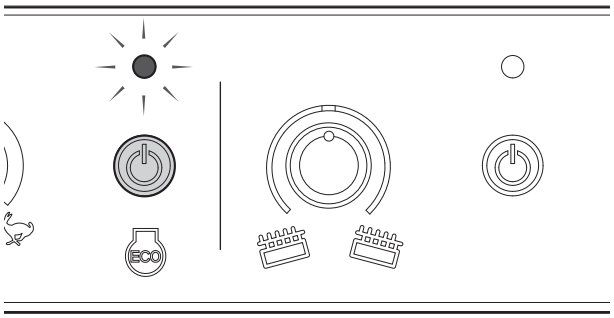
図 2-29 アクセルダイヤル

「」へ回す……エンジン回転が上がります。

「」へ回す……エンジン回転が下がります。

Eモードスイッチ

エンジン回転を自動制御するときに使用します。



059346-00X01

図 2-30 Eモードスイッチ

「切」状態（Eモードランプ消灯）
　…アクセルダイヤルでエンジン回転を調節します。
「入」状態（Eモードランプ点灯）
　…エンジン回転を自動的に制御します。

■ 自動定回転制御機能

作業負荷が変動（負荷率が 100%未満）しても、エンジン回転数を定格回転数（回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置）に保ちます。

■ オートデセル機能

Eモードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）状態で、つぎの条件のときに、自動的にエンジン回転がセンターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置になり、それ以外の場合はアイドリング（1300rpm）回転になります。

- オールマイティシフトレバーをF（前方）・R（後方）に倒す。（移動走行時）
- 作業クラッチレバーを「脱こく」位置にする。（脱こく時）このときエンジン回転表示から負荷モニタ表示になる。
- 排出オーガクラッチスイッチを「入」位置にする。（もみ排出作業時）
- オーガ自動旋回を行ったとき。

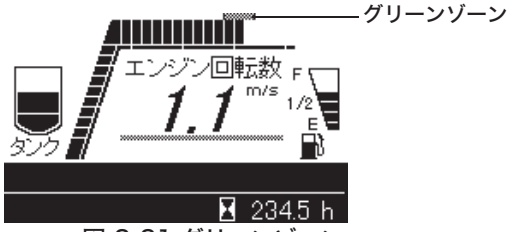


図 2-31 グリーンゾーン

[参考]

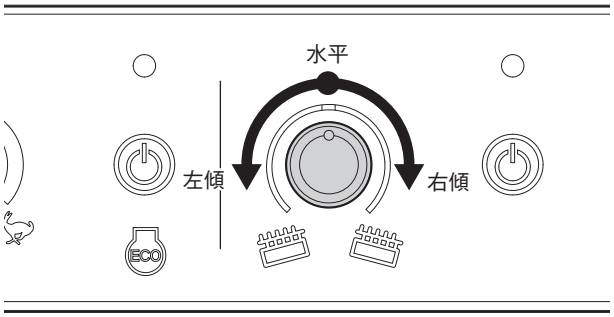
- 走行状態で作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にして、走行を停止しても、すぐにはエンジン回転はアイドリング（低回転）になりません。約５秒間エンジン回転は、「グリーンゾーン」位置（定格回転）に保たれます。
- 走行が停止している状態で、作業クラッチレバーを「OFF」位置、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にすると、すぐにアイドリング（低回転）になります。

表 2-2 Eモードのエンジン回転数

Eモード状態	エンジン回転数
切	アクセル位置
入	2500／1300

傾斜角調節ダイヤル

刈取部の角度を一定に保ちたいときに使用します。



059346-00JA00

図 2-32 傾斜角調節ダイヤル

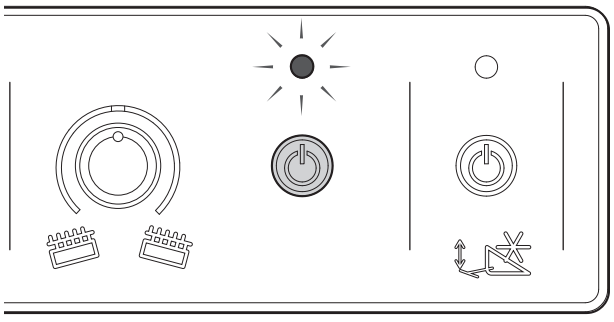
中央位置……刈取部が水平になります。
右方向に回す……刈取部が右に傾きます。
左方向に回す……刈取部が左に傾きます。

水平自動スイッチ

⚠警告

傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ず水平自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。コンバインが急に傾き、転倒し、ケガをするおそれがあります。

刈取部の水平を自動制御するときに使用します。



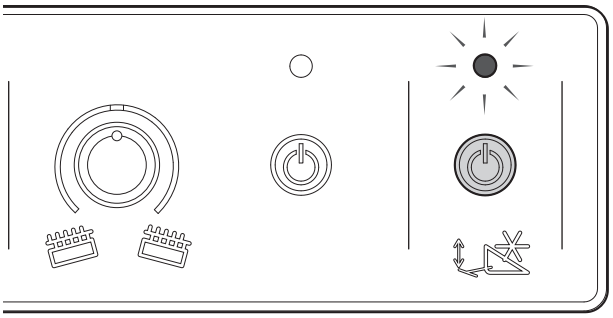
059347-00X01

図 2-33 水平自動スイッチ

刈取水平制御装置は、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに作動します。（141ページ参照）
「入」（ランプ点灯）…刈取水平制御がはたらきます。
「切」（ランプ消灯）…刈取水平制御が切れます。

セカンドモア（オプション）自動スイッチ

セカンドモア（オプション）を使用するときに使用します。（詳細はセカンドモアの取扱説明書をご覧ください。）



059347-00X02

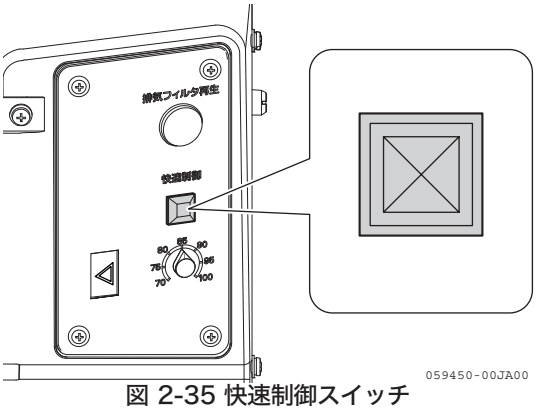
図 2-34 セカンドモア自動スイッチ

快速制御スイッチ・快速調節ダイヤル

エンジンの負荷率により、車速を自動制御したいときに使用します。

■ 快速制御スイッチ

快速制御の「入」「切」を行います。



059450-00JA00

図 2-35 快速制御スイッチ

「入」快速制御作動状態（スイッチランプ点灯）
…エンジンの負荷に応じて、自動的に車速を減速します。
「入」快速制御待機状態（スイッチランプ点滅）
…コンバインのエンジン負荷率が設定負荷率以下のためオールマイティシフトレバー位置の車速になっています。
「切」状態（スイッチランプ消灯）
…エンジンの負荷率に関係なく、オールマイティシフトレバー位置の車速になっています。

■ 快速調節ダイヤル

作物の状態や使用条件に合わせて、最適な状態で作業を行えます。ダイヤル位置の負荷で快速制御が作動します。

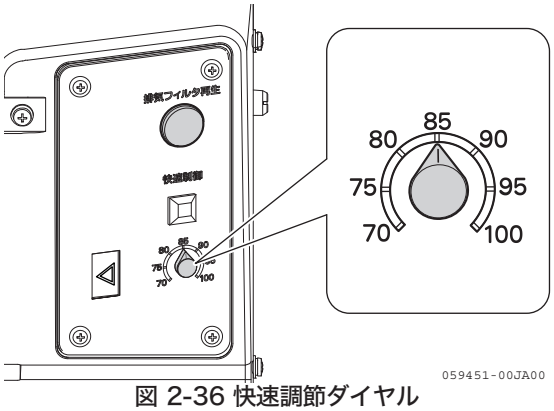


図 2-36 快速調節ダイヤル

■ 快速制御機能

エンジンの負荷が快速調節ダイヤルで設定した負荷になった場合に、自動的に車速を減速します。軽負荷になると車速をオールマイティシフトレバーの位置に戻します。快速制御が働くエンジン負荷率は、作物の状態や使用条件に合わせて、任意に設定します。オールマイティシフトレバーの操作頻度が軽減され、連続作業性が向上します。

[重要]

- 減速制御には限界があります。必ず負荷モニターやコンバインの状態を確認しながら作業を行ってください。
- 快速制御装置の作動条件はEモード「入」、快速制御スイッチ「入」、作業クラッチレバー「刈取」、車速0.5m/s以上のときです。
- 快速制御装置は刈取作業を補助する装置です。急発進や急加速などの作業状態では詰まりが発生する場合があります。
- 快速スイッチランプ点灯中は快速制御による車速制御中です。快速制御により車速が増減速する場合がありますので、オールマイティシフトレバーから手を離さないでください。快速スイッチランプが点滅または消灯してからオールマイティシフトレバーから手を離してください。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）でもオールマイティシフトレバーによる減速操作は優先して行えます。

■ 快速調節ダイヤルの調節

作物の状態や使用条件に合わせて、表 2-3 を参考にして調節してください。
作業開始時は、ダイヤル目盛の緑範囲位置から始めてください。
作物の状態や使用条件に合わせて、快速調節ダイヤルを適宜調節してください。

表 2-3 快速調節ダイヤルの調節

快速調節ダイヤルの位置	作物の状態	負荷モニタの状態
70% ↑ 標準 （緑範囲） ↓ 100%	全倒伏の場合 作物が湿っている場合 直立と倒伏が混在の場合 半倒伏の場合 直立の場合 脱粒しやすい品種や作物を刈る場合	負荷変動が大きく不安定な場合 負荷変動が少なく安定している場合

AG1100041

排気フィルター再生スイッチ

排気フィルターに捕集したPM（ススなどの粒子状物質）を燃焼除去し、排気フィルターを再生するときに使用します。
排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅したら排気フィルターを再生（リセット再生）してください。
排気フィルターの再生についての詳細は、197 ページを参照してください。

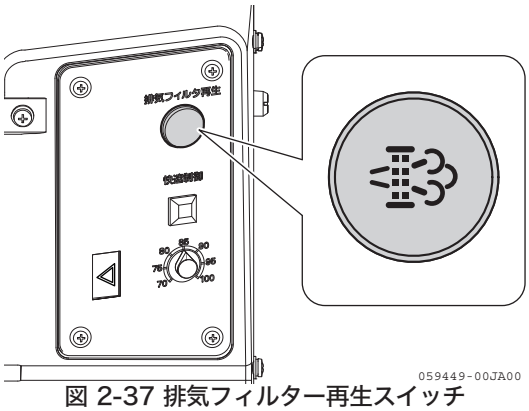


図 2-37 排気フィルター再生スイッチ

表 2-4 排気フィルター再生スイッチ

排気フィルター再生スイッチ（お知らせランプ）	状態
点滅	排気フィルター再生待ち
点灯	排気フィルター再生中

[参考]
お知らせランプが点滅しているときは、ブザーが鳴ります。

副変速レバー

⚠警告
坂道では、副変速を操作しないでください。コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。

使用目的や条件により、「L」「M」「H」の3段階の走行速度が選べます。

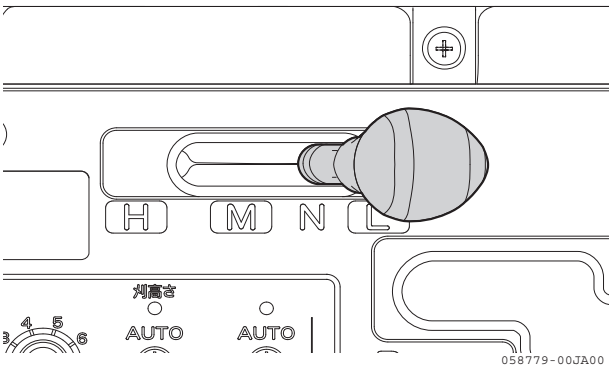


図 2-38 副変速レバー

「L」位置 …… 半倒伏や悪条件作物
「M」位置 …… 標準的な刈取作業
「H」位置 …… 移動走行
「N」（中立）位置… 走行しない

[重要]
- **オールマイティシフトレバーを、必ず「N」（中立）位置にして、コンバインを完全に停止してから変速してください。**
- **セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。**

作業クラッチレバー

刈取部および脱こく部を動かしたり、止めるときに使用します。

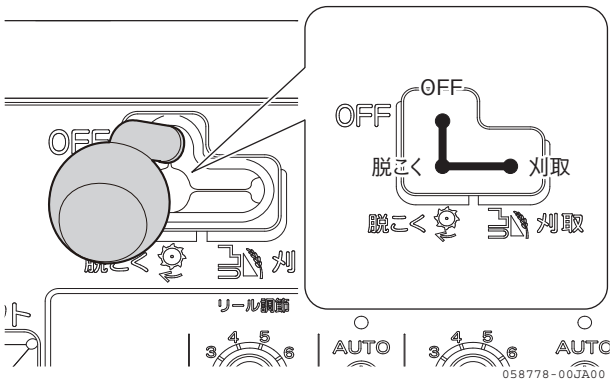


図 2-39 作業クラッチレバー

「OFF」……脱こく部も刈取部も停止します。
「脱こく」…脱こく部は作動していますが、刈取部は停止しています。
「刈取」……脱こくも刈取部も作動します。

[重要]

Eモード「入」(Eモードランプ点灯)でエンジン回転が定格回転のときに、作業クラッチレバーを「脱こく」にすると伝達ベルトを保護する目的で、いったんエンジン回転を低下させてからクラッチが入るようにしています。

クリーンシフトレバー

脱こく内部のチャフシーブの角度を、作物の条件に合わせて調節するときに使用します。

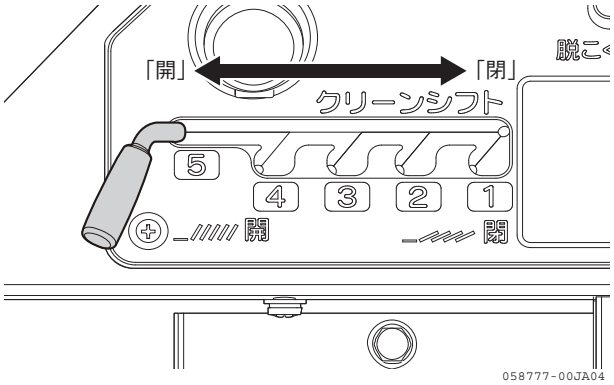


図 2-40 クリーンシフトレバー

「1」・「2」位置…… 選別が悪いとき・枝梗が多いとき
「3」位置…… 標準作業
「4」～「5」位置… 作物が湿材のとき・籾飛散が多いとき

オールマイティシフトレバー部

オールマイティシフトレバー(HST)

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。後進時は、バックランプが点灯します。

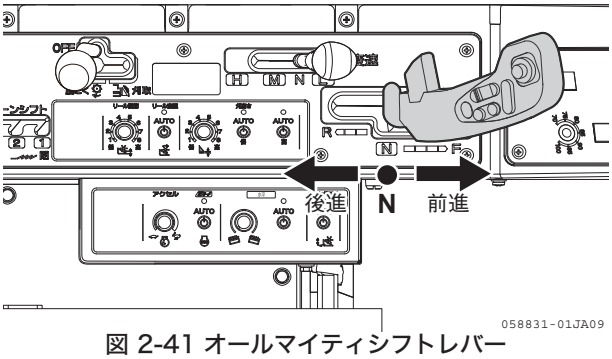


図 2-41 オールマイティシフトレバー

「F」(前進)位置…… コンバインが前進します。
「R」(後進)位置…… コンバインが後進します。
「N」(中立)位置…… コンバインが停止します。
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

[重要]

セフティペダルを踏み込んでいるときは、オールマイティシフトレバーは「N」(中立)位置に戻り、オールマイティシフトレバーの操作はできません。

リール前後･リール速度スイッチ

リールの前後位置と回転速度の調節をするときに使用します。

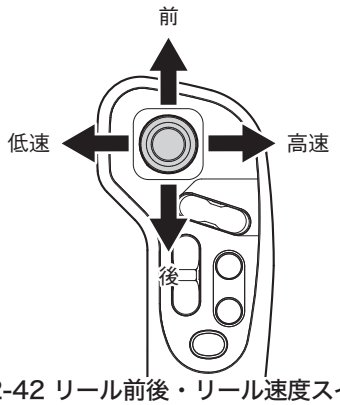


図 2-42 リール前後・リール速度スイッチ

「前」側……リールが前方へ動きます。
「後」側……リールが後方へ動きます。
「低速」側……リールの回転速度が遅くなります。
「高速」側……リールの回転速度が速くなります。

水平手動スイッチ

うねのあるほ場などでコンバインが傾いた場合、刈取部の位置を調節するときに使用します。

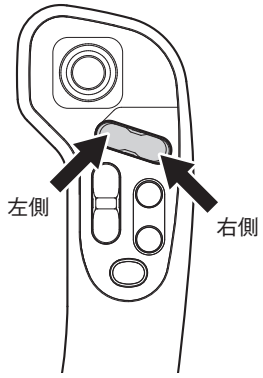


図 2-43 水平手動スイッチ

「左側」……刈取部が左へ傾きます。
「右側」……刈取部が右へ傾きます。

刈取昇降スイッチ

刈取部の上昇・下降をするときに使用します。

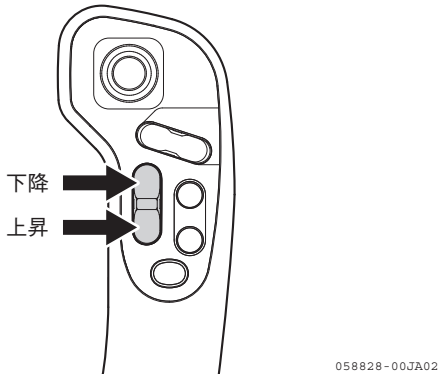


図 2-44 刈取昇降スイッチ

「下」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、
深く押すと速く下降します。
「上」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、
深く押すと速く上昇します。

[参考]

フィット昇降機能により、スイッチの押し加減で微妙な刈高さ調節が行えます。
（フィット昇降速度の設定は95ページ参照）

刈取オートリフトボタン・刈取オートセットボタン

■ 刈取オートリフトボタン

設定している高さに、刈取部を上昇させるときに使用します。



図 2-45 刈取オートリフトボタン

作業クラッチレバーが「刈取」位置のとき、オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。（133ページ参照）

[参考]

出荷時は刈刃の高さが、約70cmの高さに設定されています。

■ 刈取オートセットボタン

設定している刈高さに、刈取部を下降させるときに使用します。



図 2-46 刈取オートセットボタン

作業クラッチレバーが「刈取」位置で、オートセットボタンを押すと、刈取部が刈高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降します。（133ページ参照）

刈取クラッチボタン

作業クラッチレバー「刈取」で、刈取部が作動しているときに刈取クラッチボタンを押すと、刈取部が停止します。また、刈取が停止しているとき刈取クラッチボタンを押すと刈取部が作動します。



図 2-47 刈取クラッチボタン

オーガマルチリモコン

オーガ自動旋回スイッチ

排出オーガを自動的に、排出位置やオーガレストへ旋回させるときに使用します。(143ページ参照)

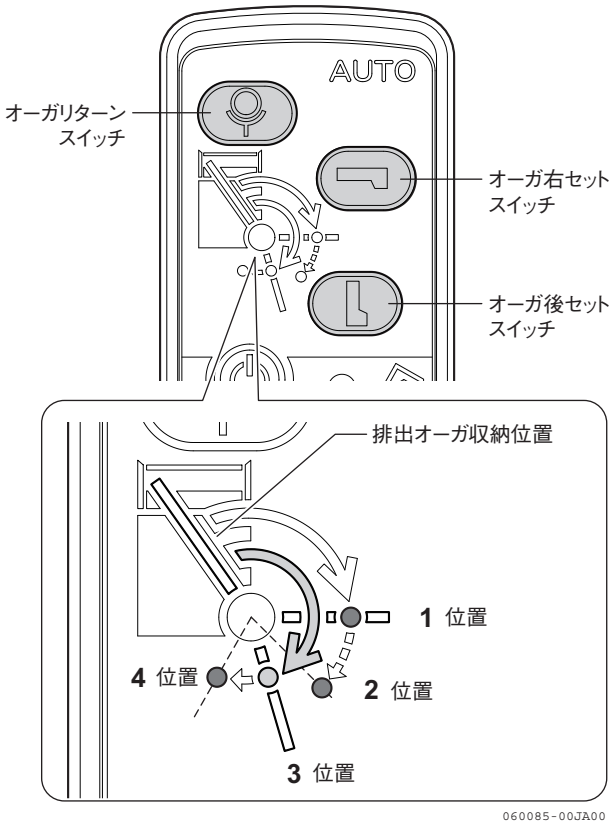


図 2-48 オーガ自動旋回スイッチ

オーガ右セットまたはオーガ後セットスイッチにより、4か所（1, 2, 3, 4）の位置に排出オーガを移動させることができます。(オーガオートセット装置)(図 2-48)

■ 右セット位置(1位置)への移動

オーガ右セットスイッチを長押し（0.2秒以上）するとランプ（赤）が点灯し、排出オーガは最上昇位置まで上昇した後、1位置（1）まで右旋回します。(図 2-48)

■ 右セット位置(2位置)への移動

ランプ（赤）が点灯中にオーガ右セットスイッチを押すとランプ（赤）が点滅し、排出オーガは 2 位置（2）まで右旋回します。(図 2-48)

■ 後セット位置(3位置)への移動

オーガ後セットスイッチを長押しするとランプ（橙）が点灯し、排出オーガは最上昇位置まで上昇した後、3位置（3）まで右旋回します。(図 2-48)

■ 後セット位置(4位置)への移動

ランプ（橙）が点灯中にオーガ後セットスイッチを押すとランプ（橙）が点滅し、排出オーガは 4 位置（4）まで右旋回します。(図 2-48)

■ 自動旋回を停止させるには

オーガが作動中に手動操作またはランプが消灯すると、自動旋回が停止します。

[参考]

オーガオートセット装置が作動中に、排出オーガ手動スイッチを操作すると、手動操作が優先されます。(オーガ自動旋回制御が切れ、ランプが消灯します。)

■ オーガオートリターン装置

オーガリターンスイッチを長押しすると、ランプ（緑）が点灯し、自動的に旋回してオーガレストに収納されます。収納後、ランプは消灯します。
(143ページ参照)

排出オーガクラッチスイッチ

グレンタンク内のこく粒を、排出オーガの先端から排出するときに使用します。

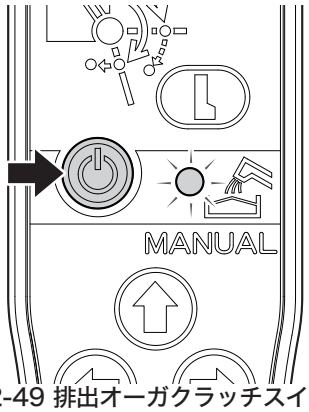


図 2-49 排出オーガクラッチスイッチ

「入」（ランプ点灯）…こく粒を排出します。
長押し（0.2秒以上）
「切」（ランプ消灯）…こく粒の排出を停止します。

[参考]

排出オーガが収納位置付近にある場合は、誤操作防止のために、排出オーガクラッチスイッチを押してもこく粒は排出されません。

排出オーガ手動スイッチ

排出オーガを昇降・左右旋回させるときに使用します。

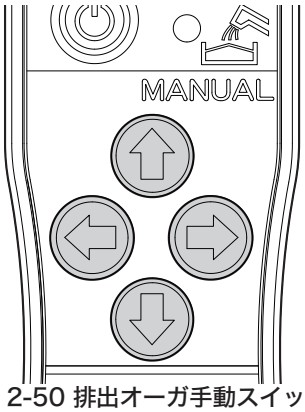


図 2-50 排出オーガ手動スイッチ

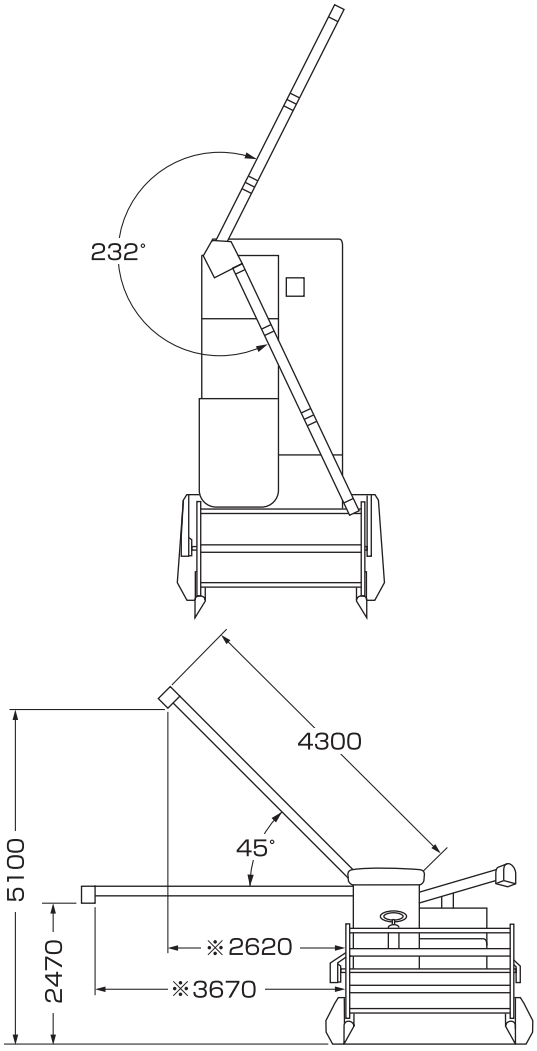
「↑」……排出オーガが上昇します。
「↓」……排出オーガが下降します。
「→」……排出オーガが右に旋回します。
「←」……排出オーガが左に旋回します。

[重要]

- 排出オーガを手動で旋回するときは、最上昇位置にしてから行ってください。最上昇位置にしないと、グレンタンク後方のグレンタンクガードに当たります。
- 排出オーガ手動スイッチで排出オーガを連続操作をすると、微調整が行いやすいように、動き始めはゆっくりと動き、その後徐々に速く動きます。

■ 手動操作での旋回範囲

（単位：mm ）



※グレンタンク側面からの寸法です。

図 2-51 旋回範囲

[参考]

排出オーガは、コンバイン後方に操作したときなどに、旋回する方向がわかるように、排出オーガ前方下側に赤・緑に色分けされたオーガマークを貼ってあります。

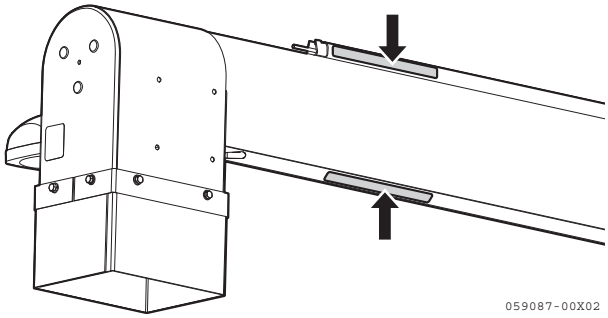


図 2-52 オーガマーク

※図は、「オーガマーク赤」側です。反対側に「オーガマーク緑」が貼られています。

「オーガマーク緑」…… 手動スイッチ「右」を操作すると動く方向

「オーガマーク赤」…… 手動スイッチ「左」を操作すると動く方向

オーガ先端

オーガ先端には、詰りセンサが付いています。

詰まりセンサ

[重要]

排出中に詰まりセンサを手で押さないでください。センサが反応し途中で排出が中断されるおそれがあります。

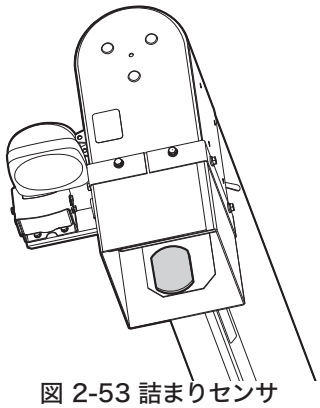


図 2-53 詰まりセンサ

無線リモコンオーガ

[重要]

- 無線リモコンの改造は行わないでください。改造を行うと、法令違反になる場合があります。また、故障の原因になります。
- 送信機に貼り付けられている銘板シールをはがさないでください。はがすと法令違反になる場合があります。銘板シールは、技術基準に適合している証明書で、貼り付けが法令で定められています。
- 無線リモコンは、日本国内専用です。海外で送信機の操作を行い、電波を発射すると、その国の法令違反になる場合があります。
- 送信機に水がついたらすぐに拭き取ってください。送信機が故障する場合があります。

[参考]

- 運転席側のオーガマルチリモコンと送信機側で、同時に排出オーガの昇降・旋回の操作を行った場合は、排出オーガが停止します。この制御は、両方の操作を止めたときに、解除されます。
- 送信機には、オーガオートセットスイッチの機能はありません。
- 無線リモコンの再設定、および追加設定（送信機を増やす）などを行うときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご依頼ください。
- 無線リモコンの電池を交換する場合は、裏側のネジ（1本）を外し、指定のものを使用してください。（237ページ参照）
- 電波を出しているときは、左上の赤ランプの点滅が速くなります。
- 電波状態が悪い場合は、無線リモコンでの操作ができない　場合があります。
- 電源「切」でも、いずれかのスイッチを押すと、バックライトが一定時間点灯します。
- スイッチを押しっぱなしにしても　法令により約90秒で電波が止まります。
- 無線リモコンは1台毎に個体識別番号が割り振られており、誤作動しにくい仕組みになっています。
- 指定以外のスイッチを、同時に押さないでください。誤作動防止のため、動作が止まる場合があります。

ONスイッチ

送信機の電源を入れるときに使用します。

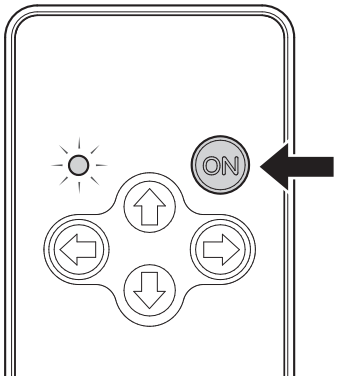


図 2-54 ONスイッチ

電源を入れるときは、長押しします。電源が入ると左上の赤ランプが点滅します。

[参考]

電源は、5分間操作しないと自動的に切れます。このとき赤ランプも消灯します。

排出オーガクラッチスイッチ

グレンタンク内のこく粒を、排出オーガの先端から排出するときに使用します。

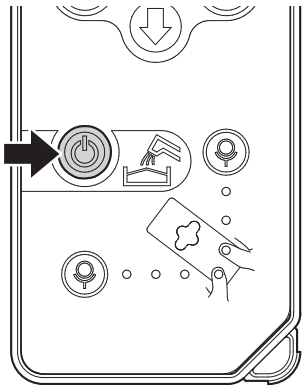


図 2-55 排出オーガクラッチスイッチ

「入」…こく粒を排出します。
「切」…「入」状態のときにスイッチを押すと、「切」になり、こく粒の排出を停止します。

[参考]

排出オーガがオーガレスト（収納位置）付近にある場合は、排出オーガクラッチスイッチを押しても、誤作動防止のために排出しません。

排出オーガ手動スイッチ

排出オーガを昇降・旋回させるときに使用します。

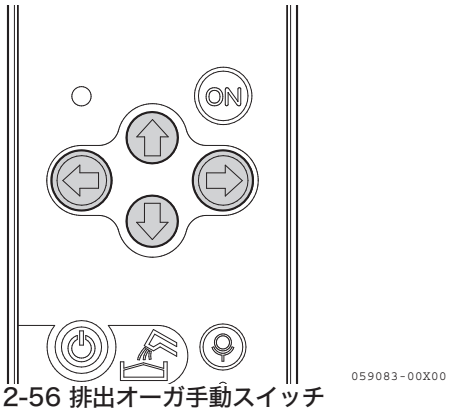


図 2-56 排出オーガ手動スイッチ

「↑」（上）……排出オーガが上昇します。
「↓」（下）……排出オーガが下降します。
「→」（右）……排出オーガが右に旋回します。
「←」（左）……排出オーガが左に旋回します。

[参考]

排出オーガ手動スイッチから指を離すと、排出オーガは停止します。

オーガリターンスイッチ

2つのスイッチを押すと、排出オーガを自動的にオーガレストに収納します。

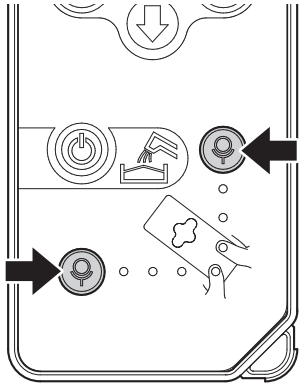


図 2-57 オーガリターンスイッチ

[参考]

無線リモコンのオーガリターンスイッチは、誤作動防止のため、2つのスイッチを同時に押した場合に動作します。

送信機収納ポケット

送信機を使用しないときに、収納することができます。

送信機収納ポケットは、ドライバーシート右の下方にあります。

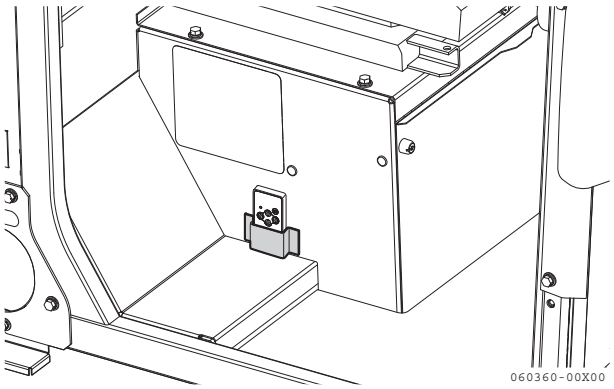


図 2-58 送信機収納ポケット

無線リモコン用アンテナ

無線リモコンで排出作業を行うときに使用します。

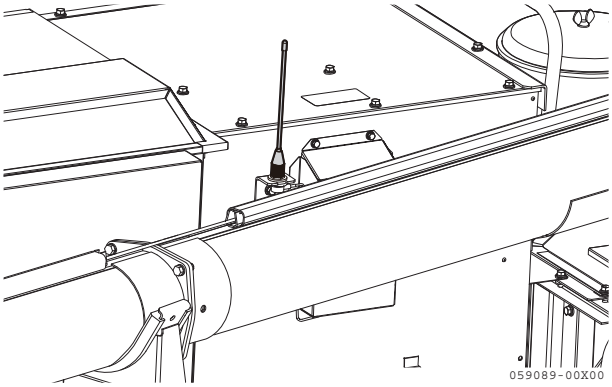


図 2-59 無線リモコン用アンテナ

[参考]

- 無線リモコンのアンテナを外して保管していた場合は、アンテナ取り付けてください。
- アンテナを正しく装着しないと、無線リモコンでの操作ができない場合があります。

その他の操作関係

セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。

セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置に戻り、コンバインが停止し、ブレーキがききます。

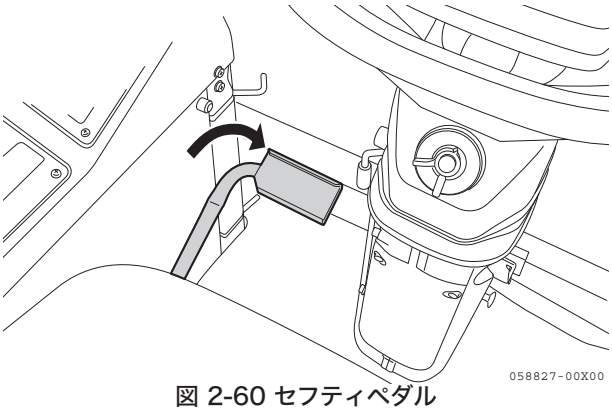


図 2-60 セフティペダル

[重要]

通常の走行停止は、オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にして行ってください。

駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。
セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

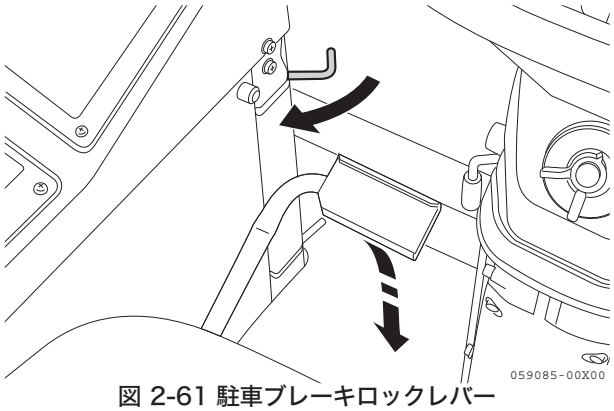


図 2-61 駐車ブレーキロックレバー

解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れて解除できます。

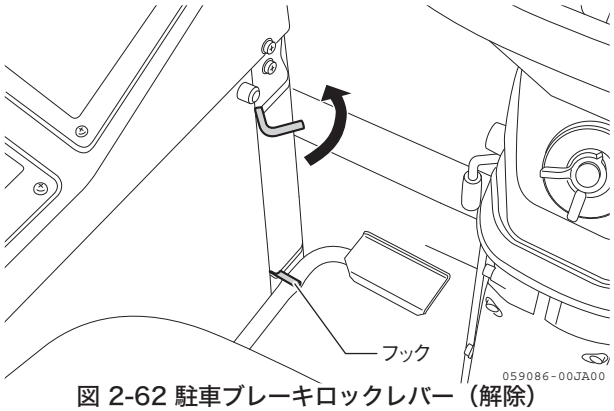


図 2-62 駐車ブレーキロックレバー（解除）

[参考]
セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」（中立）位置に戻ります。

旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。
工場出荷時は、「標準モード」になっています。

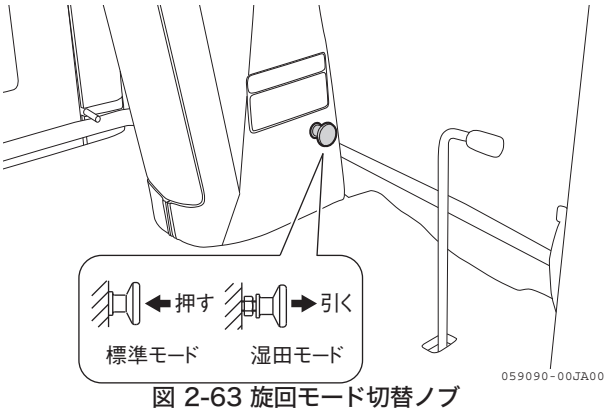


図 2-63 旋回モード切替ノブ

旋回モード切替ノブは、オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置、マルチハンドルを「直進」位置にして操作してください。
ノブを押し込む…標準モード（スピンターンする）
旋回時に自動減速が働き、小回り（スピンターン）ができます。
ノブを引き出す…湿田モード（スピンターンしない）
旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。

[参考]
- 「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
- 乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田で作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですがコンバインの沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

[重要]
移動時は、必ず「標準モード」で走行してください。

表 2-5 旋回モード

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「M」での旋回	スピンターンする(小回り)	スピンターンしない(大回り)
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ 注意:ハンドルを切りすぎない	◎(旋回力大)
移動走行	◎	×(使用不可)
車庫入れ	◎	×(使用不可)

送塵調節レバー

ロータ内の作物の流れを、作物の種類や条件に応じて調節するときに使用します

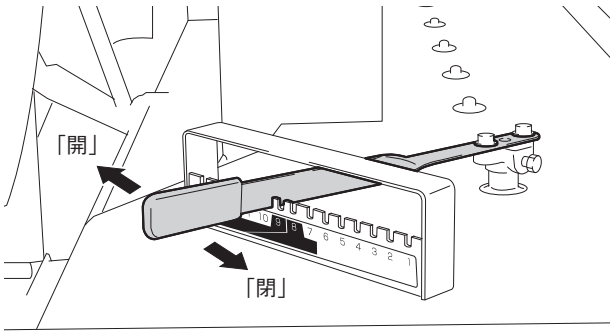


図 2-64 送塵調節レバー

■ 標準的な作物による調節位置

麦・大豆……「9」位置
稲……「8」位置
そば・ハト麦など…「10」～「13」位置

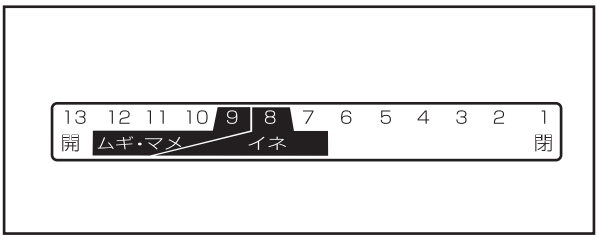


図 2-65 レバー位置の銘板

ロータ変速切替レバー

⚠注意

ロータ変速切替レバーの近くに高温部がありますので、ロータ変速切替は、高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

ロータ回転を「稲・麦」・「大豆」に切り替えるときに使用します。
工場出荷時は、「稲・麦」になっています。

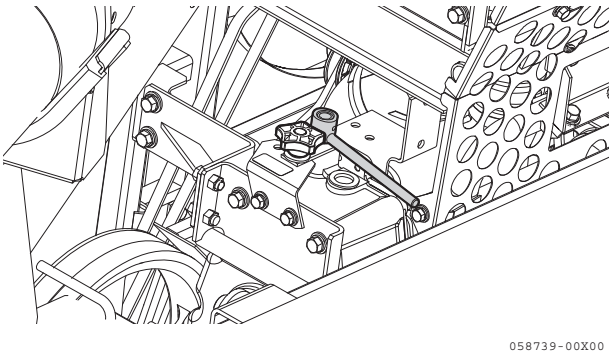


図 2-66 ロータ変速切替レバー

ノブネジを外して、レバーでロータ変速を切り替えることができます。

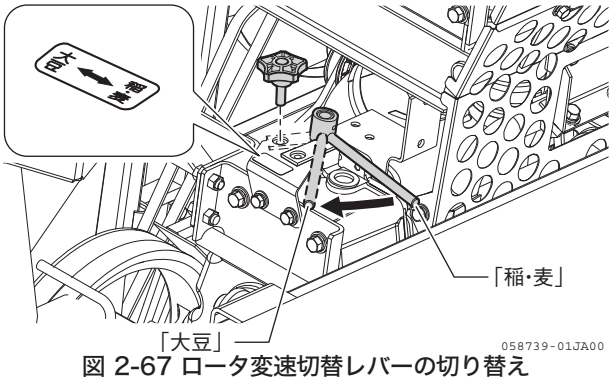


図 2-67 ロータ変速切替レバーの切り替え

「稲・麦」位置
……「稲」・「麦」を刈るときに使用します。
「大豆」位置
……「大豆」・「小豆」・「そば」を刈るときに使用します。

[参考]
レバーを切り替えたときは、ロータ変速が確実に切り替わったことを確認し、ノブネジで固定してください。

その他

ドライバーシート

運転者の体格に合わせて、ドライバーシートの位置を調節することができます。

■ シートの前後調節

前後調節レバーを矢印方向に引き上げ、ドライバーシートを前後にスライドさせて操作しやすい位置に調節することができます。

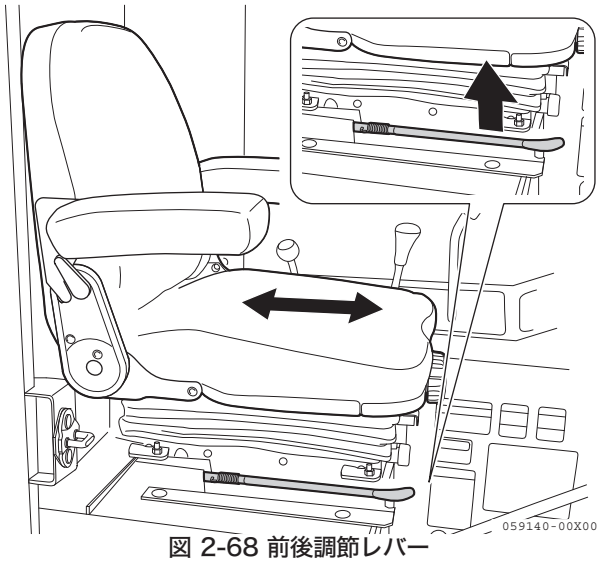


図 2-68 前後調節レバー

■ シートの上下調節

サスペンション調節ノブを回して、上下およびシートの硬さを調節することができます。

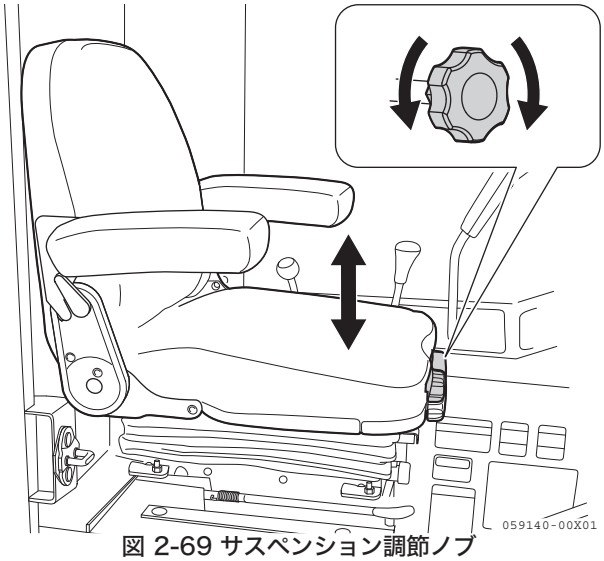


図 2-69 サスペンション調節ノブ

■ シートのリクライニング調節

リクライニングレバーを矢印方向に引き、シートの角度を調節することができます。



図 2-70 シートリクライニングレバー

■ アームレスト

矢印の方向に倒して使用してください。

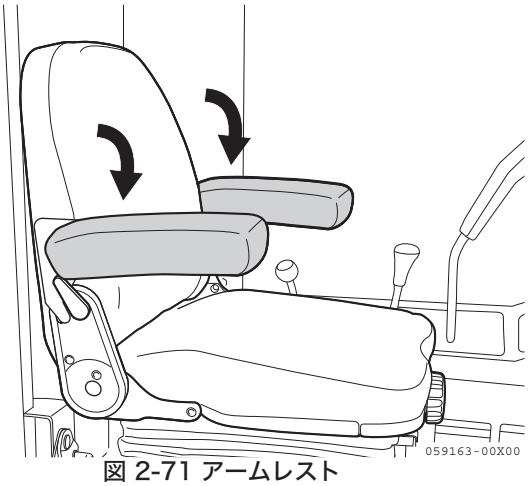


図 2-71 アームレスト

取扱説明書収納ポケット

取扱説明書を収納するポケットが、ドライバーシートの後側にあります。

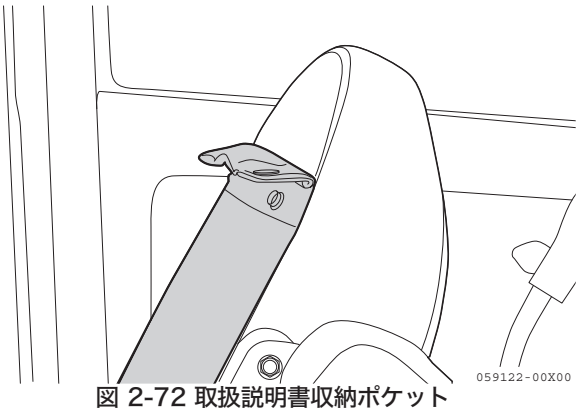


図 2-72 取扱説明書収納ポケット

乗降ステップ操作レバー

乗降ステップ操作レバーを押し込むと、乗降ステップが収納できます。また、乗降ステップ操作レバーを引き上げると乗降ステップが作業位置になります。

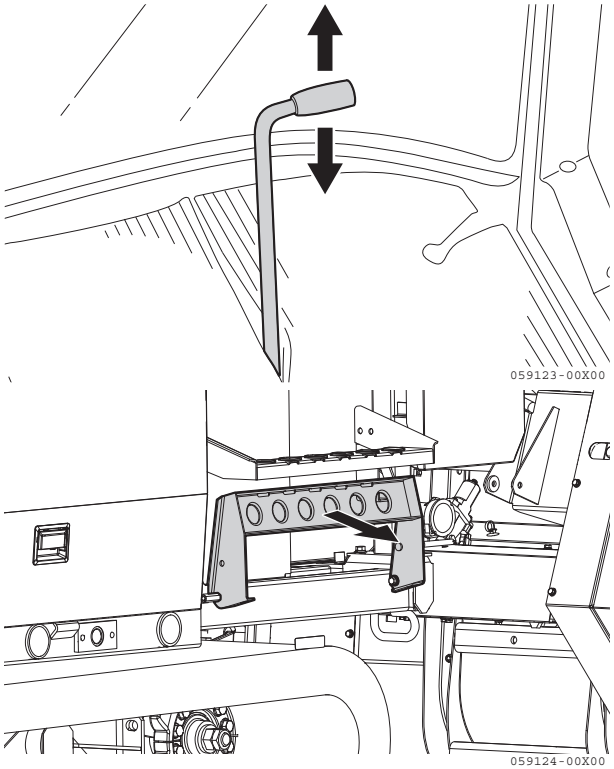


図 2-73 乗降ステップ操作レバー

[重要]

- トラックに積み・降ろしをするときは、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。

[参考]

コンバインから降りたときに、乗降ステップの出し入れをする場合は、乗降ステップ自体を手で持って行います。

ロータカバー開閉レバー

ロータカバーを開閉するときに使用します。

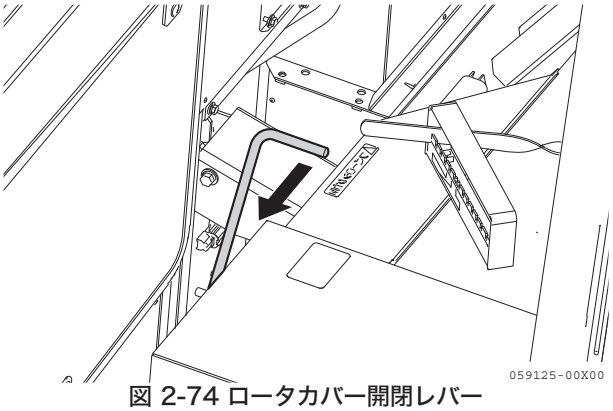


図 2-74 ロータカバー開閉レバー

[重要]

- ロータカバーを開閉するときは、サイドウィンドを閉じてください。
- 排出オーガを上げてください。オーガを上げずにロータカバーを開くと接触し破損するおそれがあります。

刈取部ストッパ

刈取部とフィーダハウスの下降を、機械的に固定するときに使用します。(168ページ参照)

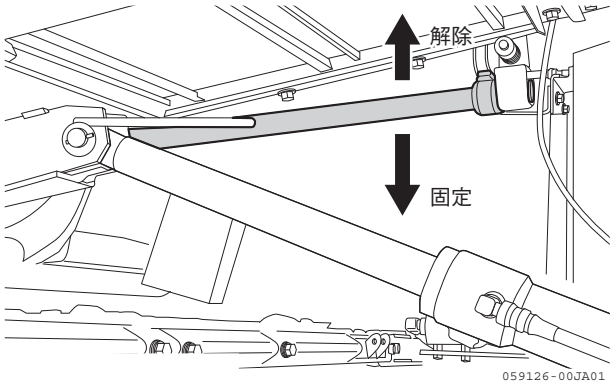


図 2-75 刈取部ストッパ

刈取部およびフィーダハウスの下で点検・整備するときは、必ず刈取部ストッパを「固定」位置（PFシリンダ）に掛けてください。

外部電源

⚠警告

記載された制限容量を超えて使用しないでください。火災の原因になります。

作業灯増設用電源として、コネクタが2ヶ所あります。
各電源の使用制限容量は、作業灯増設用電源が12V40W以下となっています。

■ 作業灯増設用電源①

脱こく前カバー内にあります。
この電源の「入」「切」は、作業灯スイッチの「入」「切」に連動しています。(55ページ参照)
コネクタは2極カプラ（白色）で、緑テープ巻きにより固定されています。

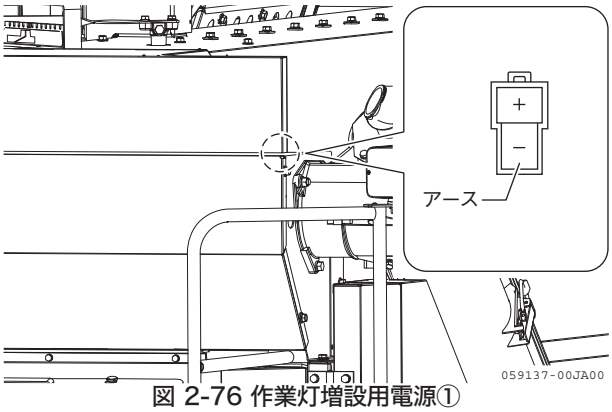


図 2-76 作業灯増設用電源①

■ 作業灯増設用電源②

エンジン後カバー内にあります。
この電源の「入」「切」は、作業灯スイッチの「入」「切」に連動しています。(55ページ参照)
コネクタは2極カプラ（白色）で、緑テープ巻きにより固定されています。

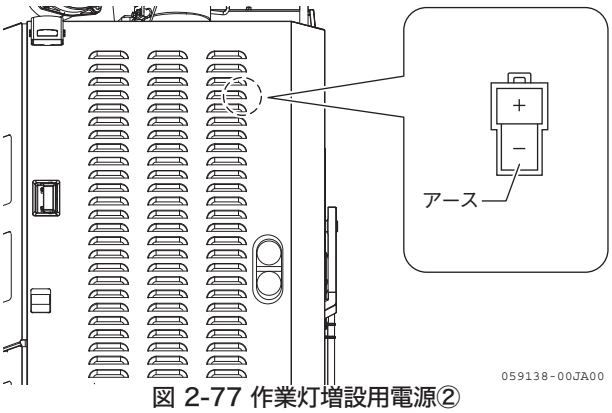


図 2-77 作業灯増設用電源②

キャビン関係

⚠注意

ドアを閉めるときは、手をはさまないよう注意してください。

ドアハンドル(室外)

車外からドアを開閉するときに使用します。

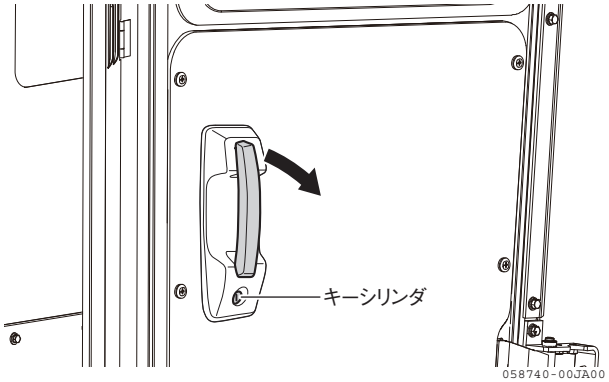


図 2-78 ドアハンドル

■ 開けかた

ドアハンドルを引くとロックが解除され、ドアが開きます。

■ 閉めかた

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めます。

[重要]

- ドアを閉めたときは、確実にドアがロックされているか必ず確認してください。
- ドア取っ手にぶらさがるなど無理に力を加えないでください。

■ 施錠のしかた

キーをドアハンドルの下にあるキーシリンダに差し込み、右側に90度回すと施錠できます。

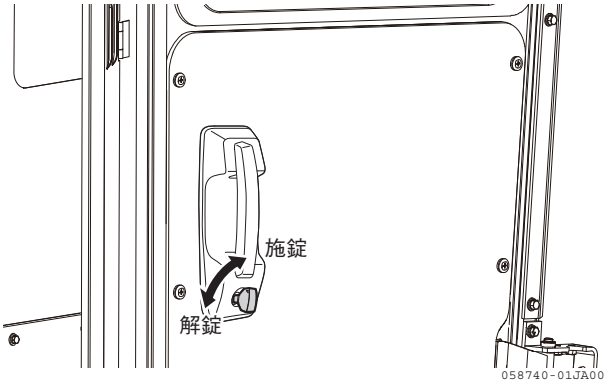


図 2-79 施錠・解錠

■ 解錠のしかた

キーをドアハンドルの下にあるキーシリンダに差し込み、左側に90度回すと解錠できます。

[参考]

キーシリンダ部に直接水をかけると、室内に水が浸入する場合があります。洗車時には注意してください。

ドア開閉レバー(室内)

車内からドアを開けるときに使用します。ドアロックを押し下げることにより施錠、引き上げることにより解錠ができます。

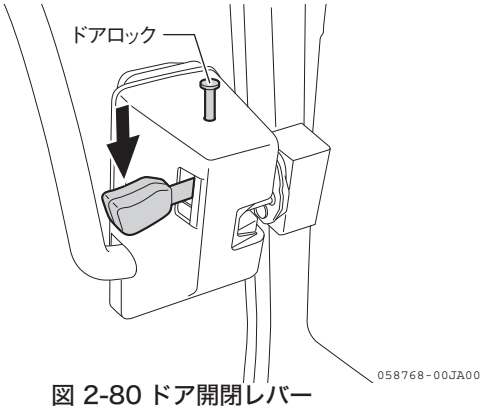


図 2-80 ドア開閉レバー

■ 開けかた

ドア開閉レバーを下方向に押すとロックが解除され、ドアが開けられます。

■ 閉めかた

ドアを確実にロックされるまで閉めます。

[重要]

- キーの閉じ込み防止のため、車内から降りるときは、必ずキーを携帯してください。
- ドアを閉めたときは、確実にドアがロックされているか必ず確認してください。

サイドウインドウ

サイドウインドウ（左右）を開閉するときに使用します。

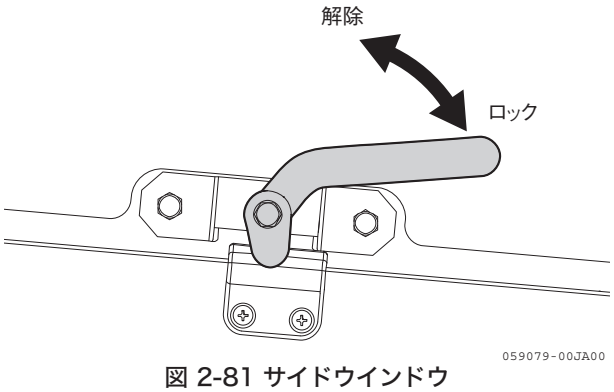


図 2-81 サイドウインドウ

■ 開けかた

ハンドルを解除側に回してロックを解除し、そのまま外側に押してください。
サイドウインドウが開きます。

■ 閉めかた

ハンドルを持って手前に引き寄せ、ハンドルをロック側に回します。

[重要]

ドアを開けた状態では、サイドウインドウを開けないでください。バックミラーに当たり、破損するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。

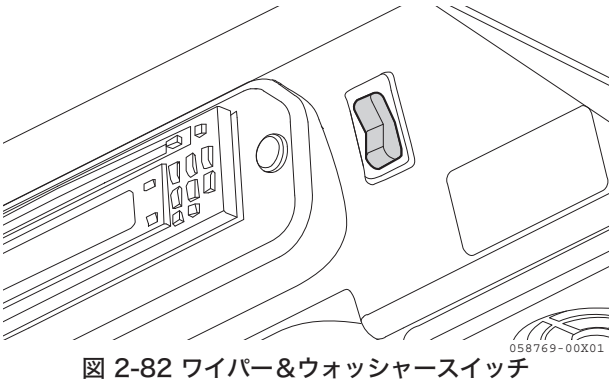


図 2-82 ワイパー＆ウォッシャースイッチ

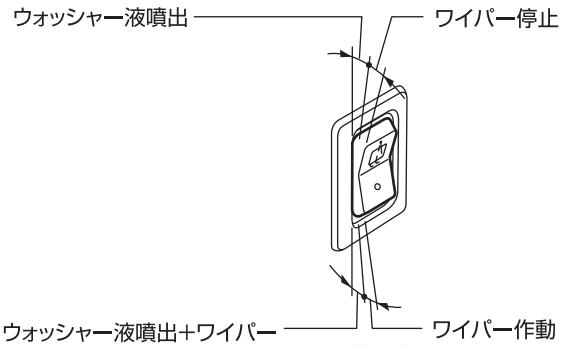


図 2-83 ウォッシャー作動位置

キースイッチが「ON」位置のとき
スイッチの下側を1段押す
　… ワイパーが作動します。
スイッチの下側を最後まで押す
　… 押している間、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄噴出口から噴出します。
スイッチの上側を1段押す
　… ワイパーが停止します。
スイッチの上側を最後まで押す
　… 押している間、ウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出します。

[重要]

- ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。
- ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。(→ 168 ページ参照)
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがありますので、温風でフロントガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態でワイパーを長時間使用すると、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ルームランプスイッチ

スイッチでルームランプの点灯・消灯ができます。

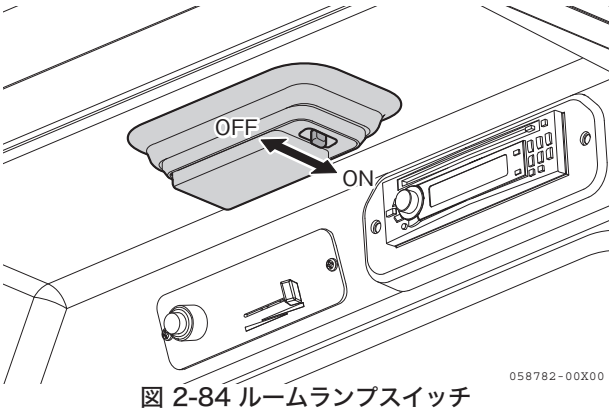


図 2-84 ルームランプスイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき
「ON」位置……ルームライトが点灯します。
「OFF」位置……ルームライトが消灯します。

[重要]

コンバインを離れるときは､必ずルームランプを｢OFF｣にしてください｡バッテリーが放電するおそれがあります。

[参考]

「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

FM･AM付CDラジオ

取扱方法については、付属の取扱説明書をお読みください。

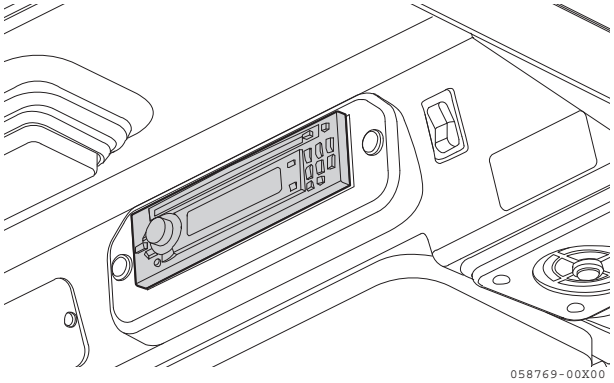


図 2-85 FM・AM付CDラジオ

[参考]

CD は振動などにより、音飛びすることがありますが、故障ではありません。

■ バックアップ電源について

バックアップ電源は、FM・AM付CDラジオにバッテリーからの電源を供給し、キャビン内のヒューズボックスのヒューズを抜き差しして切り替えます。

[参考]

バッテリー放電防止のため、工場出荷時はFM・AM付CDラジオ用の「CDラジオ（BATT)」の5Aヒューズは抜けています。
この状態でキースイッチを「OFF」位置にすると、バッテリー放電防止のため、FM・AM付CDラジオ用のプリセットメモリーおよび時計表示が消えます。

■ バックアップ電源の切り替えかた

[重要]

「CD ラジオ（BATT)」のヒューズに限り、抜き差しをするときには、必ずキースイッチを「ON」位置にして行ってください。「CD ラジオ（BATT)」のヒューズを抜き差ししたときに、火花が飛び、他の機器を破損させるおそれがあります。

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. ドライバーシート（1）下のネジ（2）2箇所を外してカバーを開けます。（図 2-86）



図 2-86

3. ヒューズボックスの「CDラジオ（BATT)」の箇所に予備の5Aヒューズを差し込みます。
4. キースイッチを「OFF」位置にします。

[重要]

長期間(1カ月以上)使用しないときは、バッテリーが放電を防止するため「CD ラジオ(BATT)」の 5A ヒューズを抜いてください。

[参考]

「CD ラジオ（BATT)」の箇所に 5A ヒューズが差し込まれた状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「ON」「OFF」位置に関係なく作動します。

ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。

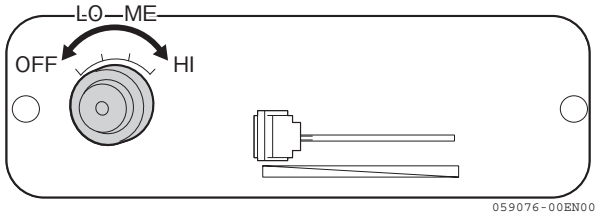


図 2-87 ファンスイッチ

風量を3段階に調節できます。
「OFF」位置…… ファン回転停止

「LO」 位置…… 弱風
「ME」 位置…… 弱風と強風の中間
「HI」 位置…… 強風

[参考]

エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

エアコンスイッチ

エアコンを「ON」「OFF」するときに使用します。

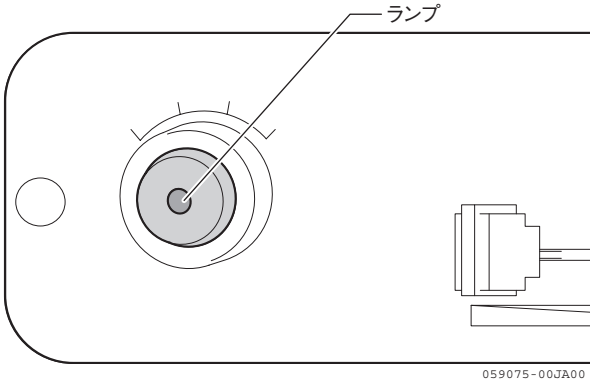


図 2-88 エアコンスイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき
1回押す…… エアコン「ON」(ランプ点灯)
ランプ点灯時に押す…エアコン「OFF」(ランプ消灯)

[重要]

- **エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」（ランプ点灯）にしてください。**
- **エアコンスイッチ「ON」（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。**

[参考]

ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてもエアコンは作動しません。

温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。

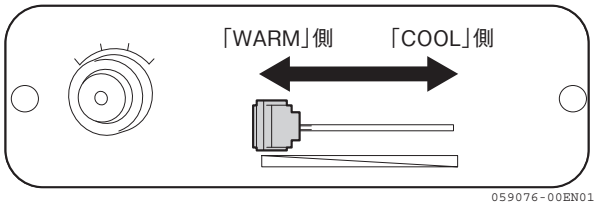


図 2-89 温度コントロールレバー

「WARM」側…近づけるほど風の温度は高くなります。
「COOL」側…近づけるほど風の温度は低くなります。

風向グリル

風量を変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と左右にあります。

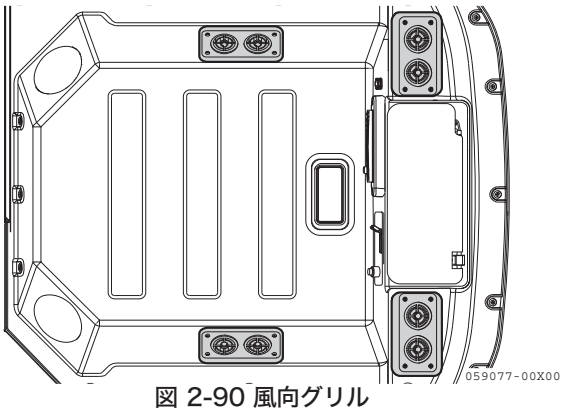


図 2-90 風向グリル

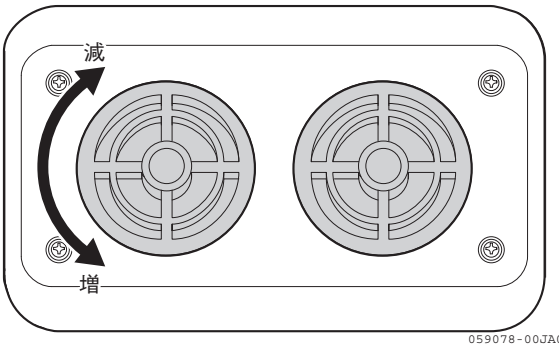


図 2-91 風向グリル

吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

デュアルモニター(バックモニターカメラ・オーガモニターカメラ)

取扱方法については、付属の取扱説明書をお読みください。

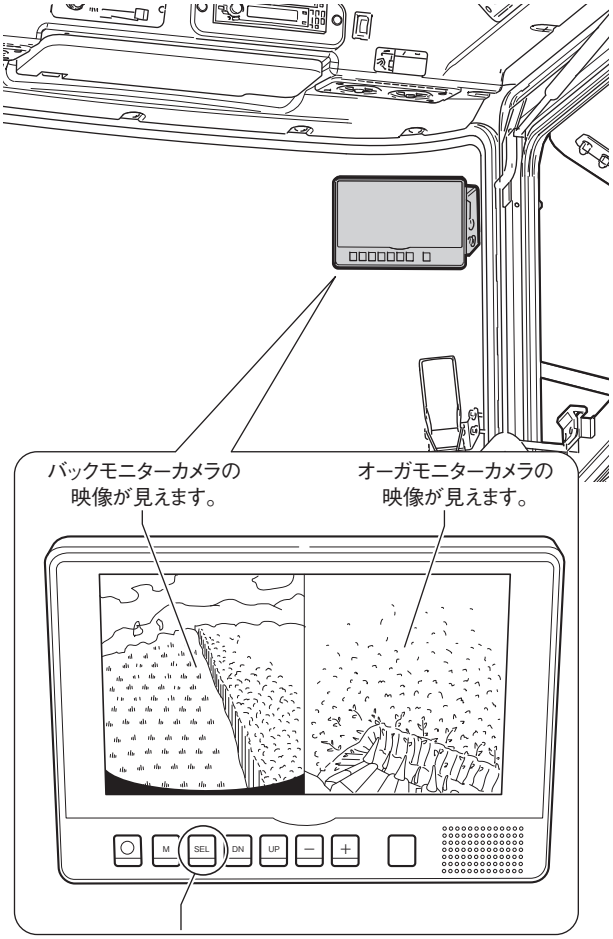


図 2-92 デュアルモニター

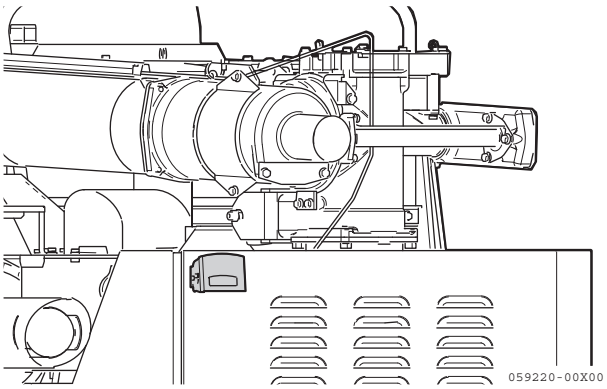


図 2-93 バックモニターカメラ

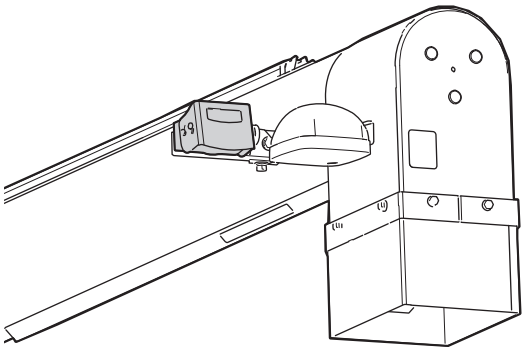


図 2-94 オーガモニターカメラ

キースイッチを「ON」位置にすると、デュアルモニターにコンバイン後方の状況、および排出オーガ先端の状況を常時映し出すことができます。（122ページ参照）

アクセサリーソケット

12V120W（10A）の電源を取り出すことができます。キースイッチが「ON」・「ACC」位置のときに使用できます。

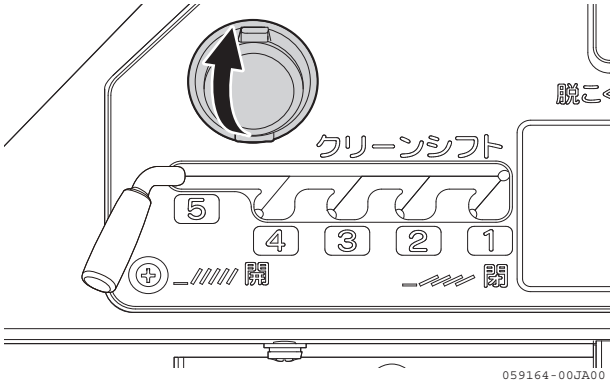


図 2-95 アクセサリーソケット

ならし運転（最初の50時間）について

新車は、最初の50時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特につぎのことを厳守してください。

- 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- 高速での刈取作業は避けてください。
- 最初の50時間目になったら、182ページの「定期点検一覧表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

運転前の点検

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが高温の間は、注油・給油を絶対にしないでください。ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

⚠警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検し、高圧噴油に直接、手や体が触れないようにしてください。
  万一、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。
- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動して行う場合は、閉めきった室内で行わないでください。

⚠注意

点検整備をするときは、排出ガス出口やエンジンなどの高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドを負うおそれがあります。

⚠警告

- 作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。

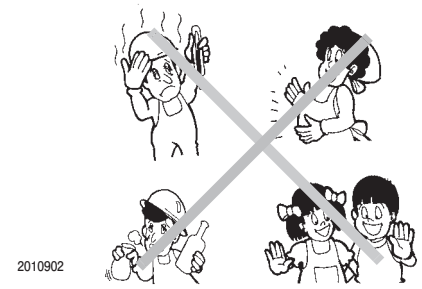


図 2-96

- 操作レバーや部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。

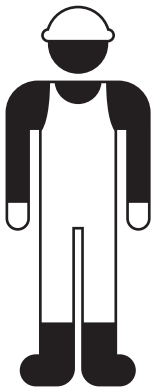


図 2-97

- コンバインは、常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、排気フィルター周辺部、排出ガス出口、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着があると火災の原因になります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

⚠注意

点検・整備・調節後などで外したカバー類は、元通りに取り付けてください。外した状態で運転すると、コンバインに巻き込まれるおそれがあります。

点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、つぎの順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか	261〜267
コンバインの周りを回ってみて	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか	
	●燃料の量と燃料もれはありませんか	
	●クローラの損傷・ゆるみはありませんか	236
	●各部注油箇所の油切れはありませんか	175〜179
	●各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか	222〜235
エンジンルームを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか	188〜190
	●燃料の量と燃料もれ、水もれ、オイルもれはありませんか	
	●冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか	193〜195
	●エアクリーナー・プレクリーナーの汚れはありませんか	204・205
	●冷却ファンベルトの張りと損傷はありませんか	230・231
	●エンジン防塵装置のほこりやごみはありませんか	206
	●配線コードの被覆のはがれや、接続部のゆるみはありませんか	214
ドライバーシートに座ってみて	●ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●ドライバーシートの状態は、体格に合っていますか	92
	●マルチハンドルが、チルトレバーにより固定されていますか、また作業に適正な位置になっていますか	93
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異音はありませんか	
	●排出ガスの色は正常ですか	239
	●各レバー・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●セフティペダルの作動具合は正常ですか	75
	●マルチハンドルで、コンバインの旋回が行なえますか	105
	●刈取昇降スイッチで、刈取部の昇降が行えますか	68
	●リール昇降・リール速度スイッチ、リール前後・リール速度スイッチで、リールの作動が行えますか	56・68
	●作業クラッチレバーで、脱こく部の作動・停止が行えますか	67
	●作業クラッチレバーで、刈取部の作動・停止が行えますか	67
スプレッダ・セカンドモア（オプション）について	●スプレッダの固定刃・回転刃に摩耗はありませんか	
	●スプレッダ・セカンドモア駆動部の油ぎれはありませんか	
	●それぞれの取扱説明書に従って点検してください	


1039507D

運転前の準備

⚠警告

取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しないでください。また、作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。誤作動などにより、傷害事故、コンバインの破損につながるおそれがあります。

コンバインへの乗降のしかた

⚠注意

コンバインへの飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。乗降するときは、必ず乗降用グリップを持って行ってください。

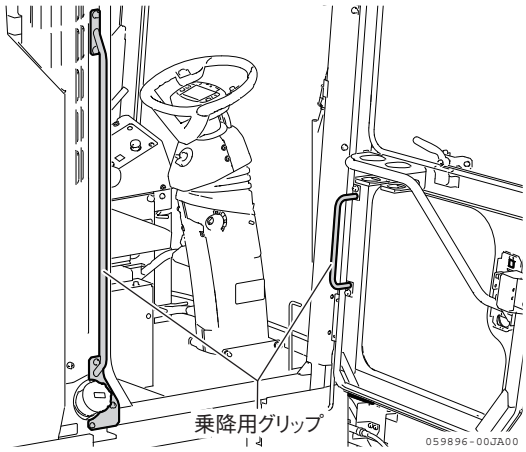


図 2-98

乗降のしかた

乗り降りするときは、必ず乗降ステップを図のようにセットしてください。

■ 乗降するとき

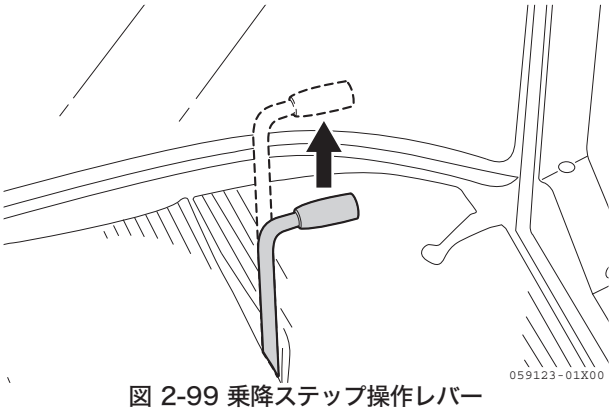


図 2-99 乗降ステップ操作レバー

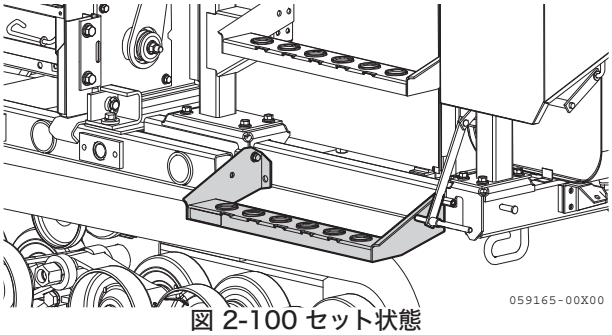


図 2-100 セット状態

コンバインから降りて昇降ステップを出し入れするときは乗降ステップ自体を手で持って行ってください。

■ 収納するとき

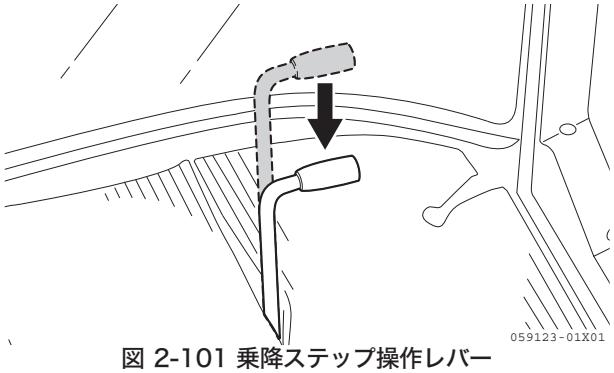


図 2-101 乗降ステップ操作レバー

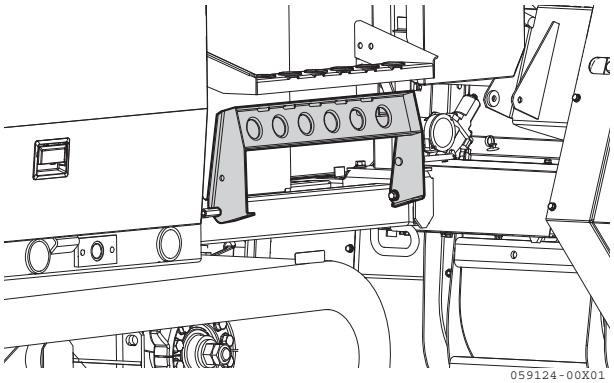


図 2-102 収納状態

[重要]

- トラックに積み･降ろしをするときは､乗降ステップを収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、乗降ステップを収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 乗降ステップ操作レバー操作時に、オーガマルチリモコンのケーブルをはさまないように注意してください。

シート位置の調節のしかた

⚠警告

ドライバーシートの調節は､必ずコンバインが停止した状態で行ってください｡走行しながらの調節は事故を起こすおそれがあります。

ドライバーシートの上下・前後位置およびリクライニング状態を、運転者の体格または作業状態に合わせて調節してください。

前後調節のしかた

1. 前後調節レバー (1) を矢印方向に引き上げます。(図 2-103)
2. ドライバーシート (2) を前後移動します。(図 2-103)
3. 前後調節レバーから手を離します。ドライバーシートが固定されます。

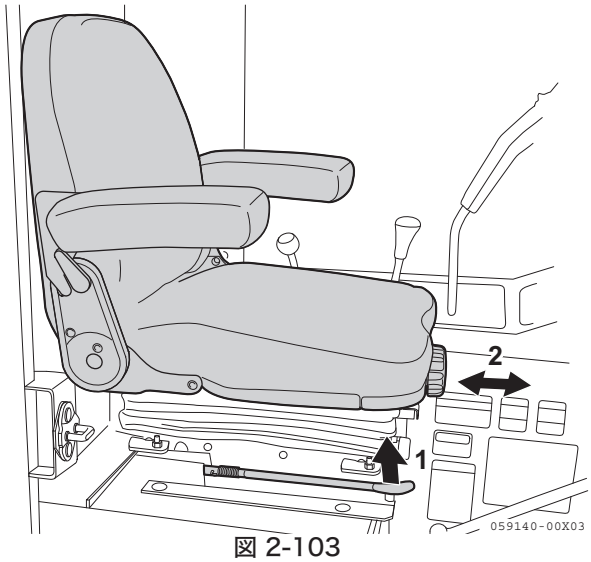


図 2-103

上下調節のしかた

1. サスペンション調節ノブ（1）を回します。右（2）へ回すと座面が上がり、左（3）へ回すと座面が下がります。（図 2-104）

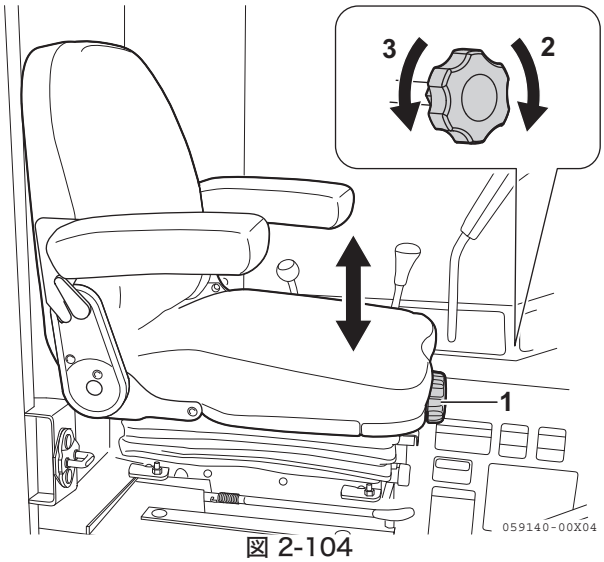


図 2-104

右へ回す…座面が上がります。（硬くなる）
左へ回す…座面が下がります。（軟らかくなる）

2. サスペンション調節ノブから手を離します。

リクライニング調節のしかた

リクライニング調節レバー（1）を「解除」位置（2）にして、座席の背もたれの角度を調節し、「ロック」位置（3）で背もたれの角度が固定されます。（図 2-105）

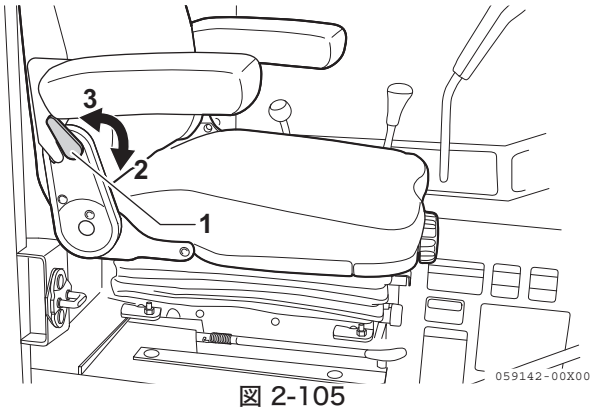


図 2-105

マルチハンドルの前後調節のしかた

⚠警告

マルチハンドルの調節は、必ずコンバインが停止した状態で行ってください。走行しながらの調節は事故を起こすおそれがあります。

マルチハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

調節のしかた

1. チルトレバー（1）を「解除」位置（2）にします。マルチハンドルの固定がゆるみます。（図 2-106）

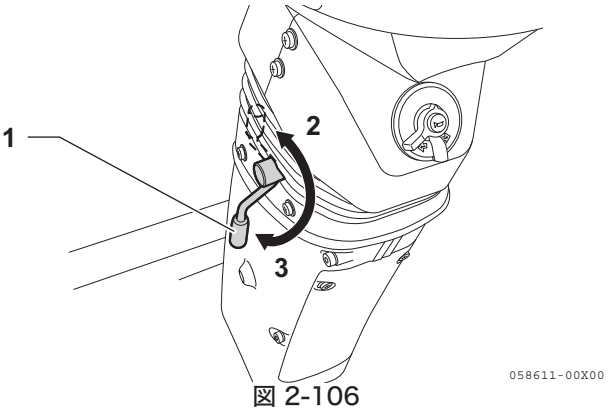


図 2-106

2. マルチハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節します。
3. チルトレバーを「固定」位置（3）にします。マルチハンドルが固定されます。（図 2-106）

[重要]

マルチハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

メンテナンスモードについて

⚠警告

- 「メンテナンスモード」を設定するときは、安全な場所にコンバインを停止した状態で行ってください。不意にコンバインが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 設定を変更するときには、変更内容を確認して行ってください。不意にコンバインが動き出し、思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。
- 確認する内容によっては、一人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特販店または、JAにご相談ください。不意にコンバインが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- チェッカ機能を使用するときには、安全な場所でコンバインを停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「ON」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむを得ずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。不意にコンバインが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

このコンバインには、「メンテナンスモード」があります。
「メンテナンスモード」には、機能変更や微調整が行える「初期設定モード」、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行える「チェッカモード」、およびサービスマンがコンバインの点検を行うための「サービスマンモード」があります。(「サービスマンモード」には、お客様が入ることはできません。)
「初期設定モード」では、フィット昇降の速度を5段階に変更できる「フィット昇降速度設定」、およびEモードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更できる「Eモード設定」の各機能の設定変更がでます。

メンテナンスモードへの切り替えかた

MODE（表示切替）スイッチと OFF（ブザー停止）スイッチを、一緒に 5 秒以上押し続けます。(図 2-107)
始めにブザーが断続で鳴ってから、「メンテナンスモードメニュー」の画面に切り替わります。ブザーは、画面が切り替わると同時に停止します。(図 2-108)

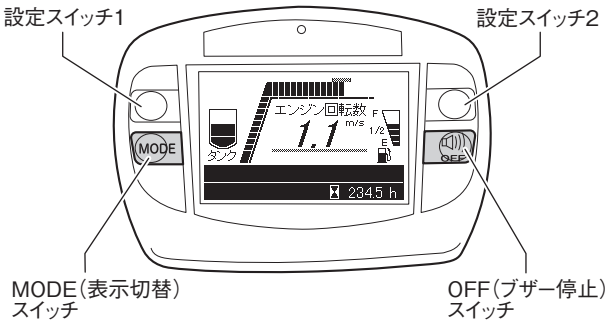


図 2-107

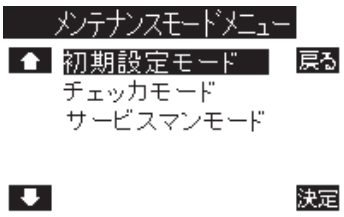


図 2-108

[参考]
メンテナンスモードには3種類のモードがあります。

■ 初期設定モード

このモードは機能変更や、微調整が行えるモードです。

■ チェッカモード

このモードはスイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行えるモードです。「不調診断のしかた」(242ページ参照）で詳しく説明します。

■ サービスマンモード

サービスマンがコンバインの点検を行うためのモードです。お客様がこのモードに入ることはできません。

初期設定モードへの切り替えかた

設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を「初期設定モード」の項目に移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。

初期設定モードでは、「初期設定メニュー」の画面に表示された設定が行えます。（図 2-109）

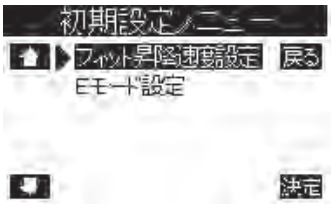


図 2-109

■ フィット昇降速度設定

フィット昇降の昇降速度を5段階に調節することができます。

■ Eモード設定

E モードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更することができます。

それぞれの機能の変更方法について説明します。

フィット昇降速度設定

1. 設定スイッチ 1（⬆）または MODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を「フィット昇降速度設定」の項目に移動し、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。（図 2-110）

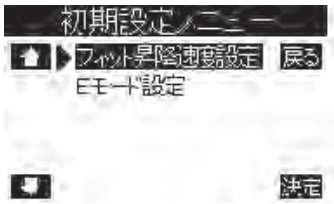


図 2-110

2. 確認画面が表示されますので、OFF（ブザー停止）スイッチ（はい）を押します。設定スイッチ2（戻る）を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。（図 2-111）

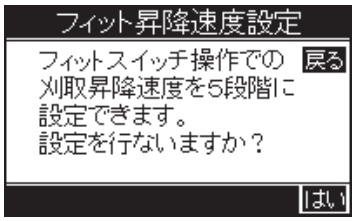


図 2-111

3. 設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を設定する項目に移動し、設定したい速度の項目の文字を反転させます。（図 2-112）
「上昇速度」と「下降速度」は別々に設定することができます。

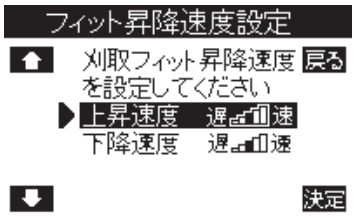


図 2-112

4. ブザー停止スイッチ（決定）を押して、設定したいフィット昇降の速度を選択します。OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押すごとに、フィット昇降の速度が1段ずつ図 2-113のように変わります。



図 2-113

[参考]

出荷時は、中央値 遅速 に設定されています。

5. 設定スイッチ2（戻る）を押して、フィット昇降の速度を確定します。確定後、確認画面が2秒間表示され、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。（図 2-114）

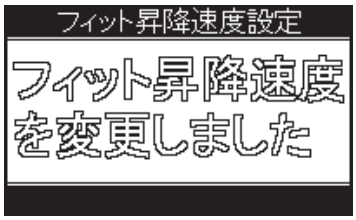


図 2-114

Eモード設定

1. 設定スイッチ1（🡅）またはMODE（表示切替）スイッチ（🡇）を押して、▶印を「E モード設定」の項目に移動し、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。（図 2-115）

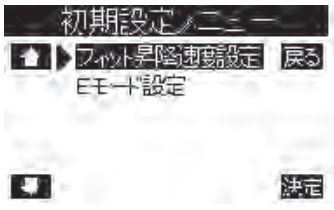


図 2-115

2. 確認画面が表示されますので、OFF（ブザー停止）スイッチ（はい）を押します。
設定スイッチ 2（戻る）を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。（図 2-116）

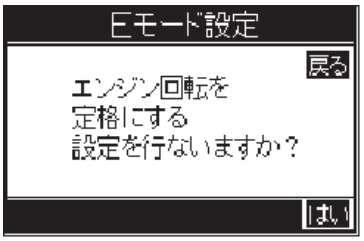


図 2-116

3. 設定スイッチ1（🡅）またはMODE（表示切替）スイッチ（🡇）を押して、▶印を設定を変更したい項目に移動し、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。
4. OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押すごとに「クイック」「スロー」「切り」に切り替わります。（図 2-117）

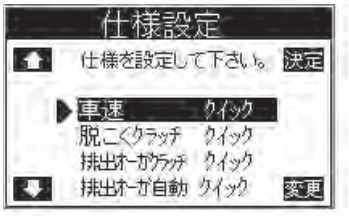


図 2-117

[参考]

- E モードの設定は、車速・脱こくクラッチ・排出オーガクラッチ・排出オーガ自動、それぞれ別々に設定することができます。
- 出荷時は、以下の状態に設定されています。（図 2-118）
  - ・車速　クイック
  - ・脱こくクラッチ　クイック
  - ・排出オーガクラッチ　スロー
  - ・排出オーガ自動　クイック

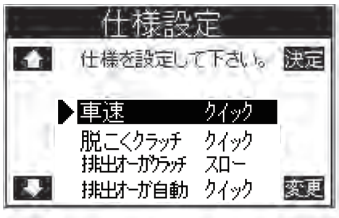


図 2-118

〈クイック〉

エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に瞬時に上がります。

〈スロー〉

エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に5秒かけて徐々に上がります。

〈切り〉

エンジン回転数は、アイドリング回転のまま維持されます。

5. 設定スイッチ2（戻る）を押して、E モード設定を確定します。確定後、確認画面が2秒間表示され、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。(図 2-119)

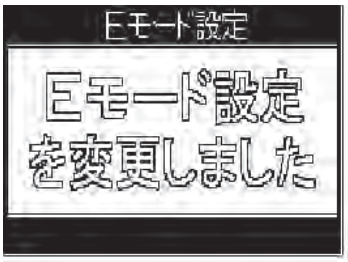


図 2-119

[重要]

「切り」に設定した場合は、E モードスイッチが「入」(Eモードランプ点灯)の状態で操作をしても、エンジン回転はアイドリング回転のままです。
エンジン回転を上げる場合は、E モードスイッチを「切」(Eモードランプ消灯)にして、アクセルダイヤルでエンジン回転を調節してください。

操作機能の変更のしかた

センターディスプレイで操作機能の一部を変更することができます。以下に変更できる機能と、設定方法について説明します。

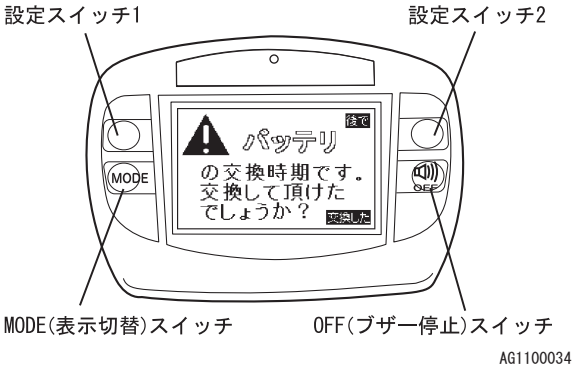


図 2-120 操作機能の変更のしかた

表 2-6 設定メニュー

番号	機能	内容
1	積算時間	センターディスプレイに表示させる積算時間を「エンジン」または「作業時間」に設定できます。(97ページ参照) エンジン……エンジンが回転している時間を積算する 作業時間……作業クラッチレバーが「刈取」状態になっている時間を積算する
2	作業時間	「作業時間」の積算を「0」に戻すことができます。(98ページ参照) 「エンジン」の積算時間を、「0」にすることはできません。

アワメータ(積算時間)の表示を変更するには

1. MODE（表示切替）スイッチを長押しします。(図 2-121)



図 2-121

2. 「設定メニュー」の画面が表示されます。(図 2-122)



図 2-122

[参考]

- 工場出荷時は、「エンジン」に設定されています。
- 設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押していると、メンテナンス情報時間リセットメニューが表示されますが、操作時間の変更には使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、186 ページを参照してください。(図 2-123)

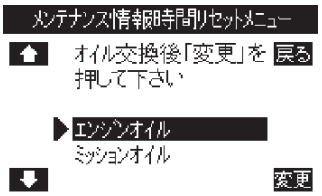


図 2-123

3. OFF（ブザー停止）スイッチ（変更）を押すごとに、「エンジン」「作業」を選択できます。
4. 「エンジン」を選択すると、通常の画面でアワメータが「砂時計マーク」を表示し、エンジンの使用時間を表示します。
   「作業時間」を選択すると、通常の画面でアワメータが「作業時間」を表示し、「刈取」位置の時間を表示します。
5. 設定スイッチ2（戻る）を押して、積算時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。(図 2-124)

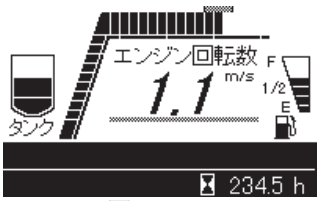


図 2-124

[参考]

通常の画面に戻るまえに、キースイッチを「OFF」位置にすると、設定内容が記憶されません

作業時間をリセットするには

1. MODE（表示切替）スイッチを長押しします。(図 2-125)



図 2-125

2. 「設定メニュー」の画面が表示されます。(図 2-126)



図 2-126

3. 設定スイッチ 1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、「作業時間」の行が反転文字になるように▶印を移動します。(図 2-127)



図 2-127

[参考]

設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押していると、メンテナンス情報時間リセットメニューが表示されますが、操作時間の変更には使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、186ページを参照してください。（図 2-128）

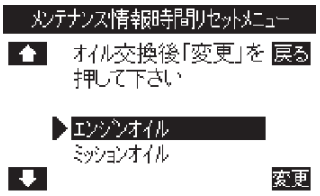


図 2-128

4. OFF（ブザー停止）スイッチ（変更）を押すと、「リセット」と表示され、作業時間の積算時間のリセットが確定されます。（図 2-129）
「リセット」の文字は数秒すると消えます。

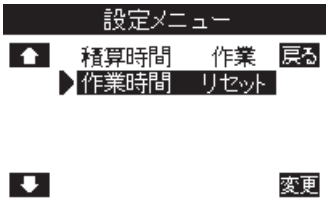


図 2-129

5. 設定スイッチ2（戻る）を押すと、通常の画面に戻ります。（図 2-130）

通常の画面

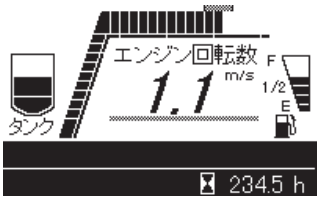


図 2-130

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠警告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分換気をしてください。排出ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動時は、必ず運転席に座って周囲の安全を確認し、各スイッチと各レバーが「切」および「N」（中立）の位置にあるか確認してください。急にコンバインが動き出して、傷害事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、以下のことを必ず守ってください。急にコンバインが動き出して、傷害事故を起こすおそれがあります。
  - ・ 平たんな場所で運転席に座ってください。
  - ・ 各スイッチと各レバーが「切」および「N」（中立）の位置にあることを確認してください。
  - ・ 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
  - ・ 周囲の安全を確認し、エンジン始動前にホーンを鳴らして発進の合図をしてください。
- コンバインを使う前と後には、88 ページの「運転前の点検」に従って必ず点検・整備をしてください。特に、セフティペダル・レバーやスイッチなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。傷害事故を起こすおそれがあります。
- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

[重要]

- 走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンがかからない場合があります。
- 作業中にエンジンが停止したときは、キースイッチをいったん「OFF」位置にしてから、再度始動してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. エンジン後カバーを開きます。
   （158ページ参照）
2. ウォータセパレータ（1）のコック（2）を「開」位置にします。（図 2-131）

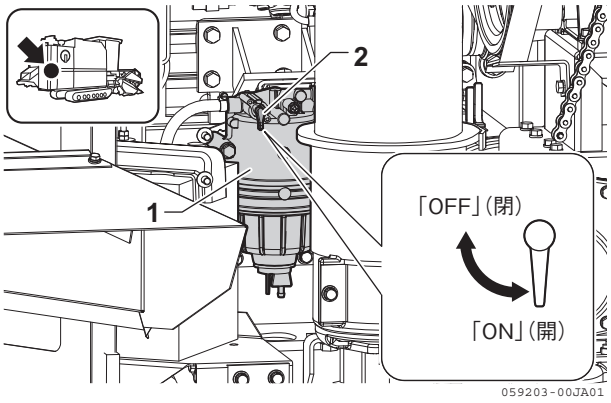


図 2-131

3. エンジン後カバーを閉めます。
4. ドライバーシートに座ります。
5. オールマイティシフトレバー（1）を「N」（中立）位置にします。（図 2-132）
6. 作業クラッチレバー（2）を「OFF」位置にします。（図 2-132）

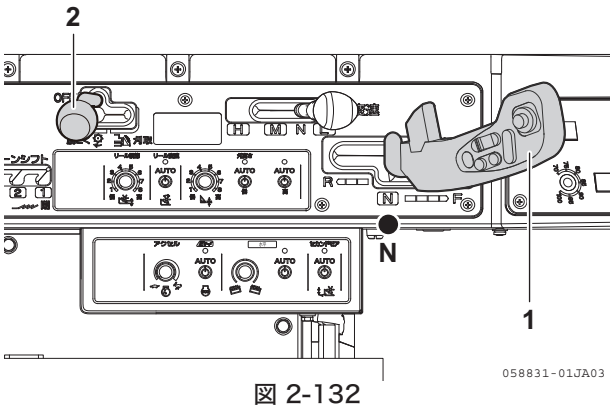


図 2-132

エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。
   （76ページ参照）
2. キースイッチにキー（1）を差し込んで、「ON」位置にします。（図 2-133）

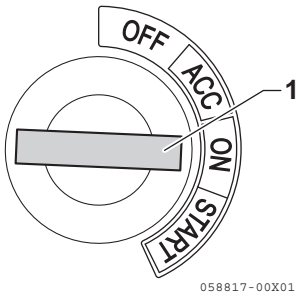


図 2-133

[重要]

キースイッチを「ON」位置にすると、センターディスプレイに「ヒータ作動中」の文字が表示されます。エンジンが冷えているときは、「ヒータ作動中」の文字が消えたことを確認してから、つぎの操作を行ってください。（図 2-134）



図 2-134

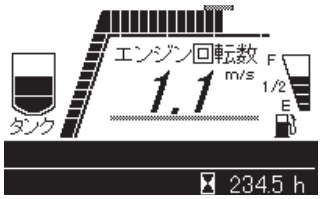


図 2-135 通常の画面

[参考]

- このとき、デュアルモニターにコンバイン後方とオーガ先端の映像が映し出されます。
- メンテナンスが必要な時期になったときは、メンテナンス情報が文字で表示されます。(図 2-136)

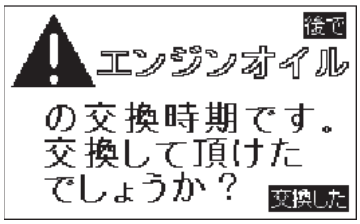


図 2-136

3. Eモードスイッチ（1）を「切」(Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤル (2) を「 」位置にします。エンジン回転数が上がります。(図 2-137)

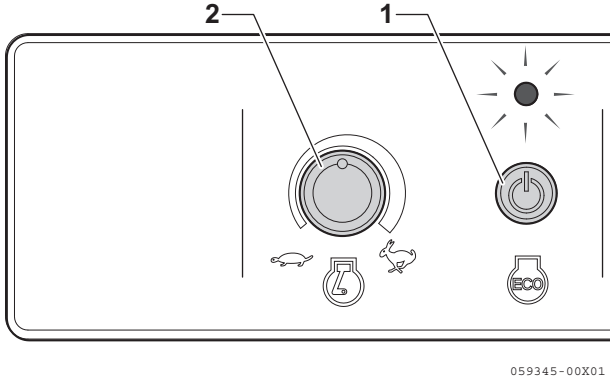


図 2-137

[参考]

Eモードスイッチが「入」(Eモードランプ点灯）でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、Eモードスイッチは「切」(E モードランプ消灯）にしておいてください。

4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」位置に回します。(図 2-138)

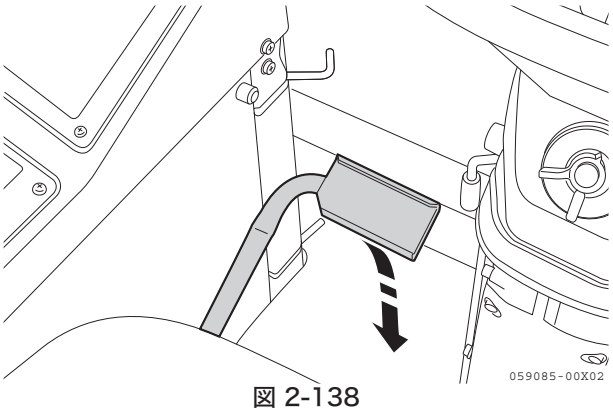


図 2-138

[重要]

- 作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、セルモータが回りません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「OFF」位置にして、1 分以上経ってから、再び始動してください。

5. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離します。キースイッチは、自動的に「ON」位置に戻ります。

[重要]

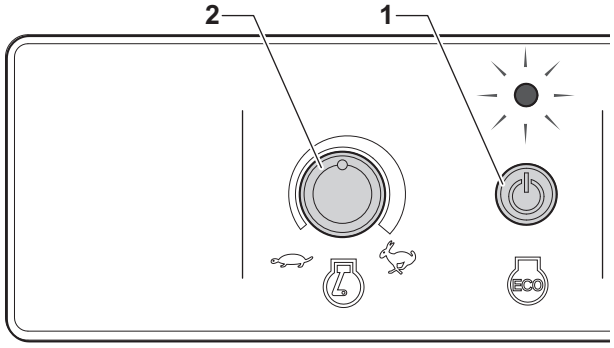
エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「START」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

暖機運転のしかた

⚠警告

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。排出ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけます。(76 ページ参照)
2. Eモードスイッチ（1）を「切」(Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤル (2) を「🐢」位置にします。エンジン回転が下がります。(図 2-139)



059345-00X01

図 2-139

3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておきます。

寒冷時の始動

寒冷時は、油圧系の性能を十分に発揮するために、表 2-7 をめやすに暖機運転を長めに行ってください。

表 2-7 暖機運転時間

気温	暖機運転時間
10～0℃	10分以上
0～−5℃	20分以上
−5℃以下	30分以上

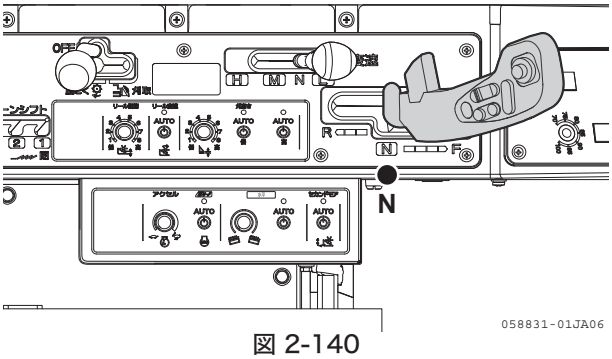
[参考]
寒冷時には、エンジンアイドリング回転数が少し上がります。

エンジンの停止のしかた

⚠警告

コンバインを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。子供などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

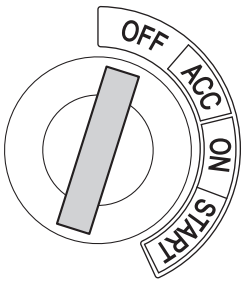
1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立）位置にします。(図 2-140)



058831-01JA06

図 2-140

2. Eモードスイッチ「切」(Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤルを「🐢」位置にします。エンジン回転が下がります。
3. キースイッチを「OFF」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-141)



058816-00X00

図 2-141

4. キーを抜きます。

[重要]
オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置でないときは、キースイッチを「OFF」位置にしないでください。エンジンが再始動しにくくなることがあります。

運転操作

発進･走行のしかた

⚠警告

- 発進は、ゆっくり行ってください。急発進・急旋回・急停止すると、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。
- エンジン始動時､異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。
- 寒冷時に運転する場合は、エンジン始動後、暖機運転を必ず行ってください。駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があり危険です。

⚠注意

発進するときは､周囲の安全を確認しホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

発進前の準備

1. エンジンを始動します。(100ページ参照)
2. 駐車ブレーキを解除します。(76ページ参照)
3. Eモードスイッチ（1)「切」(Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤル（2）を「」位置にします。エンジン回転が上がります。(図 2-142)

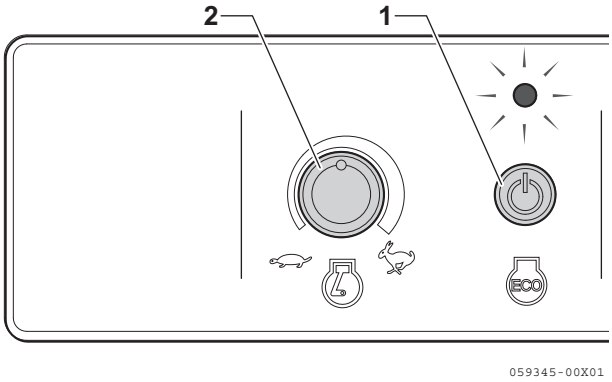


図 2-142

[参考]

エンジン回転数は、必ずセンターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」(1）の回転数にしてください。(図 2-142)

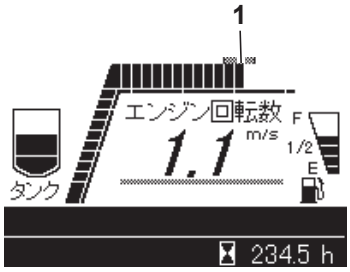


図 2-143

4. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押します。刈取部が上昇します。(図 2-144)

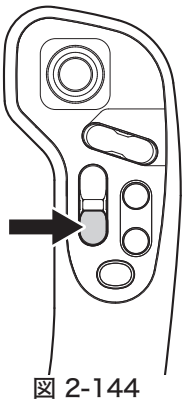


図 2-144

5. リール昇降・リール速度スイッチ（1）を「下降」(2) にします。リールが下降します。(図 2-145)

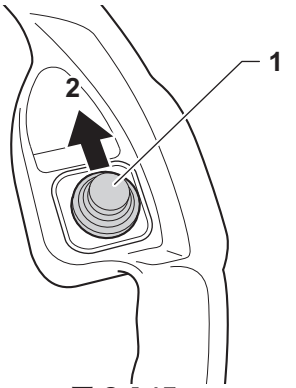


図 2-145

6. 副変速レバーを希望の位置にします。(図 2-146) (66ページ参照)

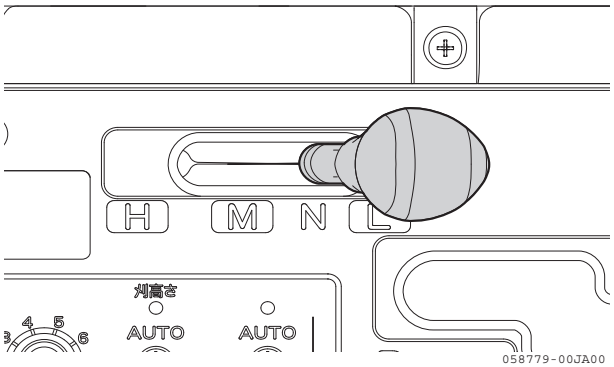


図 2-146

発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除します。(76ページ参照)
2. マルチハンドルを右手で持ちます。
3. 左手でオールマイティシフトレバーをゆっくり前方へ倒します。コンバインが発進します。(図 2-147)
   1) 周囲の安全を十分に確認します。
   2) オールマイティシフトレバーをゆっくり前方に倒して発進します。
   3) 発進後、必要に応じてオールマイティシフトレバーをさらに前方へ倒してスピードを上げます。

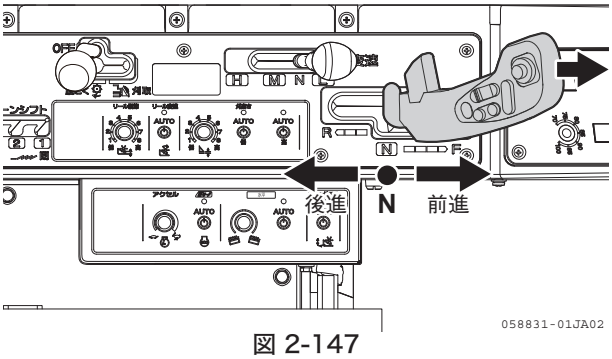


図 2-147

[重要]

- コンバインはHSTミッションのため、走行時はエンジン回転数を、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」にしてください。
- オールマイティシフトレバーは、セフティペダルを踏み込まずに操作してください。セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置で固定されます。
- オールマイティシフトレバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ずコンバインが完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、コンバインが破損することがあります。

変速のしかた

⚠警告

坂道では、副変速レバーを操作しないでください。コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。

1. オールマイティシフトレバー（1）を「N」（中立）位置にします。コンバインが停止したことを確認します。（図 2-148）
2. 副変速レバー（2）を希望の位置にします。（図 2-148）

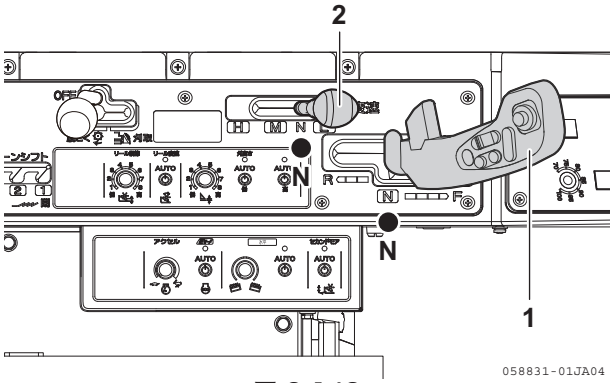


図 2-148

[重要]

- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 副変速レバーを操作する場合は、必ずコンバインが完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、コンバインが破損することがあります。

旋回のしかた

⚠警告

副変速レバーが「H」位置での高速移動時に、急旋回はしないでください。必ず速度を落として旋回操作を行ってください。接触・転倒事故のおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーで走行スピードを下げます。（図 2-149）

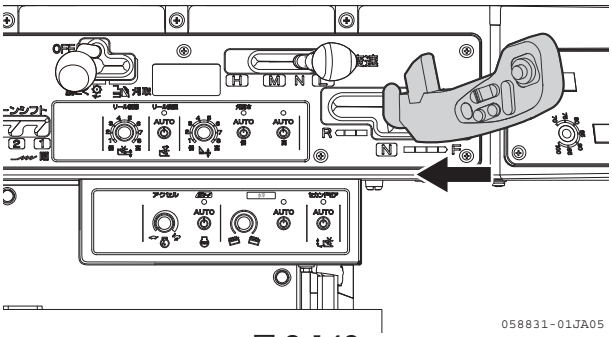


図 2-149

2. 旋回したい方向へマルチハンドルを回すと、その方向へコンバインが旋回します。（図 2-150）

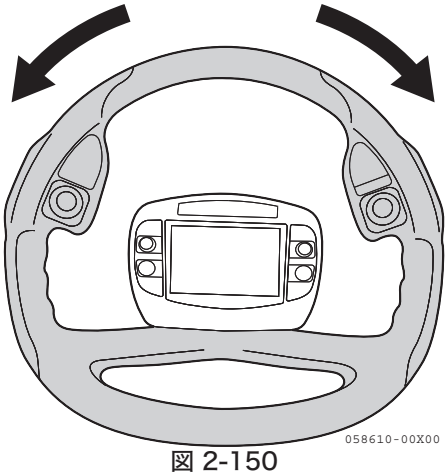


図 2-150

マルチハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速し、約1/4回転で、旋回内側のクローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々に左右のクローラの回転が逆転し始め、約135° でスピンターンの状態になります。

■ ハンドルの操作量と旋回状態

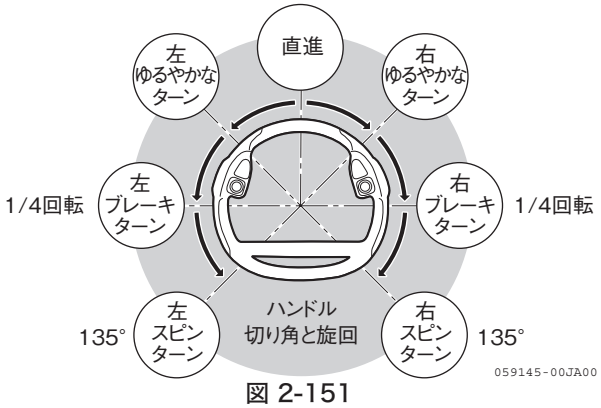


図 2-151

■ 旋回モードの切り替えについて

旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。(図 2-152)
「標準モード」位置…旋回時に自動減速が働き、小回り(スピンターン)ができます。
「湿田モード」位置…旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。

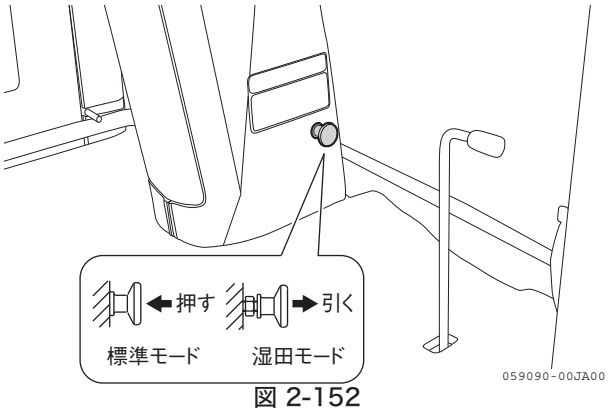


図 2-152

表 2-8 旋回モード

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「M」での旋回	スピンターンする(小回り)	スピンターンしない(大回り)
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ 注意:ハンドルを切りすぎない	◎(旋回力大)
移動走行	◎	×(使用不可)
車庫入れ	◎	×(使用不可)

[重要]
移動時は、必ず「標準モード」で走行してください。

[参考]
「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、コンバインの沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えます。さらに湿田性能が向上します。

停車・駐車のしかた

⚠警告

駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてクローラに車止めをしてください。また、オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置になっていることを確認してください。コンバインから離れるときは、必ずキーを抜いてください。コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

停車のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にします。コンバインが完全に停止したことを確認します。(図 2-153)

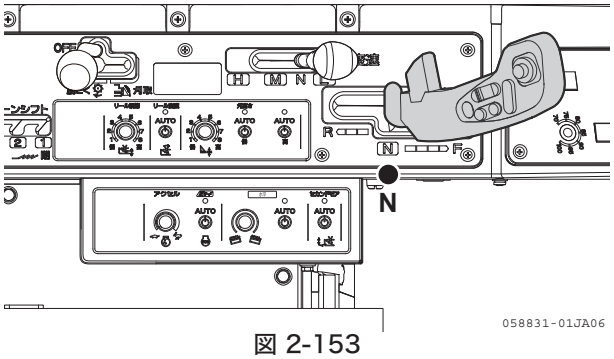


図 2-153

2. 駐車ブレーキをかけます。
(76ページ参照)
3. Eモードスイッチ (1) を「切」(Eモードランプ消灯) にして、アクセルダイヤル (2) を「🐢」位置にします。エンジン回転が下がります。(図 2-154)

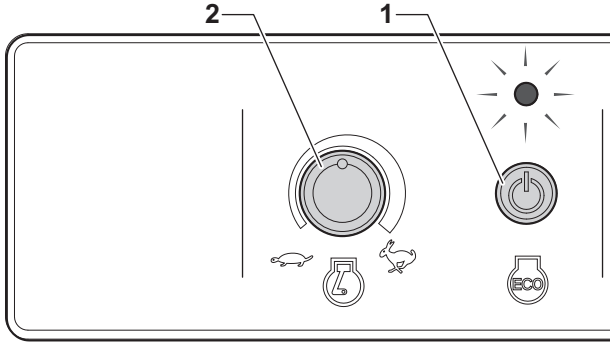


図 2-154

4. キースイッチを「OFF」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-155)

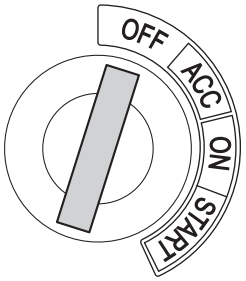


図 2-155

駐車のしかた

⚠警告

坂道の途中では駐車しないでください。

1. 平たんで安全な場所にコンバインを移動します。
2. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押します。刈取部が地面に接地します。(図 2-156)

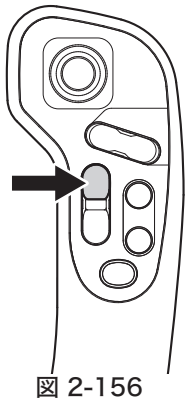


図 2-156

3. リール昇降・リール速度スイッチ (1) を「下降」側 (2) にします。リールが下降します。(図 2-157)

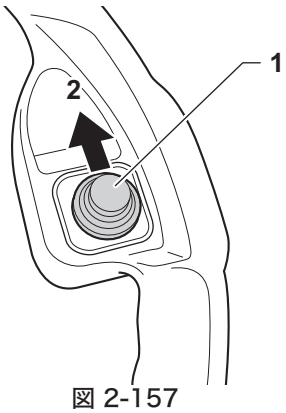


図 2-157

4. エンジンを停止します。(102ページ参照)

5. セフティペダルをいっぱいに踏み込みます。

[参考]
セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」（中立）位置に戻ります。

6. 駐車ブレーキロックレバー（1）を手前に引きます。（図 2-158）

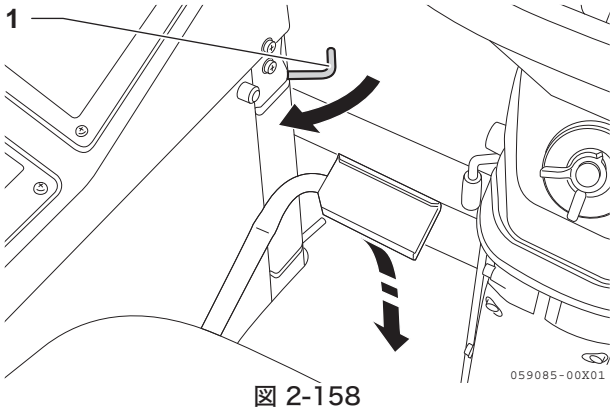


図 2-158

7. セフティペダル（1）にフック部（2）をかけると、駐車ブレーキがかかります。（図 2-159）

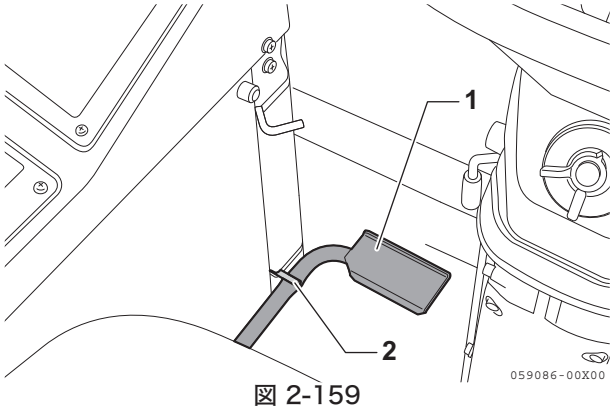


図 2-159

8. 運転席から離れる場合は、キーを抜きます。

[参考]
駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。

移動走行のしかた

⚠警告

- グレンタンク内にこく粒が入っていると、コンバインの重心が高くなり、転倒のおそれがあり大変危険です。必ずタンクは、空にしてください。
- 排出オーガは、必ずオーガレストに収納してください。
- コンバインが前後・左右とも11度を越える傾斜地は走行しないでください。転倒・ケガをするおそれがあります。
- 安全のために、ヘルメットを着用してください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草がおいしげっている所は、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。
- エンジン始動時、異常がないか確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

⚠注意

- デバイダヘッドを外して、サイドデバイダを収納してください。破損したり、当たってケガをするおそれがあります。
- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、リール、セカンドモア(オプション)、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。
- 移動時は、ヘッダ底の高さを地面より20cm程度上げてください。
- 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替えてください。旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 移動走行するときは、Eモードスイッチを「切」（Eモードランプ消灯）にしてください。E モードスイッチを「入」にしたままでは、アクセルレバーでのエンジン回転調節ができないため思わぬ事故の原因になります。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 運転者の他に、人を乗せないようにしてください。

[重要]

移動走行するときは、乗降ステップおよびセンサソリを収納してください。乗降ステップおよびセンサソリの破損・変形を防ぐことができます。

コンバインの走行姿勢について

1. デバイダヘッド（1）を、ボルト（2）M8（2本）をゆるめて外します。（図 2-160）

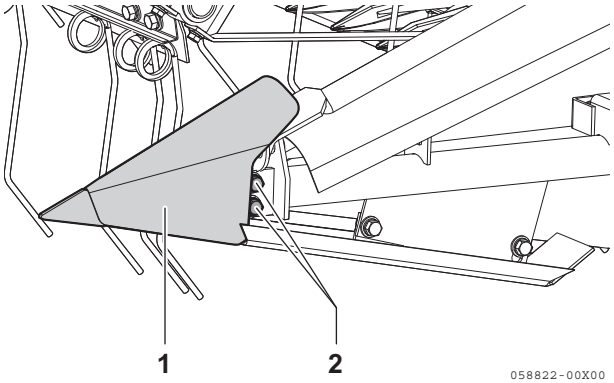


図 2-160

2. サイドデバイダを収納します。（図 2-161）

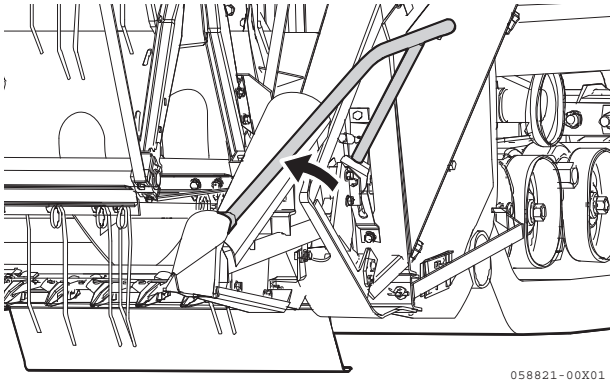


図 2-161

3. グレンタンク内のこく粒を全て排出します。（146ページ参照）
4. 排出オーガ（1）をオーガレスト（2）に収納します。（図 2-162）（146ページ参照）

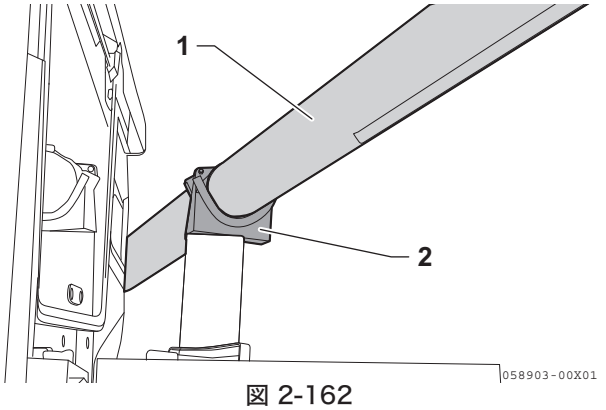


図 2-162

[参考]

オーガが収納されていない状態で走行を開始すると、警報ブザーが鳴ります。オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にしてコンバインを停止するとブザーが止まります。センターディスプレイのOFF（ブザー）スイッチでも警報を停止することができますが、コンバインが動くと再度ブザーが鳴りますので、ブザーが鳴ったらコンバインを停止させてオーガを収納してください。

5. Eモードスイッチを「切」（Eモードランプ消灯）にします。また、リール、セカンドモア（オプション）、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にします。（図 2-163）

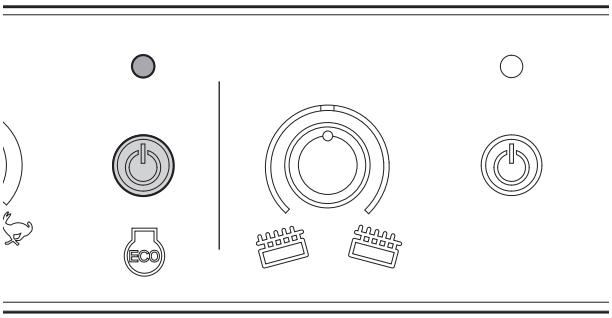


図 2-163

[参考]

Eモードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、Eモードが働き、瞬時にエンジン回転が定格回転（グリーンゾーン）になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調整はできません。

6. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にします。（図 2-164）

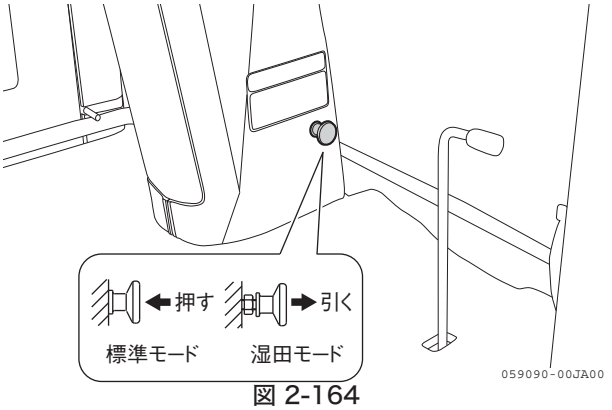


図 2-164

移動走行操作のしかた

1. センサソリ切替レバー（1）を「収納」位置（2）にして、センサソリを収納します。（図 2-165）

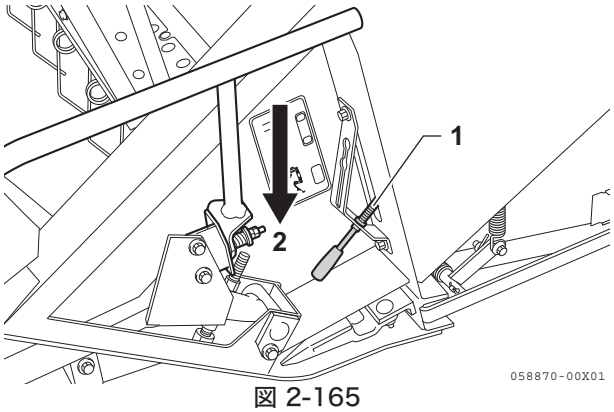


図 2-165

2. 乗降ステップを収納します。（79ページ参照）
3. エンジンを始動します。（100ページ参照）
4. 駐車ブレーキを解除します。（76ページ参照）
5. Eモードスイッチを「切」（Eモードランプ消灯）にし、アクセルダイヤルを「🐇」位置にします。エンジン回転が上がります。（エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置（1）に調節します。）（図 2-166）

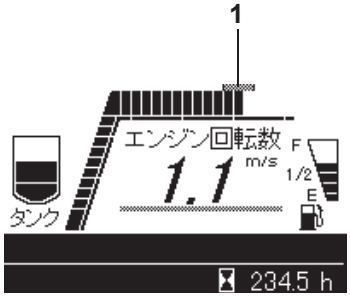


図 2-166

6. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押して、刈取部を地面から20cm程度上げます。（図 2-167）



図 2-167

7. リール昇降・リール速度スイッチ（1）を「下降」側（2）にします。リールが下降します。（図 2-168）

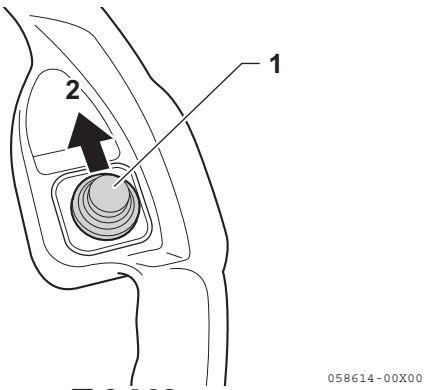


図 2-168

8. オールマイティシフトレバー（1）を「N」（中立）位置にして、副変速レバー（2）を希望の位置にします。（図 2-169）

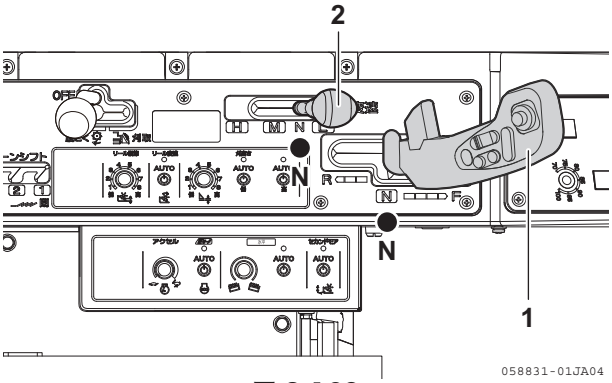


図 2-169

[参考]

このとき、セフティペダルを踏み込む必要はありません。

9. オールマイティシフトレバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げます。(図 2-170)

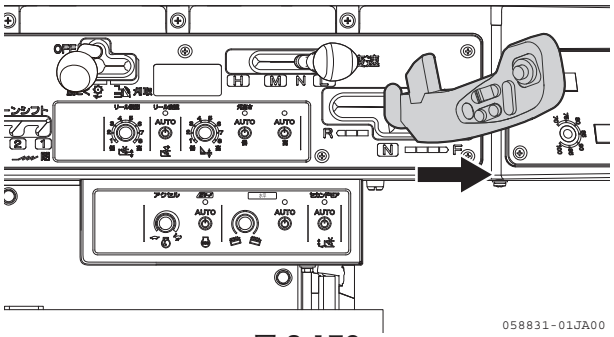


図 2-170

[重要]

- 走行スピードは、オールマイティシフトレバーで調節してください。
- エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。
- 進路変更するときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意して、追い越しの妨害にならないようにしてください。また、移動中に作業灯を点灯すると、他の交通の妨害になりますので、点灯しないでください。

夜間運転のしかた

[重要]

夜間運転時、ヘッドライト、作業灯、エアコンをつけたままで、長時間エンジン低回転域で使用することは、さけてください。バッテリーの早期消耗にいたり、エンジンの始動ができなくなることがあります。

エアコンの使いかた

[重要]

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」(ランプ点灯)にしてください。
- エアコンスイッチ「ON」(ランプ点灯)の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯)にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

暖房・冷房・除湿のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチを希望の風量位置にセットします。(図 2-171)

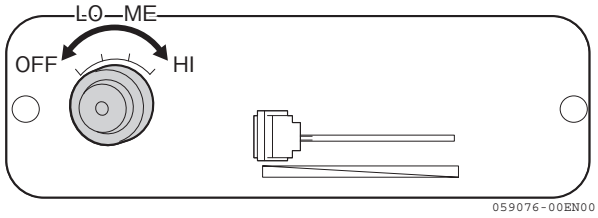


図 2-171

「LO」位置…… 弱風
「ME」位置…… 弱風と強風の中間
「HI」位置…… 強風

3. 温度コントロールレバーで低温から高温まで無段階に温度を調整できます。(図 2-172) と

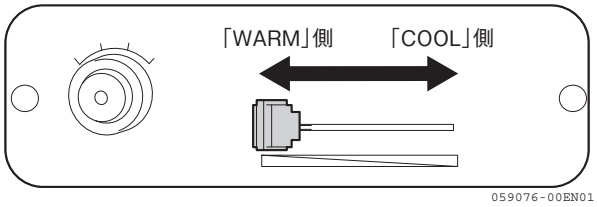


図 2-172

4. エアコンスイッチで「暖房」「冷房」「除湿」の選択をします。(図 2-173)

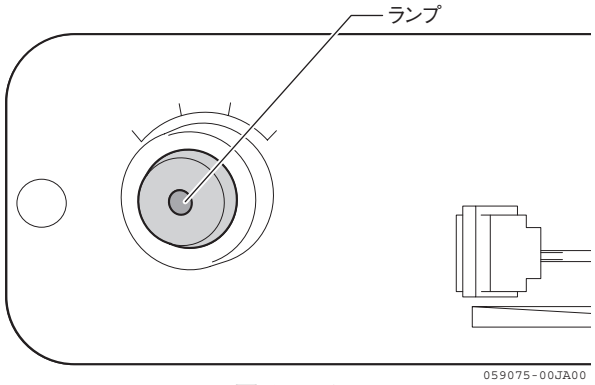


図 2-173

エアコンスイッチを押すことにより、エアコンの運転・停止が切り替わります。
「ON」(ランプ点灯) …エアコン運転
「OFF」(ランプ消灯) …エアコン停止

■ 暖房にするとき

レバーを「WARM」側に動かし、エアコンスイッチを「OFF」(ランプ消灯) にしてください。

■ 冷房にするとき

レバーを「COOL」側に動かし、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてください。

■ 除湿にするとき

レバーを「WARM」と「COOL」の中間位置にし、エアコンスイッチを「ON」(ランプ点灯) にしてください。

温度調節のしかた

キャビン内の温度を高くしたいときは、温度コントロールレバーを「WARM」側に、低くしたいときは「COOL」側に動かしてください。(図 2-174)

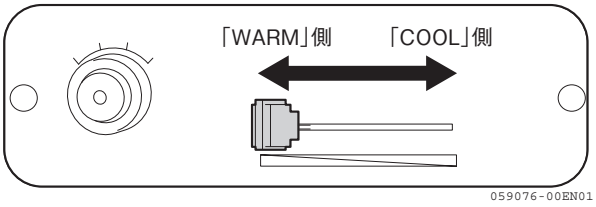


図 2-174

エアコン吹出口の風力調節のしかた

吹出口の風向きグリル (1) を右の方向 (2) に回転すると風量が少なくなり、左の方向 (3) に回転すると風量が多くなります。(図 2-175)

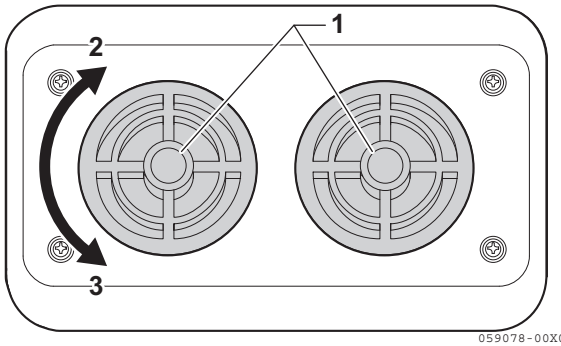


図 2-175

刈取作業前の準備

刈取りできる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の水分

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、選別が悪くなることがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎も乾いてから刈取ってください。
やむを得ず、ぬれている作物を刈取る場合は、作業の状態を見ながらつぎの調節を行ってください。

- 送塵の調節（送塵調節レバー）（77ページ参照）
- クリーンシフトの調節（クリーンシフトレバー）（67ページ参照）

作物が病虫害にかかっている場合

病虫害にかかっている作物は、脱こく処理がしにくい場合がありますので、刈取速度は、副変速レバーを「高速」位置にして作業してください。

作物の刈取り方向

作物の倒伏状態によって、刈取り方向が限定されます。（図 3-1）
向い刈り……倒伏角70°まで
追い刈り……倒伏角85°まで

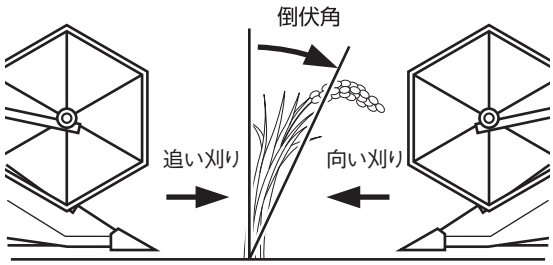
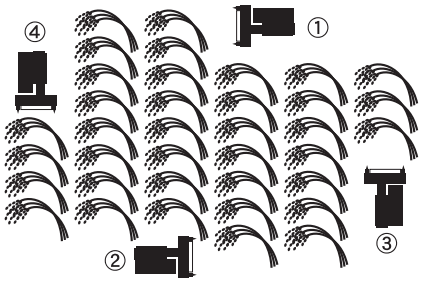


図 3-1

表 3-1 作物の刈取り方向

（副変速「L」）

倒れぐあい 刈る方向は	完全倒伏の場合	中倒伏の場合	やや倒伏の場合
①追い刈り	△	○	◎
②向い刈り	×	△	○
③左倒伏刈り	△	△	○
④右倒伏刈り	×	△	○



◎…刈取りOK
○…注意しながら刈取る
△…注意しながらゆっくりと刈取る
×…刈取困難
※速度は、作物の状態によって決めてください。

刈取り作業ができるほ場の条件について

足の沈み（15cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡は、できるだけ通らないようにしてください。(図 3-2)

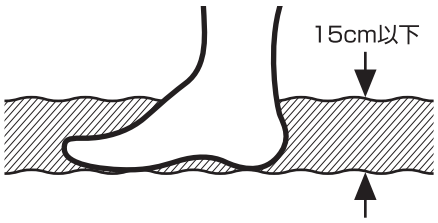


図 3-2

[重要]

沈下量が 15cm 以上の悪条件で作業した場合は、作業終了後ただちに点検・掃除・注油を行ってください。そのまま作業を続けていると、刈刃や下部搬送などに泥が詰まり、刈刃や下部搬送の駆動系が破損したり、耐久性が著しく低下する原因になります。

ほ場の準備と刈取方法について

⚠危険

- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。
- コンバインをワラクズのたまった上などに止めないでください。火災の原因になります。

⚠警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- ワラクズを取り除く場合や、排ワラが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてください。
- 二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。
- わき見、手放し運転はしないでください。

⚠注意

ほ場への出入り、あぜ越え、段差を乗り越えるときは、高低差が大きいと危険です。アユミ板を使用してください。

ほ場の準備

全面刈りで能率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りしてください。（図 3-3）

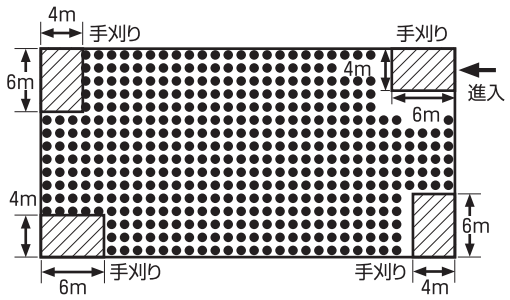


図 3-3

■ 手刈りを少なくするには

コンバインに慣れてきたら、隅を3〜4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。（図 3-4）
また、進入路の傾斜地が緩い場合は、微速で刈取りながら進入できます。

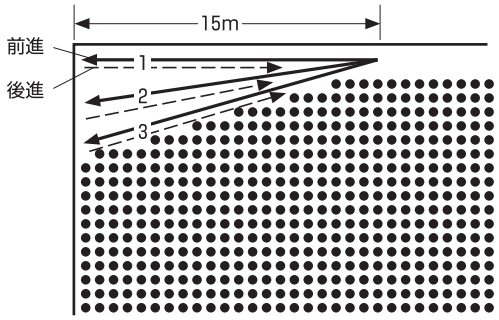


図 3-4

刈取方法

ほ場を痛めずに、作業能率を上げるため4方向刈りを基本とし、つぎの要項で刈取ってください。

1. あぜぎわから、左回りで刈取ります。（図 3-5）

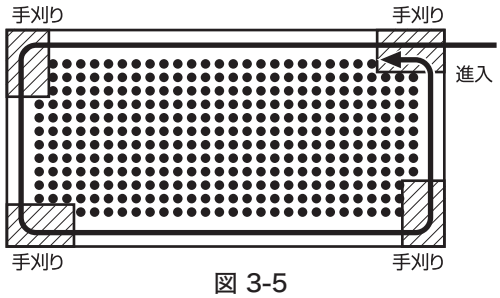


図 3-5

[参考]
手刈した作物は、未刈稈の上に均等にバラまき、刈取ってください。

⚠警告
手刈りした作物を、プラットフォームに投げ込んで処理しないでください。
回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

2. 切り返しを行い、左回りで刈り続けます。（図 3-6）

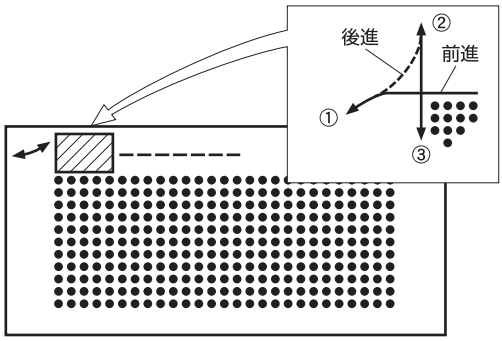


図 3-6

3. ほ場終盤で横刈りする長さがなくなってきたら、２方向刈りでも作業ができます。

[重要]
- **あぜぎわ刈りのときは、デバイダヘッドを突込んだり、サイドデバイダやオプションのセカンドモアをあぜにぶつけないように注意してください。**
- **回行中もエンジン回転を下げないでください。下げると、選別が悪くなったり、詰まることがあります。**

横刈り時の刈取方法

横刈り時は、高速で作業すると刈刃に高負荷がかかるので、つぎの要領で作業してください。

1. 横刈り時は速度を落とします。
2. 高速作業をする場合は、横刈りではなく、斜め刈りをします。(図 3-7)
3. 高刈りをします。

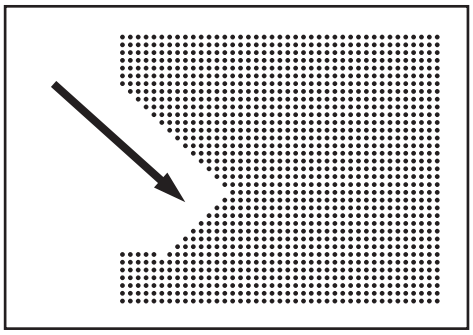


図 3-7

広いほ場の刈取方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などでは、中割り作業をしてください。(図 3-8)

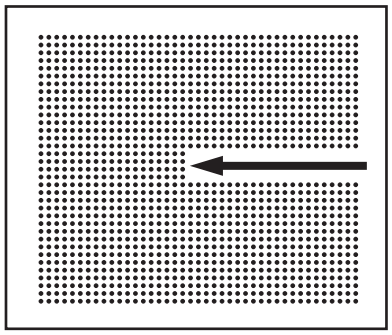


図 3-8

コンバインの準備のしかた

⚠警告

各部の準備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

外したカバー類は、調節後、必ず元通りに取り付けてください。

デバイダヘッドの取り付け

デバイダヘッド（左右）(1) をボルト M8 (2) (2 本) で取り付けます。(図 3-9)

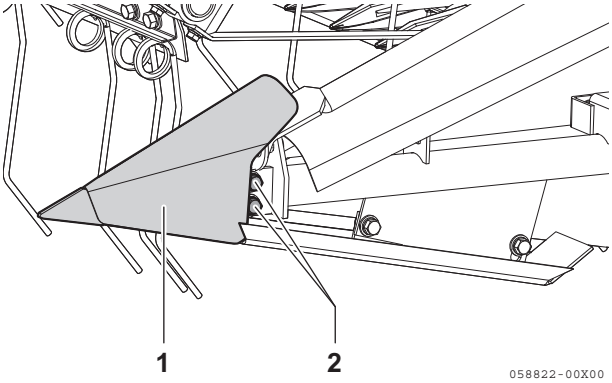


図 3-9

サイドデバイダの準備

サイドデバイダを作業位置にします。(図 3-10)

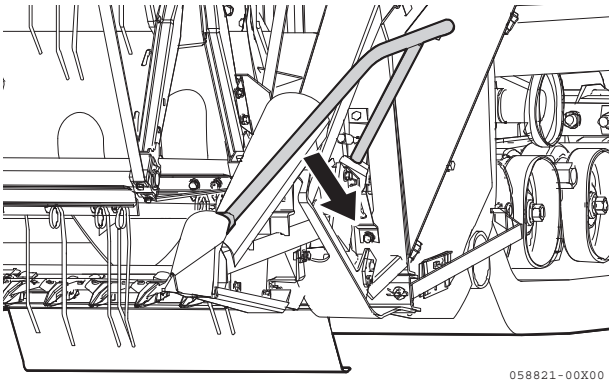


図 3-10

刈刃・チェンへの注油

⚠注意

回転部などに注油するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

作業前は、刈刃や各チェンに「各部の注油のしかた」（175ページ参照）に従って注油してください。

[参考]

- 刈刃やフィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

表 3-2 品名、オプション部品

品　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	NX127

- 低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

クリーンシフトレバーの調節のしかた

ロスをなくし、良い選別を得るために行います。

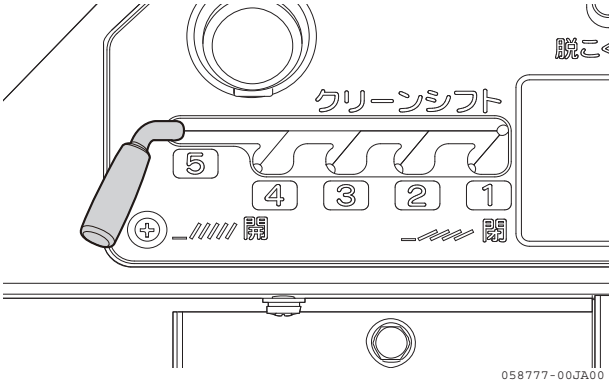


図 3-11 クリーンシフトレバー

表 3-3 クリーンシフトレバーの調節

作業条件	レバーの位置
標準作業	「3」
枝梗が多いとき	「1」・「2」(閉側)
作物が湿材のとき	「4」・「5」(開側)

[重要]

クリーンシフトレバーの調節を誤ると、詰まりやロスの原因になりますので、特に注意してください。

送塵調節レバーの調節のしかた

刈取る作物の種類に応じて、作物別の標準位置にセットし、作業を開始します。

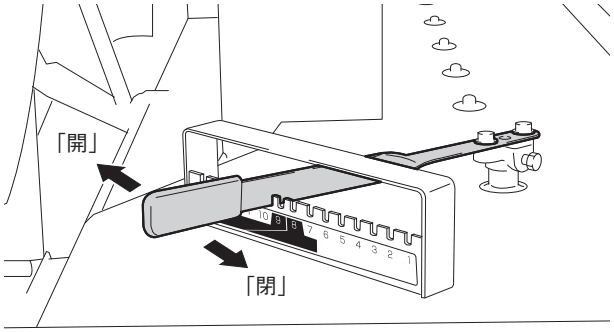


図 3-12 送塵調節レバー

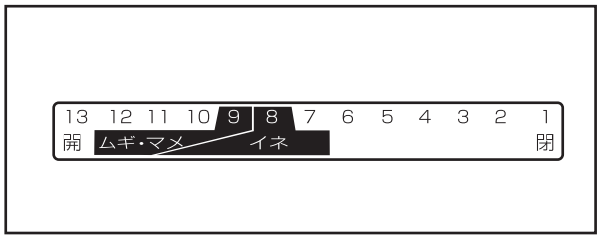


図 3-13 レバー位置の銘板

標準的な作物の調節位置

麦・大豆　・・・・・・・「9」
稲　・・・・・・・・・・「8」
そば・ハト麦など　・・・「10 ～ 13」

作物の条件によりつぎの目安で上手に使用してください。

稲・ロスがでないかぎり ➡「開」
稲：こぎ残し枝梗付きが目立つ ➡「閉」側へ動かす
大豆：ロスがでない限り ➡「開」側へ動かす
そば：水分の多いとき ➡「開」側へ動かす
ハト麦・その他 ➡「開」から順次「閉」側へ動かす

図 3-14 標準的な作物の調節位置

[重要]

- 「閉」側にしすぎると、ロータにワラクズなどがたまりやすくなり、ロータから異音が出る場合があります。また、コーンケーブ、ロータカバー等の（摩耗）消耗が早くなります。
- 送塵調節レバーを「5」以下にするときは、ロータカバー上面のナット（1）M8（3 本）を外し、送塵弁の固定弁を外してください。（図 3-15）

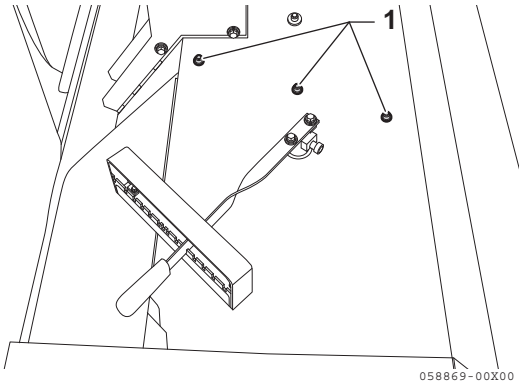


図 3-15

唐箕回転数の調節のしかた

ロスや脱ぷが多く唐箕回転数を下げたい場合、セットボルト（1）をゆるめて可動プーリ（2）を締めます。唐箕回転数が下がります。また、小屑が多く、選別が悪いときは、ゆるめて回転を上げます。（図 3-16）

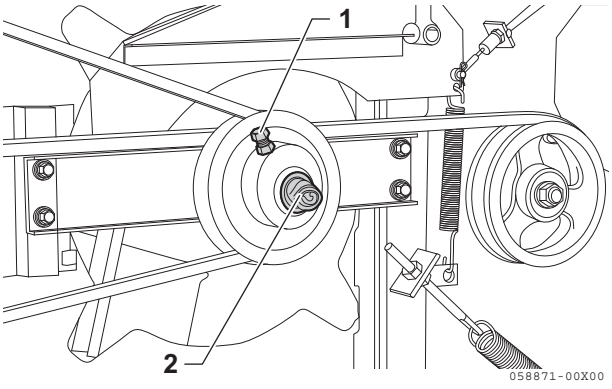


図 3-16

[参考]

- 出荷時は、約1015～1045rpmにセットされています。（図 3-17）

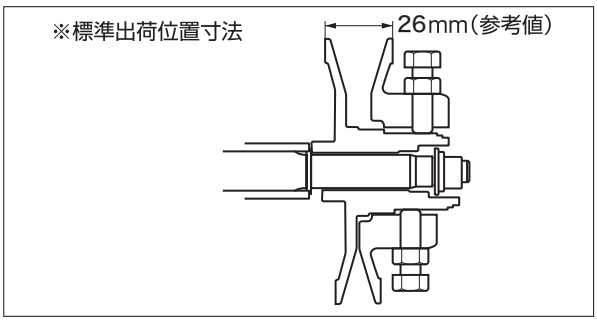


図 3-17

- セットボルトによるプーリの固定は、ネジの無い部分（4ヶ所）で行います。（図 3-18）

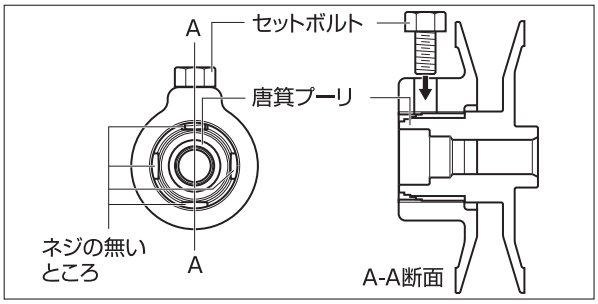


図 3-18

- プーリを 1 回転すると、約 100rpm 変化します。（プーリを1/4回転すると、約25rpm変化します）「チェッカ機能について」（268 ページ参照）のその他メニュー 3 の唐箕回転センサで唐箕の回転数を確認してください。

[重要]

回転を変更したときは、テンションバネを 95±2mm に調節してください。調節をおこたるとベルトがスリップし、コンバインの破損や火災の原因となります。

唐箕のプーリ幅（26mm）は 30mm 以上にしないでください。

2番スロワ羽根の高さ調節のしかた

1. スロワ羽根（1）の取付ボルト（2）の位置を確認します。（図 3-19）

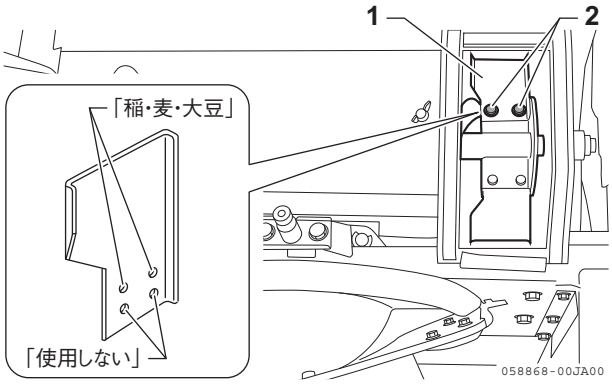


図 3-19

2. スロワ羽根の下側の穴にボルトが取り付けている場合は、取付ボルトを外しスロワ羽根の上側の穴にボルトを取り付けます。

デバイダヘッド高さの調節のしかた

作物の倒伏状態とほ場の状態によって、左右とも同じ高さに調節します。

調節は上下調節ボルト（1）で行います。（図 3-20）

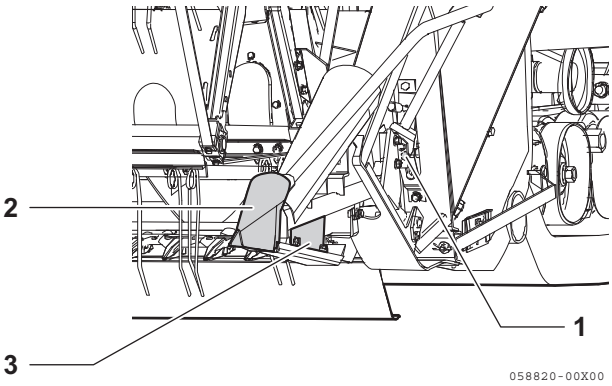


図 3-20

■ 立毛時

雑草が引っかからない程度に、刈株よりやや高めに調節します。

■ 倒伏時

デバイダヘッド（2）が軽く接地する程度に、ソリ（3）は前上がりで接地させ、デバイダヘッドの底が少し前上がりになるように調節します。（図 3-20）

チャフシーブ後の調節のしかた

チャフシーブは、脱こくされたこく粒とワラクズを選別します。作物の種類や脱こく状態に応じて、チャフシーブの角度を調節してください。

1. 脱こく左後カバーを開きます。(図 3-21)

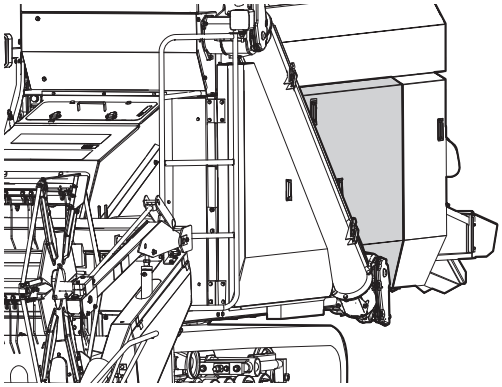


図 3-21

2. ネジ（1）2本を外し、チャフシーブカバー（2）を外します。(図 3-22)

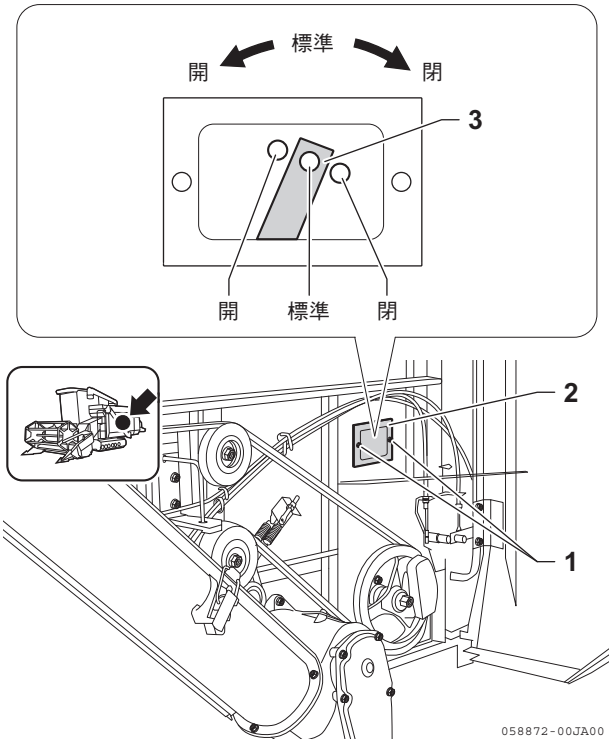


図 3-22

3. チャフシーブ（3）の角度を調節します。(図 3-22)

「開」位置……稲・麦（ロスが多いとき）
「標準」位置……大豆
「閉」位置……2番に詰まりやすいとき

[参考]
出荷時は、「開」位置に調節されています。

4. 調節終了後、カバーを元通りに閉じます。

プラットホームオーガ回転数の調節のしかた

麦の高速作業などで、プラットホームオーガ部に稈（稲）が滞留する場合は、オーガ駆動スプロケット（1）を組み替えて、オーガの回転数を調節します。(図 3-23)

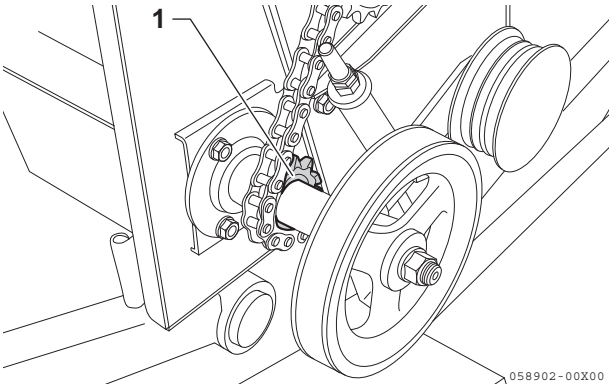


図 3-23

表 3-4 オーガ駆動スプロケット

刈取作物	オーガ駆動スプロケット
稲・麦(標準)	14T
大豆	12T(オプション)

グレンタンクの準備

1. 排出オーガ（1）をオーガレスト（2）に、確実に収納します。（図 3-24）（75ページ参照）

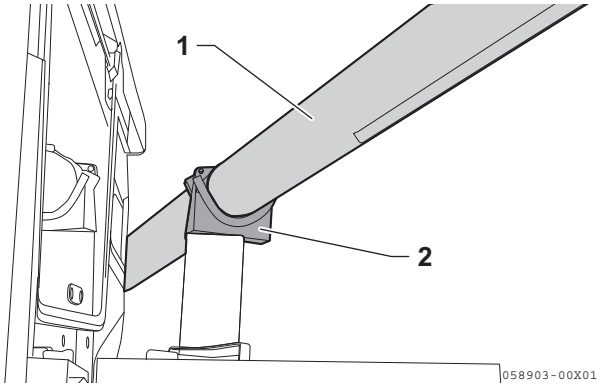


図 3-24

[重要]

排出オーガがオーガレストから浮き上がった状態での作業は、絶対にしないでください。排出オーガ取付部が破損するおそれがあります。

2. 排出オーガクラッチスイッチ（1）が「切」（ランプ（赤）消灯）（2）になっているか確認します。（図 3-25）

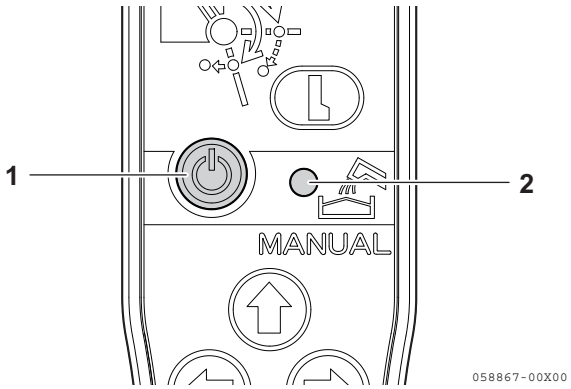


図 3-25

ほ場への出入りのしかた

⚠警告

急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ずつぎの方法に従ってください

- 副変速レバーを「L」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にします。
- E モードスイッチを「切」（E モードランプ消灯）にします。
- あぜに対して直角に出入りします。
- 20cm 以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用します。

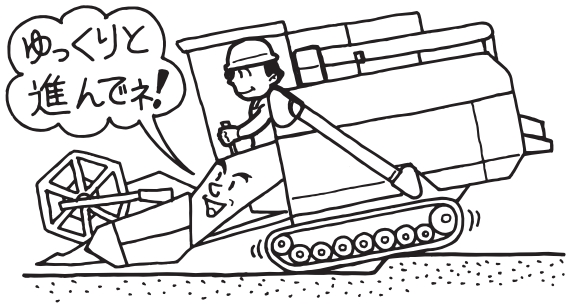


図 3-26 ほ場への出入りのしかた

■ 急な坂道の場合

副変速レバー「L」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にして、ゆっくり登り降りしてください。

表 3-5 進行方向

進行方向	登　り	後　進
	降　り	前　進

デュアルモニターについて

デュアルモニターは、キースイッチを「ON」位置にすると、コンバイン後方、および排出オーガ先端の状況を常時映し出すことができます。(図 3-27)
エンジン始動時や狭い納屋での格納時、ほ場の四隅や枕地での切り返しなどに、コンバイン後方の状況の確認ができます。また、籾排出時の状況の確認もできます。

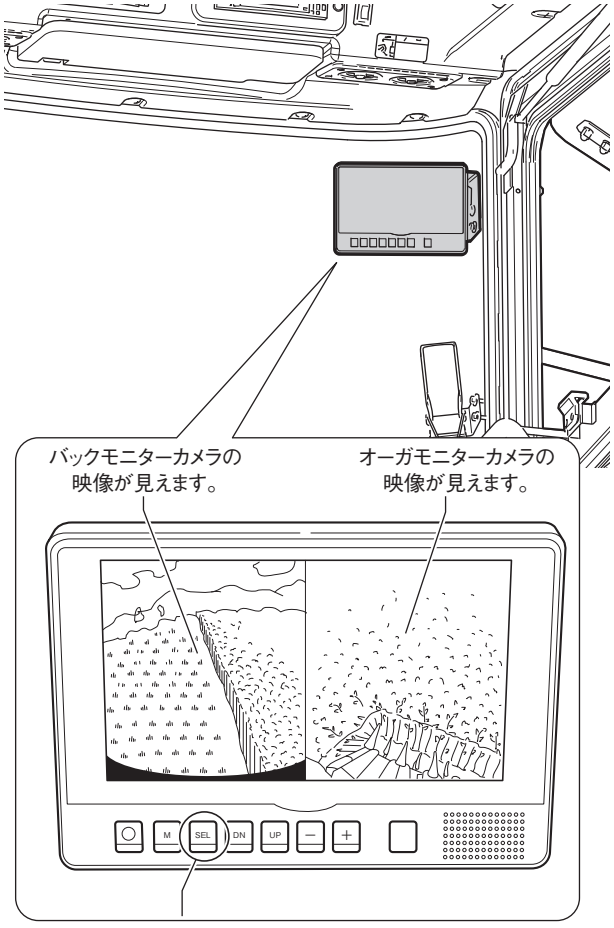


図 3-27

[重要]

- バックモニターカメラ（コンバイン後方）(1)、およびオーガモニターカメラ（排出オーガ）(2) のフードの汚れを確認し、汚れているときは、きれいにしてください。(図 3-28)

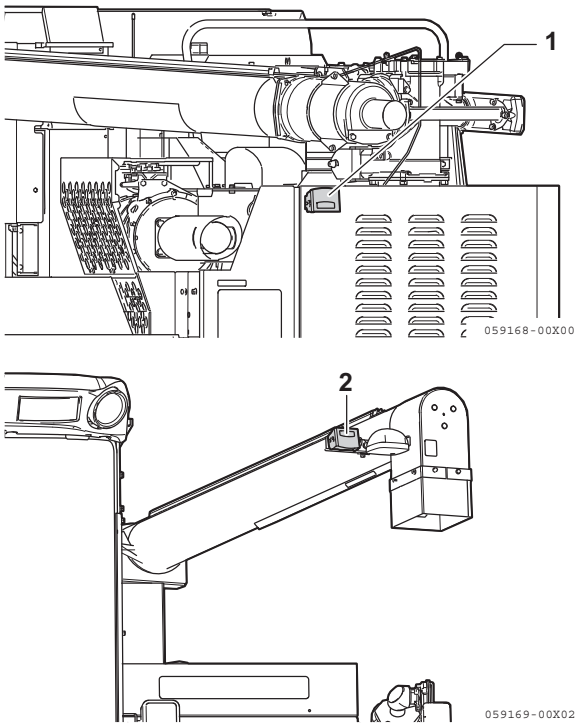


図 3-28

- バックモニターカメラの映像は目安ですので、コンバイン後方の全てが見えるわけではありません。見えない範囲があります。(図 3-29)

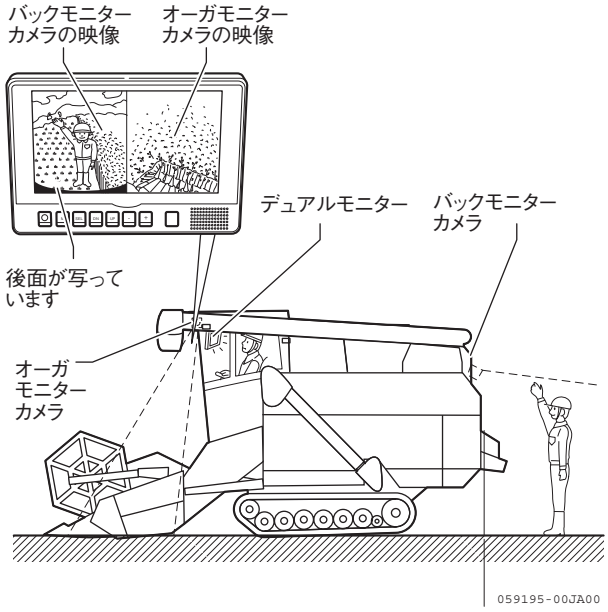


図 3-29

バックモニターカメラ･オーガモニターカメラの位置がずれたとき

1. バックモニターカメラ（1）、およびオーガモニターカメラ（2）左右の固定ボルト（3, 4）をゆるめ、カメラ位置を上下に調節します。（図 3-30）

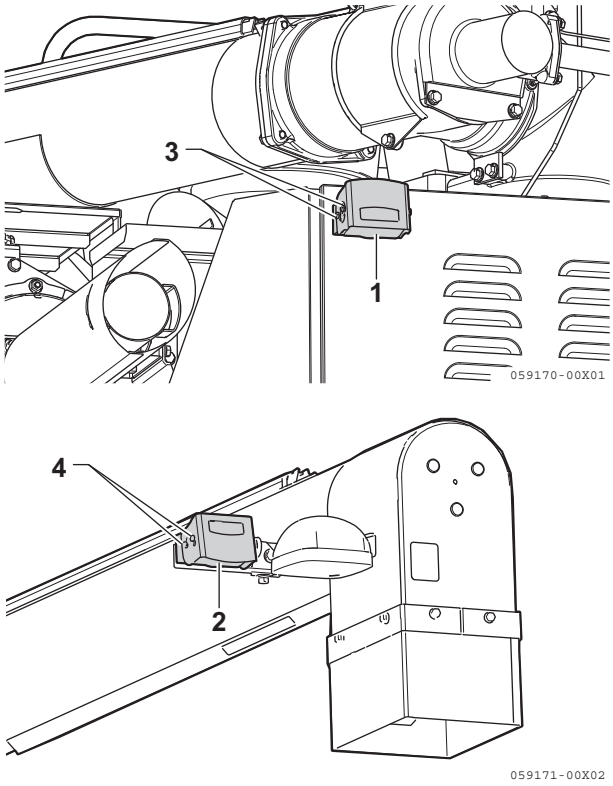


図 3-30

[重要]
バックモニターカメラの映像の下側に、後面カバーが少し写る位置を目安に調節してください。

2. 調節後は、ボルトを締め付けて固定します。

作業について

刈取操作のしかた

⚠危険

刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。

⚠警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- ワラクズを取り除く場合や、排ワラが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてください。
- 二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。
- 刈取部の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。万一、刈取部が下がったときに傷害事故を負うおそれがあります。
- わき見、手放し運転はしないでください。

作業の手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。（76ページ参照）
2. キースイッチにキーを差し込んで、「ON」位置にします。（図 3-31）

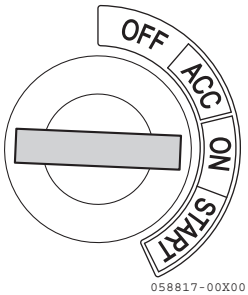


図 3-31

3. Eモードスイッチ（1）を「入」（Eモードランプ点灯）（2）にします。（図 3-32）

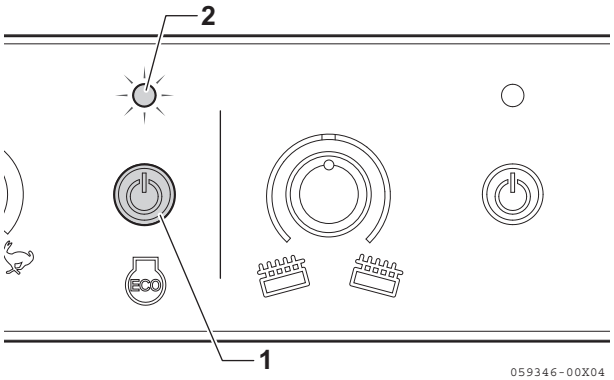


図 3-32

4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」位置に回します。（図 3-33）

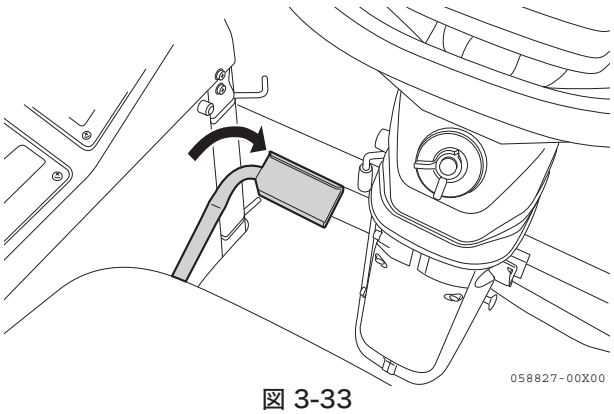


図 3-33

5. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押します。刈取部が下がります。（図 3-34）

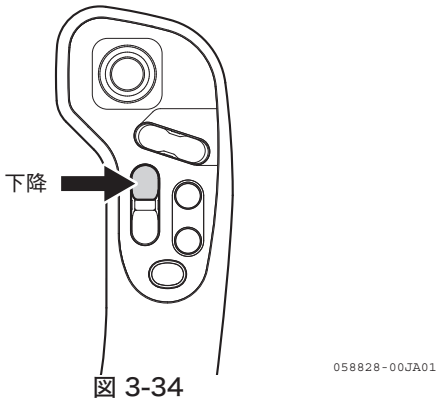


図 3-34

[参考]

刈取昇降スイッチの下側を押して刈取部を低くし、刈り残しのない刈り高さにセットします。

6. 副変速レバーを作物条件に合わせて、「L」「M」位置のどちらかに入れます。（図 3-35）

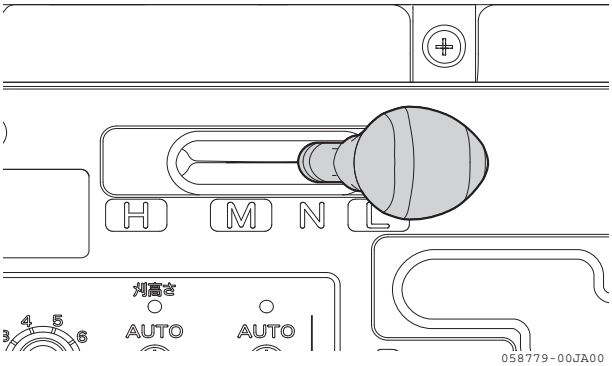


図 3-35

表 3-6 作業速度の選びかた

副変速レバー位置	使　用　条　件
L	●全倒伏 ●半倒伏 ●周囲刈りで低速作業をする場合
M	●直立

7. 作業クラッチレバー（1）を「脱こく」（2）→「刈取」（3）位置にします。（図 3-36）

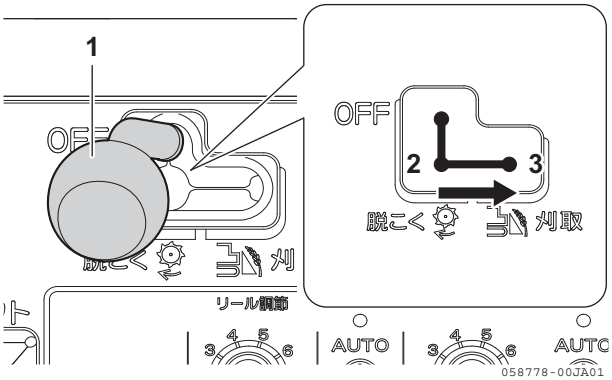
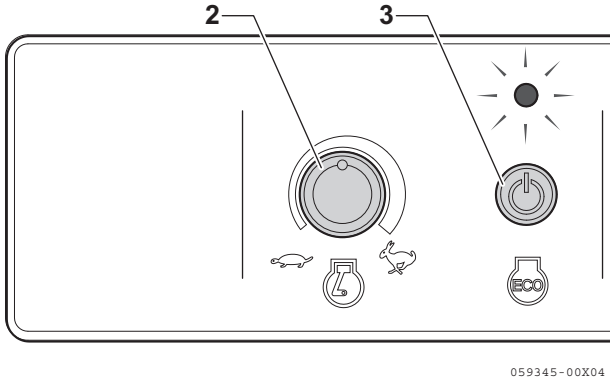


図 3-36

8. 作業中のエンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」位置（1）を指すように、アクセルダイヤル（2）で調節します。または、E モードスイッチ（3）を「入」にします。（図 3-37）（63ページ参照）



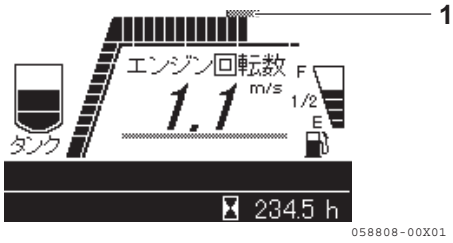


図 3-37

アクセルダイヤルを「🐇」に回す
…エンジンの回転が上がります。
アクセルダイヤルを「🐢」に回す
…エンジンの回転が下がります。

[重要]
エンジン回転がアイドリング状態では、刈取作業を行わないでください。詰まりの原因になります。

[参考]
- E モード「入」（Eモードランプ点灯）でエンジン回転が定格回転のときに、作業クラッチレバーを「脱こく」にすると伝達ベルトを保護するため、いったんエンジン回転を低下させてからクラッチが入るようにしています。
- E モードスイッチ「切」の状態で作業クラッチを「脱こく」にするときは、ベルトを保護するため、アイドリング状態で行い、その後アクセルダイヤルで定格回転にして、作業を行ってください。

9. リール昇降・リール速度スイッチ（1）で、稈が刈刃（2）で切断されるときに、タインバー（3）が穂首に当たり、作物を捕らえる位置へ、リールをセットします。（図 3-38）

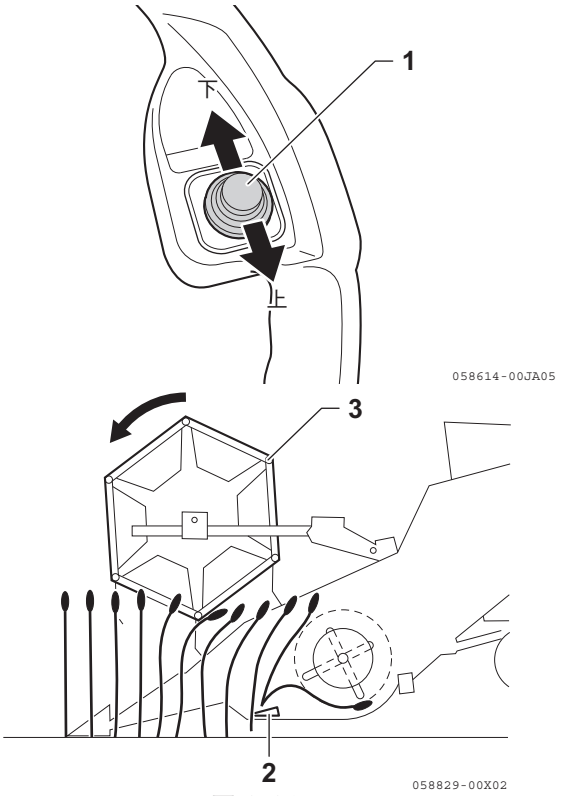


図 3-38

[重要]
向い刈り時は、リールが穂先を押しつけないようにしてください。押しつけすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

10. オールマイティシフトレバー（1）またはマルチハンドル（2）でリール速度を調節します。（図 3-39）

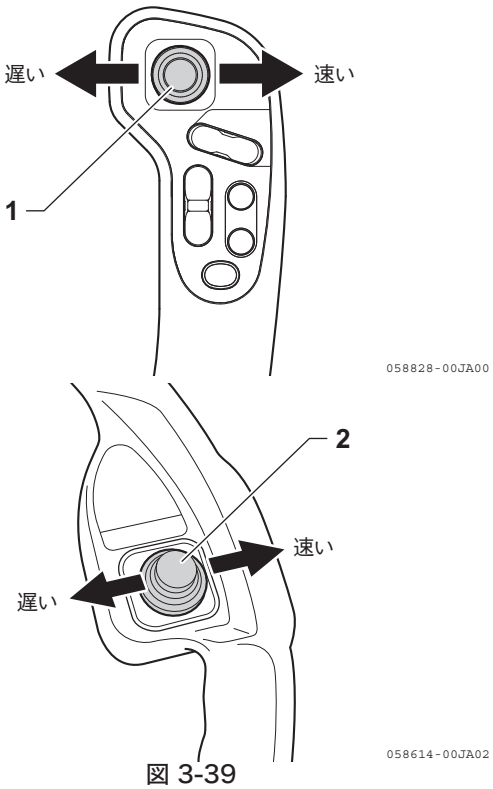


図 3-39

[参考]

- 稲作業のリール速度は、コンバインの走行速度よりもわずかに速くなるように調節してください。（走行速度の1.2〜1.5倍）
- 麦で、取り込み稈長が80cm以上の場合は、リール速度を走行速度よりわずかに遅くなるように調節してください。（図 3-40）

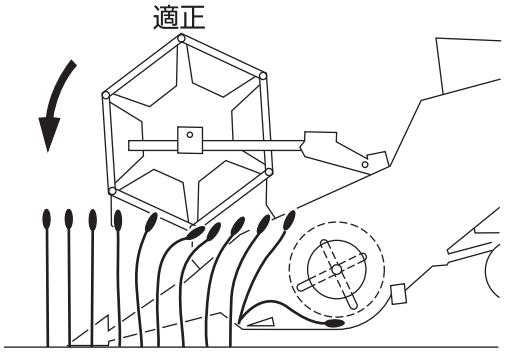


図 3-40

- 刈取部が作動していないときは、リール前後・リール速度スイッチを操作しても、速度は変わりません。

[重要]

リール速度が速すぎると、リールの衝撃で、こく粒損失が発生します。

11. オールマイティシフトレバーのリール前後・リール速度スイッチで、リールの位置を最も後ろにします。（図 3-41）

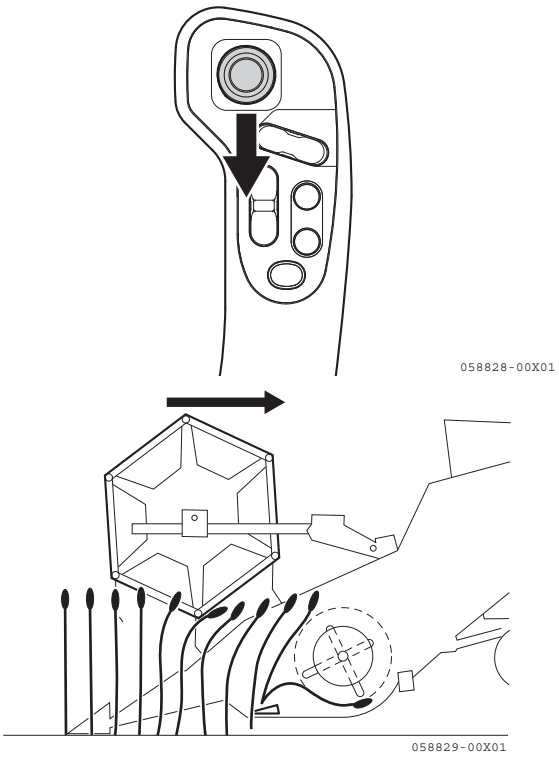
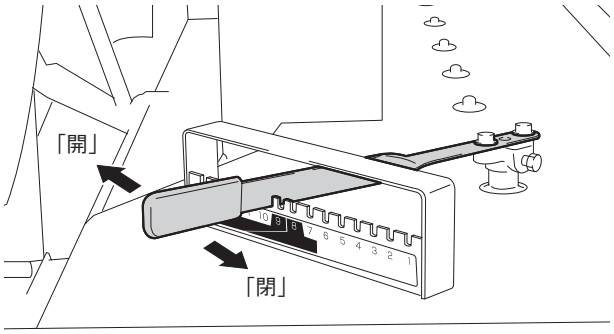


図 3-41

[重要]

リールの位置が前すぎると、こく粒損失が増加します。また、取り込み不良が発生し、プラットホームオーガによるフィーダハウスへの送り込みが断続的になり、過負荷の原因になります。

12. 送塵調節レバーで刈取るそれぞれの作物に応じた位置にセットします。(図 3-42)



標準的な作物の調節位置	
麦・大豆	「9」
稲	「8」
そば・ハト麦など	「10 ～ 13」

図 3-42

13. クリーンシフトレバー（1）を「3・標準」位置（2）にセットします。(図 3-43)

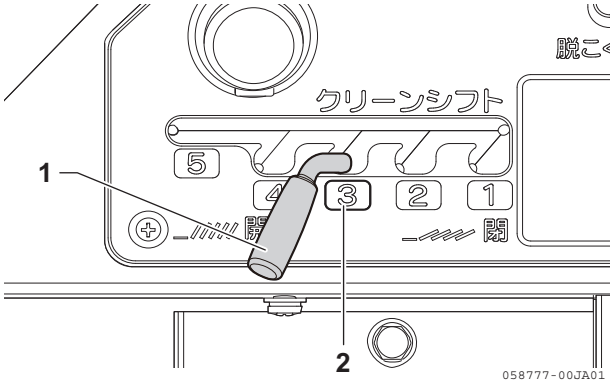


図 3-43

14. オールマイティシフトレバーを前進位置にゆっくり動かして、ゆっくり刈り始めます。(図 3-44)

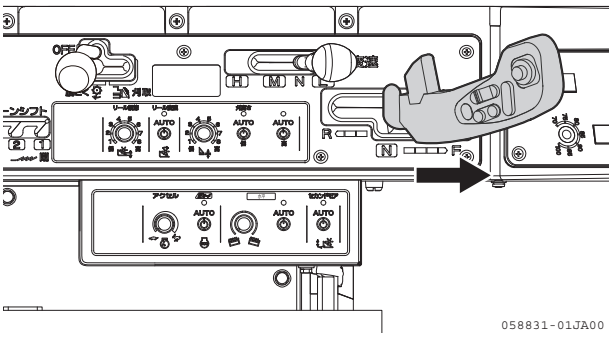


図 3-44

15. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで作業速度を調節します。

16. 刈り終ったら、つぎの操作をします。

1) オールマイティシフトレバー (1) を「N」(中立）位置にします。(図 3-45)

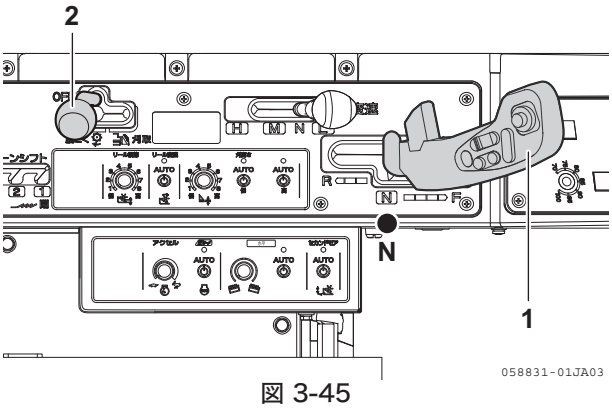


図 3-45

2) 駐車ブレーキをかけます。
(76ページ参照)

3) 作業クラッチレバー（2）を「脱こく」位置にします。(図 3-45)

4) ロータでの作物の処理が終わってから、作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。

5) エンジンを停止します。(102ページ参照)

作業中の方向転換

刈取っている条が終り、コンバインを方向転換する場合は、オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、刈取部が刈株や排ワラを引っかけない程度（10〜15cm）に上げてください。（図 3-46）

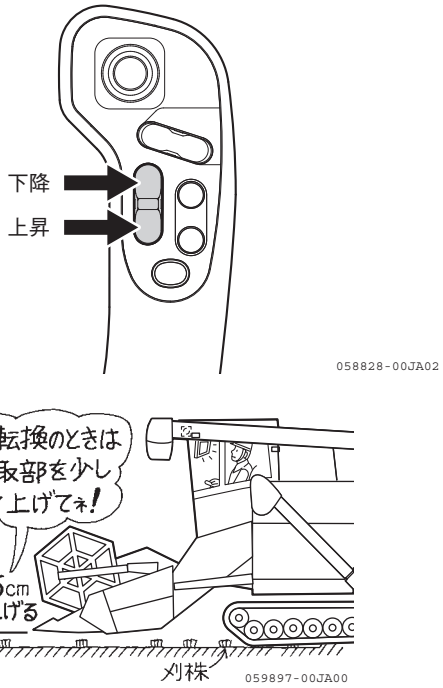


図 3-46

[重要]

- 刈取りが終了しても旋回中は、作業クラッチレバーを「OFF」にして、エンジン回転を下げないでください。脱こく部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。（133ページ参照）
- セカンドモア（オプション）装着時は、刈取部（刈刃高さ）を地面より 50cm 以上、上げてください。上げ高さが不足していると、セカンドモアが収納位置に上昇せず、コンバインが破損する原因になります。
- 刈取作業の最終工程などで、刈幅に満たない条数を、セカンドモア（オプション）を使用して刈取ると、セカンドモアの刈取りを行っていない部分が排ワラを押し、セカンドモアが変形するおそれがあります。
  このようなときには、刈取水平制御装置を切って、手動操作で刈取りを行っていない側を上方に傾け、セカンドモアで排ワラを押さないようにして作業を行ってください。

作業速度の選びかた

作物の状態などや使用条件に合わせて、副変速レバーとオールマイティシフトレバーを調節し、最適な状態で作業してください。

湿田ほ場の刈取りかた

コンバインが後傾する場合は、デバイダヘッドを下げて使用してください。（119ページ参照）

[重要]

- 超湿田作業で旋回しにくいときは、マルチハンドルを切りすぎていることが考えられますので、ハンドルの切る角度を小さくして、旋回半径を大きくとってください。
- スピンターン状態になると、思うように旋回できません。
- 湿田作業でコンバインの沈下が著しく、旋回しにくいときは、旋回モード切替ノブを「湿田モード」に切り替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。

リールヘッダの取り扱いポイント

コンバインでは通常（立毛時）、穂先から60～70cmの位置に刈り高さを合わせると、ロスなく取り込むことができます。

[重要]

- 70cmより長い位置で取り込んだ場合、所要動力が増加して能率が低くなったり、ロータ内で塵が多く発生して揺動部がいっぱいになり、こく粒損失の増加や、選別が悪くなることがあります。
- 60cmより短い位置で取り込んだ場合、ロータの揉み作用が損なわれ、こく粒損失が増加する場合があります。このとき、送塵調節レバーを「閉」側にすると、損失は減少します。

<table>
<tr><th>作物の状態

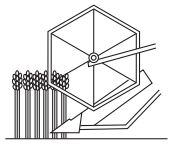
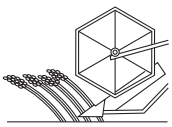
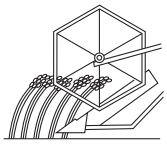
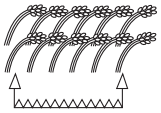
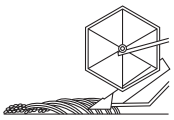
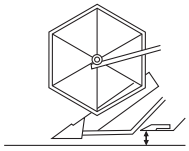
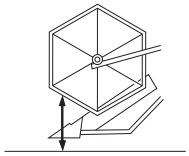
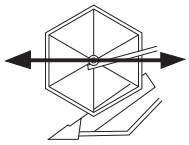
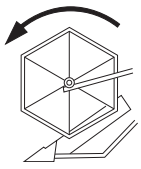
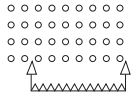
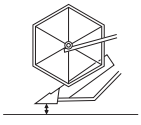
刈取部</th><th>立毛時</th><th>追刈時</th><th>向刈時</th><th>横刈時</th><th>完全倒伏</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>刈高さ
</td><td>希望する高さに合わせて作業を始めてください。
（穂先から60～70cmが適当です。）</td><td>土に突っ込まない高さに、作業しながら調整してください。</td><td colspan="3">穂を切り落とさない範囲で、できるだけ高く調整してください。</td></tr>
<tr><td>リール高さ
</td><td>タインバーが穂首のやや下を通るように調整してください。</td><td>いっぱいまで下げてください。</td><td>タインが作物の穂先を櫛ですくうように調整してください。
（ハンドルを左右に細かく動かすと効果的です。）</td><td colspan="2">いっぱいまで下げてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール前後位置
</td><td>リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールが作物を拾い残さず、土に突っ込まない高さになるまで前方に出してください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※リールを前方に出しすぎると、稈こぼれやオーガ部でムラ搬送の原因になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール速度
</td><td>タインバーが作物に分け入るとき、作物が揺れ動かないように調整してください。
（リール速度は作業速度の2～5割増にしてください。）</td><td>走行速度より、かなり速くしてください。
（作業速度を遅くしてください。）</td><td>作業速度と同じか、やや速めにしてください。</td><td colspan="2">作業速度よりやや速めにしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは、タイン1本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか、リールを速く回転させてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ位置
</td><td>既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。</td><td>未刈部の作物をデバイダで押し倒さないように株の間を通してください。</td><td colspan="3">既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ高さ
</td><td>雑草が引っかからない程度（刈株よりやや高め）に調整してください。</td><td colspan="4">先端が土に軽く触れる程度に調整してください。
低すぎると株抜けします。</td></tr>
</table>

図 3-47 リールヘッダの取り扱いポイント

作物や作業条件に合わせた各部の調節

実際に作業を行っていて、つぎのような現象がでた場合は、説明に従って各部を調節してください。

倒伏した作物やロータ内で常時ゴトゴト音がする場合

送塵調節レバーを「開」側に、1ノッチずつ動かします。(図 3-48)

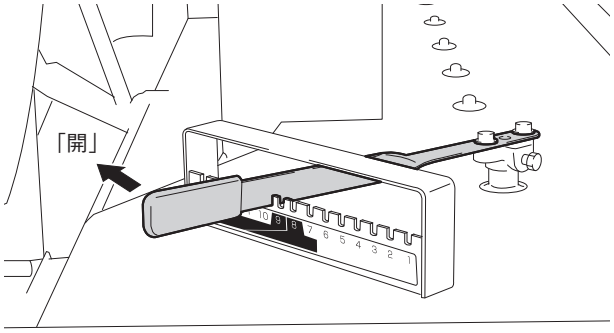


図 3-48

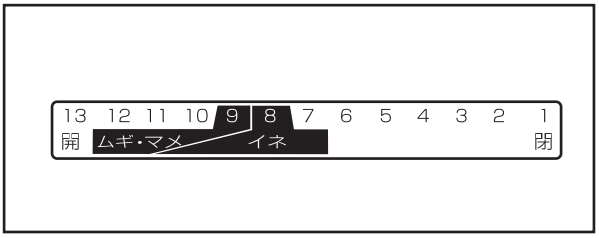


図 3-49 レバー位置の銘板

ロスが少ない場合は開側に1ノッチずつ動かします。

籾に枝梗付きが多い場合

- クリーンシフトレバーを「1」・「2」位置（閉側）にします。(図 3-50)

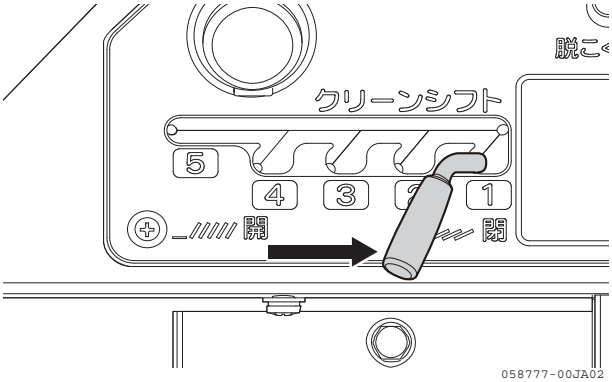


図 3-50

- 送塵調節レバーを「閉」側に、1 ノッチずつ動かします。(図 3-51)

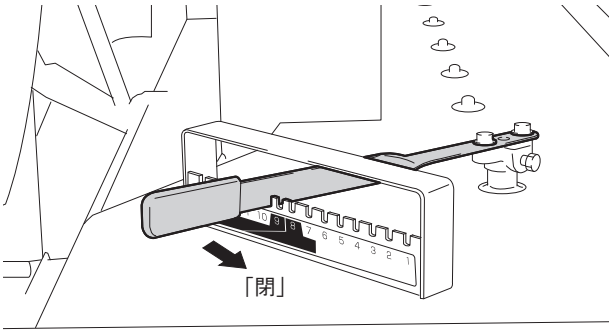


図 3-51

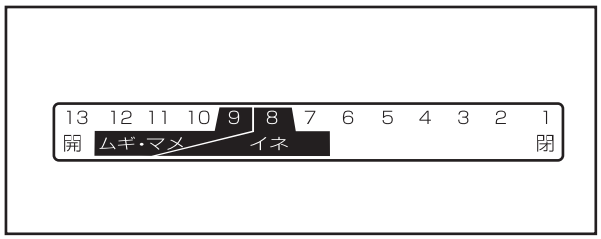


図 3-52 レバー位置の銘板

作物が湿材の場合

クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にします。（図 3-53）

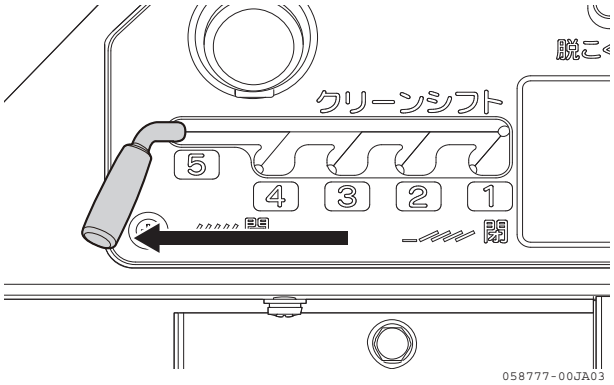


図 3-53

3番ロスが多い場合

クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にします。（図 3-54）

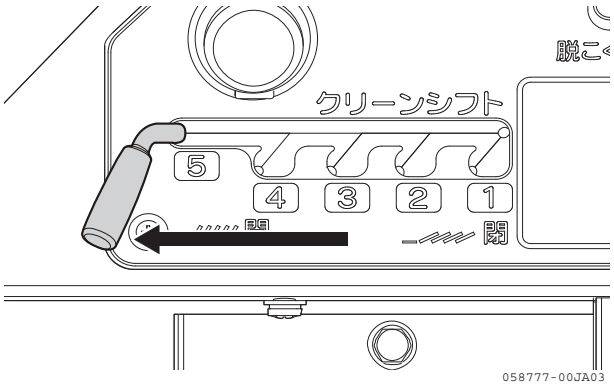


図 3-54

乾材などで、3番ロスが目立って多いときは、唐箕回転を調節してください。（118ページ参照）

[重要]

唐箕プーリのセットボルトをゆるめて調整してください。

選別が悪い場合

クリーンシフトレバーを「1」・「2」位置（閉側）にします。（図 3-55）

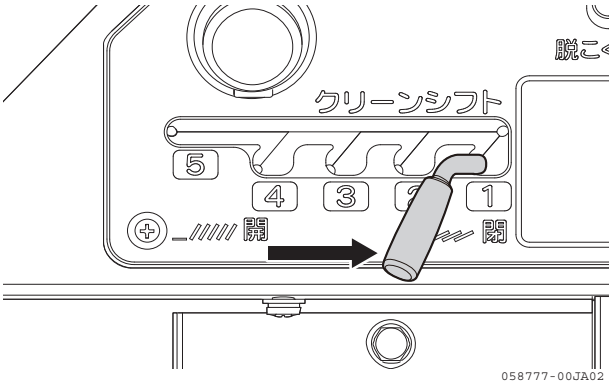


図 3-55

[参考]

クリーンシフトレバーを調節しても選別が悪い場合は、唐箕の回転を調節してください。（118ページ参照）

飛散・脱ぷなどが多い場合

クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にします。（図 3-56）

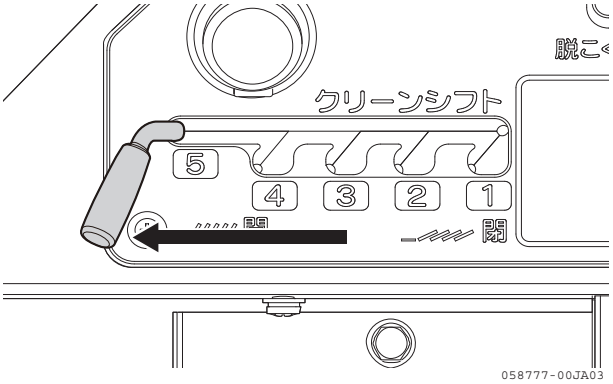


図 3-56

唐箕の回転を下げてください。目安は、50～100回転でプーリを半回転～ 1 回転締め込んでください。（118ページ参照）

警報装置が作動したときの処置

⚠警告

- 詰まりなどを除去する場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- コンベア部・チェン部に手を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

運転中の各部の状態に異常があった場合は、異常箇所をセンターディスプレイ（1）とブザーで知らせます。また画面上部の警報表示ランプ（2）が点灯します。「不調診断のしかた」（242 ページ参照）に従って確認し、処置をしてください。（図 3-57）

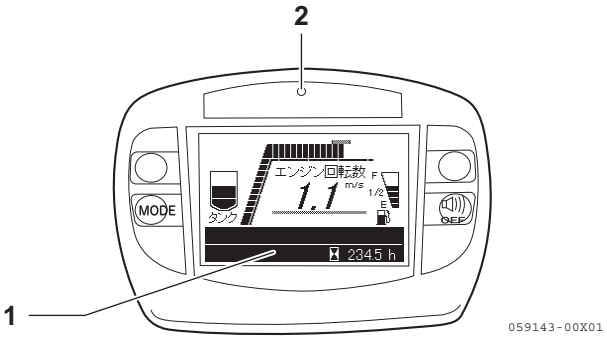


図 3-57

自動装置について

自動装置について説明します。自動装置を使って、能率の良い作業を行ってください。

自動定回転制御装置

⚠注意

- 移動走行時・あぜ越え・刈取部の脱着・トラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、E モードスイッチを「切」（E モードランプ消灯）にしてください。車速が急に変化することがあり危険です。

■ 操作のしかた

1. エンジンを始動します。
2. Eモードスイッチ（1）を「入」（Eモードランプ点灯）（2）にします。（図 3-58）

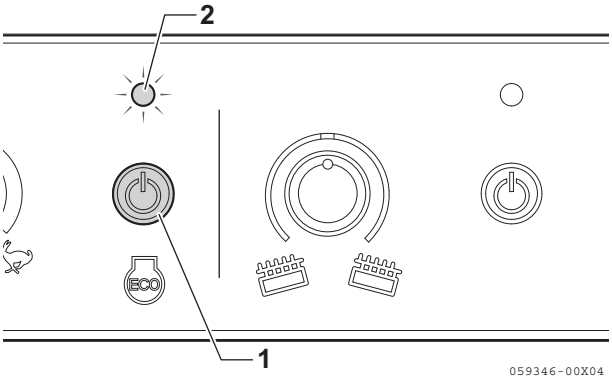


図 3-58

3. 作業クラッチレバー（1）を「脱こく」位置（2）にします。エンジン回転が、自動的に定格回転になります。（図 3-59）

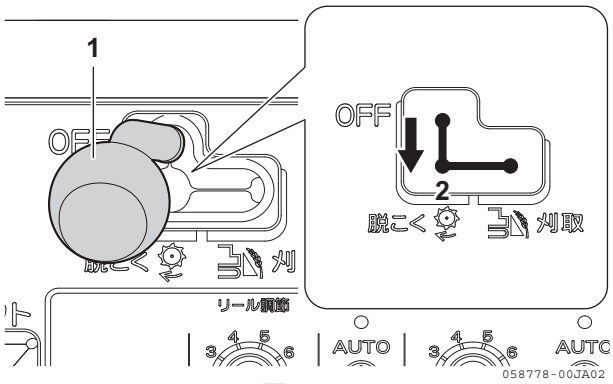


図 3-59

つぎの状態でも、Eモードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）位置のときは、自動定回転制御は作動します。

- 作業クラッチレバーが「OFF」位置のときに、前進または後進した場合。
- オーガ自動旋回装置のオートセット・オートリターンの作動中。
- 排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押して、排出オーガクラッチが入るとき。
  （排出オーガクラッチは、オーガレスト位置では入りません。）

[参考]

- E モードスイッチが「入」（E モードランプ点灯）位置のときは、作業クラッチレバーが「OFF」位置の場合でも、コンバインが停止してから 5 秒間は定格回転のままです。5 秒後に、自動的にアイドリング状態（低回転）に戻ります。
- 自動定回転装置は、自動的にエンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置（定格回転：2,500rpm）に保つ制御装置です。

刈取オートリフト･オートセット装置

⚠注意

作業クラッチレバーが「刈取」位置のときは、コンバインが停止していても、オートリフトボタンを押すと、刈取部が上昇します。また、オートセットボタンを押すと、刈取部が下降します。
周囲の安全を確認してから、オートリフトボタンおよびオートセットボタンを押してください。

[参考]

- 刈取オートリフト装置とは、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部を設定高さまで上昇させ、リール高さを最下げ位置まで下降させる装置です。
- 刈取オートセット装置とは、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部を刈高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降させ、リール高さをリール高さ調節ダイヤルの位置まで上昇させる装置です。
- 刈取オートリフト・刈取オートセットで刈取部が昇降中に、刈高さ調節レバーを操作すると、手動操作が優先します。再度刈取オートリフト・刈取オートセットを行う場合は、オートリフトボタン・オートセットボタンのいずれかを押してください。（自動復帰なし）

■ 操作のしかた

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。（図 3-60）

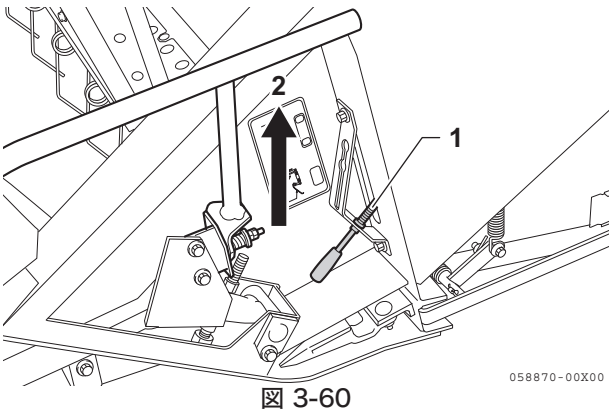


図 3-60

2. エンジンを始動します。(100ページ参照)
3. 作業クラッチレバー (1) を「刈取」位置 (2) にします。(図 3-61)

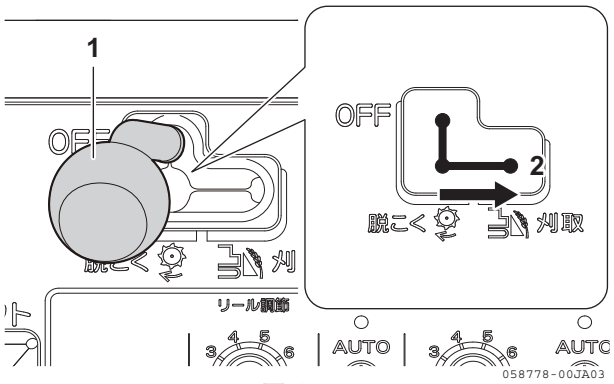


図 3-61

4. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定します。(図 3-62)

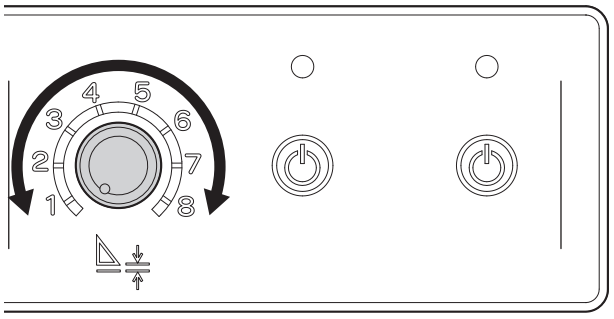


図 3-62

5. オートリフトボタンを押します。
   刈取部がオートリフト高さまで上昇します。
   リールが最下げ位置まで下降します。(図 3-63)



図 3-63

6. オートセットボタンを押します。
   刈取部が刈高さ調節ダイヤルの位置まで下降します。(図 3-64)
   リールがリール高さ調節ダイヤルの位置まで上昇します。



図 3-64

[参考]

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」または「高」(ランプ点灯) のときに、刈高さ調節ダイヤルで設定したオートセット高さが、図 3-65のように異なります。
  ただし、「低」の場合、センサソリの接触する地面や、切株の状態により刈高さが異なる場合があります。

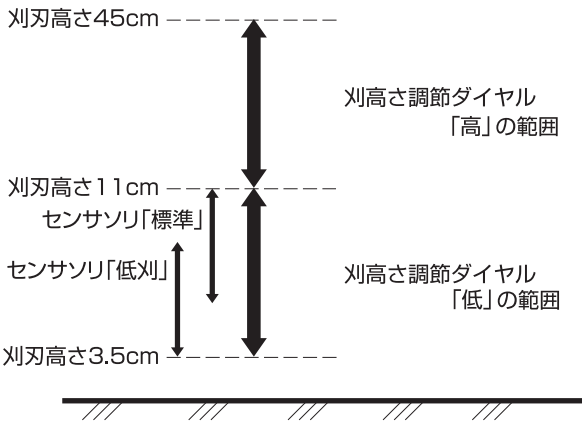


図 3-65

- 刈高さ自動切替スイッチが「OFF」(刈高さ自動切替スイッチの「低」および「高」ランプ消灯) のときは、「高」位置の刈高さ調節ダイヤル位置の高さまで下降します。

■ オートセット高さの設定のしかた

オートセットで、下降する刈取部の高さを設定することができます。

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。(図 3-66)

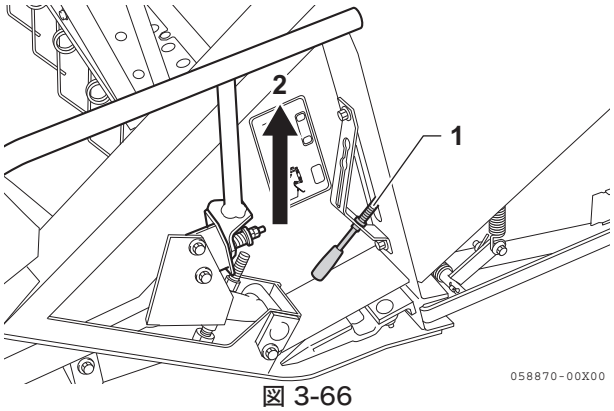


図 3-66

2. エンジンを始動します。(100ページ参照)
3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。(図 3-67)

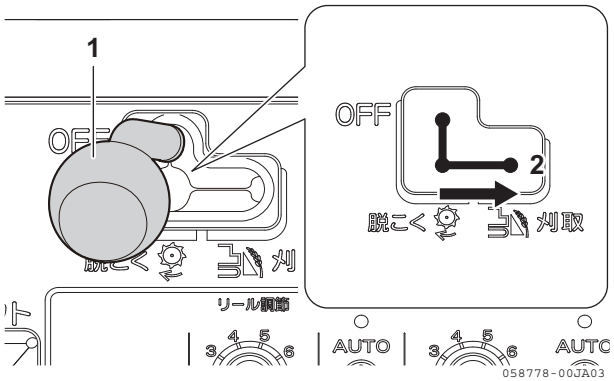


図 3-67

4. 刈高さ自動切替スイッチを「低」(1) または「高」位置（2）（ランプ点灯）にします。(図 3-68)

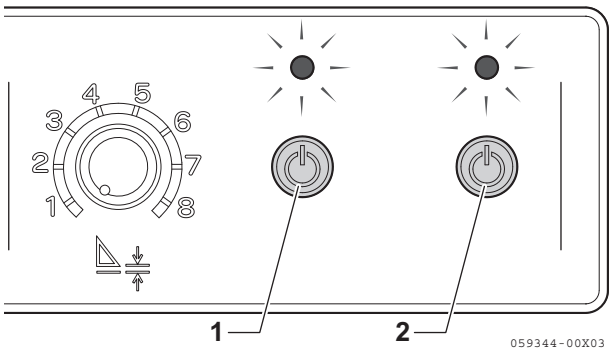


図 3-68

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定します。(図 3-69)

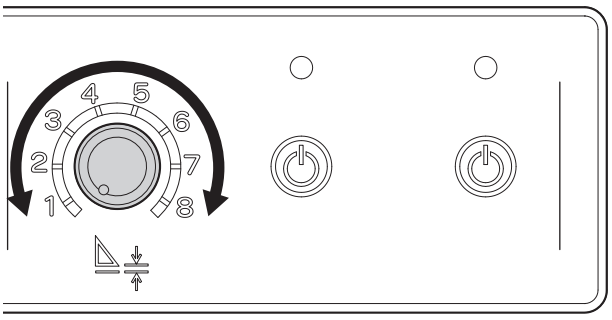


図 3-69

■ オートリフト高さの設定のしかた

オートリフトボタンで、上昇する刈取部の高さを設定することができます。(設定した刈高さは、キースイッチを「OFF」位置にしても記憶されています。)

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。(図 3-70)

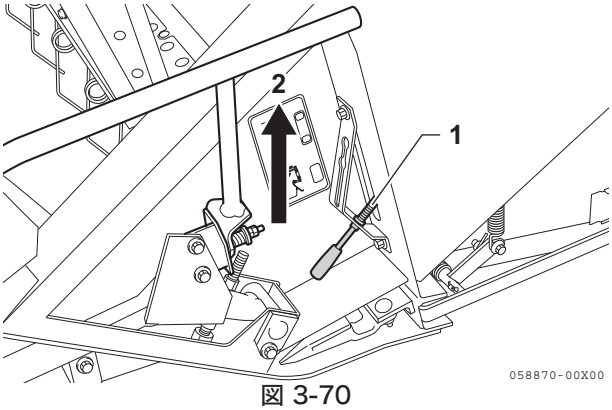


図 3-70

2. エンジンを始動します。(100ページ参照)
3. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、設定したい高さまで刈取部を昇降させます。(図 3-71)

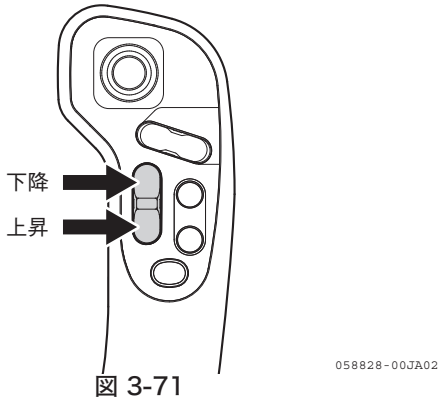


図 3-71

4. オートリフトボタンを5秒以上押し続けます。最初にブザーが断続で鳴り、設定が完了すると連続で鳴ります。(図 3-72)



図 3-72

5. オートリフトボタンから指を離します。設定が完了し、ブザーは鳴り止みます。

[参考]

- 工場出荷時は、地面から刈刃までの高さが 70cm に設定されています。
- 設定可能な高さは、地面から刈刃までの高さが65cm以上です。65cm未満の高さに設定しても、65cmに設定されます。
- 走行しながら設定はできません。必ず停止した状態で行ってください。
- 作業クラッチレバーが「脱こく」位置のときは、オートリフト高さの設定はできません。作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてから設定してください。

刈高さ自動制御装置

⚠警告

移動走行時、および、トラックへの積み降ろしの場合には、必ず作業クラッチ、刈高さ「高」スイッチ、および刈高さ「低」スイッチを「切」にし、刈高さ「高」ランプおよび刈高さ「低」ランプが消灯しているのを確認してください。また、センサソリ切替レバーが「収納」側にあることを確認してください。作業クラッチ、刈高さ「高」スイッチ、および、刈高さ「低」スイッチが「入」になっていると、刈取部が不意に上下し、けがをするおそれがあります。

刈高さ自動制御装置とは、希望の刈高さをセットすると、刈取部のセンサソリ、およびフィーダハウス回動支点のセンサによって、刈取部の高さを検知し、ほ場の条件が変化しても希望の刈高さに自動調節する装置です。

■ 低刈モード

刈取部のセンサソリが、地面に接地する高さで作業を行うときに使用します。

刈刃高さは、地面から3.5～11cmの範囲です。

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。(図 3-73)

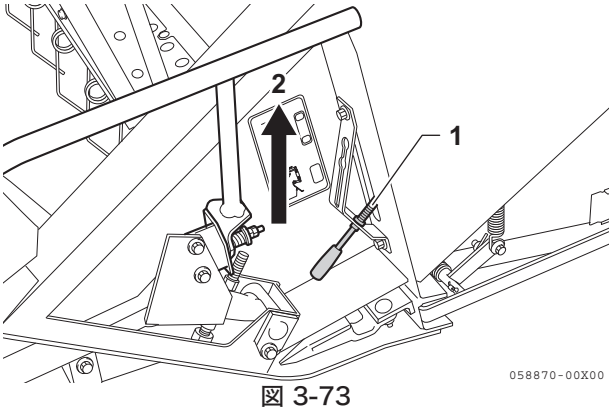


図 3-73

[参考]

センサソリ切替レバーは、必ず「自動」位置にしてください。センサソリが収納されていると、刈取部を下げても、自動制御が働きません。

2. エンジンを始動します。
3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。（図 3-74）

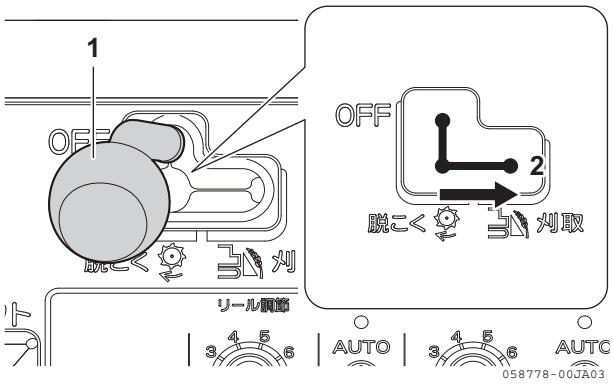


図 3-74

4. 刈高さ「低」スイッチ（1）を押します。刈高さ「低」ランプ（2）が点灯し、自動的に刈取部のセンサソリが地面に接地するまで下がり、自動制御が働きます。（図 3-75）

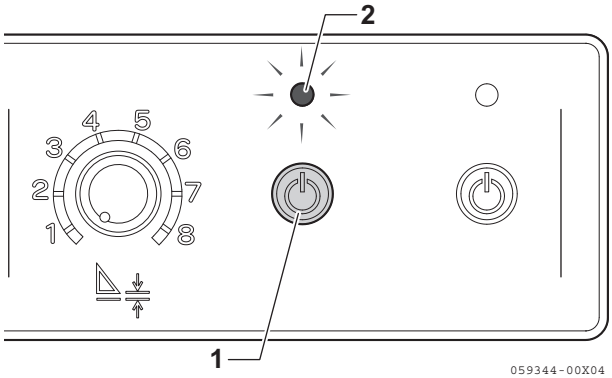


図 3-75

[参考]

刈高さ調節ランプが点滅し、自動制御が働かない場合は、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。刈高さ調節ランプが点灯し、自動制御が働きます。

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくりまわして、刈取部を希望の刈高さに設定します。（図 3-76）
   刈取作業を始めると刈取部の高さを地面に対して、一定の高さに自動的に調節されます。

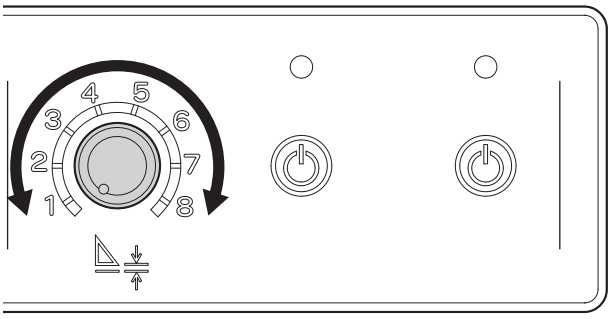


図 3-76

■ 高刈りモード

刈取部のセンサソリが、地面に接地しない高さで作業を行うときに使用します。
刈刃高さは、地面から11～45cmの範囲です。

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。（図 3-77）

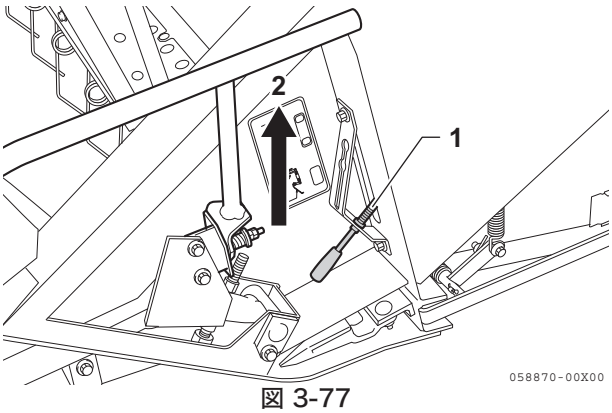


図 3-77

[参考]

センサソリ切替レバーは、必ず「自動」位置にしてください。センサソリが収納されていると、刈取部を下げても、自動制御が働きません。

2. エンジンを始動します。

3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。（図 3-78）

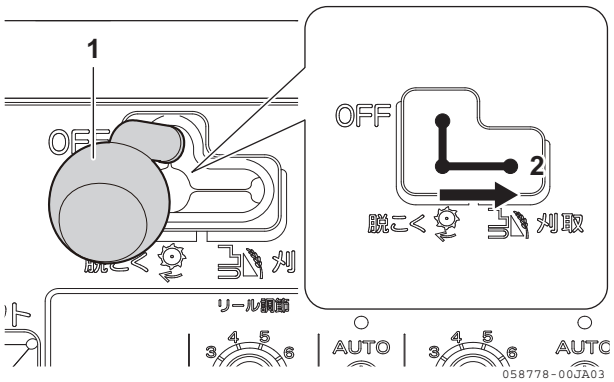


図 3-78

4. 刈高さ「高」スイッチ（1）を押します。刈高さ「高」ランプ（2）が点灯し、自動的に刈取部が刈高さ調節ダイヤルで設定した高さになり、自動制御が働きます。（図 3-79）

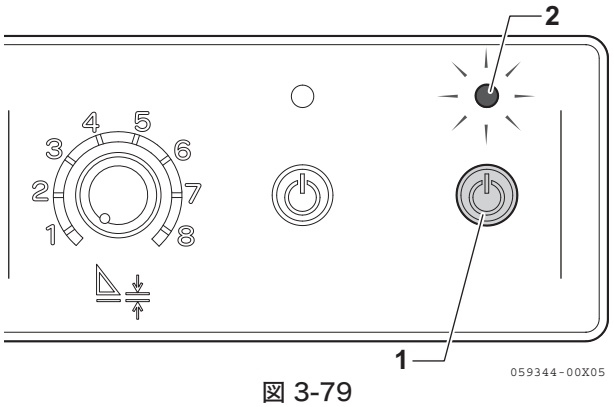


図 3-79

[参考]

刈高さ調節ランプが点滅し、自動制御が働かない場合は、オートセットボタンを押してください。刈高さ調節ランプが点灯し、自動制御が働きます。

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくりまわして、刈取部を希望の刈高さに設定します。（図 3-80）
刈取作業を始めると刈取部の高さが自動的に調節されます。

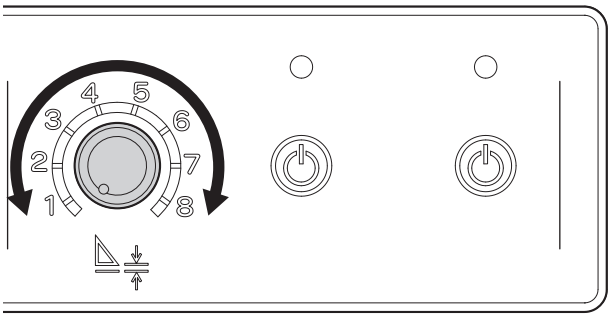


図 3-80

[参考]

- 刈高さ自動制御中（刈高さ「高」ランプ、または刈高さ「低」ランプが点灯し、刈高さ調節ランプが点灯）のときに刈取昇降スイッチを操作すると、手動優先が働き、刈取部の昇降が行えます。
- 低刈モードのとき、制御中に刈取部のセンサソリが接地からフリー状態（地上から離れる）になると、自動制御は中断されますが、30cm 走行後に自動復帰します。手動操作で刈取部のセンサソリがフリー状態になったときは、センサソリが地面に接地するまで自動復帰しません。自動制御に戻すためには、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサソリが接地するまで、刈取部を下げてください。
- 高刈モードのときに、刈取部のセンサソリが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止が働き刈取部は自動的に上昇します。（クイックリフト）
- 高刈モードで刈高さ調節ダイヤルの調節が低く突っ込み防止が作動する頻度が高い場合は、刈高さ調節ダイヤルの調節を高く調節するか、低刈モードで作業してください。

リール自動制御装置

■ リール同調制御装置

リール同調制御装置とは、作業速度に同調して、リールの回転速度が自動的に変速させる制御です。また、作業速度に対して、リール回転速度の同調の割合がリール前後・リール速度スイッチやリール昇降・速度スイッチで調整できます。

1. エンジンを始動します。
2. リール変速自動スイッチ（1）を押します。リール変速自動ランプ（2）が点灯します。（図 3-81）

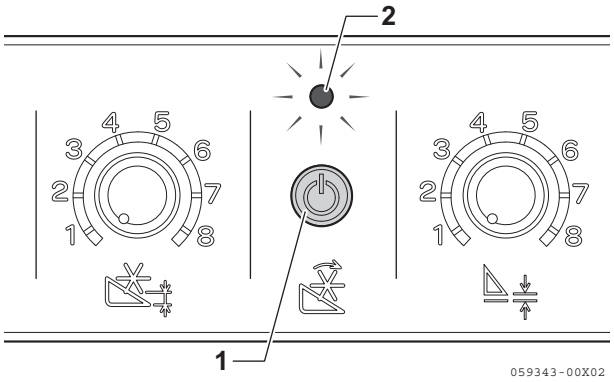


図 3-81

3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。リールが低速回転します。（図 3-82）

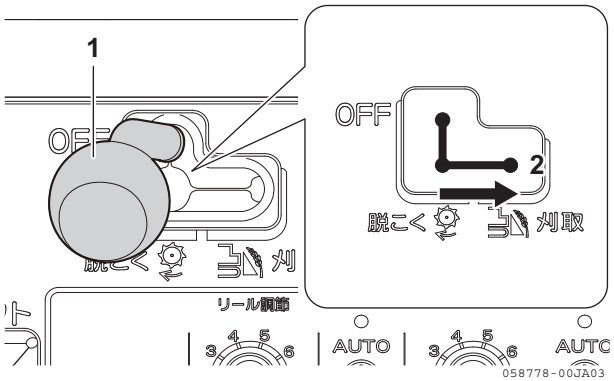


図 3-82

4. 刈取作業を始めます。
   刈取速度を速くするとリール回転速度も速くなり、刈取速度を遅くするとリール回転速度も遅くなります。

5. リール回転速度は、作物の状態を見ながら、オールマイティシフトレバーのリール前後・リール速度スイッチ（1）、またはマルチハンドルのリール昇降・速度スイッチ（2）により調節した回転速度に同調してリール回転速度を制御します。（図 3-83）

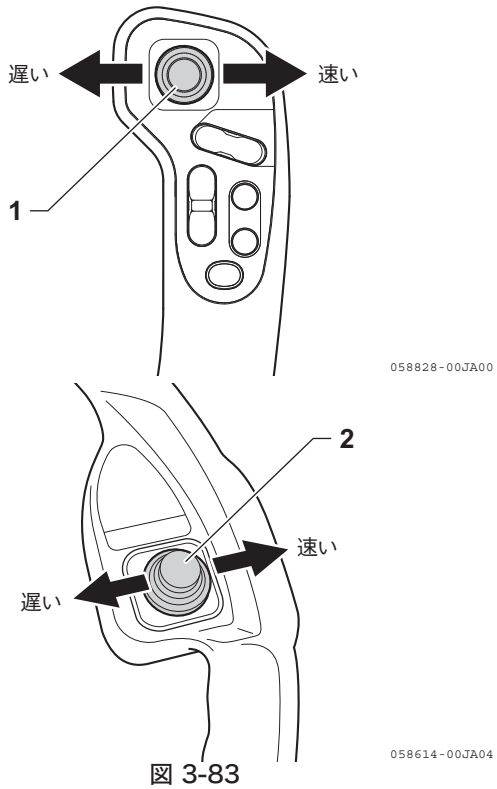


図 3-83

[参考]

- 自動制御中でも、リール前後・リール速度スイッチやリール昇降・速度スイッチの手動操作によりリール回転速度を任意に調節できます。
  手動調節以降は、任意に調節した回転速度に同調してリール回転速度を制御します。
  キースイッチを一度「OFF」にすると、標準の同調速度に復帰します。
- 刈取作業速度に関係なくリール回転速度を一定にしたい場合は、リール変速自動「切」（ランプ消灯）にして刈取作業を行ってください。

■ リール高さ自動制御装置

リール高さ自動制御装置とは、刈取作業時にリール高さダイヤルで設定したリール高さを保ち刈取作業ができます。

刈取オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定高さまで上昇すると同時に、リールが最下点まで下降して、刈取物の脱落を防止します。

また、つぎの工程で刈取オートセットボタンを押すと、刈取部が下降して設定高さになると同時に、リールが設定したリール高さ調節ダイヤル位置になって刈取作業が行えます。

1. エンジンを始動します。
2. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。（図 3-84）

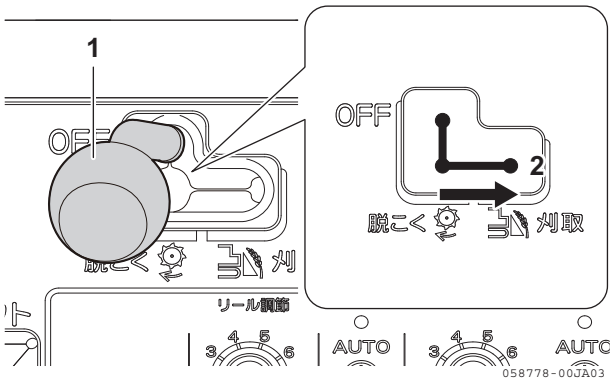


図 3-84

3. 刈取オートセットボタンを押します。（図 3-85）
刈取部が下降し、地面から一定の高さで停止します。同時に、リールがリール高さ調節ダイヤル位置まで上昇し停止します。

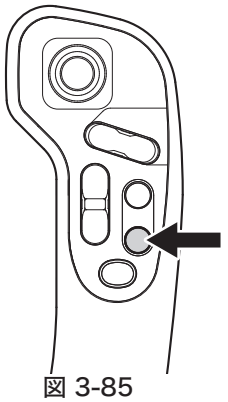


図 3-85

4. リール高さ調節ダイヤルを操作して、リール高さを希望の位置に設定します。（図 3-86）

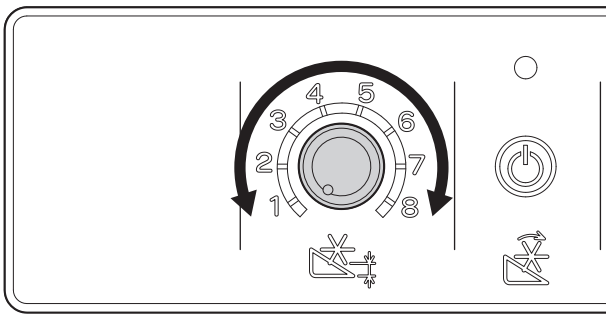


図 3-86

5. 刈取作業を始めます。
6. 作物の状態を見ながら、リール高さ調節ダイヤルを操作して、リールの高さを調節します。
7. 刈取オートリフトボタンを押します。
リールが最下点まで下降すると同時に、刈取部が設定高さまで上昇します。（図 3-87）

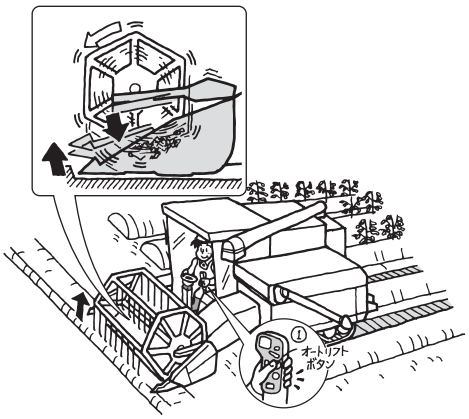


図 3-87

8. 刈取オートセットボタンを押します。刈取部が設定高さに下降すると同時に、リール高さも設定高さになって、刈取作業が行えます。

[参考]

- リール高さ制御装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でもマルチハンドルのリール昇降・速度スイッチでリール高さが調節できます。
- 手動操作後は、自動制御が切れるので、再び自動制御にする場合は、刈取オートセットボタンを押してください。

刈取バックアップ装置

刈取バックアップ装置とは、センサソリの破損を防止するための補助的な装置です。
作業クラッチレバー「刈取」位置、自動刈高さスイッチ「低」または「高」位置で（ランプ点灯）のとき、コンバインを後進させると、センサソリがフリー状態になる位置まで刈取部が上昇し、その後30cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

[重要]

後進するときは、周囲の状況に注意して、刈取部を上昇させてから後進してください。

刈取水平制御装置

刈取水平制御装置とは、ほ場の条件が変化しても、地面に対して常に刈取部を水平に保つ装置です。
刈取部がオートリフト状態または刈取部の高さがセカンドモア収納高さ（工場出荷時 64cm）以上のときは、刈取水平制御は制御しません。

1. エンジンを始動します。（100ページ参照）
2. 作業クラッチレバー（1）を「脱こく」位置（2）にします。（図 3-88）

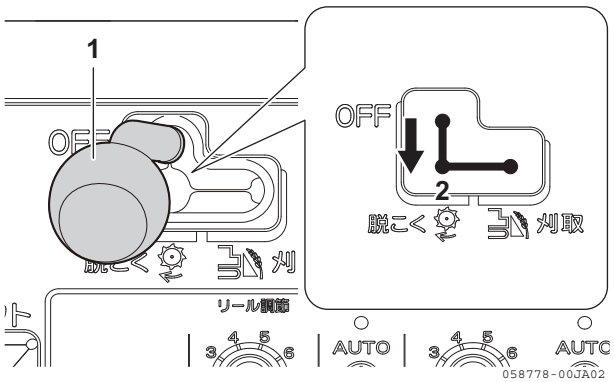


図 3-88

3. 水平自動スイッチ（1）を押して「入」（ランプ点灯）（2）にします。刈取部を傾斜角調節ダイヤル位置に制御します。（図 3-89）

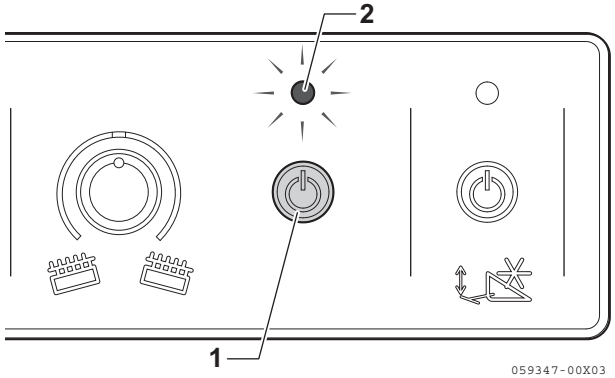


図 3-89

4. 刈取部を左に傾けたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり左側（）へ回し、右に傾けたいときはゆっくり右側（）へ回します。コンバインが傾斜しても、合わせた角度になるように制御します。

[参考]

- 刈取水平制御装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でも水平手動スイッチを操作すると、刈取部の傾きを調節できます。
- 刈取水平制御中に手動操作をすると、刈取水平制御は中断しますが、2秒後に再び水平制御が働きます。
- 作業クラッチレバーが「OFF」位置では、刈取部の刈刃高さがセカンドモア収納高さ（工場出荷時64cm）より高くなると、水平自動スイッチの「入」「切」にかかわらず、コンバインに対して刈取部を水平に保ちます。
  このとき、水平手動スイッチを操作すると、刈取部の傾きを調節できますが、2秒後に再びコンバインに対して刈取部が水平になります。

● 傾斜角調節ダイヤル（1）の合せマーク（2）がパネル側（3）と合っていないと、水平になりません。(図 3-90)

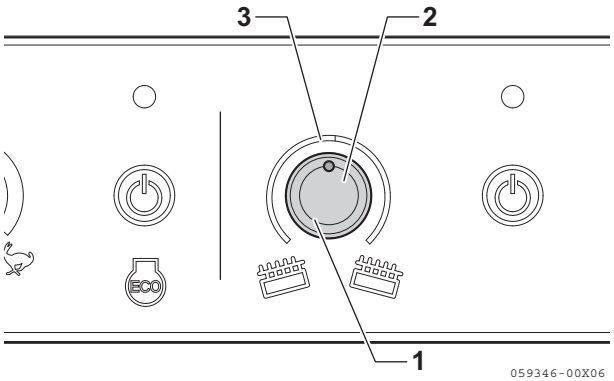


図 3-90

快速制御装置

[重要]

- **快速制御装置は刈取作業を補助する装置です。急発進や急加速などの作業状態では詰まりが発生する場合があります。**
- **快速制御スイッチランプ点灯中は快速制御による車速制御中です。快速制御により車速が増減速する場合がありますので、オールマイティシフトレバーから手を離さないでください。**

快速制御装置は、ほ場条件が変化してエンジンが過負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷に戻れば、車速を元のオールマイティシフトレバーの位置の速度に戻す制御装置です。

1. エンジンを始動します。
2. Eモードスイッチ（1）を「入」(Eモードランプ点灯)（2）にします。(図 3-91)

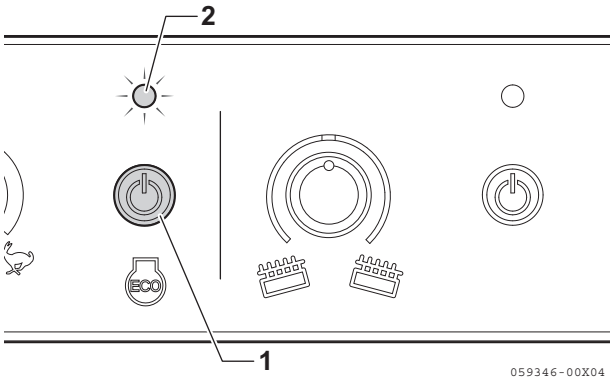


図 3-91

3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。(図 3-92)

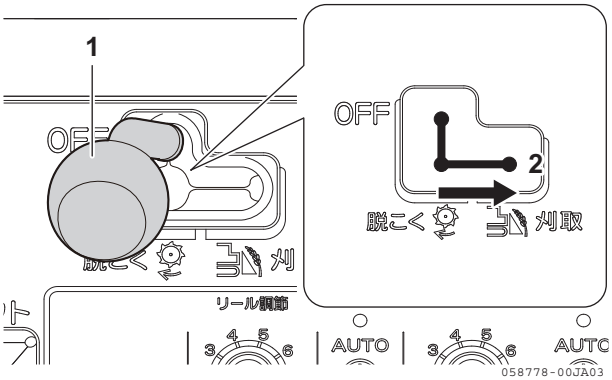


図 3-92

4. 快速制御スイッチ（1）を押して「入」にします。快速制御スイッチランプが点滅します。(図 3-93)

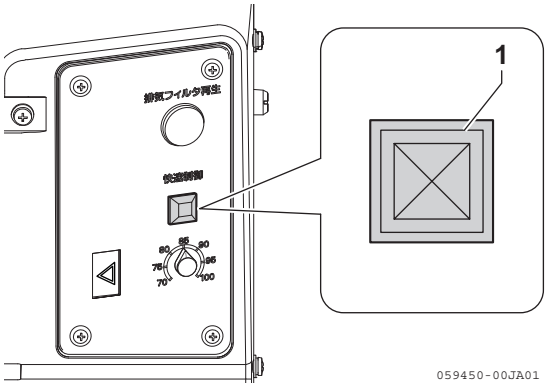


図 3-93

5. 快速調節ダイヤル（1）で快速制御が作動するエンジン負荷率を設定します。(標準はグリーンゾーン)（図 3-94)

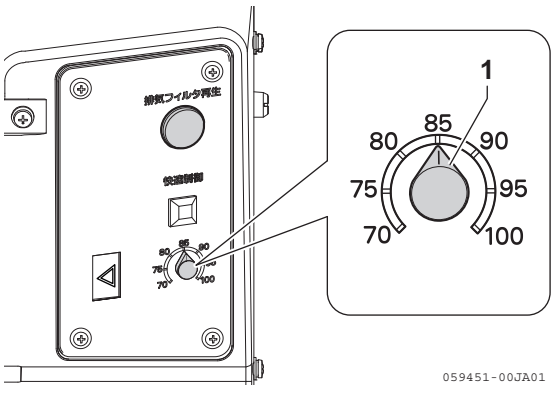


図 3-94

6. 刈取作業を0.5m/s以上の速度で行います。エンジン負荷率が快速調節ダイヤルで設定した値を超えると快速制御スイッチランプが点灯し、車速が自動的に減速されます。
   （オールマイティシフトレバーは動きません。）
7. エンジン負荷が軽くなると、徐々に元の速度に戻ります。
   （オールマイティシフトレバーは動きません。）

[参考]

- 刈取作業はオールマイティシフトレバーでゆっくりと車速をあげ、快速制御が作動した位置でオールマイティシフトレバーを固定すると最適な作業速度になります。
- 快速制御が作動しても、オーバーロード警報が頻発する場合は、オールマイティシフトレバーで車速を少し落としてください。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）はオールマイティシフトレバーでの増速操作はできません。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）でもオールマイティシフトレバーでの減速操作は優先して行えます。

脱こく制御装置

脱こく部のこく粒量が増加し、排稈口に設置した排稈口センサが一定以上の排稈量を検出したとき、あらかじめクリーンシフトレバーにて設定したチャフシーブ角度・唐箕風量より、さらにチャフシーブ角を開き、唐箕風量を増加させます。この制御により、より選別を向上させて、ロスの低減を図ります。また、回行時は、脱こく部のこく粒量が減少するため、チャフシーブ角を開け側に制御しないようにしています。

オーガ自動旋回装置（オーガオートセット・オーガオートリターン装置）

⚠警告

移動走行時、およびトラックなどへの積み降ろしの場合は、オーガ自動旋回スイッチに触らないでください。オーガが動き出し、非常に危険です。オーガマルチリモコンのランプが消えていることを確認してください。

⚠注意

- **オーガ自動旋回装置は、屋内や木の下などで使用しないでください。**
  オーガ自動旋回装置は、排出オーガを最上昇位置まで上昇させるため、障害物に当たりケガのおそれがあります。
- **移動走行時やトラックなどへの積み降ろしのときは、絶対にオーガ右・後セットスイッチ、およびオーガリターンスイッチを押さないでください。**

[参考]

オーガ右セットスイッチ、およびオーガ後セットスイッチを操作すると、排出オーガは自動的に旋回しますので、補助者・障害物などには十分注意してください。

■ オーガオートセット装置の操作のしかた

排出オーガをスイッチ2つで、右方と後方に、合計4か所の位置に自動的に旋回させることができます。

[重要]

- **作動油温度が低い場合、オートリターンで排出オーガがオーガレストの収納位置まで下降しない場合があります。**
- **オーガ自動旋回装置の作動中や、排出オーガがオーガレストに収納されていない状態で、高速走行をしたり、急旋回をしないでください。排出オーガ取付部などの破損につながります。**
- **刈取作業中や移動走行時、またはトラックなどへの積み・降ろしのときは、必ず排出オーガをオーガレストに収納してください。**

1. エンジンを始動します。

[参考]
安全のため、エンジンがかかっていない場合は、オートセット装置は作動しません。

2. オーガ自動旋回スイッチのオーガ右セットスイッチ (1)、またはオーガ後セットスイッチ (2) を長押しします。(図 3-95)

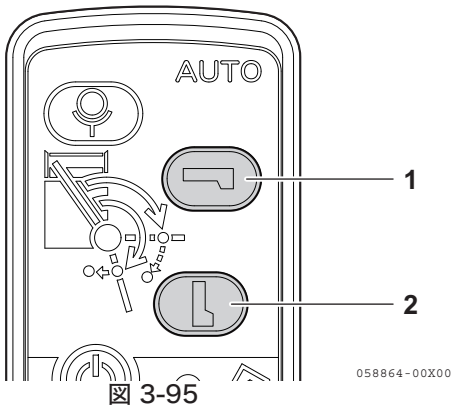


図 3-95

[参考]
安全のため、スイッチは長押ししないと装置は作動しません。

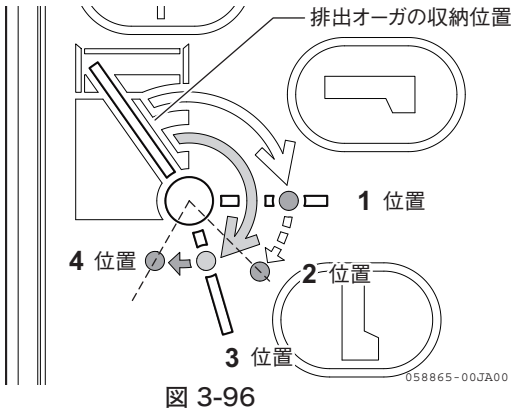


図 3-96

- 排出オーガが最上昇位置まで上昇し、「右セット」の場合は右旋回してコンバイン右側 (ランプ (赤) 点灯) 1位置に、「後セット」の場合は右旋回してコンバイン真後ろ (ランプ (橙) 点灯) 3 位置に自動的に旋回します。(図 3-96)
  自動旋回中や 1 位置または 3 位置の位置で停止した後、再度、同じスイッチを押すと、ランプが点滅に切り替わり、排出オーガの旋回方向はそのままで、「右セット」の場合は2位置に、「後セット」の場合は4位置まで旋回します。(図 3-96)
  さらに、もう一度同じスイッチを押した場合は、ランプが消灯し自動旋回が停止します。
- オーガオートセット装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動旋回中でも排出オーガは、排出オーガ手動スイッチで操作することができます。また、手動操作をするとオーガオートセット装置は切れます。
- オーガオートセット装置が作動中、異なる位置のオーガ右・後セットスイッチを押すと、排出オーガは止まります (ランプは消灯します)。
- オーガオートセット装置が作動中に、オーガリターンスイッチ、および排出オーガクラッチスイッチを押した場合、または、作動中のオートセット動作と異なる位置のセットスイッチを押した場合は、排出オーガは止まります (ランプは消灯)。この場合は、排出オーガクラッチは作動しません。排出オーガが停止した状態で、再度排出オーガクラッチスイッチを押してください。
- オーガオートセット中断後、再度オーガ右・後セットスイッチを押すと、動きだします。
- E モードスイッチが「入」(E モードランプ点灯) のときには、オーガオートセット装置が働いている間は、エンジン回転数が自動的に定格回転数 (グリーンゾーン) になります。
- 排出オーガクラッチが「入」(ランプ (緑) 点灯) の状態で、オーガ右セットスイッチ、およびオーガ後セットスイッチを押すと、排出オーガクラッチが「切」(ランプ (緑) 消灯) になり、5秒間は低速で上昇します。5 秒後には、通常速度で指示した位置に移動します。
- オーガ自動旋回中にリール昇降操作をすると、オーガ自動旋回が一時停止し、リール昇降操作をやめると、オーガ自動旋回を続けます。

3. 排出オーガを排出オーガ手動スイッチで、こく粒排出位置まで下降させて、こく粒を排出します。(図 3-97)

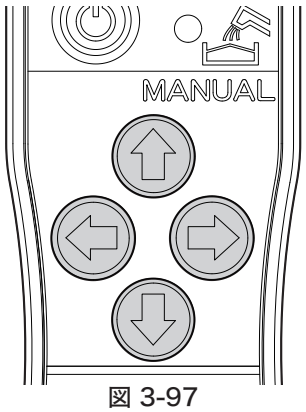


図 3-97

■ オーガオートリターン装置の操作のしかた

排出オーガをスイッチひとつで自動的にオーガレストに収納します。

1. エンジンを始動します。

[参考]

エンジンがかかっていない場合には、オートリターン装置は作動しません。

2. こく粒を排出後、オーガリターンスイッチ（1）を長押しします。(図 3-98)
   排出オーガが自動的にオーガレストに収納されます。

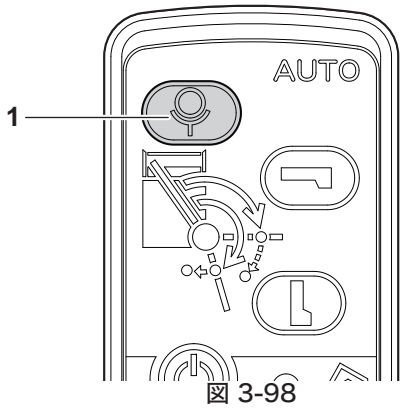


図 3-98

[参考]

- オートリターン装置で排出オーガを戻すと、排出オーガは自動または手動でセットしたときの旋回方向の反対方向に旋回します。(左旋回)
- オートリターン装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動収納中でも排出オーガは、排出オーガ手動スイッチで操作することができます。また、手動操作をするとオートリターン装置は切れます。再びオートリターンスイッチを押すと動き出します。
- オートリターン装置が作動中に、オーガ右・後セットスイッチ、オートリターンスイッチ、または排出オーガクラッチスイッチを押した場合は、排出オーガは止まります（ランプ（緑）消灯）。再度オートリターンスイッチを押すと、最初の動作から動きだします。
- E モードスイッチが「入」(E モードランプ点灯)のとき、オートリターン装置が働いている間は、エンジン回転数が自動的に定格回転数（グリーンゾーン）になります。
- 排出オーガクラッチが「入」(ランプ（緑）点灯)の状態で、オートリターンスイッチを押すと、排出オーガクラッチが「切」(ランプ（緑）消灯)になり、５秒間は低速で上昇します。その後は連続で上昇します。
- オーガ自動旋回中にリール昇降動作をすると、オーガ自動旋回が一時停止し、リール昇降動作をやめると、オーガ自動旋回を続けます。

[重要]

オーガ自動旋回装置が作動中に、高速走行や急旋回をしないでください。排出オーガがオーガレストに収納されなかったり、排出オーガ取付部などの破損につながります。

こく粒の排出のしかた

⚠警告

- こく粒がタンクに入った状態で、あぜ越え、トラックなどへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右各11度以上）での作業、および移動走行は絶対にしないでください。転倒するおそれがあります。
- 排出作業時は、脱こく部を必ず停止させてください。回転部に巻き込まれてケガをするおそれがあります。

[重要]

- オーガを昇降・旋回させるときは、コンバインが停止した状態で行ってください。破損の原因になります。
- オーガを昇降・旋回させるときは、周囲に障害物がないか確認してください。破損の原因になります。
- 排出オーガが、オーガレストの収納位置付近にあるときは、オーガ先端およびオーガマルチリモコンの排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押しても、オーガクラッチは「入」になりません。

[参考]

オーガが収納されていない状態で走行を開始すると、警報ブザーが鳴ります。オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にしてコンバインを停止させるとブザーが止まります。センターディスプレイのOFF（ブザー）スイッチでも警報を停止させることができますが、コンバインが動くと再度ブザーが鳴りますので、ブザーが鳴ったらコンバインを停止させてからオーガを収納してください。

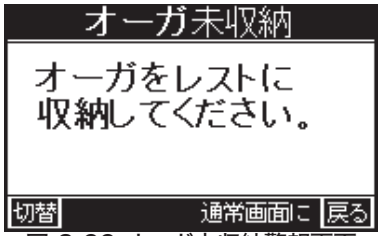
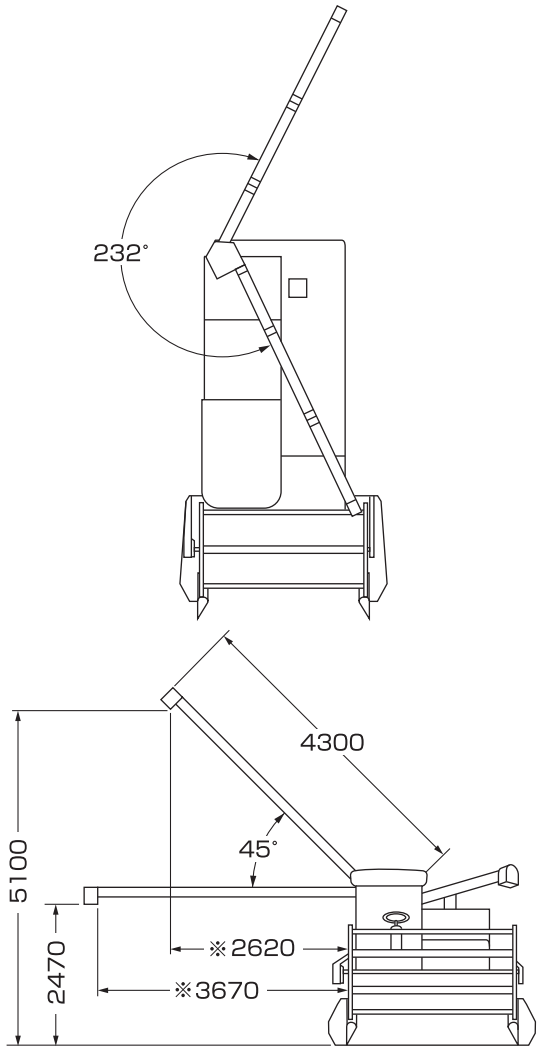


図 3-99 オーガ未収納警報画面

排出オーガの作業範囲

（単位：mm ）



※グレンタンク側面からの寸法です。

図 3-100 排出オーガの作業範囲

排出作業のしかた

[重要]

オーガマルチリモコンは、有線（コード）です。万一、コードを傷つけると、作動不良の原因になりますので、コードを傷つけないように注意してください。

タンク内が満タンになると、つぎの作動をします。手順に従って排出作業をしてください。

- ブザー（警報装置）が断続で鳴る。
- グレンタンクモニターが「3 ／ 3」の状態で点滅（1）するとともに、通常の画面ともみ満量の画面（2）を交互に表示します。（図 3-101）

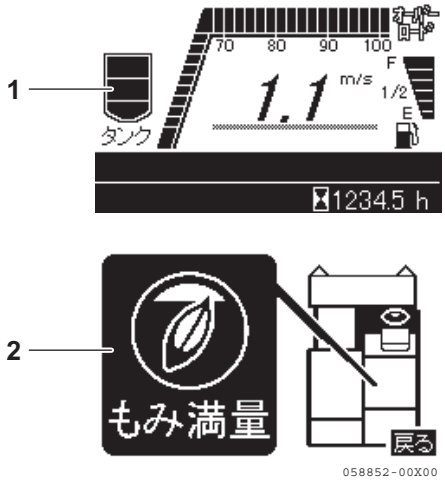


図 3-101

1. もみ満量のブザーが鳴ったら、ただちに刈取作業を停止します。OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーが止まります。

[重要]

- **コンバインを停止したときは、必ず作業クラッチレバー（1）を「脱こく」位置（2）にして、脱こく部での作物の処理が終ったのを確認してから、「OFF」位置（3）にしてください。作業クラッチレバーを「脱こく」で、脱こく部が回った状態にしておくと、こく粒ロスや損傷（脱ぷ）・稈切れ混入等の選別不良が発生します。（図 3-102）**

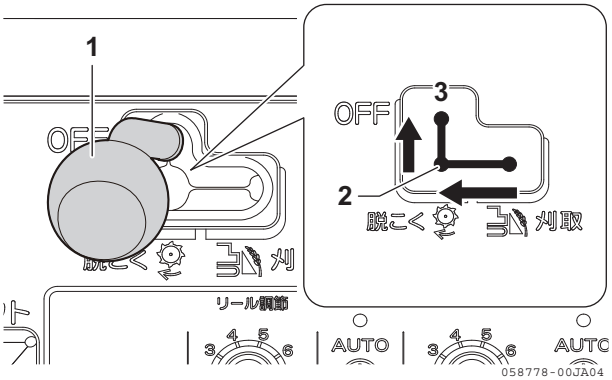


図 3-102

- **ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒があふれて、故障の原因になります。**

2. トラックへの排出が可能な所まで、コンバインを移動させます。

[重要]

コンバインは、できるだけ水平な状態にしてください。コンバインの傾斜が大きいと、排出時に排出オーガがずれるおそれがあります。（図 3-103）

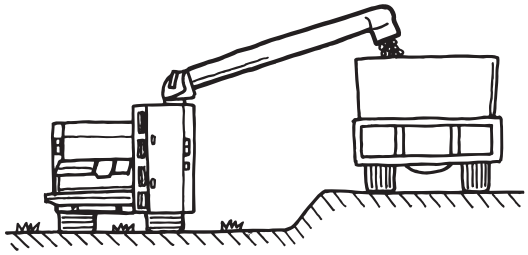


図 3-103

3. 作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。
4. オーガ自動旋回スイッチのオーガ右セットスイッチ (1)、またはオーガ後セットスイッチ (2) を押します。ランプ（右セット：赤、後セット：橙）(3) が点灯し、自動的に旋回します。(図 3-104)

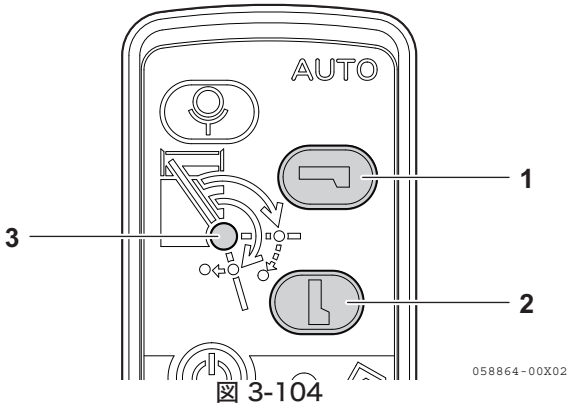


図 3-104

[参考]

排出オーガ手動スイッチを操作しても、排出オーガの旋回は行えますが、排出オーガを旋回するときは、必ず最上昇位置にしてから行ってください。

5. 排出オーガ手動スイッチで、排出オーガをこく粒排出位置まで下降させます。(図 3-105)

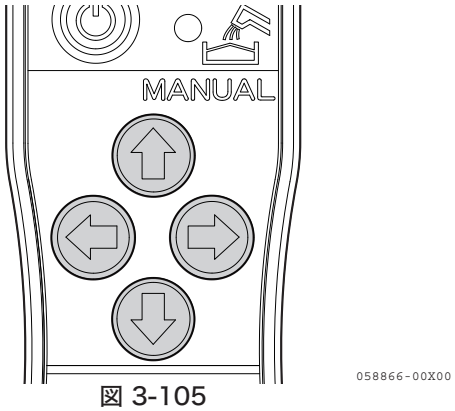


図 3-105

[重要]

オーガを昇降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確認してください。破損の原因になります。

6. 駐車ブレーキをかけます。(76ページ参照)
7. アクセルダイヤル (1) でエンジン回転を調節し、センターディスプレイの回転数が「グリーンゾーン」位置（2）を示すように調節します。または、Eモードスイッチ（3）を「入」(Eモードランプ点灯）にします。(図 3-106)

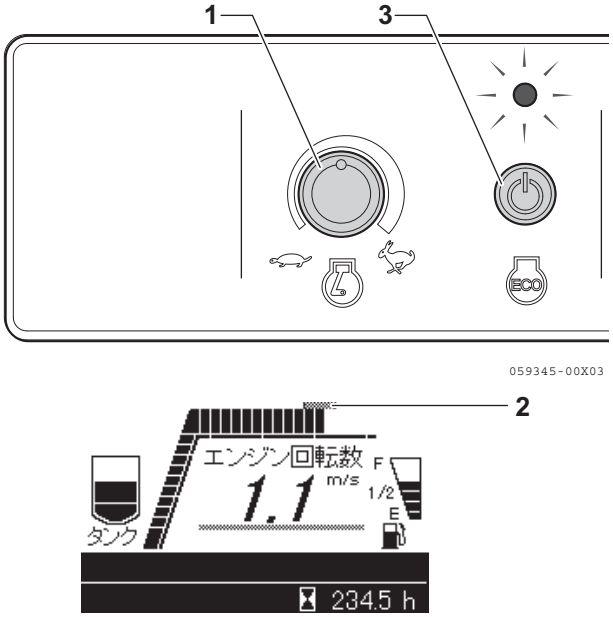


図 3-106

8. 排出オーガクラッチスイッチ（1）を長押しして、ランプ（2）を点灯させます。こく粒が排出されます。(図 3-107)

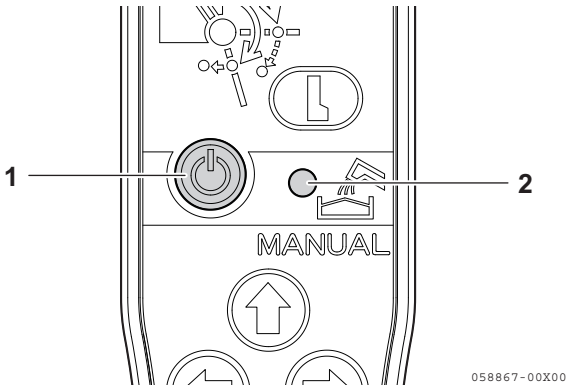


図 3-107

⚠警告

排出中は、排出口に手を入れないでください。オーガ内部でコンベアが回転しているので、ケガをするおそれがあります。

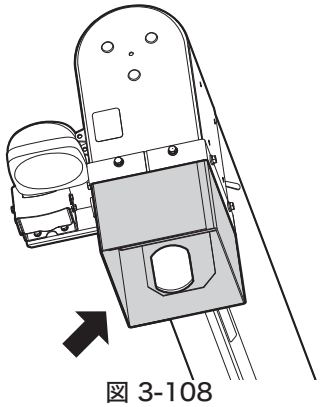


図 3-108

[重要]

- オーガの昇降・旋回操作は、コンバインが停止した状態で行ってください。
- こく粒排出中は、排出口をこく粒がふさがないように注意し、排出位置を変更しながら行ってください。(図 3-109)



図 3-109

- 排出位置を変更するときは、以下のいずれかの操作で行ってください。
  ・オーガを旋回する。
  ・コンバインをゆっくり動かす。

[参考]

投口シートが破損した場合は、速やかに交換してください。(図 3-108)

9. 排出が終了したら、排出オーガクラッチスイッチ (1) を押して、ランプ (2) を消灯させます。(図 3-110)

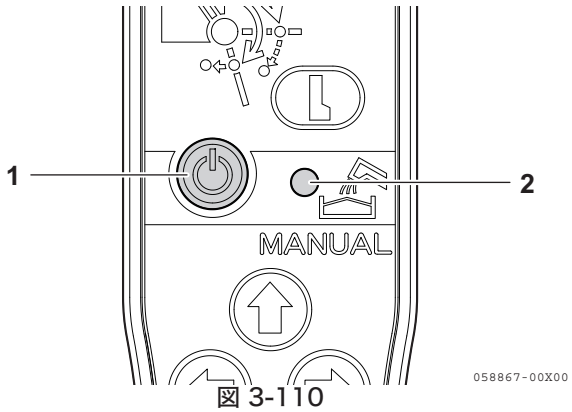


図 3-110

10. オーガリターンスイッチ (1) を長押しします。排出オーガは、自動的にオーガレストに収納されます。(図 3-111)

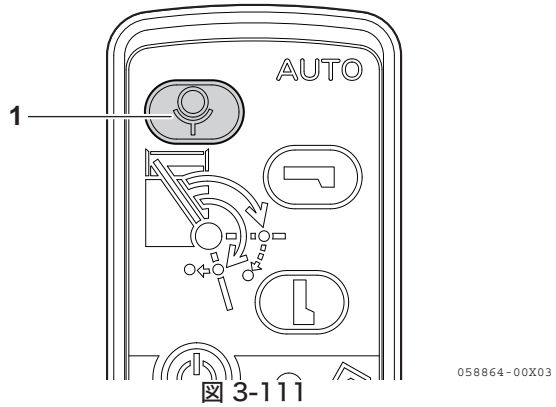


図 3-111

[重要]

- オーガリターンスイッチを押すと、排出オーガは最上昇位置まで上昇してから回動して収納されます。周囲に障害物がないか、確認してから操作してください。破損の原因になります。
- 排出オーガクラッチが「入」（ランプ点灯）の状態でオーガリターンスイッチを押すと、排出オーガクラッチが「切」（ランプ消灯）になり、5秒間は低速で上昇します。その後は連続で上昇します。
- 刈取作業中は、排出オーガをオーガレストに必ず収納してください。
- 排出オーガをオーガレストに収納しない状態で、高速走行したり、急旋回しないでください。排出オーガ取付部などの破損につながります。
- 屋内や木の下などでは排出オーガを使用しないでください。

無線リモコンでの排出のしかた

⚠警告

本装置を操作しているときは、わき見をしないで、常に周囲の安全に注意を配ってください。

[参考]

送信機の ON スイッチとオートリターンスイッチの操作以外は、基本はオーガマルチリモコンと同じです。

1. アクセルダイヤルを操作して、エンジン回転を調節します。作業中は、センターディスプレイの回転計の針が「作業」（グリーンゾーン）位置を指すようにします。
2. 送信機のONスイッチ（1）を長押しして、赤ランプ（2）を点滅させます。（送信機の電源が入ります。）（図 3-112）

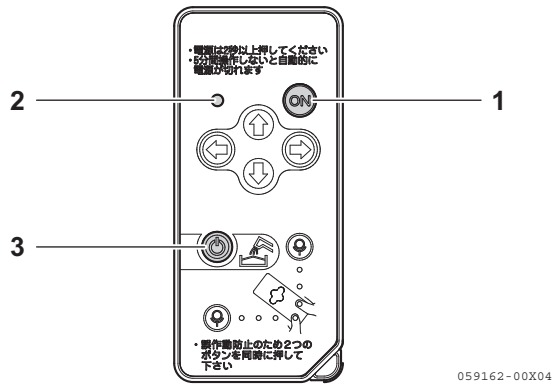


図 3-112

3. 排出オーガクラッチスイッチ（3）を押すと、こく粒が排出されます。（図 3-112）
4. 排出が終了したら排出オーガクラッチスイッチを押して排出を止めます。
5. 排出オーガをオーガレストに収納します。

[参考]

- 排出オーガを自動で収納する場合はオーガリターンスイッチを押します。(75ページ参照)
- 排出オーガクラッチの「入」「切」、排出オーガの上下昇降・左右旋回、およびオーガオートリターンは、運転席側、送信機側の両方で行うことができますが、オーガオートセットは、運転席側のオーガマルチリモコンでしか操作できません。
- 排出オーガクラッチの「入」「切」は、長押ししてください。特に排出オーガクラッチスイッチを「切」にするときは、長押し後にクラッチが「切」側に作動し始めるため、排出がすぐに止まりませんので注意してください。
- 無線リモコンで排出オーガクラッチを操作した場合でも、オーガマルチリモコンの排出オーガクラッチランプが動作します。
- オーガマルチリモコンで排出オーガクラッチを「入」にして、無線リモコンで「切」にすることや、その逆の動作も可能です。

各部の脱着・オープンのしかた

⚠警告

各部の脱着・オープンをするときは、平たんで安全な場所で必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。

⚠注意

- 外したカバー類は、必ず取り付けてください。外したままで運転すると回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 各部の脱着・オープンをするときは、手などをはさまないよう注意してください。

各部脱着・オープン一覧

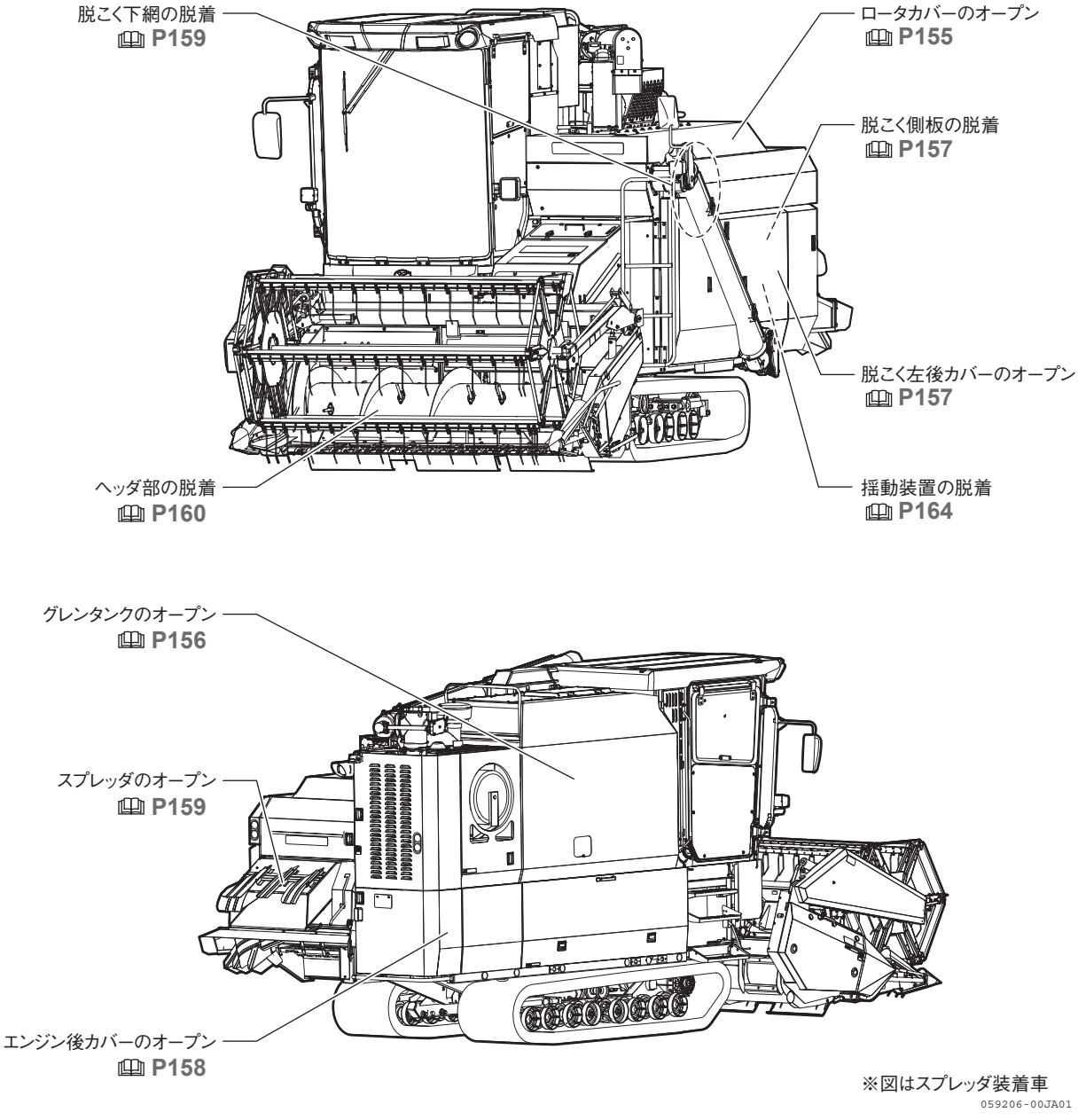
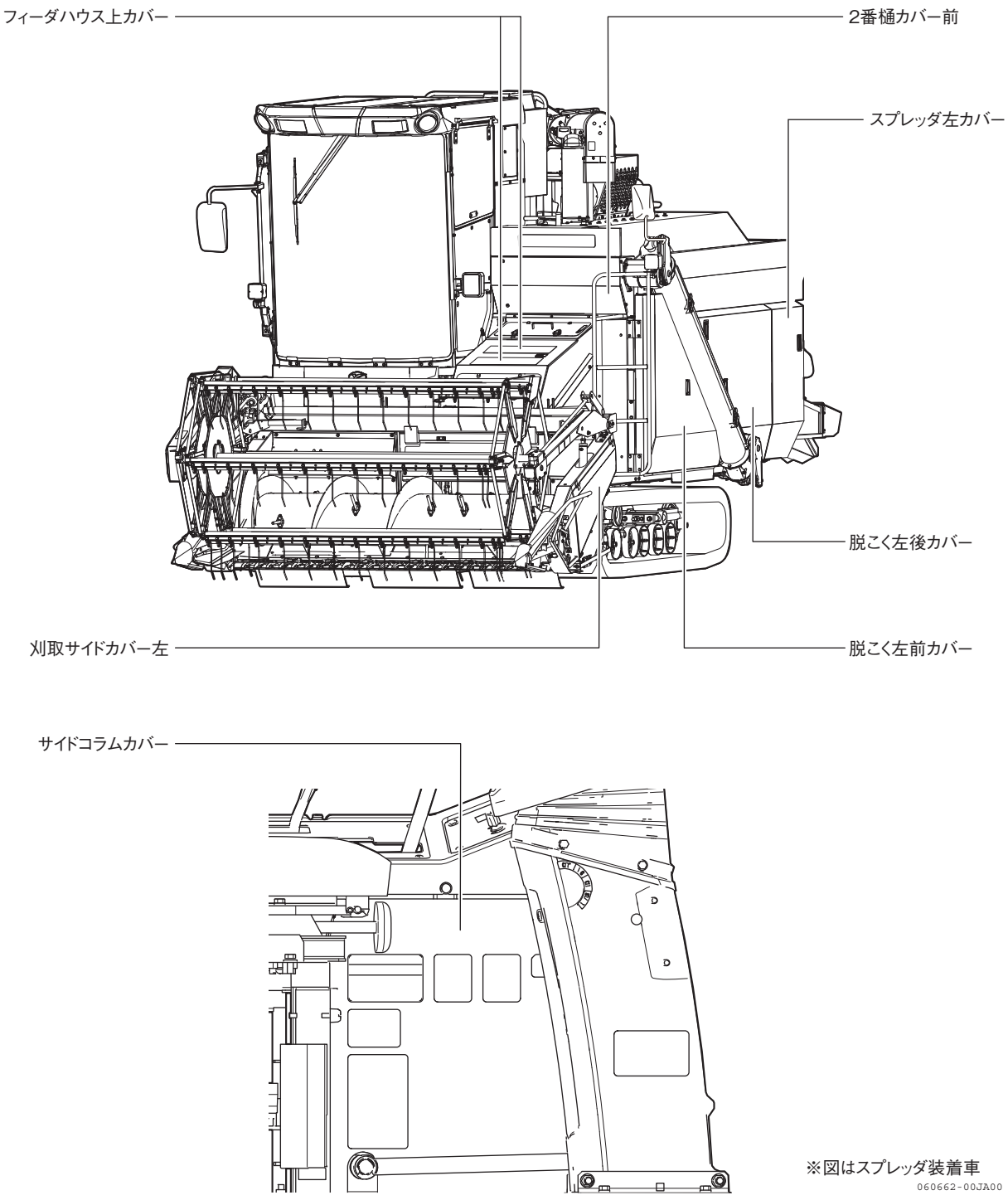


図 4-1 各部脱着・オープン一覧

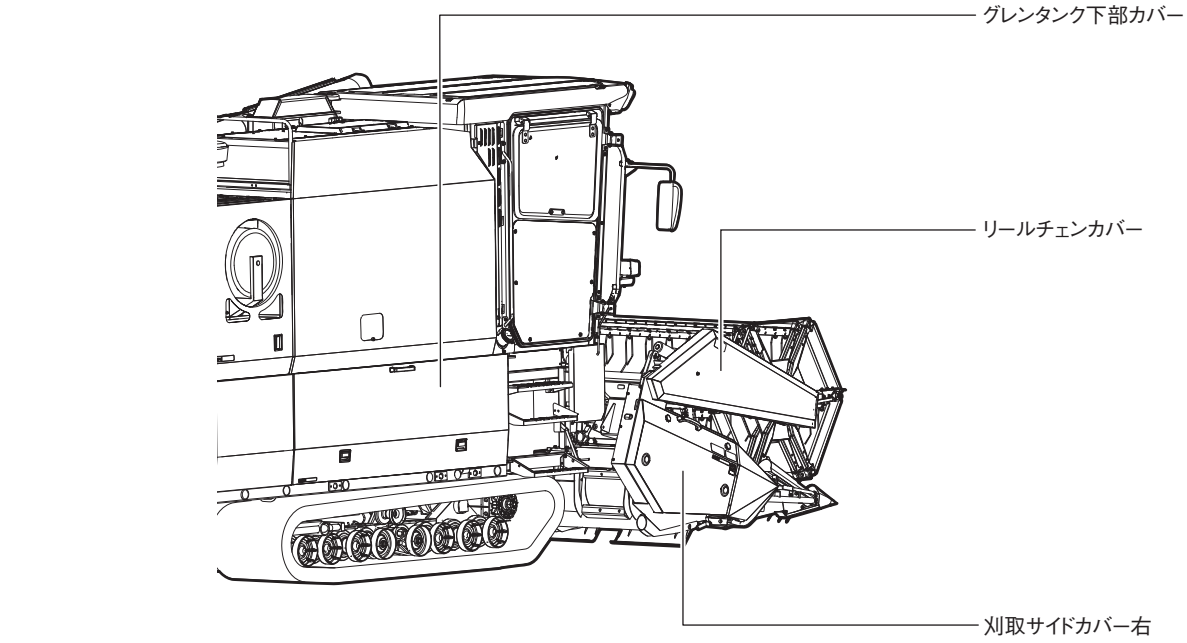
主なカバーのなまえ



※図はスプレッダ装着車

060662-00JA00

図 4-2 主なカバーのなまえ



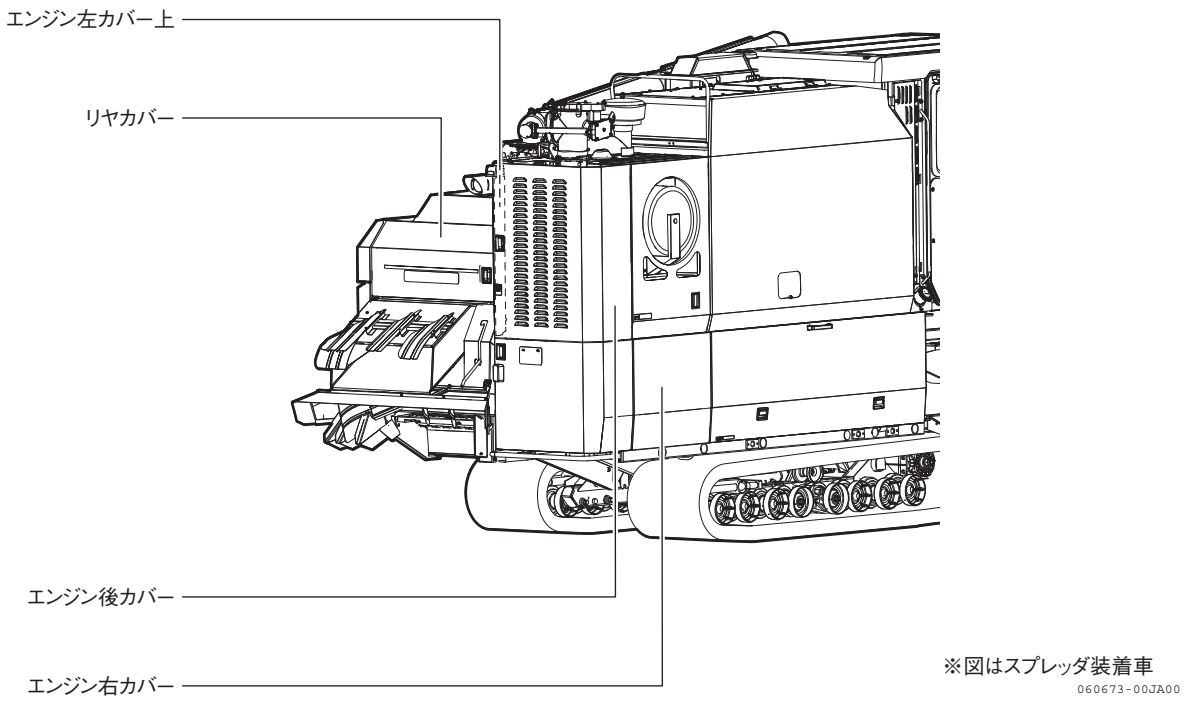


図 4-3 主なカバーのなまえ

ロータカバーのオープンのしかた

⚠警告

作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転していますので、クラッチ「切」後ロータが回転している間は、絶対にカバーを開かないでください。

1. エンジンを始動します。(100ページ参照)
2. 排出オーガ手動スイッチを操作して、排出オーガをオーガレストから 50cm 以上上昇させます。(図 4-4)

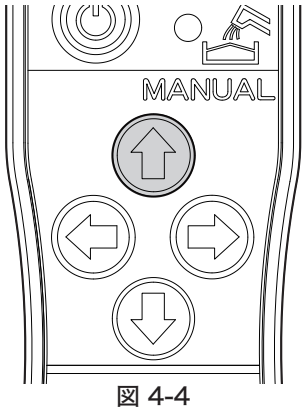


図 4-4

3. 刈取部を下げます。(68ページ参照)
4. エンジンを停止します。(102ページ参照)
5. ラダー(1)にのぼってフィーダハウス(2)の上に乗ります。(図 4-5)

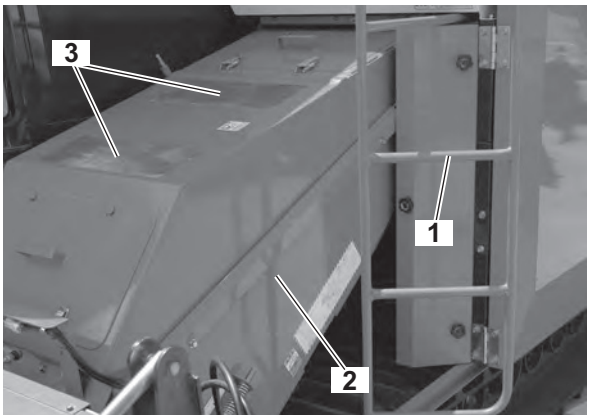


図 4-5

[重要]

フィーダハウスの上では、マット(3)の上に乗ってください。(図 4-5)

6. ロックレバー(1)を「解除」位置(2)(手前に引く)にして、ロックを解除した状態のまま、ロータカバー(3)をいっぱいまで開きます。(図 4-6)

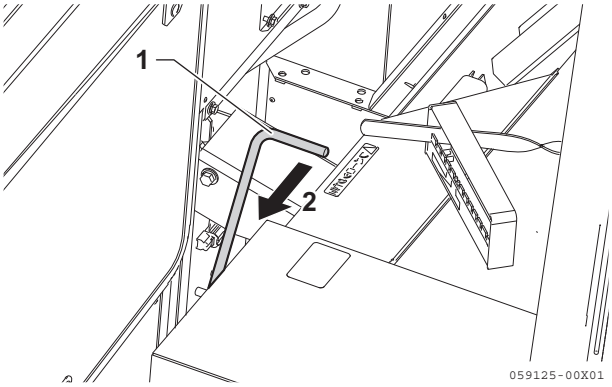




図 4-6

7. ロータカバーを閉めるときは、支持棒(1)を手前に折りながら閉めます。(図 4-7)

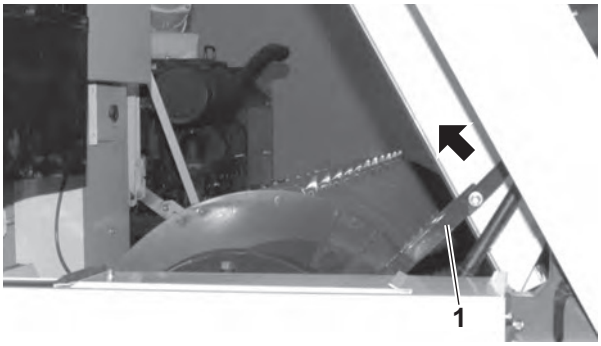


図 4-7

8. ロックレバー（1）を「ロック」位置（2）にして、確実にロックします。(図 4-8)

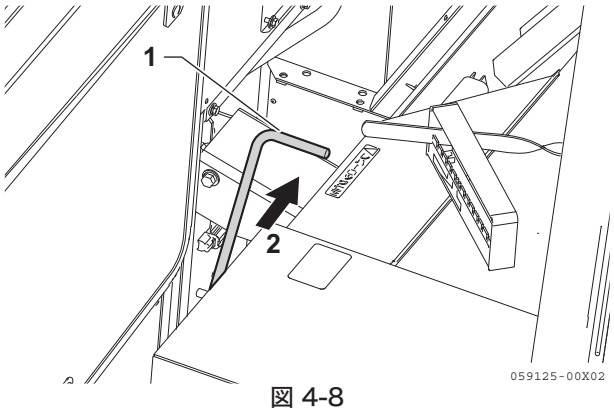


図 4-8

グレンタンクのオープンのしかた

⚠警告

グレンタンクを開くときは、つぎの事項を必ず守ってください。グレンタンク回動部が破損したり、回転部でケガをするおそれがあります。

- エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。
- グレンタンクを開く際は、周囲の安全を確かめながら、必ず二人以上で行ってください。

⚠注意

高温部分が十分に冷めてから行ってください。

[重要]

グレンタンク内にこく粒が入っている状態では、絶対に開かないでください。グレンタンク回転部の破損の原因となります。

オープンのしかた

1. グレンタンク内にこく粒が入ってるときは、こく粒をすべて排出します。(146ページ参照)
2. 排出後は、排出オーガクラッチスイッチ（1）を押して、ランプ（2）を消灯します。(図 4-9)

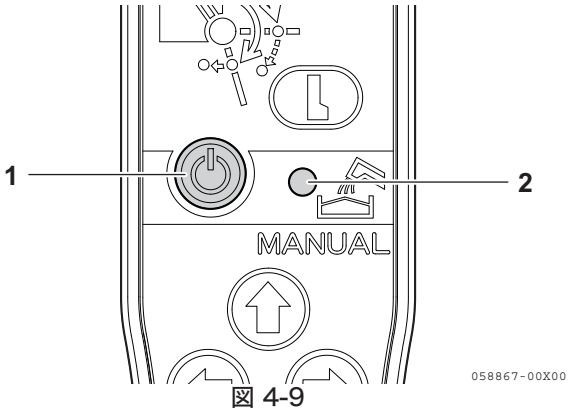


図 4-9

3. 排出オーガ（1）をオーガレスト（2）に収納します。(図 4-10)

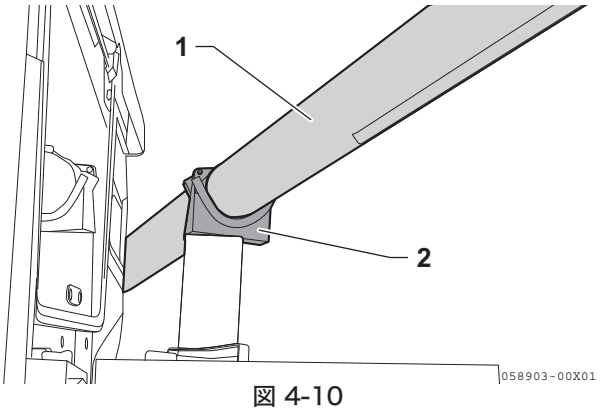


図 4-10

[重要]

排出オーガをオーガレストに収納しておかないと、オーガが動き周囲の物に当たるおそれがあります。

4. 作業クラッチレバー（1）を「OFF」位置（2）にします。（図 4-11）

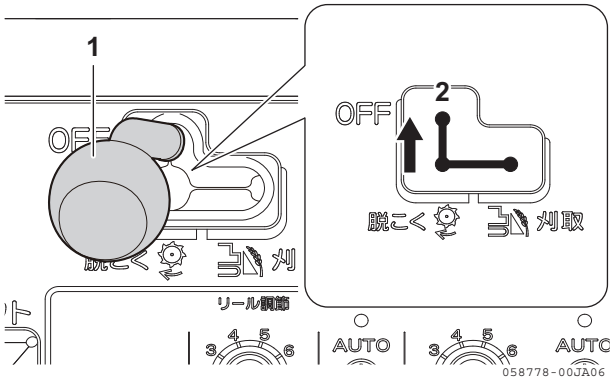


図 4-11

5. 駐車ブレーキをかけます。
6. エンジンを停止します。
7. エンジン右カバー（1）を開け、グレンタンク下部カバー（2）を外します。（図 4-12）

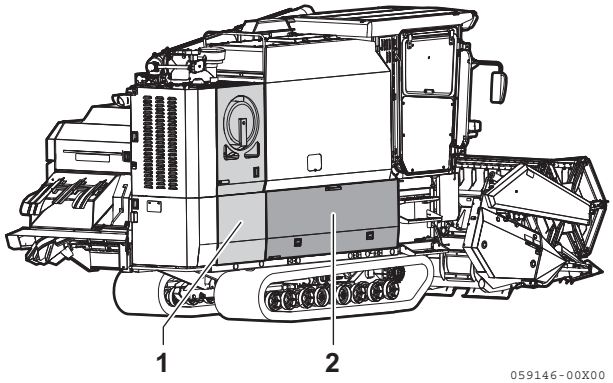


図 4-12

8. グレンタンク止めボルト（1）M12（1本）を外して、グレンタンクロックレバー（2）を解除します。（図 4-13）

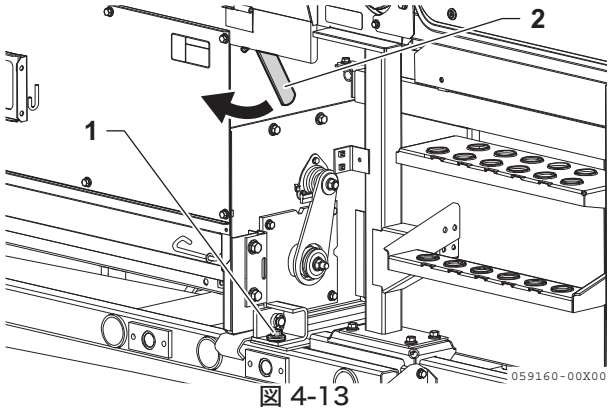


図 4-13

9. グレンタンクをゆっくりと手前に引き出します。（図 4-14）

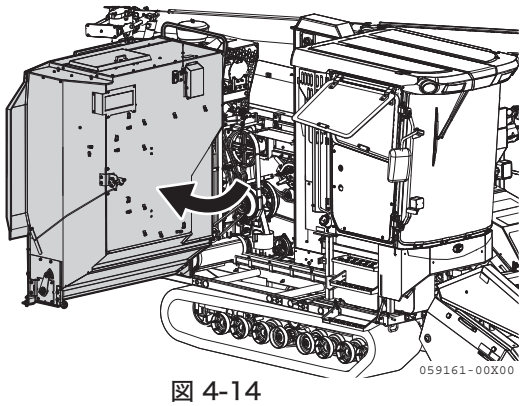


図 4-14

10. グレンタンクを収納するときは、逆の手順で行います。

[重要]

収納後は、グレンタンクが確実に収納されているか確認してください。

脱こく左前・左後カバーのオープンのしかた

1. 脱こく左後カバー（1）と脱こく左前カバー（2）を開きます。（図 4-15）

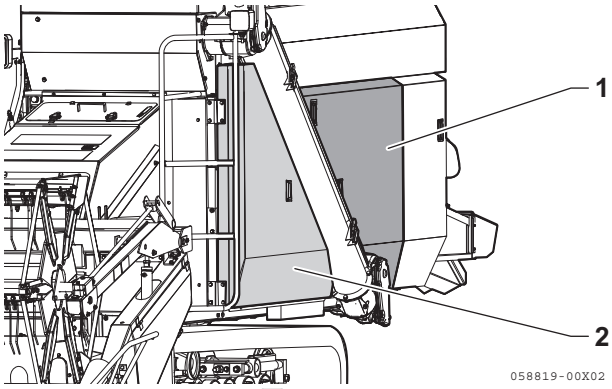


図 4-15

2. 脱こく左前カバーを開けた後はオープンロックレバーのフックを掛けて脱こく左前カバーを固定します。（図 4-16）

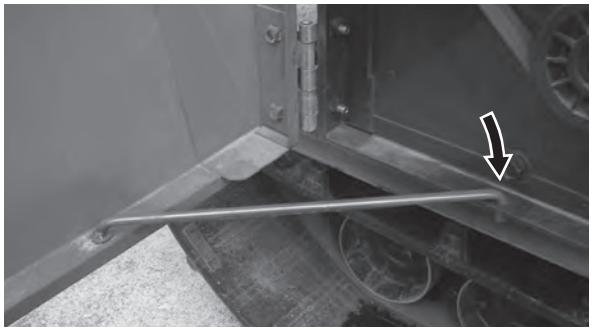


図 4-16

3. 脱こく左後カバーを開き、オープンロック（1）のピン（2）を差し替えて、脱こく左後カバーを固定します。(図 4-17)

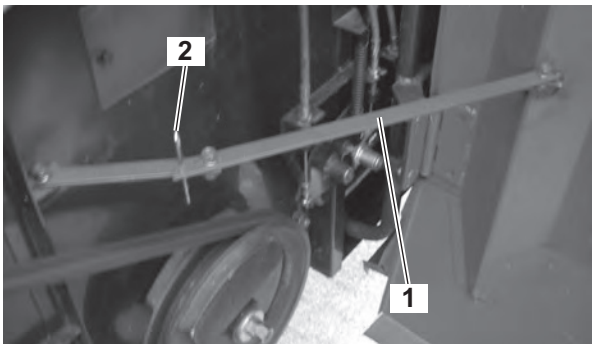


図 4-17

4. 脱こく左後カバーを閉めるときは、カバーの固定を解除してから閉めます。

[重要]

オープンロックが効いた状態で脱こく左後カバーを閉じると、オープンロックが破損しますので注意してください。

[参考]

スプレッダ左カバーの開けかたも上記と同じです。

エンジン後カバーのオープンのしかた

1. エンジン後カバーを開けます。(図 4-18)

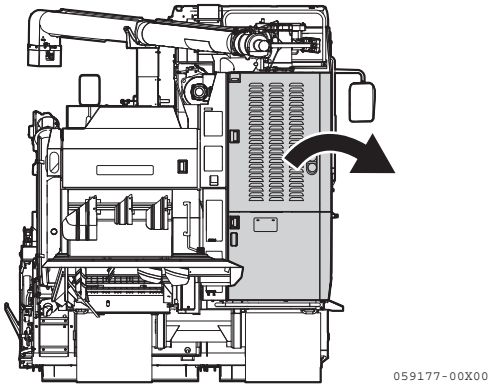


図 4-18

2. エンジン後カバーを開けた後は、オープンロックレバー（1）をフックに掛けて、エンジン後カバーを固定します。(図 4-19)

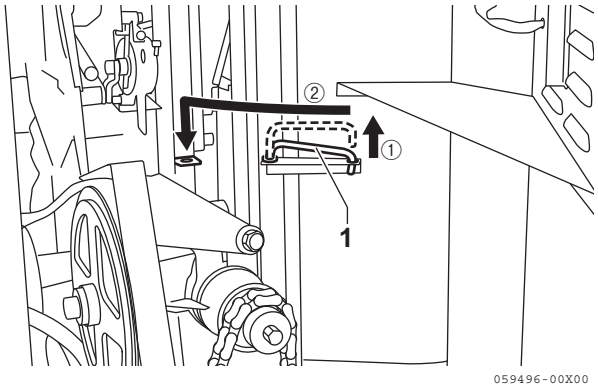


図 4-19

脱こく側板の外しかた

1. 脱こく左後カバーを開きます。
2. ロックレバー（1）を矢印方向に解除します。（図 4-20）

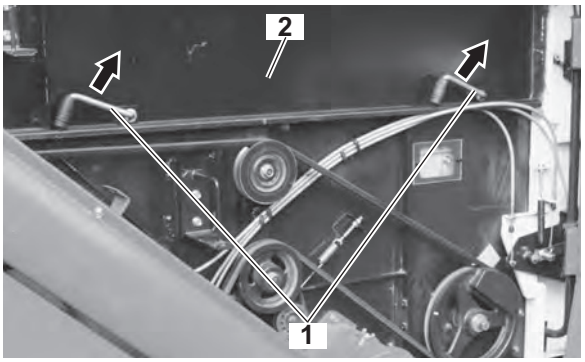


図 4-20

3. 脱こく側板（2）を手前に引き出します。（図 4-20）
4. 取り付けは、逆の手順で行います。

スプレッダ（オプション）のオープンのしかた

詳細は、スプレッダ取扱説明書をお読みください。

脱こく下網の脱着のしかた

⚠警告

作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転していますので、クラッチ「切」後ロータが回転している間は、絶対にカバーを開かないでください。

1. ロータカバーを開きます。
   （155ページ参照）
2. 下網（6枚）を固定しているボルト（1）M10×20（12本）を外します。（図 4-21）
3. 脱こく側板を外します。
   （159ページ参照）
4. 仕切り板後（2）のボルト（3）M10×30（1本）を外します。（図 4-21）

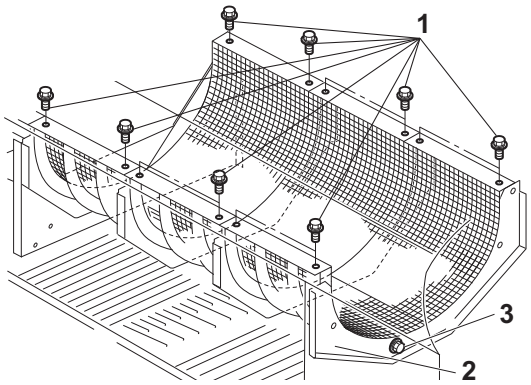


図 4-21

5. 下網を上方に抜き出します。（図 4-22）

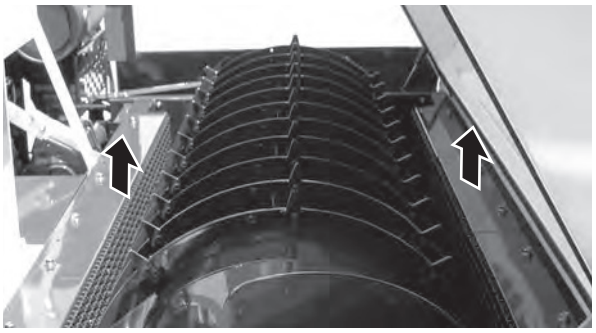


図 4-22

6. 下網の取り付けは、逆の手順で行い、最後に必ずロータカバーを閉めます。

作物が詰まっていて下網が抜けないとき

作業中に、ロータが詰まったときは、つぎの要領で取り除くことができます。

1. ロックナットをゆるめます。
2. ハンガーボルト（1）をA方向に回らなくなるまで、回します。ロータの前側が上がり、ロータが回りやすくなります。（図 4-23）

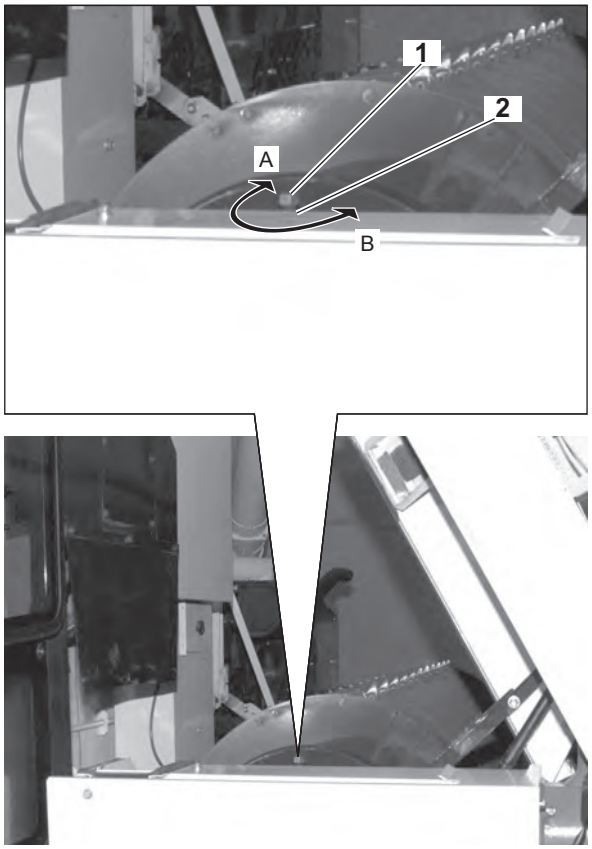


図 4-23

3. 詰まっている稈を取り除きます。この状態で、ロータが持ち上がり、すき間ができるので、下網が抜きやすくなります。
4. ハンガーボルトをB方向に回らなくなるまで、回してロータを下げ、ロックナット（2）を締めます。（図 4-23）

ヘッダ部の脱着のしかた

⚠警告

- ヘッダ部を外すと、コンバインは後重心になります。走行するときは、低速で行ってください。また、急な坂道を走行したり、あぜ越えをするときは、登りは後進、下りは前進で行ってください。
- ヘッダ部の脱着を行なうときは、地面が水平な場所にコンバインを止めて行ってください。
- フィーダハウス下部の固定ボルトを外すときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定していないと、刈取部が下がってケガをするおそれがあります。

[参考]

作業は、二人以上で行ってください。

1. エンジンを始動して（100ページ参照）、刈取部を地面から10cm以上、上げます。
2. エンジンを停止します。（102ページ参照）
3. フィーダハウス前方左下にある水平ロックピン（1）を、止めボルト（2）をゆるめて外します。（図 4-24）

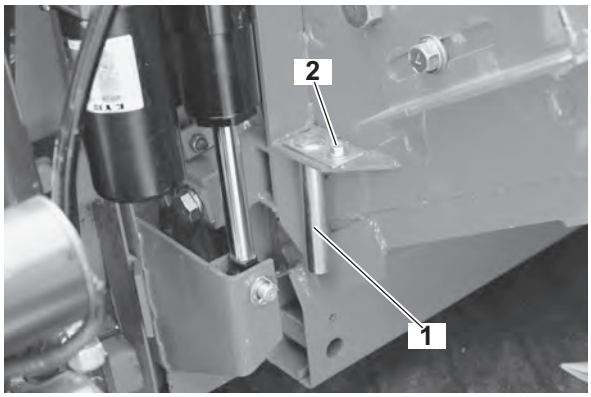


図 4-24

4. 水平ロックピン（1）を回動枠下部の穴に差し込んで、止めボルト（2）で固定します。（図 4-25）

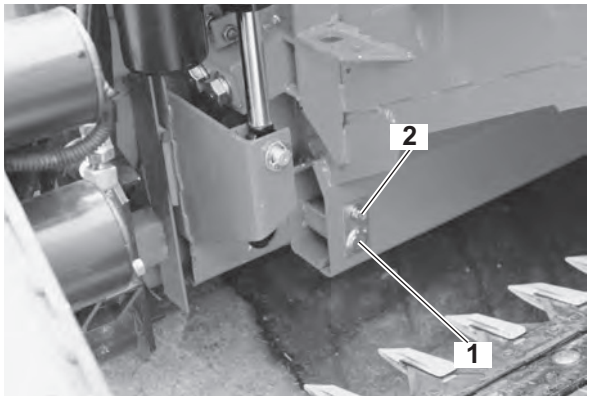


図 4-25

[参考]

回動枠下部の穴が合わないときは、つぎの手順で合わせてください。

1）水平ロックピンを差し込んでいる場合は、ピンを抜きます。
2）キースイッチを「ON」位置にします。
3）水平自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にします。
4）水平手動スイッチで穴を合わせます。

5. ヘッダ部（1）と刈刃（2）の下に角材（3）を入れます。（図 4-26）

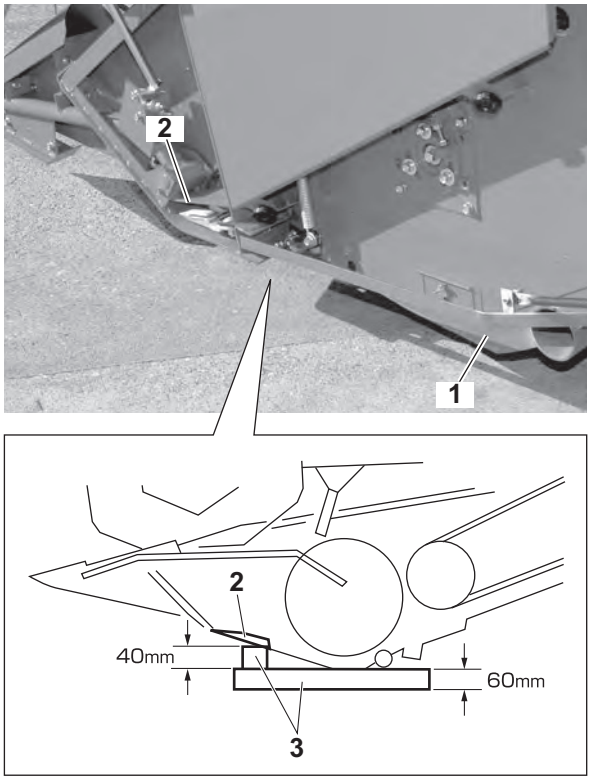


図 4-26

6. セカンドモア（オプション）を装着しているときは、エンジンを始動し、エア抜き用スイッチ（1）で、セカンドモアを下げて、地面に接地させます。（図 4-27）

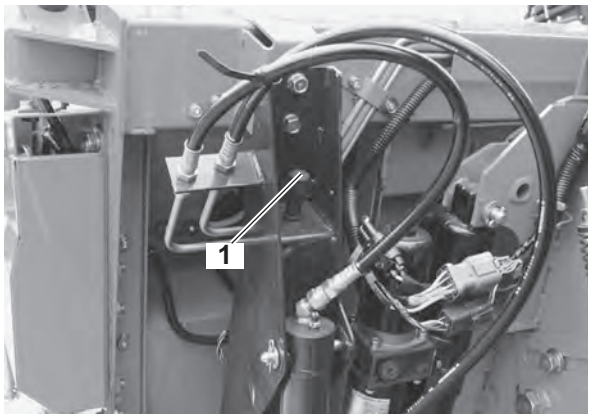


図 4-27

7. エンジンを始動して、刈取部を角材の上に降ろします。
8. リールを最下げ（1）・最後方位置（2）にします。（図 4-28）

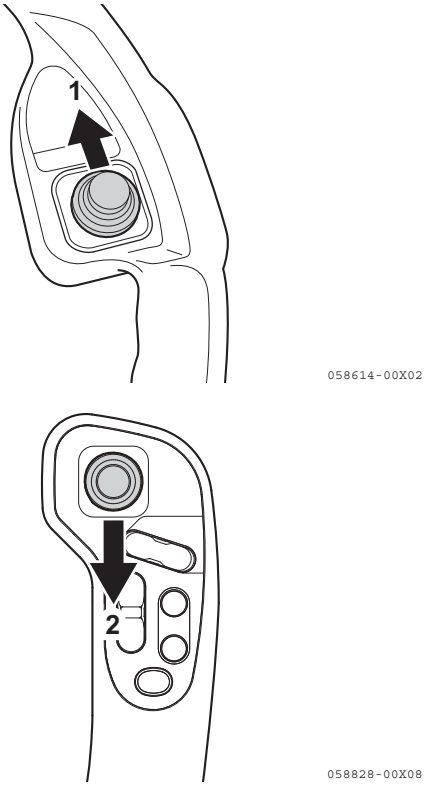


図 4-28

9. エンジンを停止します。（102ページ参照）

10. カバー（1）を上方に開き、油圧配管のワンタッチカプラ（2）（3本）、ワイヤーハーネスのカプラ（3）（3個）を外します。（図 4-29）

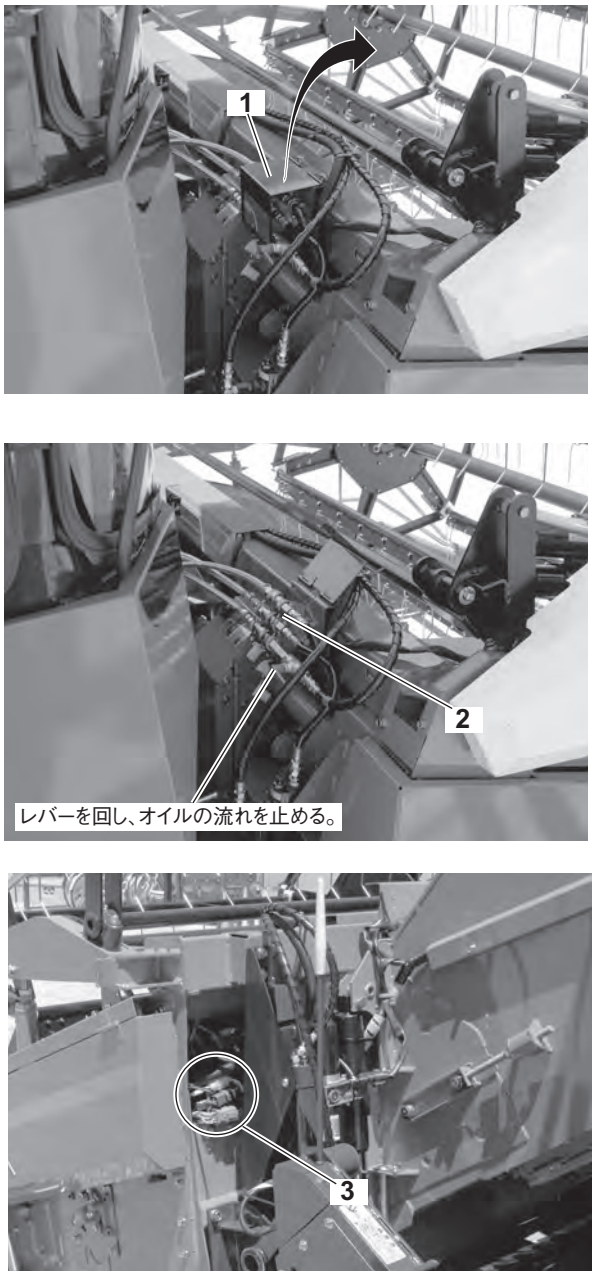


図 4-29

[参考]
ワンタッチカプラを外した後、オス・メスともにカバーを装着してください。

11. 軸カバー（1）を上方に開きます。（図 4-30）

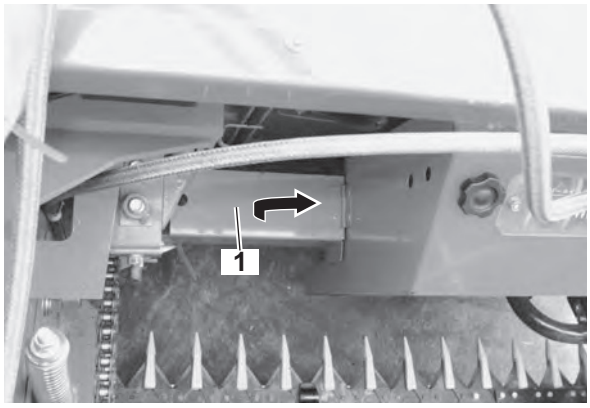


図 4-30

12. 軸継手（1）のRピン・平頭ピン（2）を外し、軸継手は右側（3）に寄せます。（Rピン・平頭ピンは紛失しないように保管します。）（図 4-31）

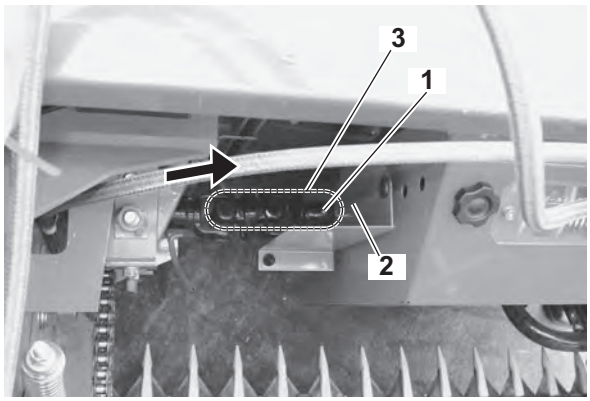


図 4-31

[重要]

軸継手は、必ず刈取部に付けておいてください。

13. エンジンを始動して、刈取部を上げて、刈取部ストッパで刈取部を固定します。
（168ページ参照）

14. フィーダハウス下部の固定ボルト（1）M16（2本）を外します。（図 4-32）

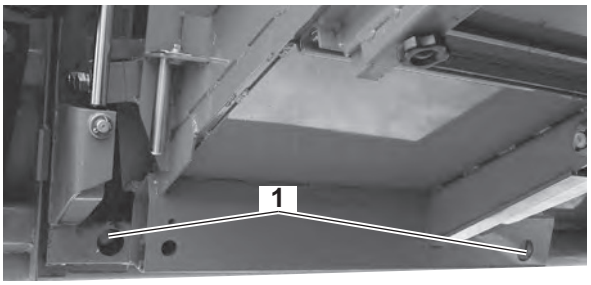


図 4-32

[参考]

固定ボルトを外すと、当て板が抜けるので、固定ボルトと一緒に紛失しないように保管してください。

15. 刈取部の固定を解除します。
16. フィーダハウスを下げます。

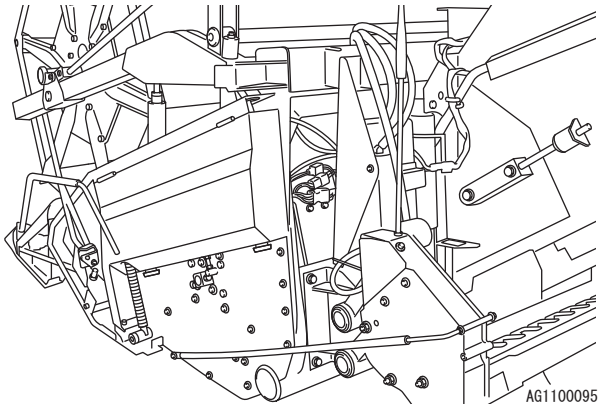


図 4-33

17. カプラ類が完全に切り離されているか確認した後、コンバインをゆっくり後進させます。

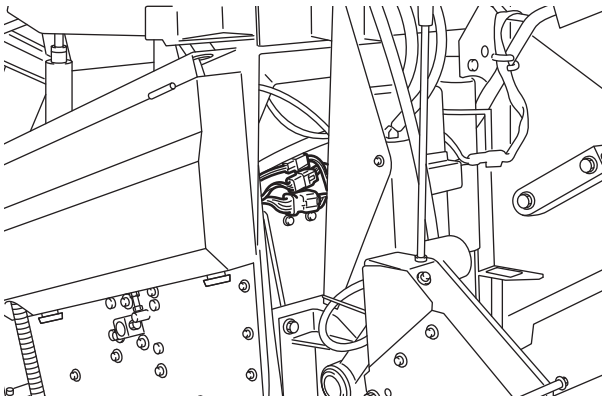


図 4-34

18. 以上でヘッダ部の取り外しは完了しました。ヘッダ部を装着する場合は、以上の逆の手順で行います。フィーダハウス下部の固定ボルト（1）M16（2本）を取り付けるときは、当て板（2）を下方から差し込んで、固定ボルトを締め付けます。（図 4-35）

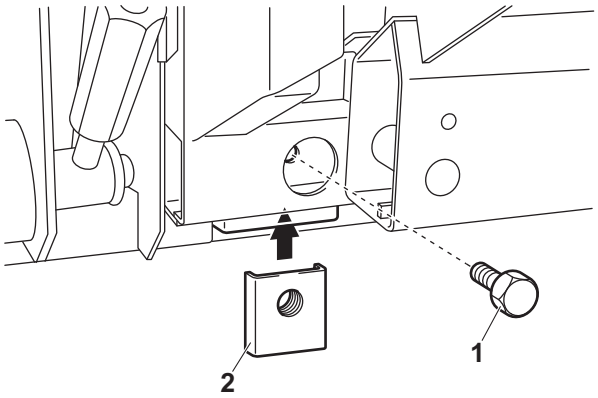


図 4-35

[重要]

ヘッダ部を外している状態で、リール昇降スイッチを操作すると、カプラ内の圧力が高圧になり、カプラが入りにくくなることがあります。入りにくい場合は、カプラをきれいなウエスで包み、カプラ先端の凸部をハンマーでたたいてください。オイルの圧力が抜けてカプラが入りやすくなります。

揺動装置の脱着のしかた

⚠注意

揺動ASYの質量は、約60kgあります。
コンバインから外すときは、2人以上で作業を行ってください。

1. スプレッダ（1）が装着されている場合は、スプレッダ左カバー（2）を外します。（図 4-36）
2. リヤカバー（3）を開き、スプレッダを130度開けます。（図 4-36）（159ページ参照）

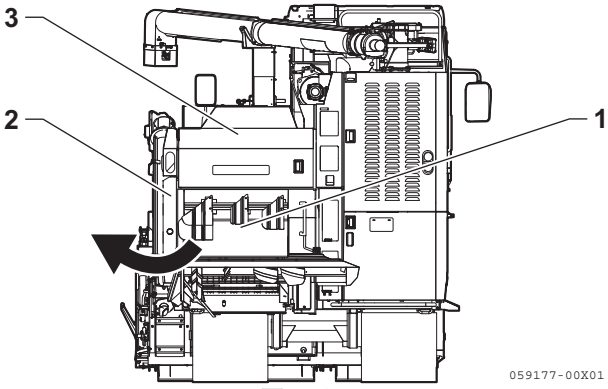


図 4-36

[重要]

スプレッダが装着されている場合は安全カバーをセットし、ストッパピンでスプレッダを固定していることを確認してください。

3. ボルト（1）M8（7本）を外し、スプレッダロックレバーガイドを外します。（図 4-37）

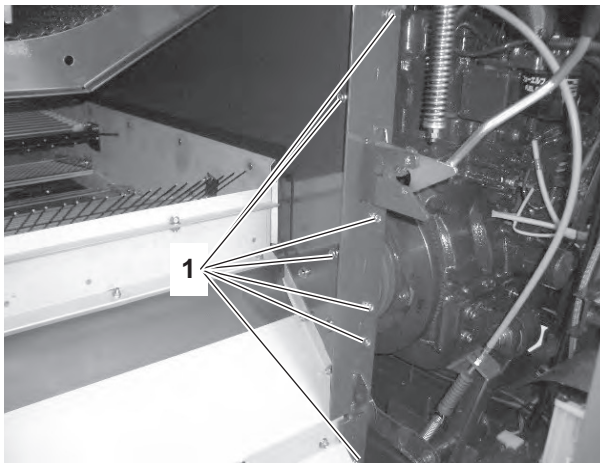


図 4-37

4. スプレッダ駆動ベルトのベルト押えのボルト M8（2本）を外します。

5. ボルト（1）M8（9 本）を外し、排塵樋カバー（2）を外します。(図 4-38)

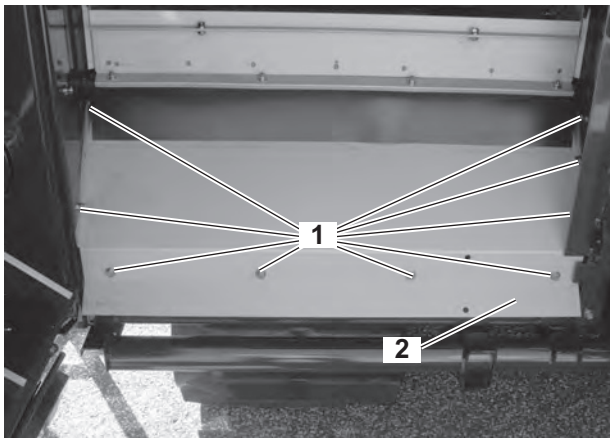


図 4-38

6. 揺動ASY後部からボルト（1）M12（左右各2本）を外します。(図 4-39)

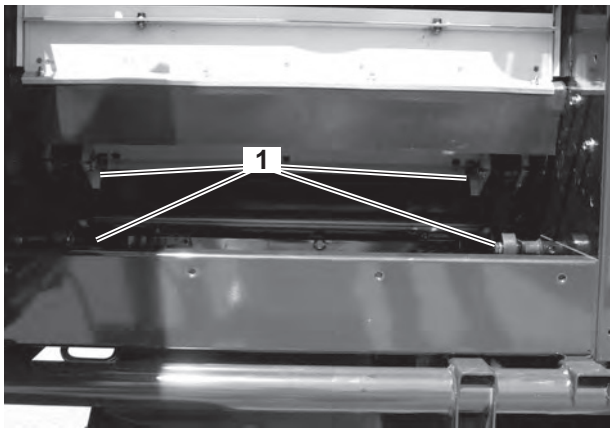


図 4-39

7. 脱こく左前（1）・左後カバー（2）を開きます。(図 4-40)（157ページ参照）

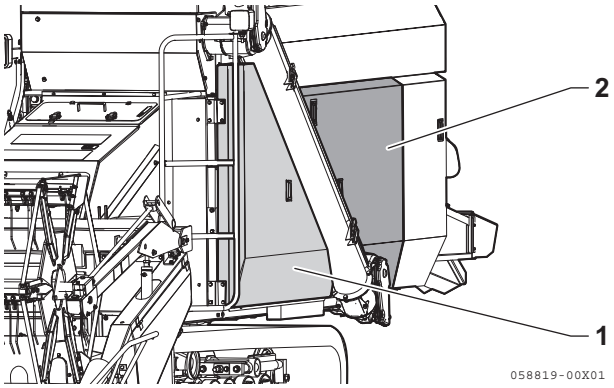


図 4-40

8. ボルト（1）M8（4本）を外し、チャフ連結アーム（2）を外します。(図 4-41)

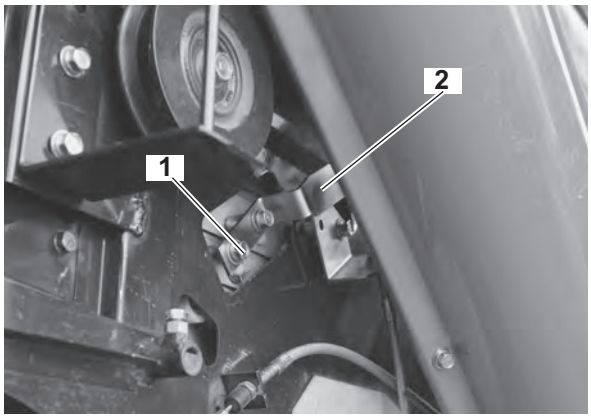


図 4-41

9. ロックレバー（1）を矢印方向に解除し、脱こく側板（2）を外します。(図 4-42)

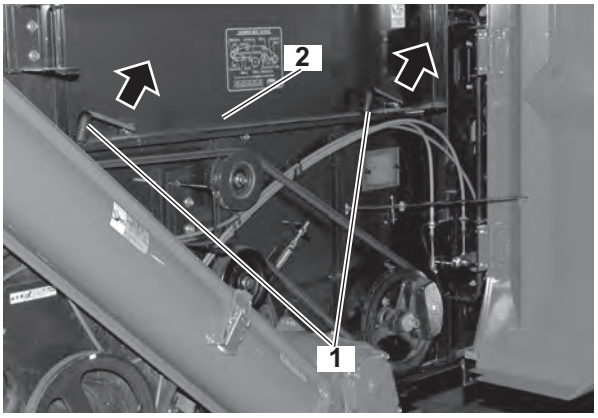


図 4-42

10. ボルト（1）M10（1本）を外し、スイングセレクターのアームを脱こく側板から切離します。(図 4-43)

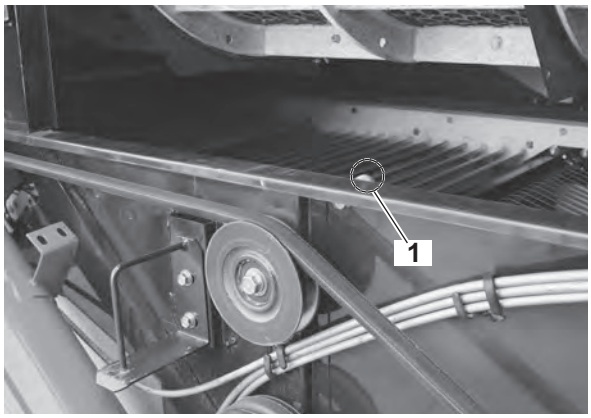


図 4-43

11. 揺動アーム支え（1）（左側）のボルト（2）M12（1本）を外します。(図 4-44)

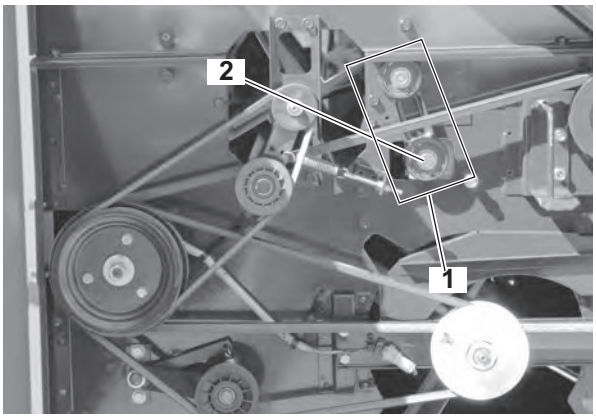


図 4-44

12. グレンタンクを開き（156ページ参照）し、揺動アーム支え（1）（右側）のボルト（2）M12（1本）を外します。(図 4-45)

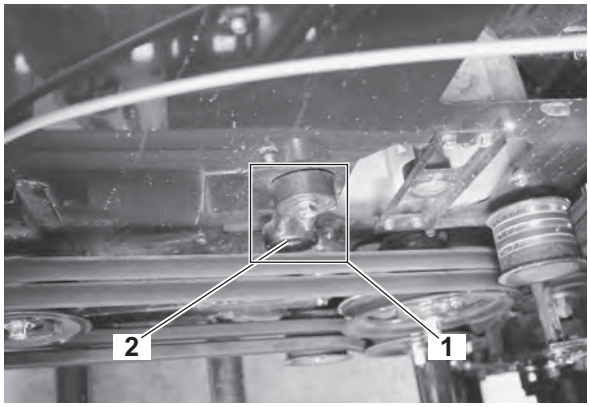


図 4-45

13. 二人以上で、揺動 ASY をしっかりと持ち、ゆっくり外します。
14. 揺動ASYを装着する場合は、逆の手順で行い、終わったらカバー類を元通りに取り付けます。

[重要]

こく粒のもれを防止するため、下図の通りセットしてください。1 番シール（1）・2 番シール（2）は各樋の上、揺動シール前（3）は揺動装置（4）の上にあることを確認してください。(図 4-46)

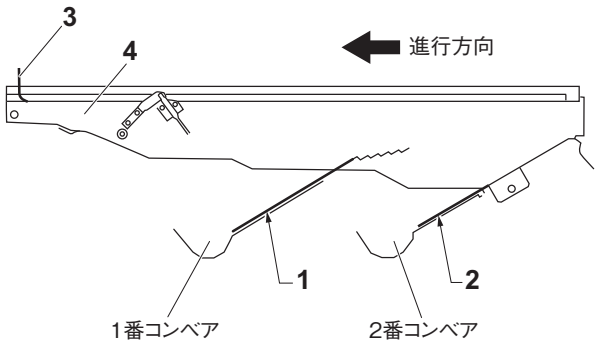


図 4-46

※図はコンバインを左側から見ています。

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが高温の間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが高温の間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

⚠警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてから行ってください。回転部に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインが転倒するなど思わぬ事故の原因になります。
- 刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってケガをするおそれがあります。
- 点検・整備や修理をするときは、作業に適した服装をしてください。
  - ・だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
  - ・滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
  - ・ヘルメットを着用してください。
  - ・はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
  - ・音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

  コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒して傷害事故につながるおそれがあります。

⚠警告

- 点検・整備をするときは、可動部で手足を挟んだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、高温部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- 高い所の手入れをするときは、脚立などを用いて行ってください。エンジンルームなどの上に直接登ると、高温の場所もあり危険です。

コンバインの洗浄のしかた

その日の内にコンバインを水洗いし、水洗い後はつぎに従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているごみを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端などサビやすい所にグリスを塗る。
- チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油する。（175ページ参照）

[重要]

水洗いをするときは、センサ・スイッチ・パネル・コントローラ付近、およびエンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。（図 4-47）



図 4-47

刈取部ストッパ(刈取部固定)のセットのしかた

⚠警告

刈取部の下で点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止して、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってケガをするおそれがあります。

固定のしかた

1. エンジンを始動します。
2. オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチ（1）の「上昇」側（2）を押して、刈取部を最上位置にします。(図 4-48)

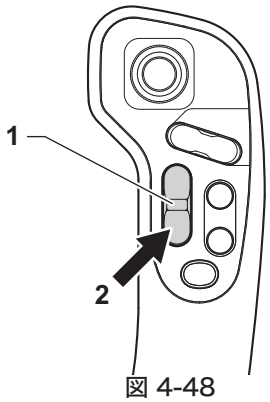


図 4-48

3. エンジンを停止します。
4. ストッパ受け（1）から刈取部ストッパ（2）を降ろします。(図 4-49)

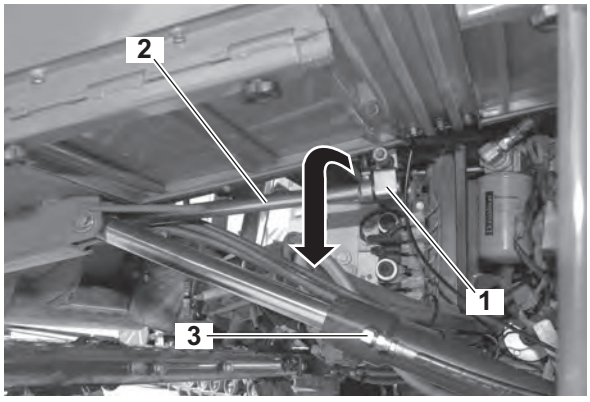


図 4-49

5. 油圧シリンダ（3）側のフックに刈取部ストッパをはめて固定します。(図 4-49)
6. エンジンを始動して、刈取部が固定されるまで刈取部を下げてエンジンを停止します。

[重要]

刈取部ストッパが固定位置に確実に掛かっていることを確認してください。

固定の解除のしかた

1. エンジンを始動します。
2. オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチ（1）の「上昇」側（2）を押して、刈取部を最上位置にします。(図 4-50)

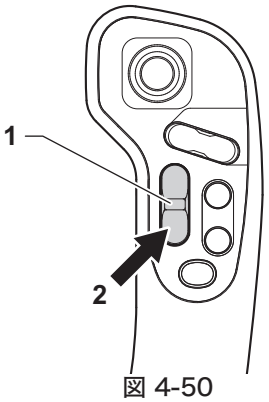


図 4-50

3. エンジンを停止します。
4. 刈取部ストッパ（1）を持ち上げて、ストッパ受け（2）に刈取部ストッパをのせます。(図 4-51)

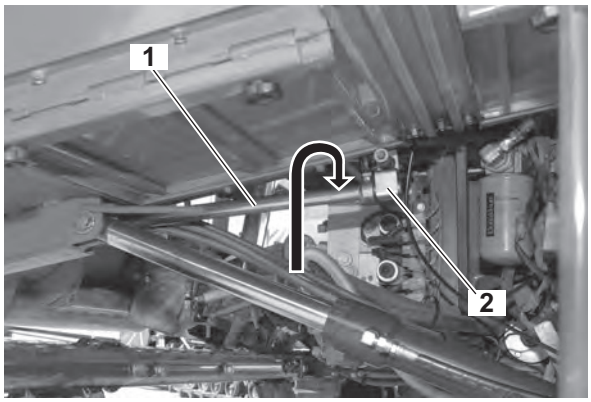


図 4-51

5. エンジンを始動して、刈取部を下げます。

[重要]

移動走行時は、刈取部ストッパを使用しないでください。

刈取部を上昇させて輸送する場合は、必ず刈取部ストッパを使用してください。

リールストッパのかけかた

⚠警告

リールの下で作業するときは、必ずストップバルブのレバーをロックしてください。
リールが下降して、ケガをするおそれがあります。

1. 刈取部（1）を路面に設置するまで下降（2）させ、リール（3）を最上げにしてエンジンを停止します。（図 4-52）

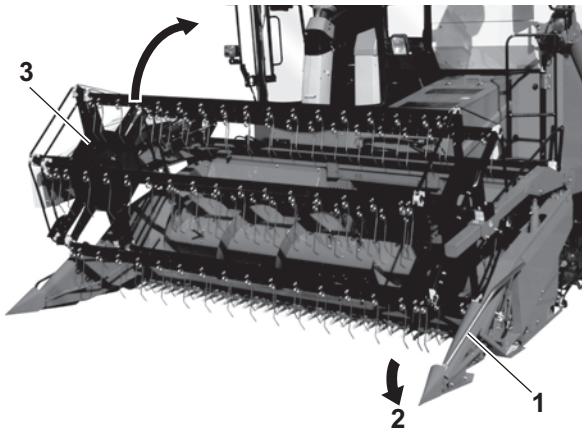


図 4-52

2. リールのストップバルブレバー（1）を水平位置（解除）から反時計方向に90度操作しロックします。リール昇降の油圧がロックされリールストッパがかかります。（図 4-53）

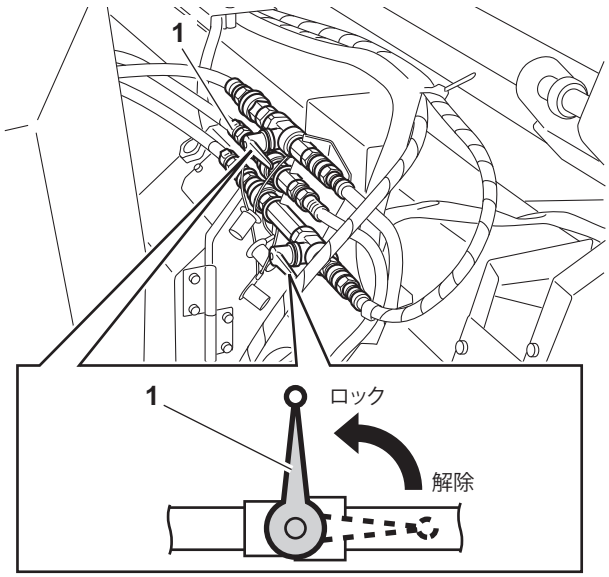


図 4-53

[重要]
再度、刈取作業をする場合は、ストップバルブのレバーを解除してください。

[参考]
解除するときは、逆の手順で操作してください。

刈取ストップバルブのかけかた

⚠警告

刈取部の下で点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止してください。刈取ストップバルブではなく、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってケガをするおそれがあります。

1. エンジンを始動します。
2. オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチ（1）の「上昇」側（2）を押して、刈取部を任意の位置にします。（図 4-54）

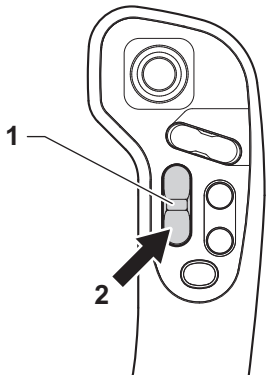


図 4-54

3. エンジンを停止します。
4. 刈取ストップバルブ（1）を解除から反時計方向に 90 度操作しロックします。刈取昇降の油圧がロックされ刈取昇降ストッパがかかります。（図 4-55）

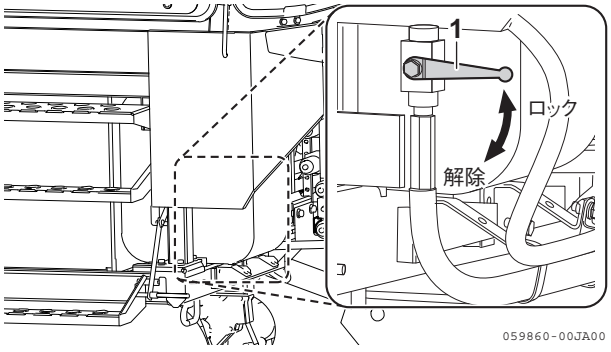


図 4-55

[重要]
再度、刈取作業をする場合は、ストップバルブのレバーを解除してください。

[参考]
解除するときは、逆の手順で操作してください。

各部の掃除のしかた

⚠警告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- エンジンをかけたまま手入れをすると、刈刃などで手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

⚠注意

掃除をした後は、外したカバーや開いた箇所を元に戻してください。

掃除口による掃除箇所

異品種や稲・麦の混種を防ぎ、脱こく内部に残留しているこく粒を取り除くために、各部の掃除口を開き、きれいに掃除してください。

■ 排出オーガ上部受継

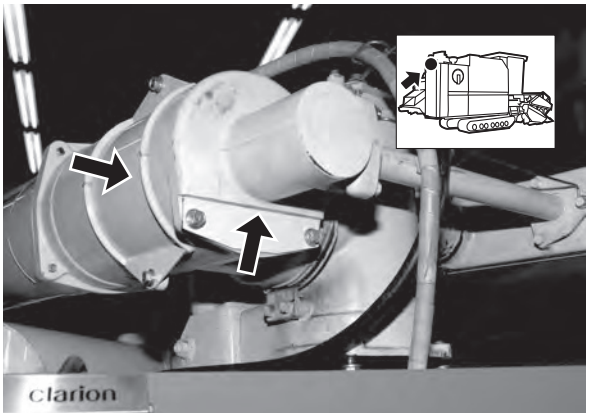
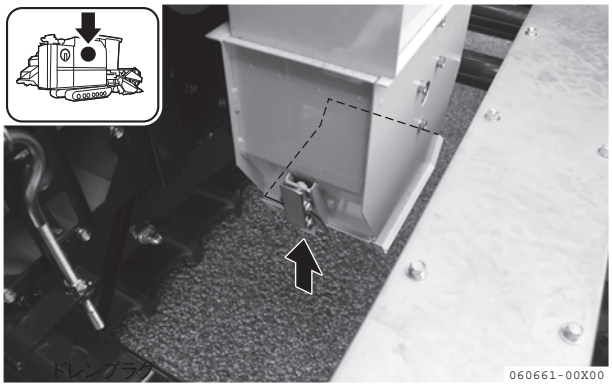


図 4-56 排出オーガ上部受継

■ バケット掃除口（昇降機底蓋）



※グレンタンクを開いています。

図 4-57 バケット掃除口（昇降機底蓋）

■ グレンタンク右側板・グレン下部

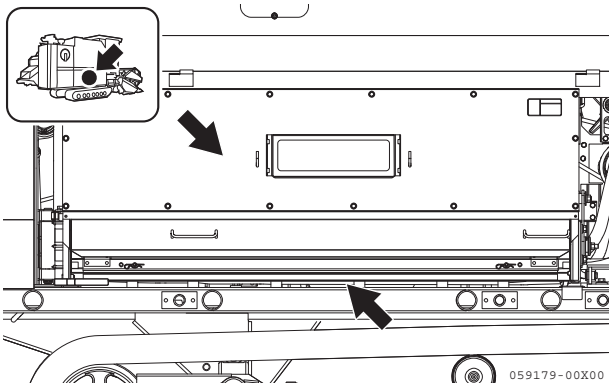


図 4-58 グレンタンク右側板・グレン下部

■ グレン下部パイプ・グレン下部受継

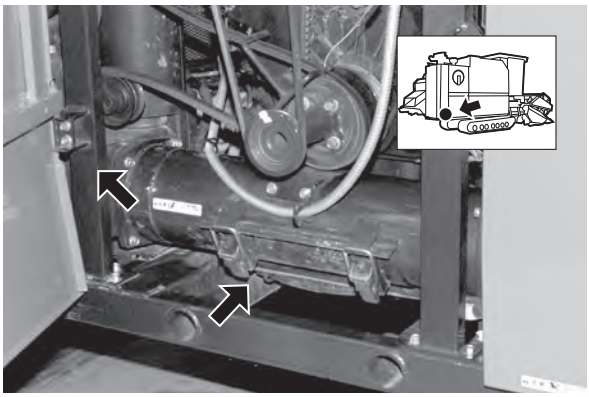


図 4-59 グレン下部パイプ・グレン下部受継

■ グレン下部受継ケース

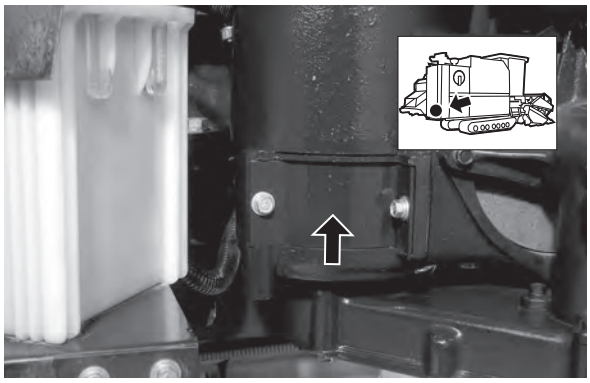


図 4-60 グレン下部受継ケース

■ フィーダハウス下

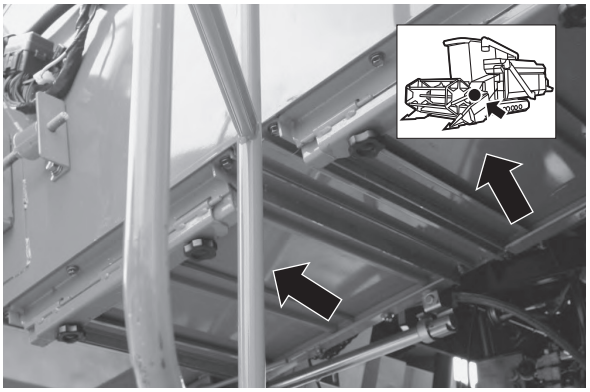


図 4-61 フィーダハウス下

■ ロータカバー

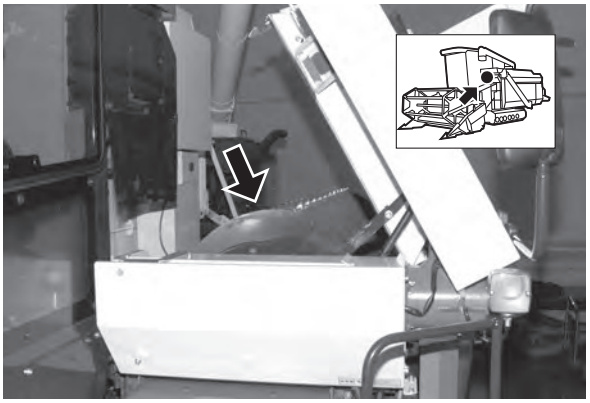


図 4-62 ロータカバー

■ 1番樋

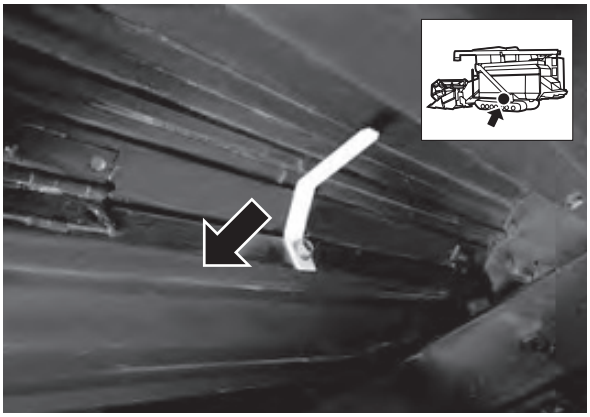


図 4-63 1番樋

■ 2番樋

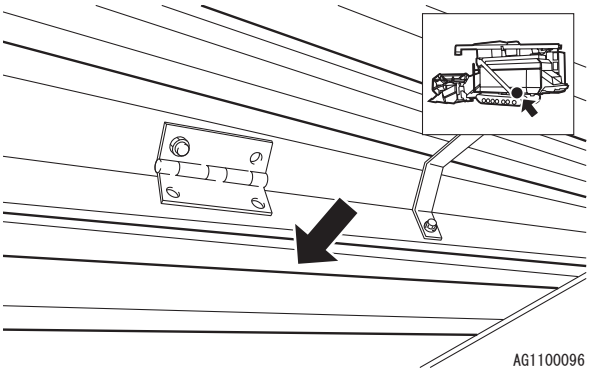


図 4-64 2番樋

■ フィーダハウス

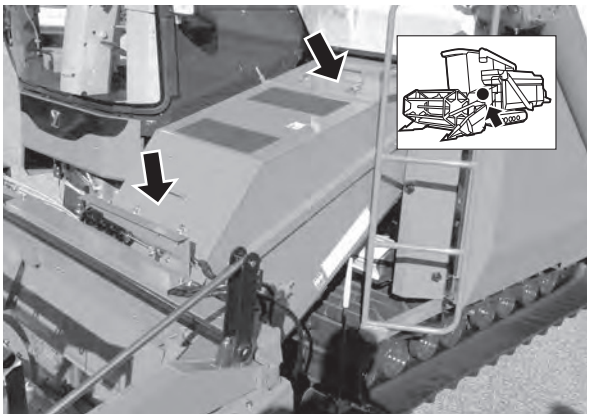


図 4-65 フィーダハウス

■ 2番受継下部

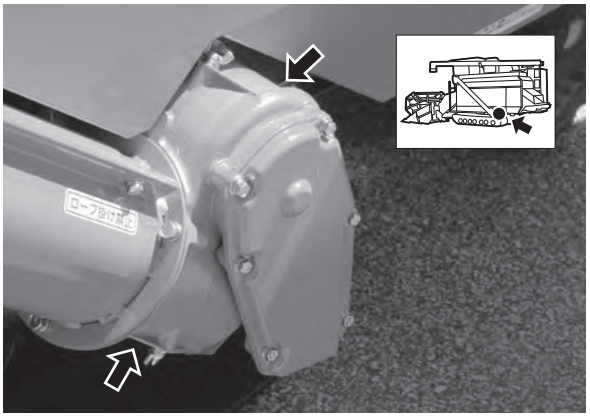


図 4-66 2番受継下部

■ 揺動装置

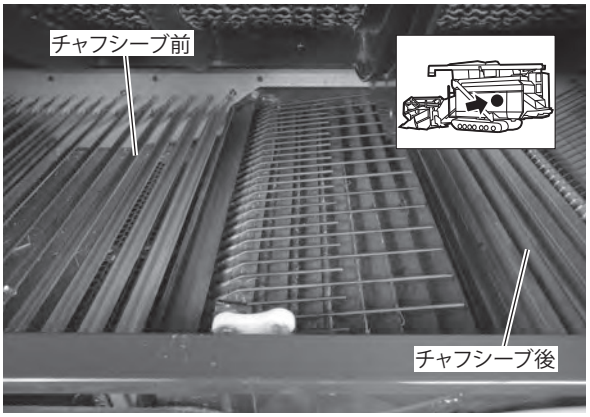


図 4-67 揺動装置

■ 2番縦コンベアパイプ

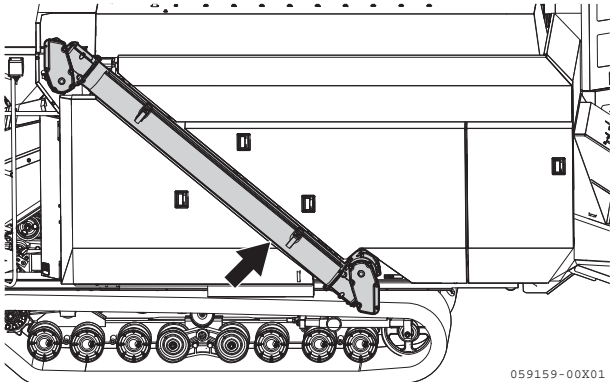
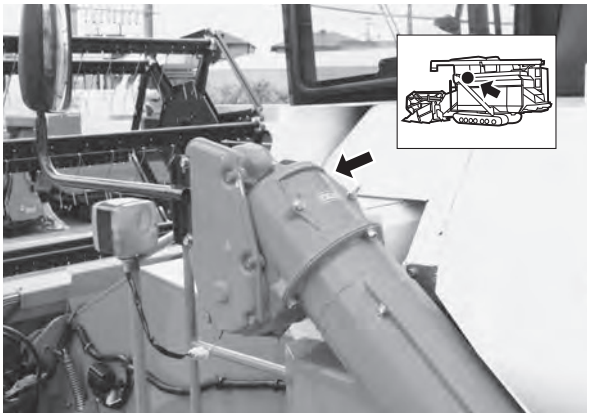


図 4-68 2番縦コンベアパイプ

■ 2番受継上部



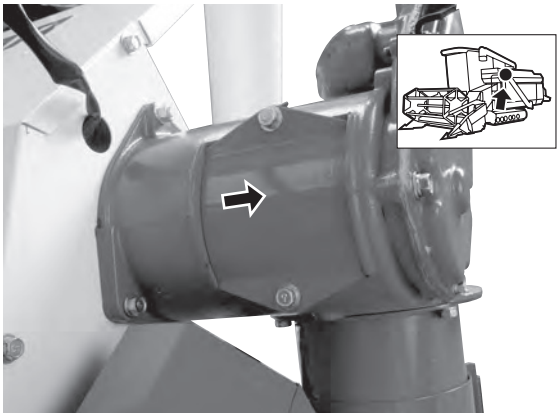


図 4-69 2番受継上部

■ 2番コンベア(上)

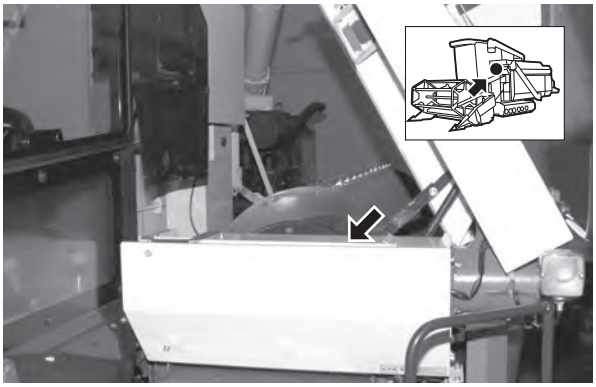


図 4-70 2番コンベア（上）

■ 2番コンベア樋（上）

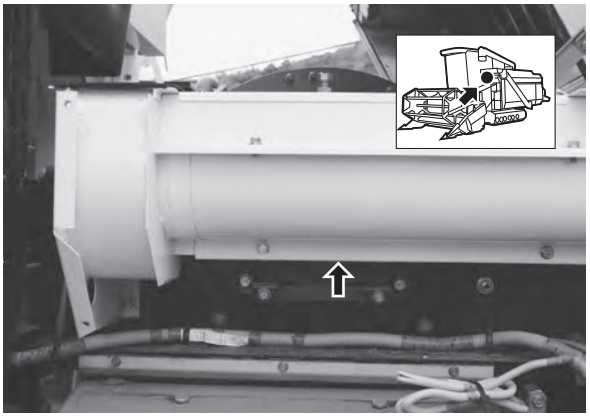


図 4-71 2番コンベア樋（上）

■ プラットホーム横

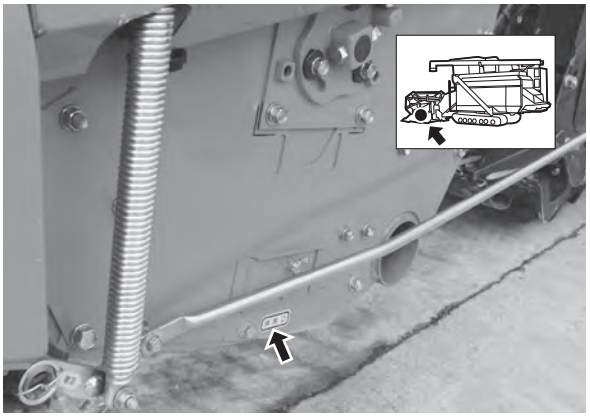


図 4-72 プラットホーム横

■ フィーダハウス前部

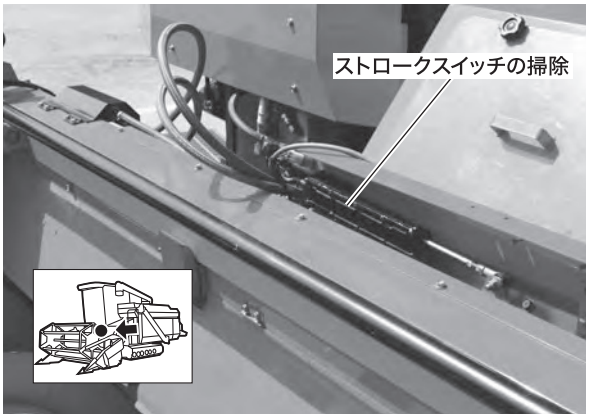


図 4-73 フィーダハウス前部

[重要]

ガイド板にこく粒・塵などが付着していると、電動シリンダのリミットクラッチが働き、水平制御が作動しないことがあります。

グレンシーブの掃除のしかた

グレンシーブの清掃は、揺動装置をコンバインに装着した状態とコンバインから外した状態のいずれでも清掃を行うことができます。

コンバインに揺動装置を装着した状態で行なうときには、ボルト等を落とさないように注意してください。

〈揺動装置をコンバインに装着した状態での掃除〉

1. 脱こく左後カバーを開きます。（図 4-74）

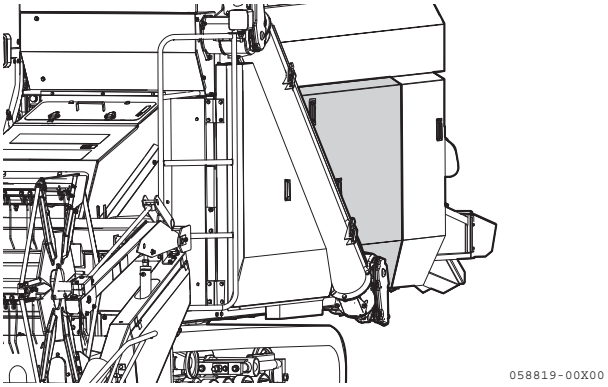


図 4-74

2. ロックレバー（1）を矢印方向に解除し、脱こく側板（2）を外します。（図 4-75）

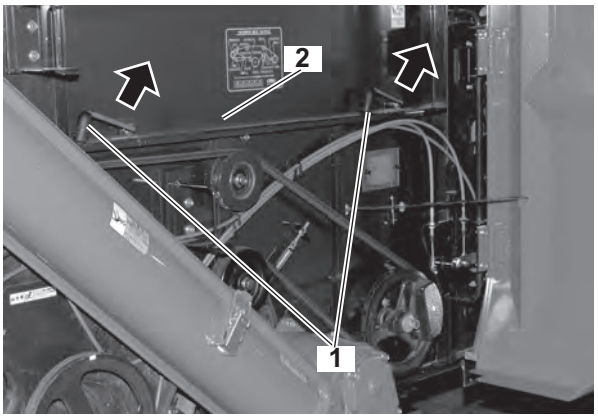


図 4-75

3. ネジ（1）M6（4本）を外し、チャフシーブ（2）2枚を外します。（図 4-76）

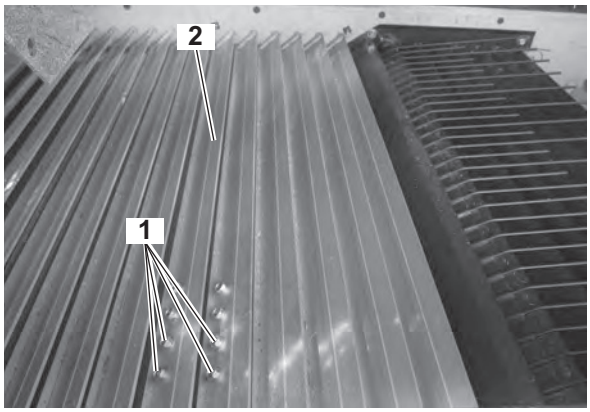


図 4-76

4. グレンシーブ（1）に溜まったこく粒を掃除します。（図 4-77）

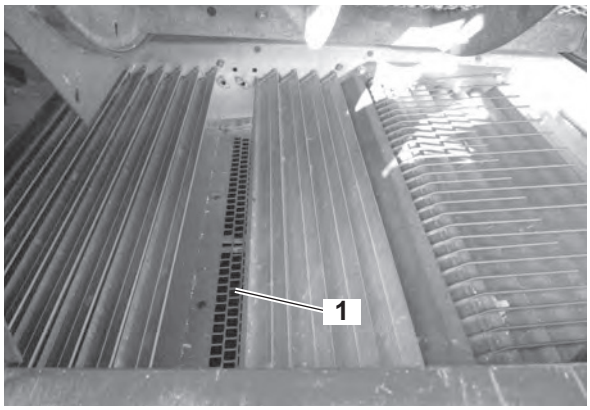


図 4-77

ロータ後端部の掃除のしかた

1. リヤカバーを開きます。
2. チョウボルト（1）を外し、掃除ロフタ（2）を外します。（図 4-78）

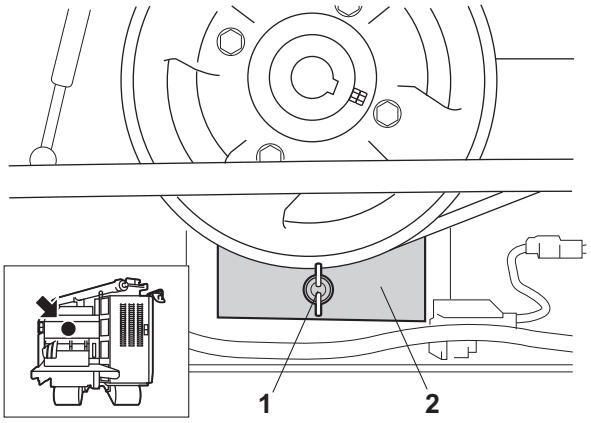


図 4-78

3. 毎日の作業前に清掃します。

掃除および清掃について

1. エアガンまたはブロアで、機内に残ったこく粒・塵などを除去します。搬送部・選別部を重点的に掃除します。
2. 各部を圧水洗浄します。洗浄後、エアコンプレッサで、付着した水を除去します。

排気フィルター関係の掃除のしかた

⚠注意

高温部分が十分に冷めてから行ってください、ヤケドをするおそれがあります。

1. エンジン後カバーおよびグレンタンクを開きます。(156・158ページ参照)
2. 排出ガス出口（1）および連結パイプ付近（2）に堆積、付着しているワラクズなどを掃除します。(図 4-79)

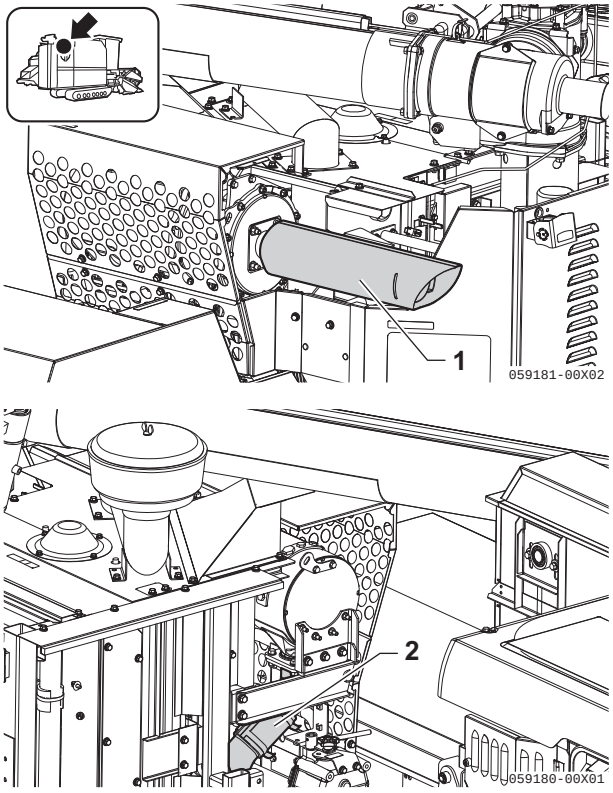


図 4-79

各部の注油のしかた

⚠注意

注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

注油：

※ 刈刃・フィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

食品機械用潤滑スプレー：

表 4-1 品名、オプション部品

品　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	NX127

[参考]

低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

リール駆動チェン

1. リールチェンカバーを外します。(153 ページ参照)
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

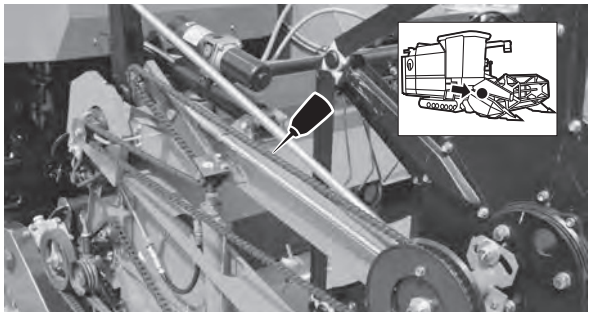


図 4-80 リール駆動チェン

リールカウンタチェン

1. 刈取サイドカバー右を外します。(153 ページ参照)
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

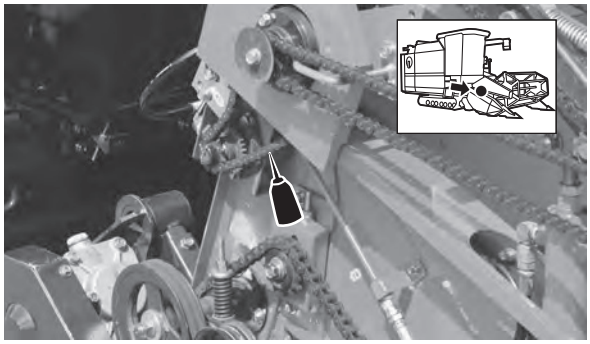


図 4-81 リールカウンタチェン

プラットホームオーガ駆動チェン

1. 刈取サイドカバー右を外します。(153 ページ参照)
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

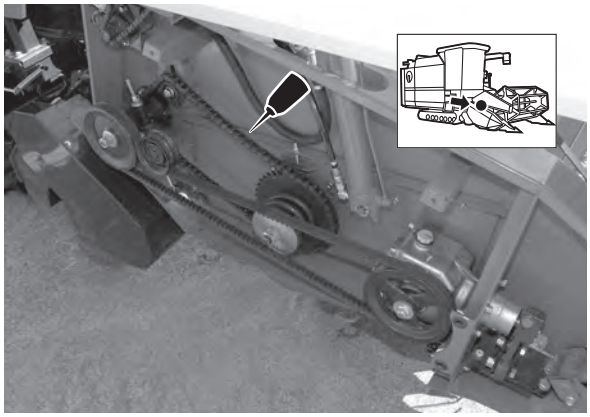


図 4-82 プラットホームオーガ駆動チェン

センサソリ

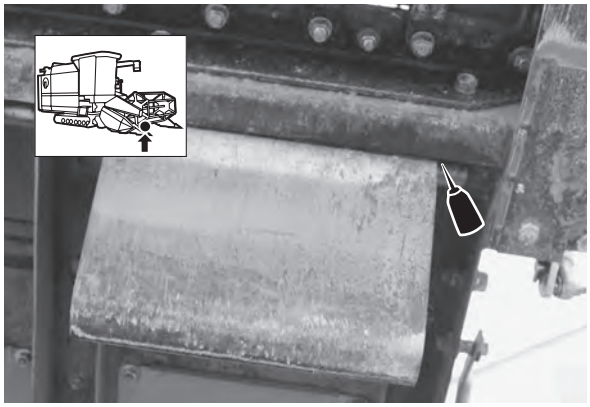


図 4-83 センサソリ

フィーダチェン

1. フィーダハウス上カバーを外します。(153 ページ参照)
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

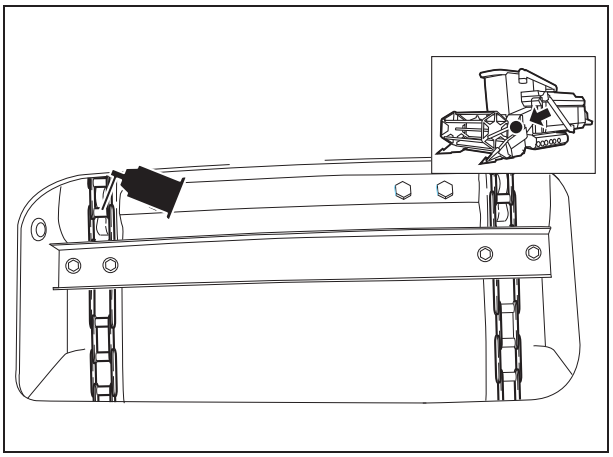


図 4-84 フィーダチェン

刈刃

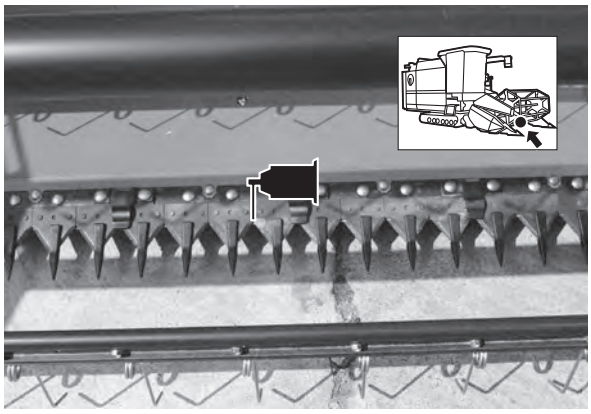


図 4-85 刈刃

刈取駆動チェン

刈取駆動チェン（1）の注油（①, ②）は、チェン用オイルまたはエンジンオイル 10W-30 を使用し、毎日注油します。（図 4-86）

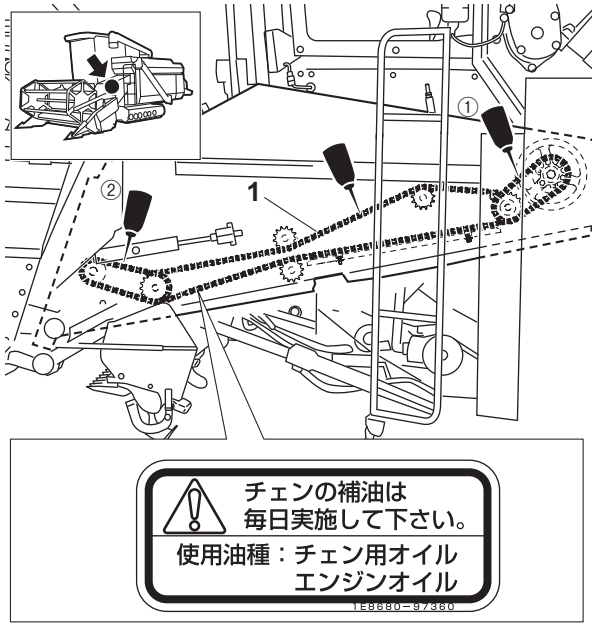


図 4-86

下部コンベア駆動チェン

1. エンジン後カバーを開きます。（158ページ参照）
2. 注油作業後、元通りに閉じます。

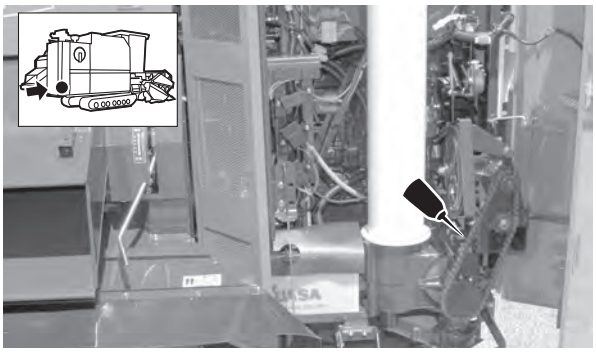


図 4-87 下部コンベア駆動チェン

グリスアップのしかた

掃除をした後、下図の位置にグリスアップを行ってください。

PFシリンダ支点ピン

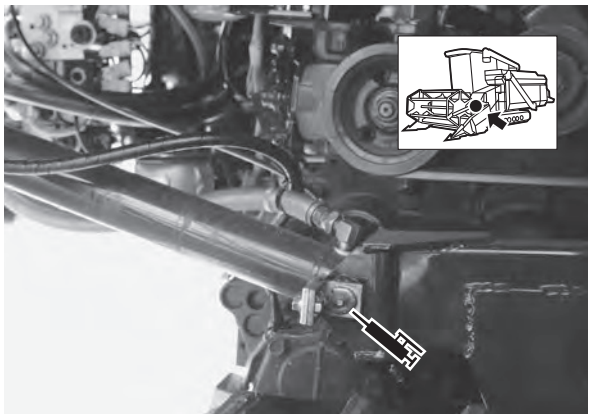


図 4-88 PFシリンダ支点ピン

リール変速プーリ（上）

1. リール変速ベルトカバーを外します。
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

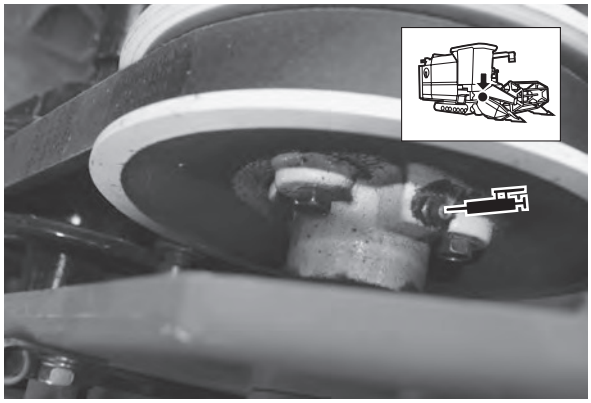


図 4-89 リール変速プーリ（上）

リール変速プーリ(下)

1. リール変速ベルトカバーを外します。
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

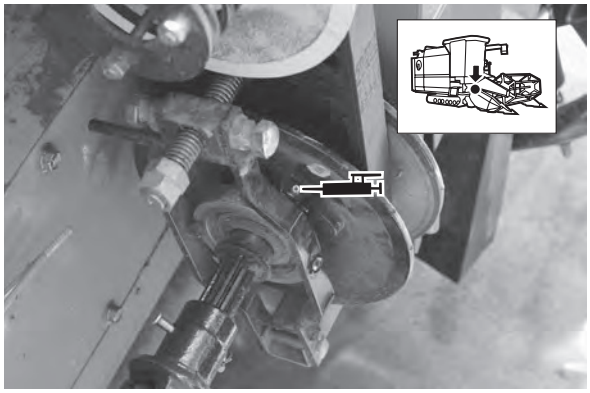


図 4-90 リール変速プーリ（下）

フィーダハウス回動支点右部

1. 脱こく左前カバーを外します。(153ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

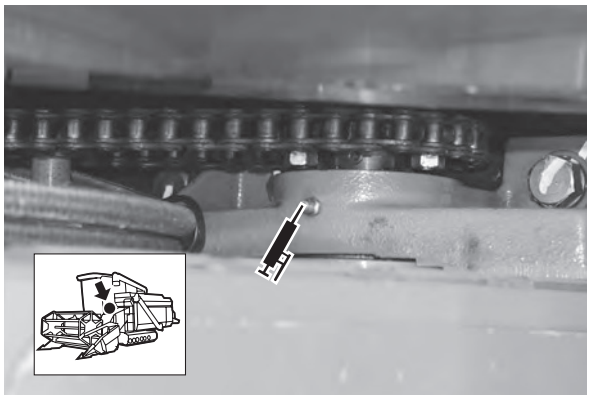


図 4-91 フィーダハウス回動支点右部

フィーダハウス回動支点左部

1. フィーダハウス右後カバーを外します。
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

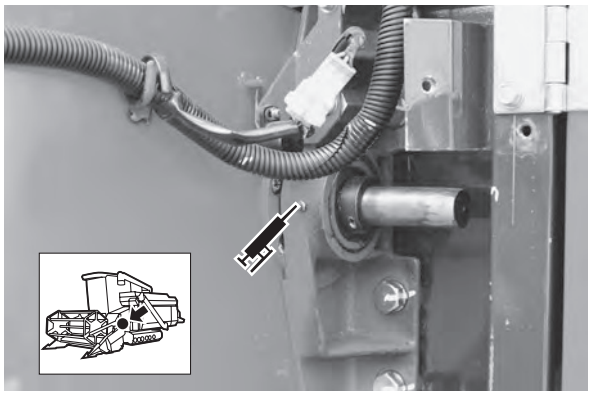


図 4-92 フィーダハウス回動支点左部

ロータ軸受部後部

1. ロータカバーを開きます。(155ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに閉じます。

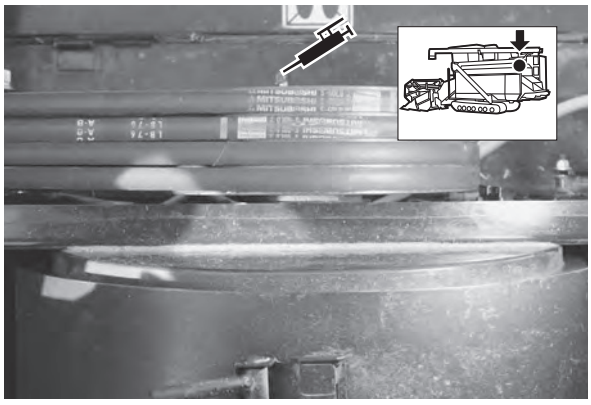


図 4-93 ロータ軸受部後部

縦オーガ回動部(上)

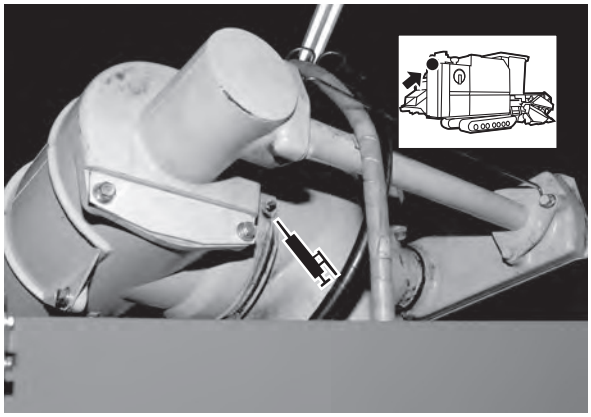


図 4-94 縦オーガ回動部（上）

縦オーガ回動部(中)

1. エンジン後カバーを開きます。(158ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに閉じます。

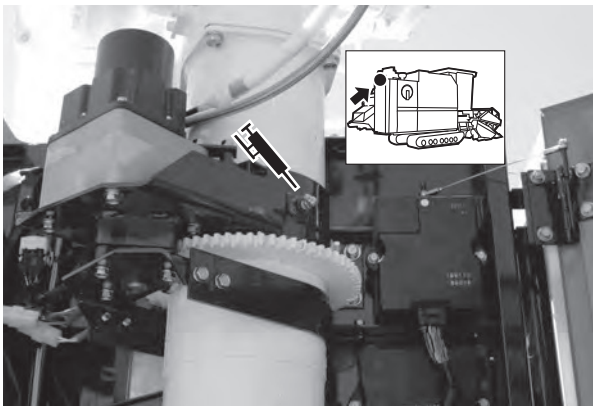


図 4-95 縦オーガ回動部（中）

イコライザ･キャリアローラ(左右各2箇所)

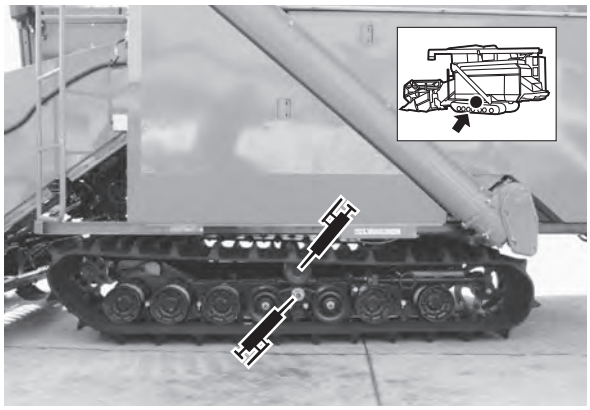


図 4-96 イコライザ・キャリアローラ（左右各2箇所）

カウンタテンションアーム軸

1. グレンタンクを開きます。(156ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに閉じます。

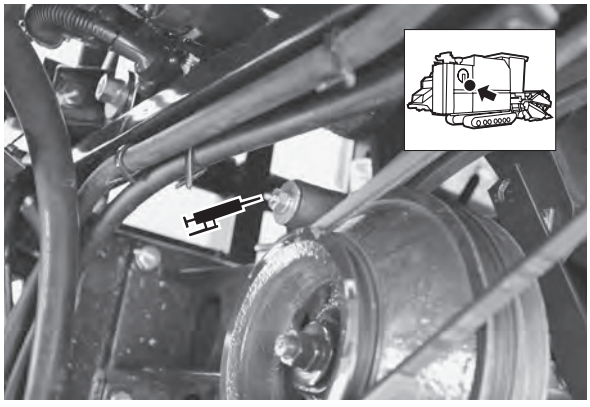


図 4-97 カウンタテンションアーム軸

ロータ軸受部前部

1. 2番樋カバー前を外します。(M8ボルト ×4本)
   (153ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

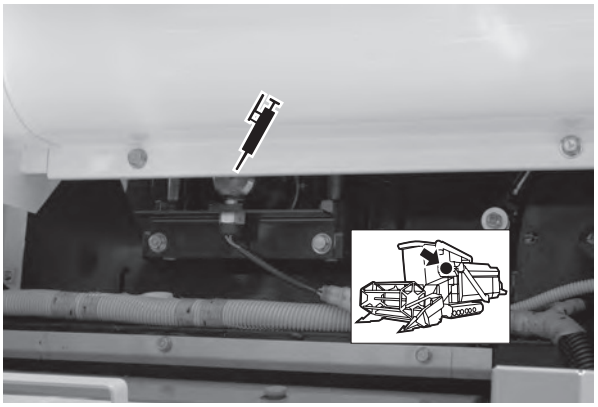


図 4-98 ロータ軸受部前部

刈取テンションアーム軸

1. 刈取部を最上位位置にし、刈取部ストッパで固定します。
2. 刈取テンションアーム軸部の穴よりグリスアップします。

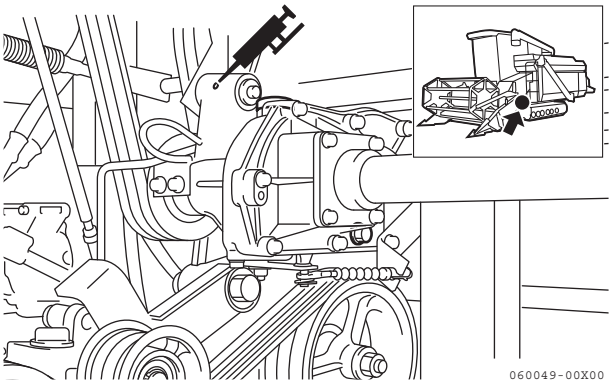


図 4-99 刈取テンションアーム軸

点検・整備のしかた

⚠警告

- コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。守らないと、整備不良によるコンバインの故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。
- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインが転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してからキーを抜いて行ってください。回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 刈取部を上げて点検・整備・調節をするときは、必ず刈取部ストッパを「固定」位置にして、刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってケガをするおそれがあります。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- リールの下で作業するときは、必ずストップバルブのレバーをロックしてください。
  リールが下降して、ケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、作業に適した服装にしてください。また、可動部で手足を挟んだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、排出ガス出口などの高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

[重要]

- 廃油や不凍液などの地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（－）側のケーブルを外してください。

定期点検・整備の時期について

シーズン中でも、点検整備が必要な使用時間や状態になったら、定期点検一覧表や主要消耗部品のリストを参考に整備を行ってください。
また、定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期にはコンバインの性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。
コンバインの整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にコンバインを最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。



図 4-100

■ 重要保安部品の点検・交換時期

つぎの部品は、保安上、非常に重要な部品ですので、定期的に点検・交換をしてください。

表 4-2 重要保安部品の点検・交換時期

	点検	交換
燃料ホースおよび結合部	1年ごと	2年ごと
電気配線	1年ごと	ー
油圧ホース	1年ごと	2年ごと

■ 燃料ホースおよび結合部の点検

- 燃料ホースおよび結合部からの燃料もれやにじみがないか、点検してください。ある場合は、きれいに拭き取ってください。
- 燃料ホース結合部のホースバンドが、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、締め付けてください。
- 燃料ホースにひび割れ・硬化・膨張がないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

■ 電気配線の点検

- 電気配線の接続部が、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 電気配線に損傷がないか、また、クランプにゆるみがないかを、目視などで点検してください。
  損傷がある場合は、適切な修理や交換をしてください。

■ 油圧ホースおよび結合部の点検

- 油圧ホース・パイプおよび結合部より、オイルのもれ・にじみがないか点検してください。もれ・にじみがある場合は、きれいに拭き取ってください。
- 油圧ホースの接続部がゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 油圧ホースにひび割れ・キズがないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

定期点検一覧表

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、またはJA にご相談ください。

表 4-3 定期点検一覧表

◇:点検、○:補給、●:交換、□:調整(掃除)、△:給油脂

点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと	参照ページ
総体部	部品脱落・破損の点検	◇						ー
	各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締	◇						ー
	エンジンの調子	◇						ー
	清掃	□						ー
燃料系統	燃料タンクの油量点検	○						187
	ウォータセパレータコシ器の点検・洗浄※1	◇	□1回目	□		●		202
	燃料フィルターの交換					●		196
	燃料タンク混入水・沈殿物などのドレン抜き			□				204
	燃料パイプおよび接合部の亀裂・破損・ゆるみの点検※					◇(1年ごと)	●(2年ごと)	ー
冷却系統	冷却水の点検・交換	◇			●(1年ごと)			193
	エンジン防塵装置の点検・掃除	□						206
	ラジエータ冷却フィンの点検・掃除	◇						206
	オイルクーラフィンの点検・掃除	◇						207
	インタークーラフィンの点検・清掃	◇						207
	燃料クーラフィンの点検・清掃	◇						207
	コンデンサフィンの点検・掃除	◇						206
エアクリーナー	エアクリーナーの清掃・交換	□				●(1年ごと)		204
潤滑油	エンジンオイルの点検・交換	◇	●1回目	●				188
	エンジンオイルエレメントの交換		●1回目			●		195
	走行ミッションオイルの交換		●1回目			●(2年ごと)		190
	吸入ストレーナの洗浄		□			□		ー
	PTO駆動ケースオイルの交換		●1回目			●		193
	ロータ駆動ケースオイルの交換		●1回目			●		192
	刈刃駆動ケースオイルの交換		●1回目			●		192
油圧系統	作動油タンクオイルの点検・補給・交換	◇				●1回目	●	208
	油圧タンク吸入フィルターの洗浄					□1回目	□	ー
	HSTフィルターの交換					●1回目	●	210
	油圧ホースの亀裂・破損有無点検※2	◇					●(2年ごと)	ー
給脂	フィーダハウス回動支点の点検・給脂			△				177
	リール部の給脂		△					177
	ロータ部の給脂		△					177
	排出オーガ部の給脂		△					177
	クローラ部の給脂		△					177
足廻り	クローラの張り点検・調整	◇			□			236

※1 点検時間以前であってもウォーターセパレータ内のフロート（赤リング）がエレメント上端に達している場合、およびコシ器の汚れがひどい場合は水抜き・洗浄を行ってください。

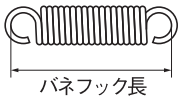
※2 保安上の重要な箇所です。

◇:点検、○:補給、●:交換、□:調整(掃除)、△:給油脂

点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	400時間ごと	500時間ごと	参照ページ
操縦装置	アクセルの作動	◇						63
	オールマイティシフトレバーの作動	◇						67
	マルチハンドルの作動	◇						56
	副変速レバーの作動	◇						66
	セフティペダルの作動	◇						75
	リール昇降スイッチの作動	◇						56
	刈取昇降スイッチの作動	◇						68
	リール前後・リール速度スイッチの作動	◇						68
	排出オーガ手動スイッチの作動	◇						71・74
	作業クラッチレバーの作動	◇						67
	排出オーガクラッチスイッチ	◇						71・74
電装品関係	作業灯	◇						55
	アワメータの作動	◇						58
	回転計・燃料計の作動	◇						58
	配線の断線・ショート・ターミナルのゆるみ点検・増締※	◇						ー
	バッテリー液量の点検・補給	◇						211
	バッテリー液比重点検・補充電	◇必要時						211
	警報モニター	◇						257
	ヒューズの点検・交換	●必要時						214
走行部	冷却ファンベルトの点検・調整		◇	□		●		230
	HST駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		232
	PTO駆動ベルとの点検・調整		◇	□		●		234
	カウンタベルトの点検・調整		◇	□		●		233
	コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		234
	ジェネレータ駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		230
刈取部	刈刃のすき間の点検・調整		◇	□	●			216
	リールカウンタチェンの点検・調整		◇	□			●	222
	リール変速ベルトの点検・調整		◇	□		●		217
	プラットホームオーガチェンの点検・調整		◇	□			●	222
	刈取駆動チェンの点検・調整		◇	□			●	223
	フィーダチェンの点検・調整	◇	◇	□			●	218
	刈刃駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		227
	刈取駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		227
脱こく部	脱こく駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		228
	ロータ駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		228
	セカンドファン駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		231
	選別駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		226
	2番駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		226
	グレン駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		229
	チェン(グレン駆動チェン)の点検・調整		◇	□			●	224
	レベリングディスクベルトの点検・調整		◇	□		●		233
	プレファンベルトの点検・調整		◇	□		●		231

※の箇所は、保安上の重要な箇所です。

調節箇所規定量一覧表



テンションバネフック長は、
両端フックの内寸法を示します。



テンションバネフック長は、
金具も含めた全長を示します。

表 4-4 調節箇所規定量一覧表

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
刈刃のすき間調節	1.2mm	受刃と刈刃上面の最大すき間	216
	0.3～0.8mm	受刃と刈刃下面のすき間	
	0.8mm	刈刃の前後最大すき間	
プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節	稲・麦 6～8mm	プラットホーム底板とスクリューコンベヤのすき間	216
	大豆 12～15mm		
プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節	4～6mm	プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間	218
フィーダチェン	3～7mm	スラットとフィーダチェン底板のすき間	218
プラットホームオーガリミットクラッチ	63～65mm	リミットクラッチバネのバネ長	219
刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節	10～20mm	刈刃上面とリールタイン先端のすき間	220
スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間調節	10～20mm	スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間	221
リールカウンタチェン	10～16mm	指で押したときのたわみ量	222
プラットホームオーガチェン	14～20mm	指で押したときのたわみ量	222
刈取駆動チェン	0～1mm	座金とカラーの間	223
バケットチェン	0～0.5mm	座金とカラーの間	223
グレン駆動チェン	14～20mm	指で押したときのたわみ量	224
2番駆動ベルト	90～94mm	テンションバネフック長	226
選別駆動ベルト	151～155mm	テンションバネフック長	227
刈刃駆動ベルト	51～55mm	テンションバネのバネ長	227
刈取駆動ベルト	213～219mm	テンションバネの金具を含む全長	227
ロータ駆動ベルト	稲・麦・大豆 163～167mm	テンションバネのバネ長	228
脱こく駆動ベルト	239～243mm	テンションバネの金具を含む全長	228
グレン駆動ベルト	122～126mm	テンションバネフック長	229
エンジンベルト	143～147mm	テンションバネのバネ長	229
ジェネレータ駆動ベルト	10～14mm	指で押したときのたわみ量	230
冷却ファンベルト	143～147mm	テンションバネフック長	230
セカンドファン駆動ベルト	178～182mm	テンションバネフック長	231
プレファン駆動ベルト	79～83mm	テンションバネフック長	231
唐箕駆動ベルト	93～97mm	テンションバネフック長	232
HST駆動ベルト	232～236mm	テンションバネの金具を含む全長	232
レベリングディスクベルト	10～15mm	指で押したときのたわみ量	233
カウンタベルト	312～316mm	テンションバネフック長	233
PTO駆動ベルト	146～150mm	テンションバネフック長	234
コンプレッサ駆動ベルト	121～125mm	テンションバネフック長	234
ロータリースクリーン吸引駆動ベルト	63～67mm	テンションバネフック長	235
駐車ブレーキの調節	105～109mm	テンションバネフック長	235
クローラの調節	20～25mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと第3転輪のすき間	236

オイル・グリス・不凍液一覧表

表 4-5 オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正オイル	一般販売店の相当オイル	
	三菱農機（指定）純正オイル	JX日鉱日石エネルギー（ENEOS）	コスモ石油
燃料	−	ディーゼル軽油	
エンジンオイル（JASO分類、DH-2級）（API分類、CJ-4級）	DPF搭載機専用 ディーゼルエンジンオイル 10W-30 DH-2	ディーゼルエンジン用SAE10W-30相当品（DH-2級、API分類、CJ-4級）	
グリス（マルチパーパスタイプ）	−	エピノックグリースAP2 または リゾコックグリースEP2	コスモグリース ダイナマックス EP
不凍液（JIS K2234 2種 パーマネントタイプ）	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT（ゴールド、シルバー）
ミッションオイル	トランスミッションフルード TF300	−	
ミッションオイル（駆動ケース）	マルチSHPギヤオイル（90番）	ミッションオイル（90番）（GL-3）	
油圧作動オイル	耐摩耗性油圧作動油　VG56相当品		
食品機械用潤滑スプレー	部品コードNo.：NX127		

注）気温−5℃以下のとき、燃料は3号または特3号軽油を使用してください。

給油・給水一覧表

表 4-6 給油・給水一覧表

項　目		給油量	種類	交換時期	参照ページ
燃料		110ℓ	ディーゼル軽油	作業前	187
冷却水	ラジエータ	12ℓ	清水・不凍液	1年ごと	193
	サブタンク	1ℓ	清水・不凍液	1年ごと	193
エンジンオイル		10.2ℓ	10W-30 DH-2	1回目　　：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：100時間ごと、または1シーズンごと	188
ミッションオイル		8.5ℓ	トランスミッション フルードTF300	1回目　　：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：300時間ごと、または2年ごと	190
刈取駆動ケース		0.7ℓ	ミッションオイル90番（GL-3）	1回目　　：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：300時間ごと、または2年ごと	192
ロータ駆動ケース		1.5ℓ	ミッションオイル90番（GL-3）	1回目　　：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：300時間ごと、または2年ごと	192
PTO駆動ケース		1.0ℓ	ミッションオイル90番（GL-3）	1回目　　：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：300時間ごと、または2年ごと	193
油圧作動オイル		35ℓ	耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品（スーパーハイドロオイル56）	1回目　　：300時間後 2回目以降：600時間ごと	208

[重要]

定期点検を実施するとともに、オイルの交換は、純正（指定）オイルをご使用ください。

メンテナンス時間のリセットのしかた

画面上に表示するメンテナンス情報は、あくまで目安です。お客様の使用状況に合わせて「給油・給水一覧表」（185ページ参照）または「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」（280ページ参照）に従って交換してください。

オイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面で、必ずメンテナンス情報時間をリセットしてください。
リセットしたときから、時間の積算を開始し、規定時間に達するとメンテナンス情報が表示されます。

1. MODE（表示切替）スイッチ（🡻）を押して、「設定メニュー」の画面にします。（図 4-101）

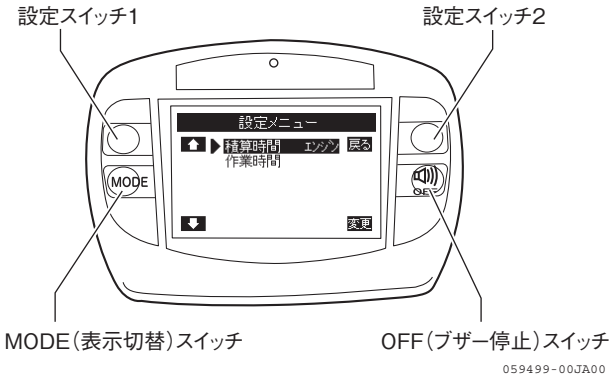


図 4-101

2. 「設定メニュー」の画面でMODE（表示切替）スイッチ（🡻）を押して、▶印を下に移動していくと、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面に切り替わります。（図 4-102）

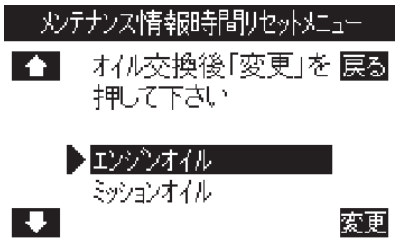


図 4-102

3. エンジンオイルを交換したときは、エンジンオイルの項目に、ミッションオイルを交換したときは、ミッションオイルの項目に、設定スイッチ1（🡹）とMODE（表示切替）スイッチ（🡻）を押して、▶印を移動させて、文字を反転した状態にします。（図 4-103）

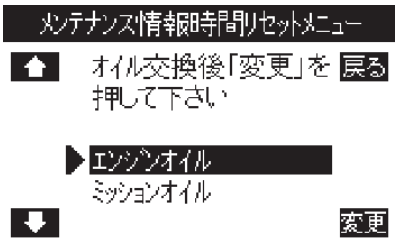


図 4-103

4. OFF（ブザー停止）スイッチ（変更）を押します。OFF（ブザー停止）スイッチ（変更）を押すと、「リセット」の文字が表示され、時間のリセットが確定されます。（図 4-104）

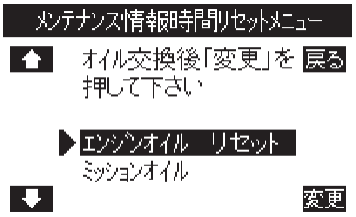


図 4-104

5. 規定交換時間が経過すると、メンテナンス情報表示されます。（図 4-105）

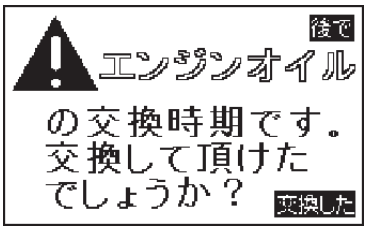


図 4-105

[参考]
「リセット」の文字は、数秒すると消えます。再度、OFF（ブザー停止）スイッチを押して「リセット」の文字を表示させても、時間はリセットされています。

6. 設定スイッチ2（戻る）を押すと、通常の画面に戻ります。

燃料の点検･補給のしかた

⚠危険

燃料の点検･補給をするときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。

⚠警告

燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。火災やヤケドの原因になります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「ON」位置にして、センターディスプレイの燃料残量表示（1）で確認してください。

燃料の残量が少なくなったときは、⛽ マーク（2）が点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。

ブザーを止めるときは、OFF（ブザー停止）ボタンを押してください。ブザーは鳴り止みますが、⛽ マークは点滅したままです。（図 4-106）

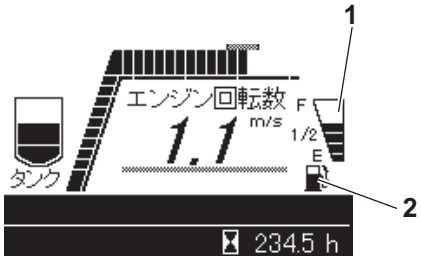


図 4-106

燃料の補給のしかた

[重要]

- コモンレールエンジンの燃料噴射関係の部品は精密部品です。燃料補給の際には、水や異物が混入しないように注意してください。
- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

燃料キャップ（1）を外し、燃料を、フィルター（2）から液面が見え始めるまで補給してください。（図 4-107）

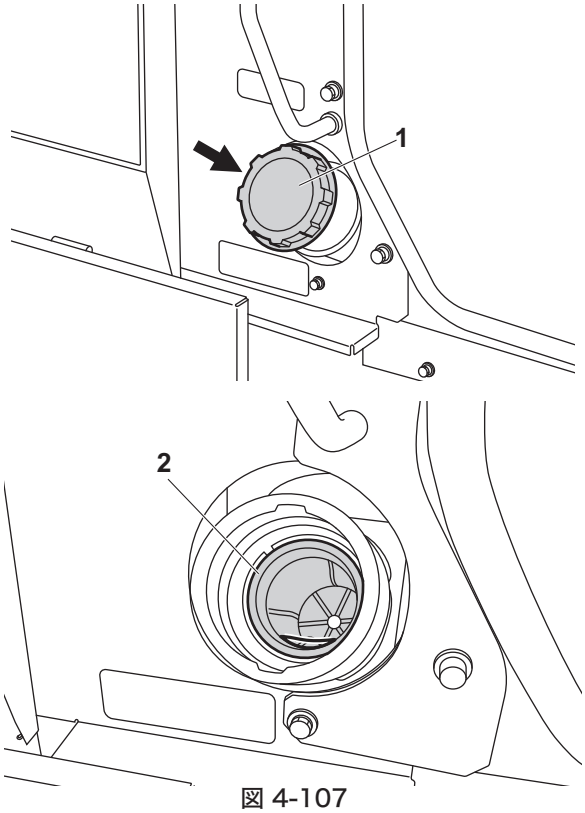


図 4-107

[重要]

- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。
- 燃料補給は、給油口のフィルター下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇とともに膨張し、ブリーザパイプからもれることがあります。
- このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板の容器の使用は避け、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。

[参考]

キースイッチが「ON」位置のときは、燃料給油時に満量になるとブレーキランプが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みます。

オイルの点検･補給･交換のしかた

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- オイルや燃料を補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因になるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。作業は、エンジン後カバーを開いてから行ってください。（158ページ参照）

作業終了後は、カバーを元通りにセットしてください。

表 4-7 推奨オイル･交換時期

推奨エンジンオイル	交換時間	規定量
DPF搭載機専用ディーゼルエンジンオイル 10W-30 DH-2	1回目：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：100時間ごと、または1シーズンごとのどちらか早い方	10.2ℓ

[重要]

排気フィルターに堆積した PM（ススなどの粒子状物質）を燃焼除去させるため、排気フィルター内で直接燃料を燃焼させます。そのため、燃料の一部がエンジンオイルに混入しエンジンオイル量が増えることがあります。日常からエンジンオイルの点検を行ってください。

■ 交換時期について

「給油・給水一覧表」（185 ページ参照）に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。（図 4-108）

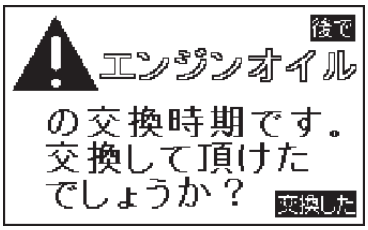


図 4-108

■ 表示のリセットのしかた

交換を済ませたたら、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

■ すぐに交換しない場合

設定スイッチ2（後で）を押してください。（次にキースイッチを「ON」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換）を押すまで表示されます。表示が3回されると、自動的に積算時間がリセットされます。）

■ 点検のしかた

1. 検油ゲージ（1）を抜いて、先端をきれいに拭き取ります。（図 4-109）

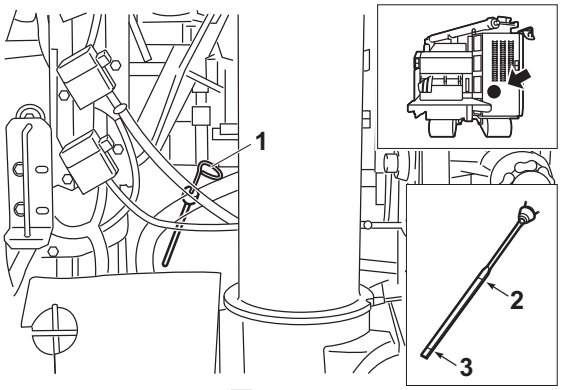


図 4-109

2. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。（図 4-109）
3. 点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けます。

[参考]

点検時、オイルもれのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量になるまで補給してください。（図 4-110）

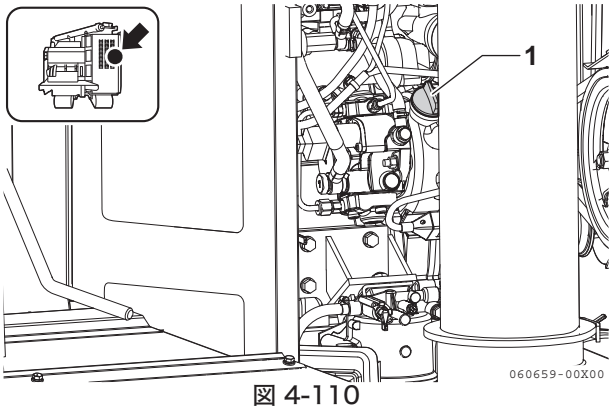


図 4-110

■ 交換のしかた

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグ（1）を元通りに取り付けます。（図 4-111）

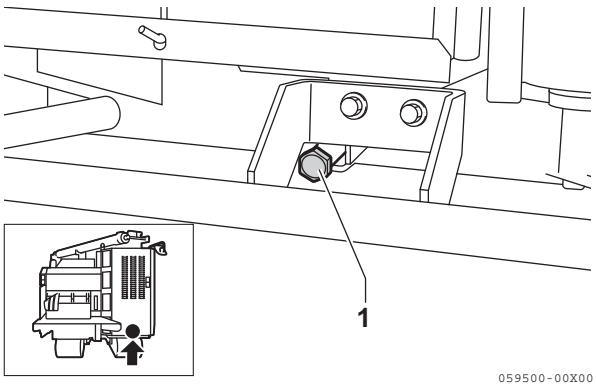


図 4-111

4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油します。

5. 給油口（1）にふたを取り付けます。(図 4-112)

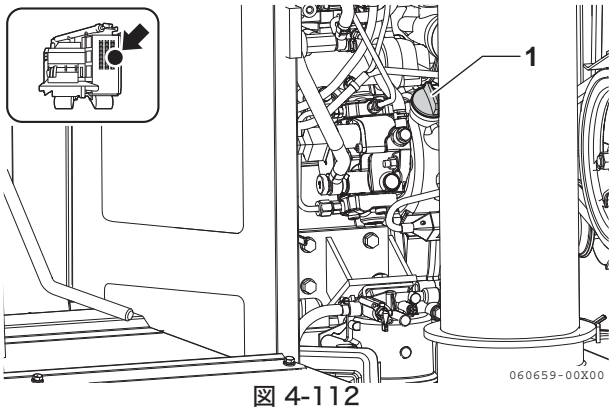


図 4-112

6. エンジンを始動し、約5分間低速回転で回します。
7. エンジンを停止し、油圧警報が表示されないことを確認し、約5分間待ちます。
8. 検油ゲージ（1）でゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。不足している場合は、補給します。(図 4-113)

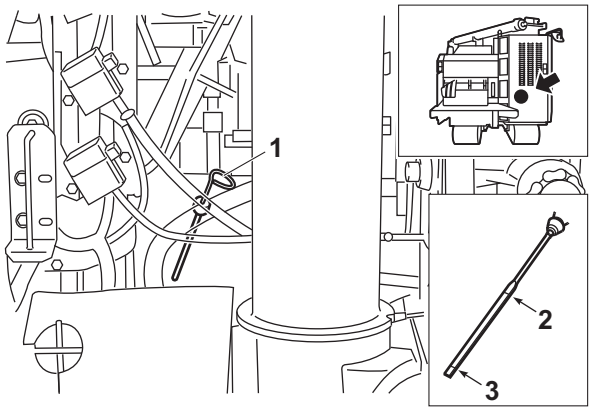


図 4-113

[重要]

- センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイルを交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。(186 ページ参照) メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前にメンテナンス情報を表示してしまいます。
- エンジンオイルを交換するときは異種のオイルを混入させないでください。もし異種のオイルを入れる場合は、前のオイルを完全に抜ききってから入れてください。

ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上げ状態にして、刈取部を固定してから行ってください。(168ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

表 4-8 推奨オイル・交換時期

推奨 ミッションオイル	交換時間	規定量
トランスミッション フルードTF-300	1回目：50時間後、または 1シーズン後 2回目以降：300時間ごと、 または2年ごと のどちらか早い 方	8.5ℓ

■ 交換時期について

「給油・給水一覧表」(185 ページ参照) に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。(図 4-114)

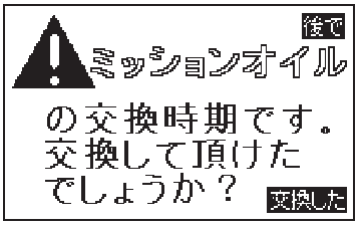


図 4-114

■ 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「OFF（ブザー停止）スイッチ」(交換した) を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

■ すぐに交換しない場合

設定スイッチ2 (後で) を押してください。(次にキースイッチを「ON」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押すまで表示されます。)

[参考]

メンテナンス情報は、約 5 秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は3回までです。3回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

■ 点検のしかた

1. コンバインを水平にします。
2. 刈取部を最上位置にします。
3. 刈取部を固定します。(168ページ参照)
4. ミッションケース左側面にある検油窓（1）でオイル量を点検します。(図 4-115)
   規定量は上部検油窓の半分の位置です。(図 4-116)

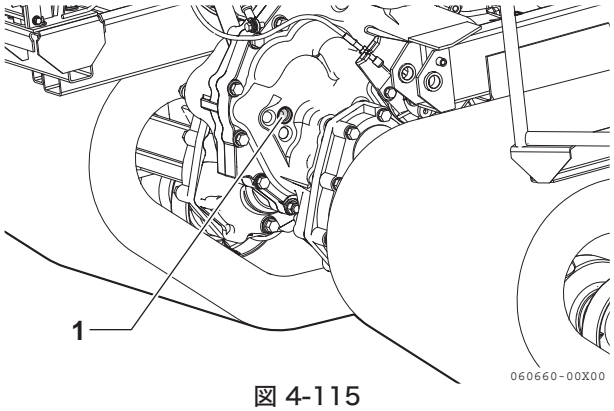


図 4-115

検油窓の見方

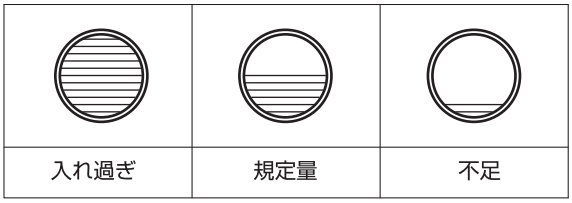


図 4-116

[参考]
点検時、オイルもれがないか確認してください。

■ 補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量（検油窓の半分の位置）まで補給してください。(図 4-117)

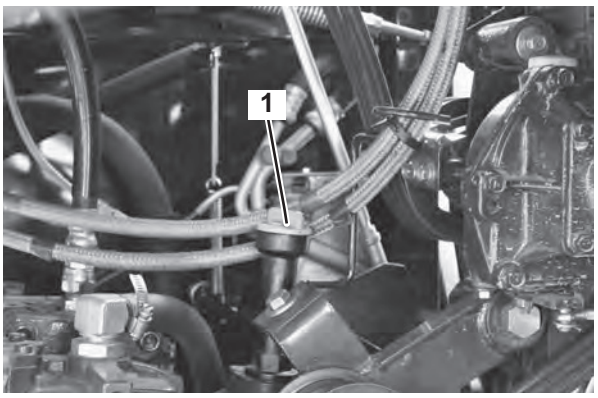


図 4-117

■ 交換のしかた

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]
給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグ（1）を元通りに取り付けます。(図 4-118)

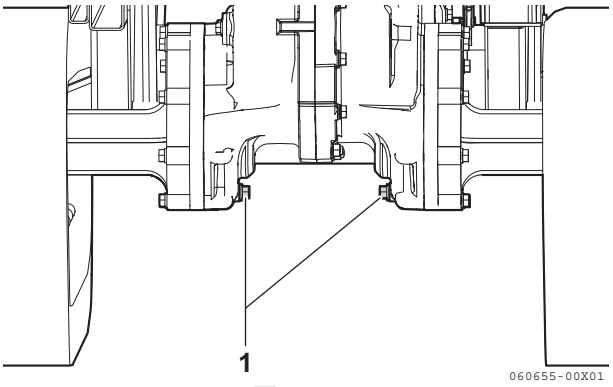


図 4-118

4. 給油口からミッションオイルを給油します。
5. 給油口のふたを取り付けます。

[重要]

- ミッションオイルの交換後は、前記の「点検のしかた」に従って、オイルが規定量あるか確認してください。
- センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイル交換したときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。(186ページ参照)
  メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前にメンテナンス情報を表示してしまいます。

その他の給油箇所

[参考]

オイルの点検・補給・交換の必要なときは、特販店または、JAにご相談ください。

表 4-9 推奨オイル・交換時期

	推奨オイル	交換時期	規定量
刈刃駆動ケース	ミッションオイル 90番(GL-3)	1回目: 50時間ごと 2回目以降: 300時間ごと	0.7ℓ
ロータ駆動ケース	ミッションオイル 90番(GL-3)		1.5ℓ
PTO駆動ケース	ミッションオイル 90番(GL-3)		1.0ℓ

■ 刈刃駆動ケース

1. 刈取サイドカバー右を外します。(153ページ参照)
2. 給油終了後、元通りに取り付けます。

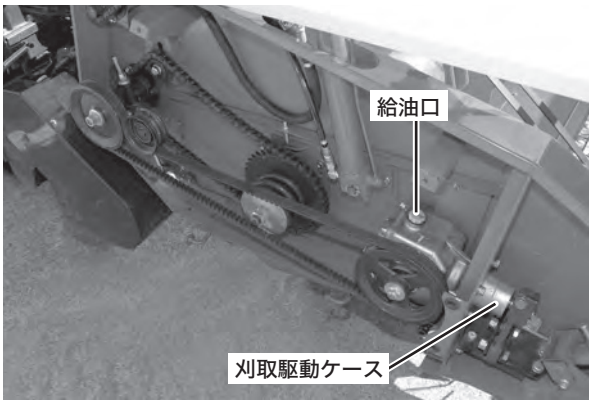


図 4-119 刈刃駆動ケース

■ ロータ駆動ケース

1. グレンタンクを開きます。(156ページ参照)
2. 給油終了後、元通りに閉じます。

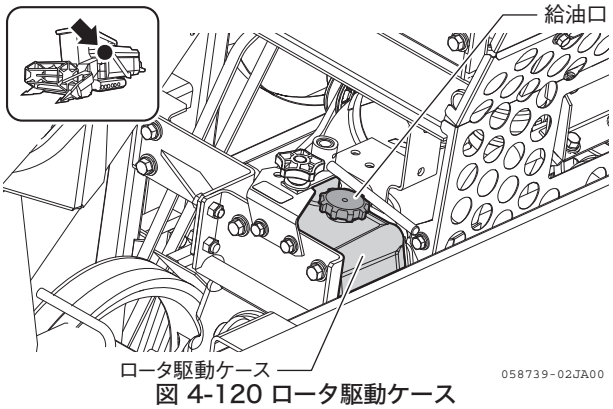


図 4-120 ロータ駆動ケース

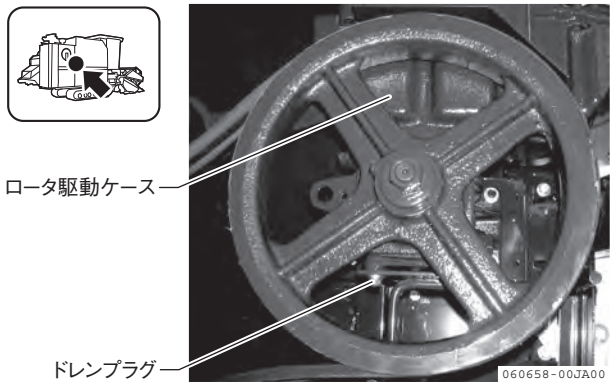


図 4-121 ドレンプラグ

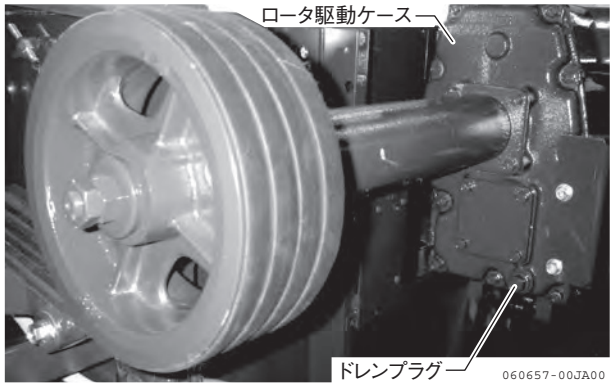


図 4-122 ドレンプラグ

■ PTO駆動ケース

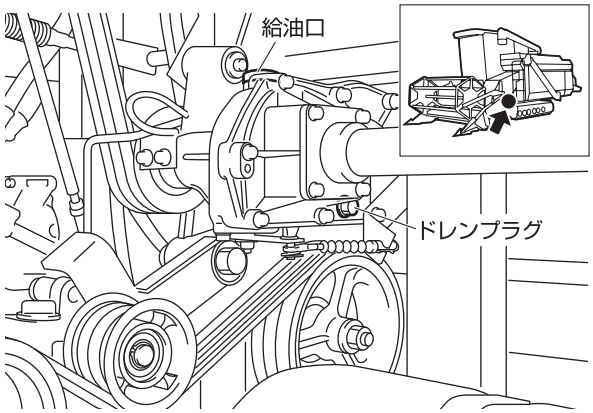


図 4-123 PTO駆動ケース

冷却水の点検･補給･交換のしかた

⚠警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後には絶対に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジン停止後、エンジンが十分冷えていることを確認してからキャップをゆっくり回し、余圧を抜いてから開けてください。

⚠注意

エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。

[重要]

地面へのたれ流しや川･沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油･燃料･冷却水･冷媒･溶剤･フィルター･バッテリー･その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジン後カバーを開いてから行ってください。（158ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

■ 点検のしかた

サブタンク内の冷却水が、「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

[参考]

点検時、水もれのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

冷却水が不足している場合は、サブタンク（1）のキャップ（2）を外し、きれいな水道水を補給してください。（図 4-124）

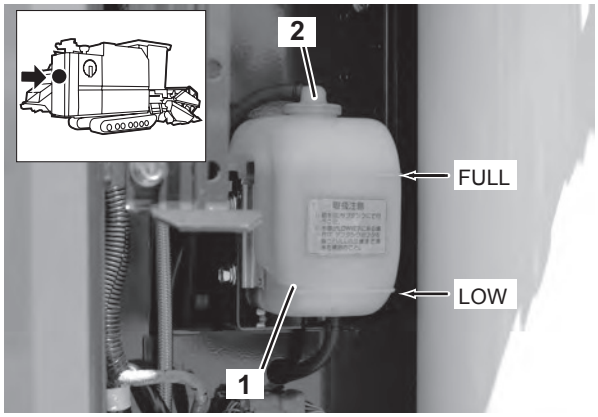


図 4-124

■ 交換のしかた

1. エンジン上部にあるラジエータカバー（1）を、ボルト M6（4 本）（2）を外して、取り外します。（図 4-125）

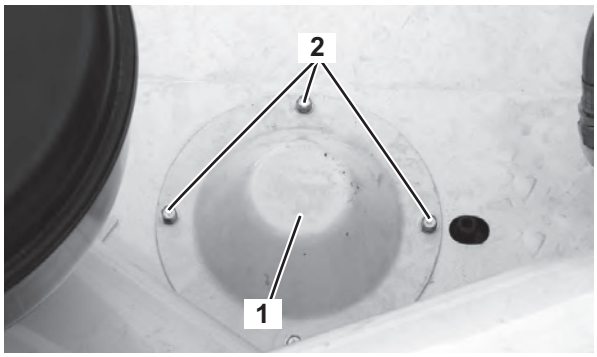


図 4-125

2. ラジエータキャップ（1）を外します。（図 4-126）

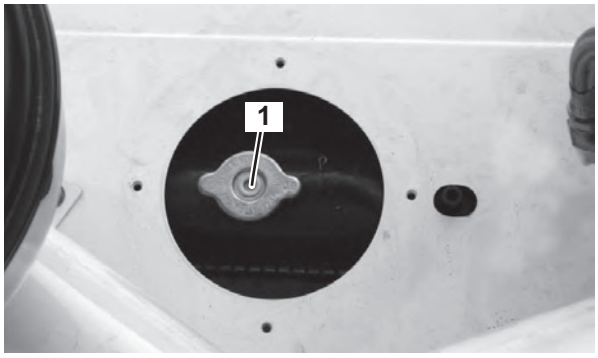


図 4-126

3. ドレンのコックボルト（1）をゆるめて、ラジエータ内の水をすべて抜きます。（図 4-127）

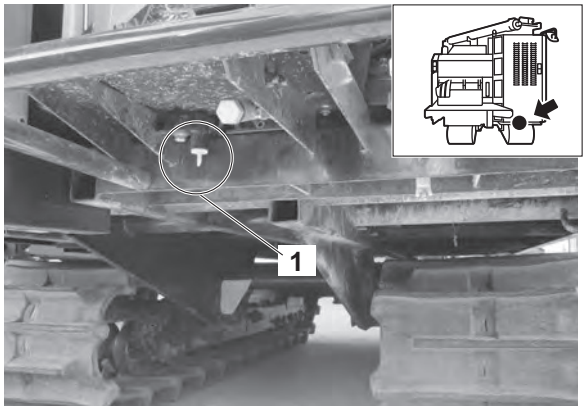


図 4-127

4. 水道水で、ゴミやさびが出なくなるまでラジエータ内を洗います。

[参考]

ラジエータ内をよりいっそうきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータ内に入れ、15分以上エンジンを空運転してから、水を抜き取ってください。

5. ドレンのコックボルトを元通りに締め付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れます。
6. ラジエータキャップを取り付けます。
7. ラジエータカバーを取り付けます。
8. エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めます。
9. エンジン停止後、再度サブタンク内の冷却水量が規定量あるか確認します。

不凍液の取扱いについて

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などではつぎの表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

表 4-10 推奨不凍液・交換時期

推奨不凍液	交換時間	冷却水量
アンチフリーズPT	1年ごと	13ℓ

表 4-11 不凍液混合率表

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

- 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は 1 年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、第1コシ器でコシきれなかった小さな異物を、取り除くものです。カートリッジタイプですので、掃除ができません。定期的に交換してください。

表 4-12 交換時期

交換時期	1回目　　:50時間後 2回目以降:300時間ごと

作業は、エンジン後カバーを開いてから行ってください（158ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

[参考]
エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。（188 ページ参照）

交換のしかた

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行ってください。

1. オイルエレメントを矢印方向に回して外します。(図 4-128)

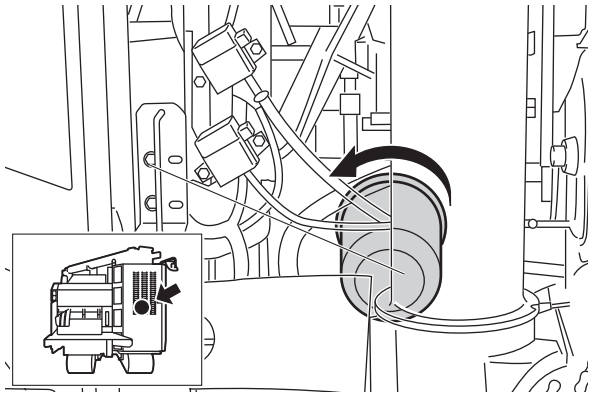


図 4-128

2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、純正部品をご使用ください。

表 4-13 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
指定エレメント	99430000040

燃料フィルターの交換のしかた

燃料フィルターは、燃料内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

表 4-14 交換時期

交換時期	300時間ごと

作業は、エンジン後カバーを開いて行ってください。(158ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

交換のしかた

1. カートリッジを矢印の方向へ回して外します。(図 4-129)

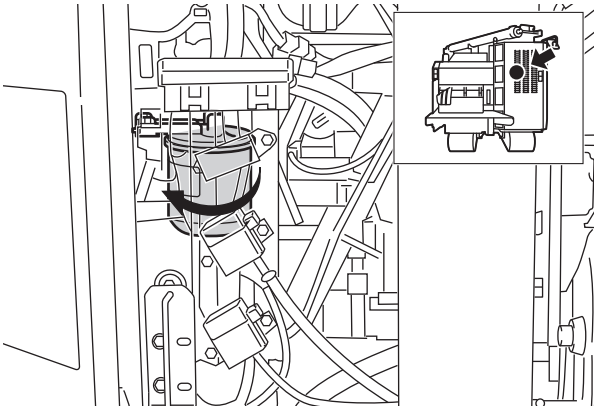


図 4-129

2. 新しいカートリッジのゴムリングに、オイルを塗布します。
3. ゴムリングが接触するまで回した後、2/3回転程度手で締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- 交換後は、燃料フィルター取付面などからの燃料もれやにじみがないか、必ず点検してください。
- 燃料フィルターは、純正部品をご使用ください。

表 4-15 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
燃料フィルター	97320000050

排気フィルターの再生のしかた

⚠危険

- 再生中は、周囲に十分注意をはらい特に子供を近寄らせないようにし、コンバインから離れないでください。思わぬ傷害事故や火災を引き起こす原因になります。
- 再生中および再生直後は、排気フィルター周辺や排出ガスの出口が高温になります。絶対に触らず近づかないようにし、可燃性のものが周囲にないように常にきれいにしてください。また、再生直後はシートをかけないようにしてください。
- 倉庫や車庫など、閉めきった屋内では排気フィルターの再生をしないでください。再生するときは、風通しのよい屋外で行ってください。排出ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

[重要]

エンジンオイルは、必ず指定のオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用すると、排気フィルターが目詰りして故障の原因となります。

[参考]

- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。
- 再生中、エンジン音が変化したり、白煙がでることがありますが故障ではありません。
- アイドリング中は、PMが堆積しやすくなります。
- 不要なアイドリング（低回転）はしないでください。

排気フィルターについて

排気フィルターは、エンジンと排出ガス出口の間に装着され、PM（ススなどの粒子状物質）を捕集することで、大気中に放出しないようにするためのフィルター装置です。

排気フィルターにたまった PM を燃焼除去することにより、排気フィルターの機能を再生することができます。

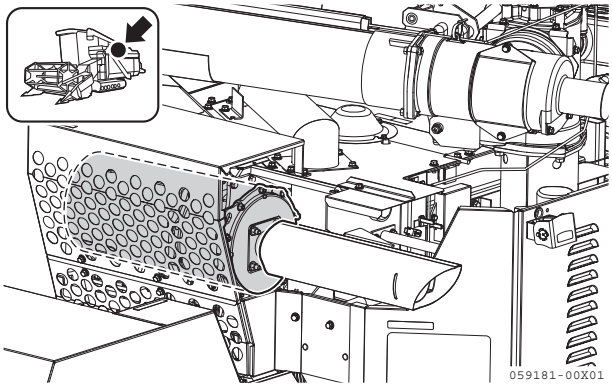


図 4-130

[参考]

捕集した PM を放置すると目詰まりを起こしエンジン性能が低下します。このため定期的に排気温度を上昇させて、PMを燃焼除去する必要があります。これを排気フィルターの再生といいます。

排気フィルターのメンテナンスについて

⚠警告

アッシュには、エンジンオイルの添加剤の燃え残りで人体に有害な成分が含まれています。メンテナンスは、必ず特販店、またはJAに依頼してください。

排気フィルターは、PM（ススなどの粒子状物質）以外に潤滑油の添加剤に含まれる金属成分のアッシュ（灰分）がたまります。
アッシュは、PMのように排気フィルター内で燃焼除去ができませんのでメンテナンスが必要です。

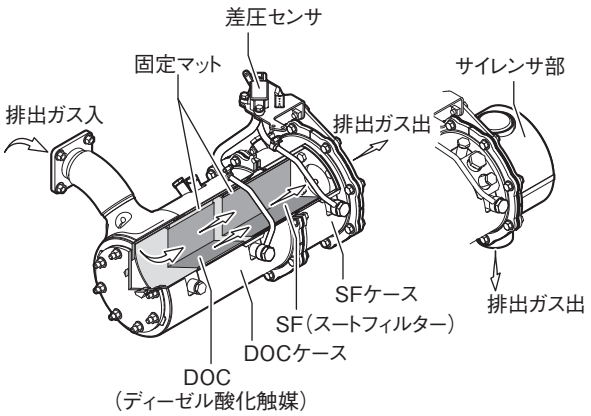


図 4-131 排気フィルター構成図

表 4-16 メンテナンス・交換時期

部品名	メンテナンス時期	交換時期
SF （スートフィルター）	3000時間ごと	9000時間
DOC （ディーゼル酸化触媒）	不要	9000時間

[重要]

- 燃料は、必ず低硫黄ディーゼル軽油を使用してください。
- エンジンオイルは、排気フィルター搭載用ディーゼルエンジンオイル（DH−2オイル）を使用してください。
- メンテナンス・交換時期（表 4-16）は、指定の燃料、エンジンオイルをご使用した場合の目安です。指定以外のものをご使用された場合、故障の原因となります。
- 排気フィルターは、定期的なメンテナンスが必要です。堆積されたアッシュのメンテナンスを行わないとエンジン出力の低下や燃費悪化の原因となります。

排気フィルターの再生モードについて

排気フィルターの再生には、PMの堆積量、稼働時間に応じた５つの再生モードがあります。このうち、自動再生、アシスト再生は自動で再生が行われますが、リセット再生、駐車再生、リカバリ再生については手動で再生を行う必要があります。排気フィルター再生要求画面が表示されたら、必ず手動で再生操作を行ってください。

[重要]

再生せずに放置すると、排気フィルターの目詰まりによるエンジン性能の低下や燃費悪化の原因となります。また、手動再生を行わずに一定時間以上運転を継続すると、修理が必要となる場合があります。

表 4-17 再生モードについて

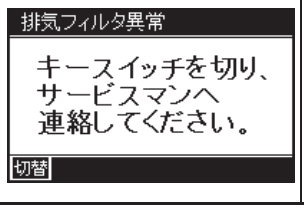
警告（PM堆積）レベル	再生モード		モニター表示	排気フィルタースイッチ（お知らせランプ）	ブザー	作業	処置のしかた
小 ↓ 大	自動	自己再生	ー	ー	ー	可	コンバインは、エンジンの排熱で自己再生を行います。
	自動	アシスト再生	ー	ー	ー	可	PM が一定量堆積すると自動で再生を行います。
	手動	リセット再生		2秒間に1回点滅（0.5Hz）	2秒間に1回鳴る（0.5Hz）	可	リセット再生を行ってください。（200ページ参照） 〈リセット再生要求発生条件〉 ・初回アワメータ約 50 時間、以降約100時間ごと または ・PM の推積量がリセット再生レベルに達したとき
	手動	駐車再生（警告1）		1秒間に1回点滅（1Hz）	1秒間に1回鳴る（1Hz）	不可	作業を中止してコンバインを安全な場所に駐車して ・作業クラッチレバー「OFF」 ・駐車ブレーキ「ロック」 ・エンジンローアイドルにします。
				2秒間に1回点滅（0.5Hz）	2秒間に1回鳴る（0.5Hz）		PM が推積していますので直ちに駐車再生を行ってください。（201ページ）
	手動	リカバリ再生（警告2）		ー	ー	不可	作業を中止して安全な場所に駐車し、エンジンを停止してください。ただちに特販店、またはJA に修理を依頼してください。（260ページ参照）

表 4-18 排気フィルター再生とお知らせ機能について

排気フィルター再生スイッチ（お知らせランプ）	ブザー	状態
点滅	鳴る	排気フィルター再生待ち
点灯	停止	排気フィルター再生中（約30分）
消灯	停止	排気フィルター再生終了

リセット再生の手順

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが0.5Hzで鳴ります。(図 4-132)

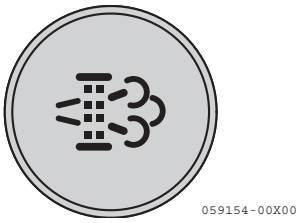


図 4-132

2. コンバインを停車します。
3. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押します。(図 4-133)

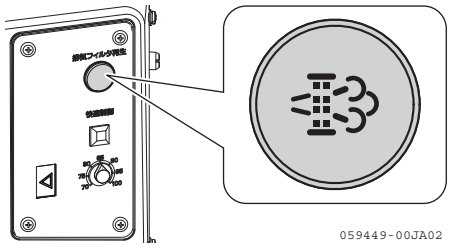


図 4-133

4. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。

[参考]

- リセット再生は、つぎの条件では再生が開始されません。冷態時は、暖機運転をしてください。条件がそろうと自動的に再生が開始されます。
  ・エンジン冷却水温が低いとき
  ・排気フィルターの温度が低いとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断したい場合は、キースイッチを「OFF」の位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求画面が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- リセット再生を行うときは、アイドリングで停止していると条件が満たされないときがあります。できるだけ、作業中または走行中に再生してください。
  (停止中でも、エンジンを定格回転まで上げると、再生しやすくなります)
- エンジン関係のエラーが発生したときは、再生要求画面が表示されません。
  排気フィルター再生不可状態表示画面が表示され、MODE(表示切替スイッチ)スイッチを押すと画面表示が切り替わります。(図 4-134)
  ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。



図 4-134

- リセット再生中は、通常画面の左上に「再生マーク」が表示されます。(図 4-135)

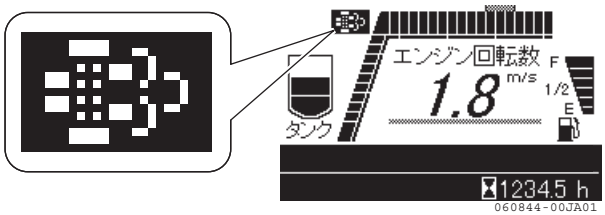


図 4-135

- 排気フィルター再生スイッチを押さないで、OFF(ブザー停止)スイッチを押すと通常画面と再生要求画面が交互に切り替わります。(図 4-136)

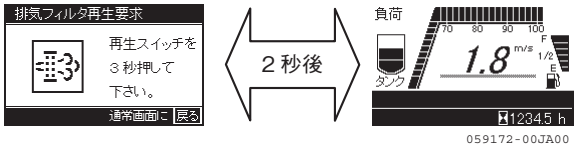


図 4-136

- 再生中は、エンジン音が変化したり、白煙がでたりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

駐車再生の手順

⚠警告

排気フィルター再生(駐車再生)の要求を無視して、運転を継続すると、PM が過剰に堆積するため場合によっては PM が異常に燃焼し、排気フィルターの破損や火災をまねくおそれがあります。

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが1Hzで鳴ります。(図 4-137)

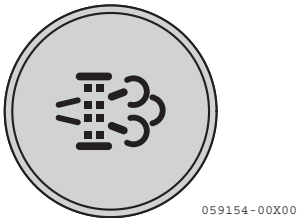


図 4-137

2. 画面表示が切り替わります。(図 4-138)



図 4-138

3. 安全な場所に駐車し、作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、駐車ブレーキをかけてアイドリング（低回転）にします。(図 4-139)



図 4-139

4. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押しします。(図 4-140)

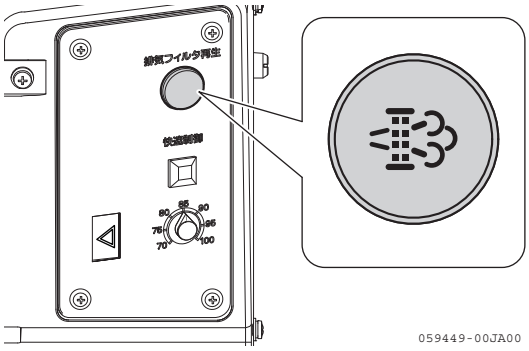


図 4-140

5. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。(図 4-141)



図 4-141

[参考]

- 再生中は、エンジン回転が自動的に上がります。
- つぎの操作を行うと再生が中断されます。
  - ・アクセルダイヤルを「🐇」回転側に回したとき
  - ・作業クラッチレバーを「OFF」以外の位置にしたとき
  - ・駐車ブレーキを解除したとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断する場合は、キースイッチを「OFF」の位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求画面が表示されますので、できるだけ早く再開してください。

[参考]

- エンジン関係のエラーが発生したときは、再生要求画面が表示されません。
  排気フィルター再生不可状態表示画面が表示され、MODE（表示切替スイッチ）スイッチを押すと画面表示が切り替わります。(図 4-142)
  ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。



図 4-142

- 再生中は、エンジン音が変化したり、白煙がでたりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

ウォータセパレータエレメントの点検･ドレン抜き･掃除･交換のしかた

表 4-19 水抜き･洗浄時期

水抜き･洗浄	1回目:50時間目 2回目以降:100時間ごと

[重要]

- ウォータセパレータを上記の表に従って定期的に点検し、水が溜まっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。
- ウォータセパレータに多くの水が溜まっている場合は、エンジンを始動せず、特販店、またはJAに連絡して点検・整備を受けてください。サプライポンプまで水が浸入しているおそれがあります。

点検のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。
2. 燃料タンクの前側にウォーターセパレータ（油水分離器）があります。上記の表に従って定期的に点検します。特にセンターディスプレイに下の警報画面が表示された場合は、ウォータセパレータに水が溜まっていますので、速やかに中の水を抜きます。(図 4-143)

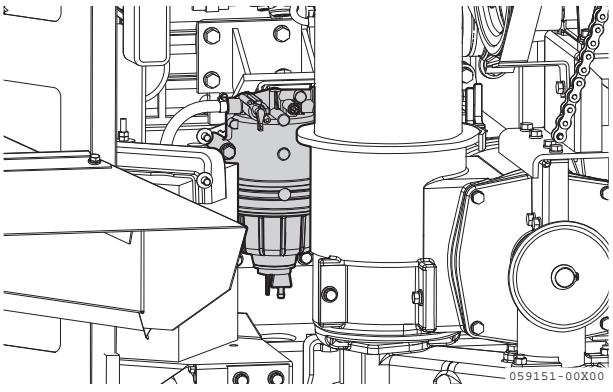


図 4-143

ドレン抜きのしかた

1. ウォータセパレータ (1) のコック (2) を「OFF」(閉) 位置にします。(図 4-144)

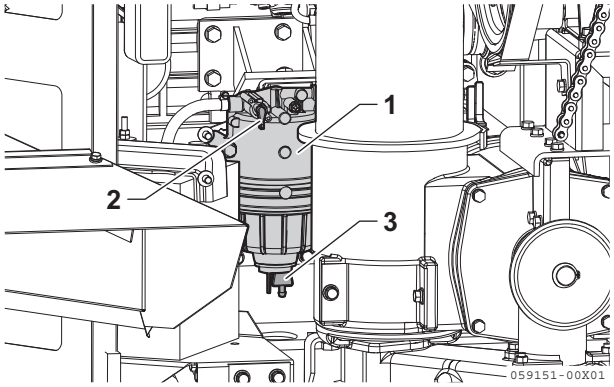


図 4-144

2. ドレンプラグ (3) を回して中の燃料と水を全て抜きます。(図 4-144)
3. ドレンプラグを元通りに締めます。
4. ウォータセパレータのコックを「ON」(開) 位置にします。
5. 燃料のエア抜きを行います。(204ページ参照)

[重要]

- 空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。(204ページ参照)
- ドレン抜きを行うときは、ドレン下方に容器を用意してください。

掃除のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。
2. ウォータセパレータ (1) のコック (2) を「OFF」(閉) 位置にします。(図 4-145)

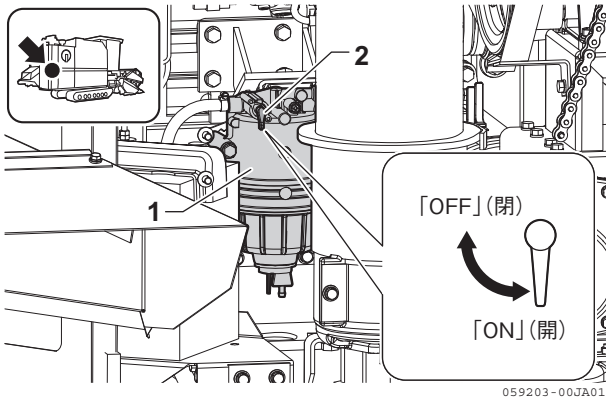


図 4-145

3. コシ器カップとエレメントを外し、水・ゴミを取り除きます。
4. コシ器の洗浄が終ったら、エレメントとコシ器カップを元通りに取り付けます。
5. ウォータセパレータのコックを「ON」(開) 位置にします。

交換のしかた

コシ器内のエレメントは、300 時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前記3.のときに、エレメントを交換してください。

表 4-20 交換時期

交換時期	300時間ごと

燃料タンクのドレン抜きのしかた

⚠警告

燃料ホースを確実に接続してください。燃料がもれると火災の原因になり大変危険です。

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

表 4-21 掃除時期

掃除時期	100時間ごと

[参考]

燃料タンクのドレン抜きと同時に、ウォータセパレータの水抜きも、必ず行ってください。

ドレン抜きのしかた

1. 燃料タンク下部にあるドレンボルト（1）の下に、燃料を受ける容器を置きます。（図 4-146）

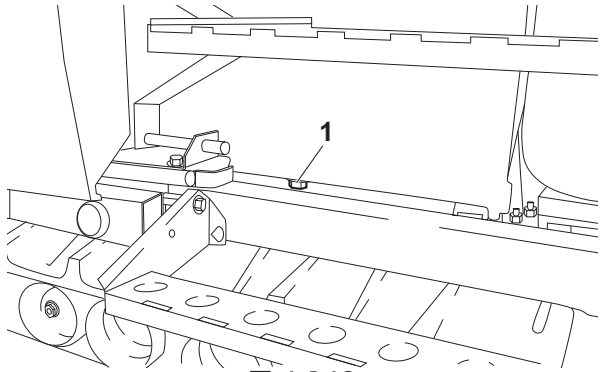


図 4-146

2. ドレンボルトを外します。燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。
3. 排出後、ドレンボルトを取り付けます。
4. 燃料キャップを外し、新しい燃料を補給します。（図 4-147）

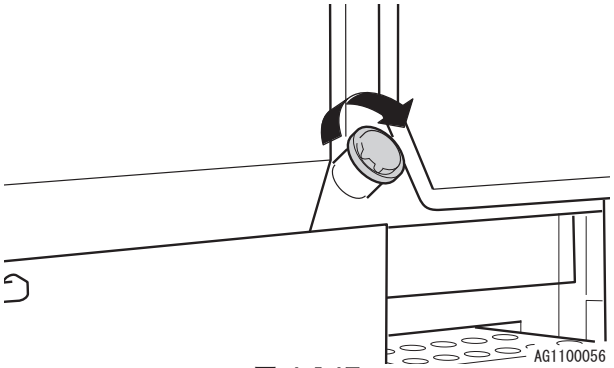


図 4-147

燃料の空気（エア）抜きのしかた

⚠危険

エンジン周りのベルト・防振ゴム・ホースなどに、燃料がかからないように注意してください。もし、燃料がかかった場合は、十分に水洗いしてください。燃料がかかっていると、火災の原因になり、大変危険です。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。つぎの要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料タンクを満タンにします。
2. キースイッチを「ON」位置にしたまま20～30秒待ち、「START」位置にします。
3. 自動的に空気（エア）抜きが行われ、エンジンが始動します。

以上で空気（エア）抜きは完了です。

エアクリーナーの掃除・交換のしかた

⚠警告

エアクリーナエレメントの掃除は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。排出ガス出口やエレメントフックが高温になって、ヤケドをするおそれがあります。

エアクリーナーは吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。刈取作業は、ホコリがよく出ますので、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。

（205ページ参照）

表 4-22 掃除・交換時期

掃除時期	エレメントの交換時期
毎日	・300時間ごと ・ホコリの多い所では200時間ごと （規定時間未満でも1年間で交換）

掃除・交換のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。
   （158ページ参照）
2. エンジン左カバー上を外します。
3. カバークランプ（1）を外して、アウターエレメント（2）、インナーエレメント（3）を外します。（図 4-148）

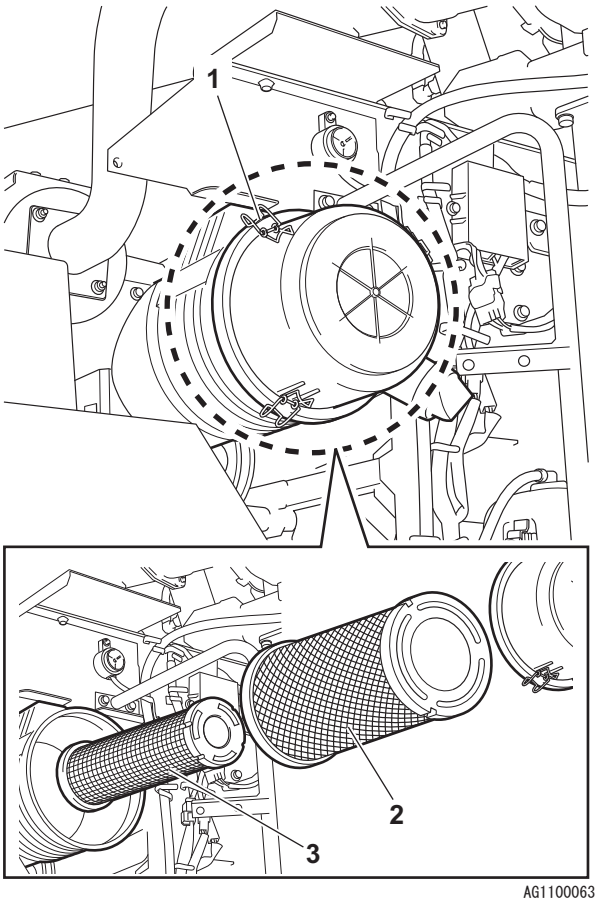


図 4-148

4. エレメントは、内側から圧縮空気（7kg/cm^2 以下）を吹きつけます。
5. 取り付けるときは、逆の手順で行います。
6. インナーエレメントはアウターエレメントを交換しても目詰まりを起こすようになったときに交換します。

[重要]

- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

表 4-23 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
アウターエレメント	90350053800
インナーエレメント	90350032600

- エレメントを洗ったときは、完全に乾かしてください。生乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
- 中性洗剤の水溶液でザブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。

プレクリーナーの掃除のしかた

⚠注意

エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。

プレクリーナーの中にたまったゴミは、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時にエアクリーナーも掃除してください。（204ページ参照）

掃除のしかた

プレクリーナー（1）上部のチョウナット（2）を外して、たまっているゴミを取り除いてください。（図 4-149）

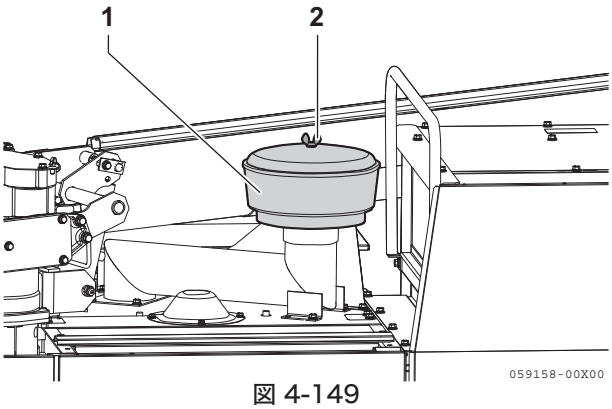


図 4-149

防塵装置の掃除のしかた

吸気口・ロータリースクリーンなどは、防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置です。作業前・後には必ず掃除をしてください。

吸気口の掃除のしかた

1. 防塵カバー（1）取付ボルト M6（2 本）（2）を外します。（図 4-150）

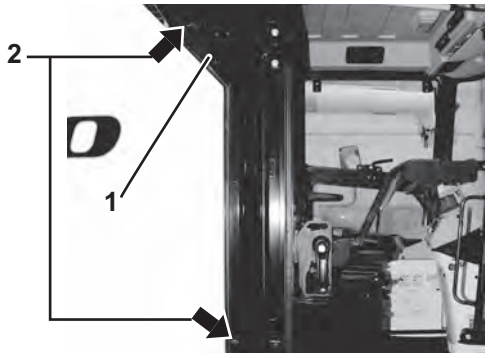


図 4-150

2. 防塵カバーを開いて吸気口の網面を点検します。（図 4-151）
   吸気口の網面にゴミが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面をこすってゴミを落とします。



図 4-151

■ ロータリースクリーン

[重要]

吸気口の網面へのゴミの付着は常に注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジン冷却水、および油圧作動オイルの冷却不良の原因になります。

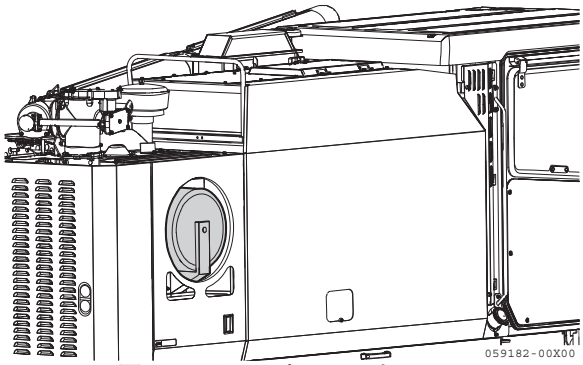


図 4-152 ロータリースクリーン

■ エアコン用コンデンサ外気吸入口

[重要]

- 網面やスクリーンへのゴミの付着には常に注意し、ゴミが付着していれば必ず掃除してください。
- コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

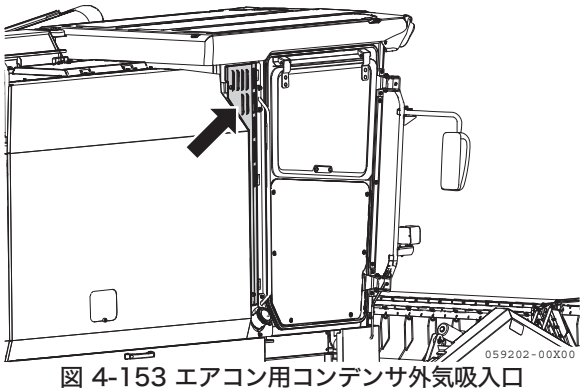


図 4-153 エアコン用コンデンサ外気吸入口

■ エアコン用コンデンサフィン（キャビン室内）



図 4-154 エアコン用コンデンサフィン

インタークーラフィン･燃料クーラフィン･オイルクーラーフィン･ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

1. エンジン右カバーを開きます。
2. ロータリースクリーン（1）のボルトM8（2本）(2) を外して、ロータリースクリーンを開きます。(図 4-155)

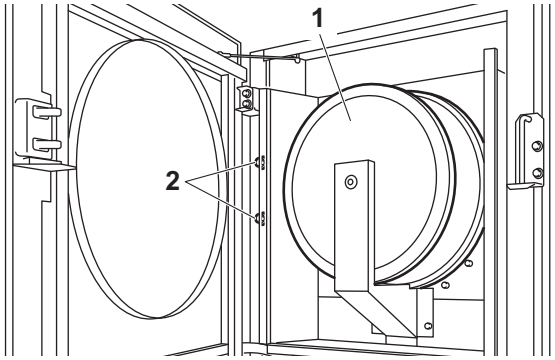


図 4-155

3. エアガンあるいはブロアなどで、オイルクーラフィン、インタークーラフィン、燃料フィンに付着しているワラクズやホコリを取り除きます。(図 4-156)

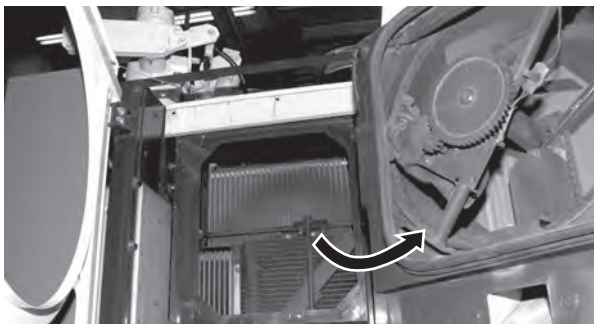


図 4-156

4. ラジエータ冷却フィンの掃除はオイルクーラをエンジンルームから外してから行います。
   グレンタンクを開き、(156ページ参照）ボルトM8（7本）を外して、オイルクーラを前方に抜きます。
   7本のボルトのうち1本はエンジンルーム内にあります。

[重要]
ラジエータ冷却フィンは変形させないでください。

フィルターの掃除のしかた(キャビン室内)

⚠警告

- フィルターの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「OFF」位置にしてください。
- キースイッチが「ON」位置のときに、空気の吸い込み口や吹出口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、ケガをする原因になります。

1. キースイッチを「OFF」位置にします。
2. ノブネジ（2本）(1) を外します。(図 4-157)

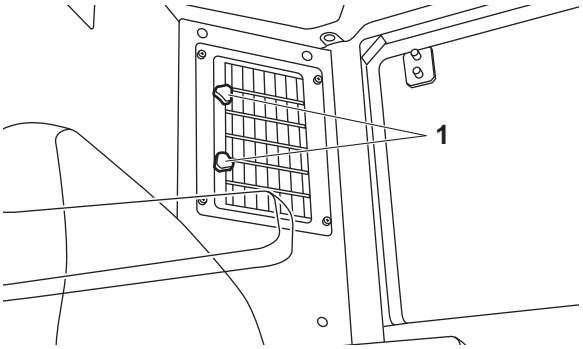


図 4-157

3. フィルターを外して、圧縮空気で洗浄します。(図 4-158)

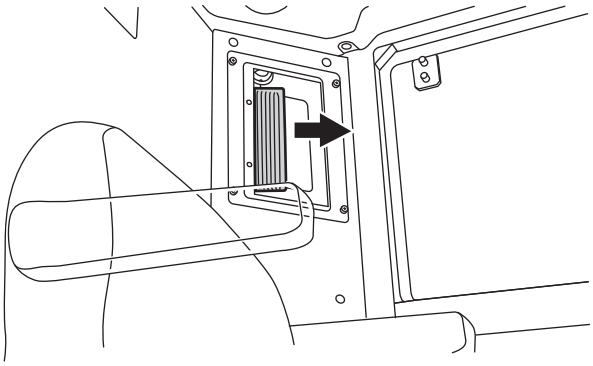


図 4-158

■ 汚れや詰まりが著しい場合

1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄します。
2. 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させます。

[重要]

- 洗浄に有機溶剤（ガソリン・シンナーなど）を使用しないでください。
- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

表 4-24 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
エレメント	97280000740

作動油タンクオイルの点検・補給・交換のしかた

HSTは、油圧機器の中でも特に精密で、作動油の管理が性能・寿命に大きく影響します。
作動油タンクオイルの点検・補給・交換は、ステップカバーを開いてから行ってください。（図 4-159）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

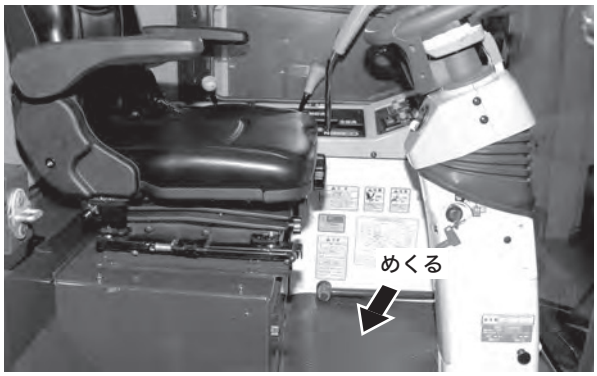


図 4-159

表 4-25 指定オイル・交換時期

指定オイル	交換時期	規定量
耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品（スーパーハイドロオイル56）	1回目:300時間後 2回目以降:600時間ごと	※全量 35ℓ

※作動油タンクの容量は26ℓ

[参考]

作動油タンクオイルの交換と同時に、HST フィルターの交換も行ってください。（210ページ参照）

点検のしかた

1. オイルゲージ（1）を抜いて、先端をきれいに拭き取ります。（図 4-160）

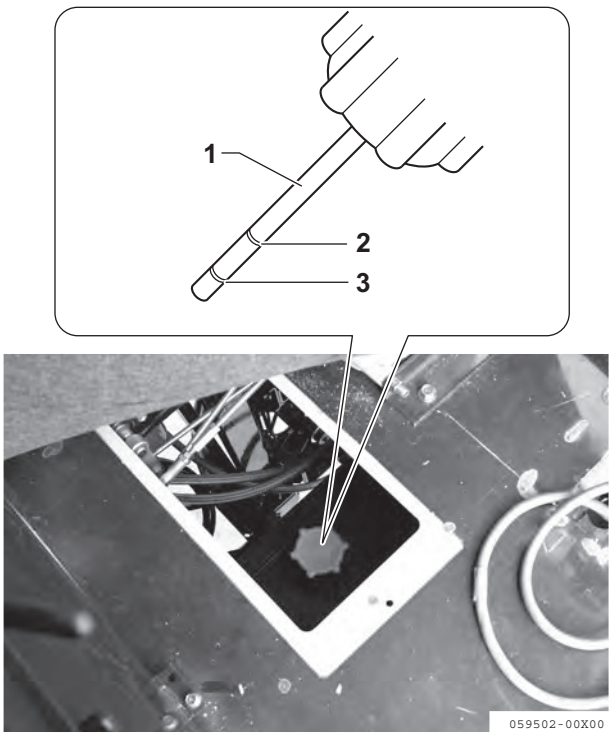


図 4-160

2. オイルゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。（図 4-160）
3. 点検後は、オイルゲージを元通りに取り付けます。

[参考]

点検時、オイルもれのないことも確認してください。

補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量になるまで補給してください。（図 4-161）

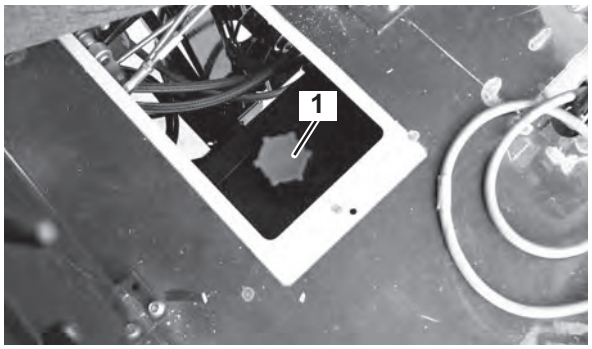


図 4-161

交換のしかた

1. ドレンプラグ（1）の下に、古いオイルを受ける容器を置きます。（図 4-162）

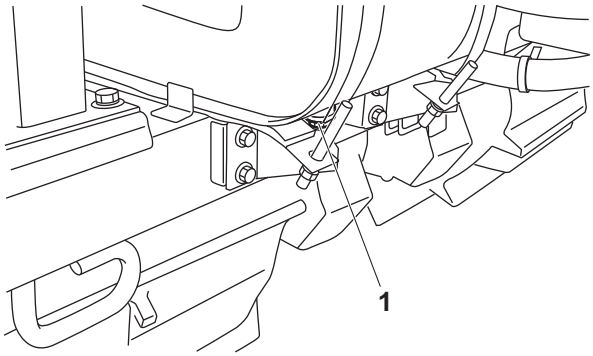


図 4-162

2. 作動油タンクのオイルゲージを外してから、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れでてきます。

[参考]

給油口のオイルゲージを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口から、指定オイルを規定量まで給油します。
5. 給油口にオイルゲージを取り付けます。
6. エンジンを始動して、アイドリング状態（低速回転）で3分程度回します。
7. エンジンを停止して、5分間待ちます。
8. オイルゲージ（1）でゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。不足している場合は、補給します。（図 4-163）

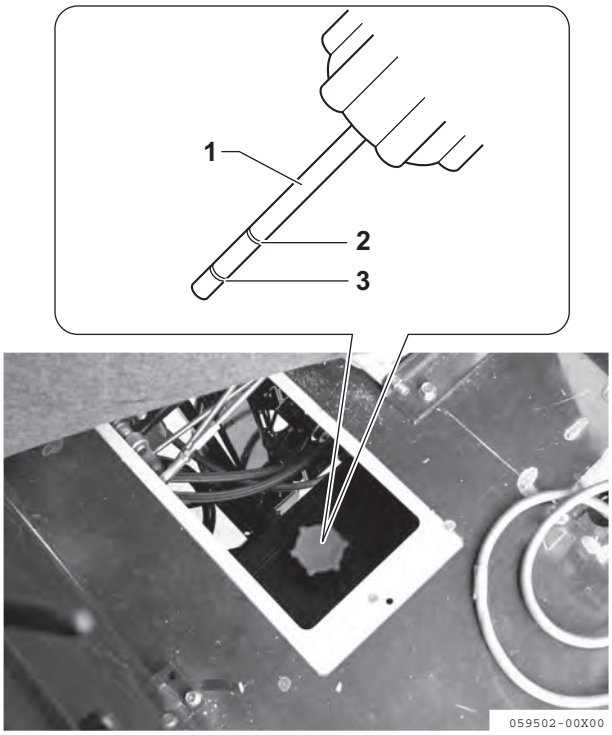


図 4-163

[重要]

- 異質のオイルを混入しないでください。作動不良の原因になります。
- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。処分は、特販店、JAまたは、産業廃棄物業者に依頼してください。

HSTフィルターの交換のしかた

HST フィルターは、作動油中に含まれる小さな異物をコシ取ります。HSTフィルターは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

表 4-26 交換時期

交換時期	1回目:300時間後 2回目以降:600時間ごと

[参考]

HST フィルターの交換と同時に、作動油タンクオイルの交換も行ってください。(208ページ参照)

交換のしかた

HST フィルターの交換は、作動油タンクのオイルを抜き取った後に行ってください。(208ページ参照)

1. カートリッジ（1）を矢印方向（2）に回して外します。(図 4-164)

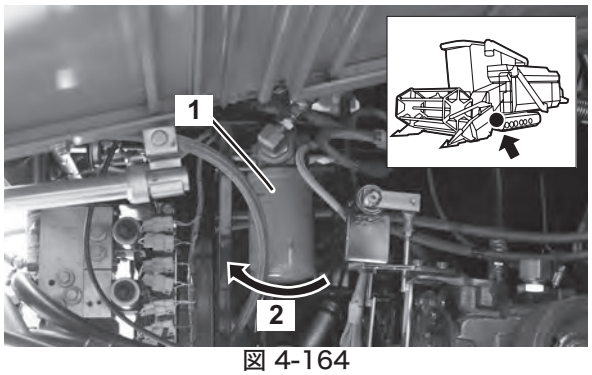


図 4-164

2. 新しい HST フィルターの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. HSTフィルターを、ゴムリングが取付部に接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- 交換後は、HSTフィルター取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- HSTフィルターは、純正部品をご使用ください。

表 4-27 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
HSTフィルター	94690071390

ウォッシャー液の補充のしかた

ウォッシャー液が無くなったときは、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れてください。

1. エンジン右カバー（1）を開きます。(図 4-165)
2. グレンタンク下部カバー（2）を開き、左へスライドさせてカバーを外します。(図 4-165)

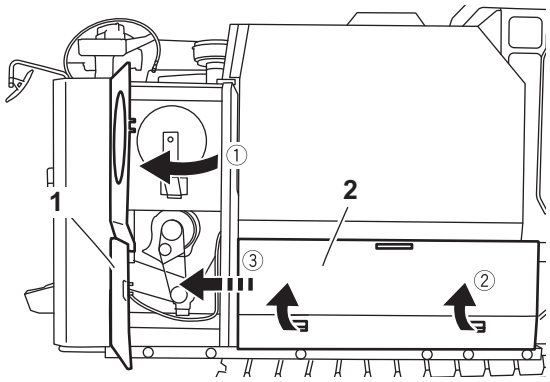


図 4-165

3. ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れます。(図 4-166)

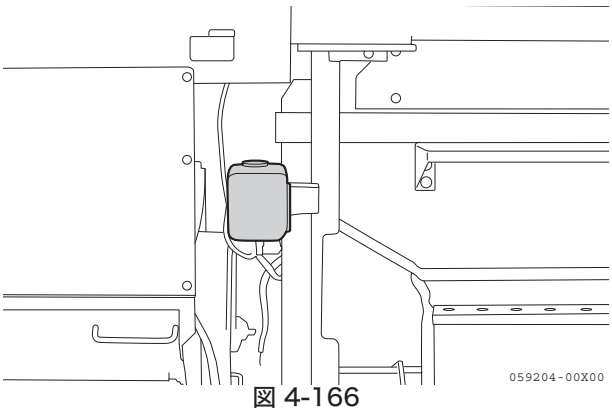


図 4-166

4. 作業終了後、グレンタンク下部カバーを元通りに取り付けて、エンジン右カバーを閉じます。

バッテリーの点検･整備のしかた

⚠危険

- バッテリーを点検するときおよびコンバインから外すときは、必ずエンジンを停止し、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発するおそれがあります。
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリー液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

⚠警告

- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリー端子を取り付けるときは、（＋）側を先に取り付け、外すときは（－）側から外してください。ショートしてヤケドや火災の原因になります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、火災の原因になります。

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、コンバインの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。

表 4-28 名称､コードNo.

名　称	コードNo.
バッテリー	97320000060

バッテリー液の点検･補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限（1）と下限（2）のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは､蒸留水を補給してください。(図 4-167)

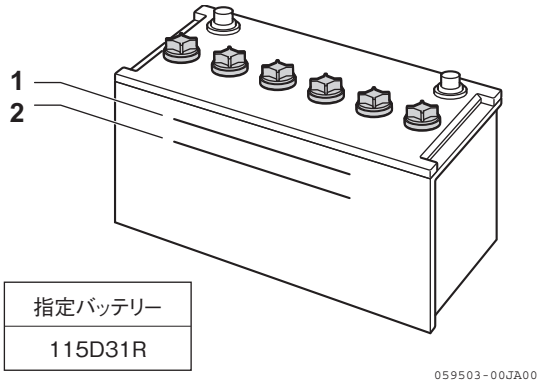


図 4-167

[重要]

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

交換時期について

交換時期（バッテリー電圧が10.5V以下）になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。

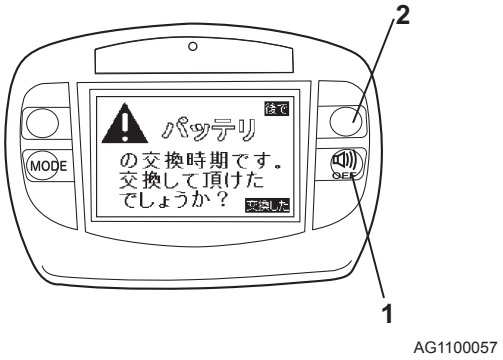


図 4-168

■ 表示のリセットのしかた

交換をすませたら、「OFF（ブザー停止）スイッチ」（交換した）（1）を押してください。(図 4-168)

■ すぐに交換しない場合

設定スイッチ2（後で）（2）を押してください。(次にキースイッチを「ON」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押すまで表示されます。)（図 4-168)

バッテリーの外しかた

バッテリーは、エンジン後方にあります。つぎの要領で外してください。

1. エンジン後カバーを開きます。（158ページ参照）
2. クランプ（4カ所）（1）を外します。（図 4-169）

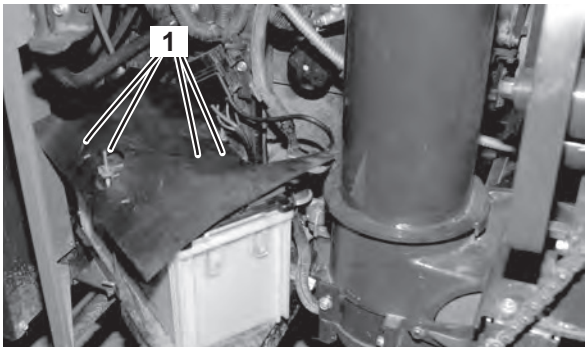


図 4-169

3. バッテリーを固定している、取付ナット（1）（4個）を外して、バッテリー固定金具を外します。（図 4-170）

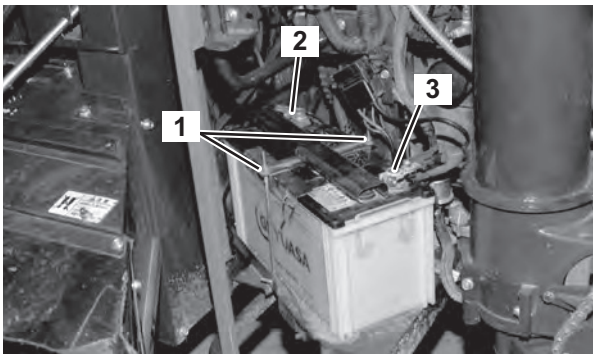


図 4-170

4. バッテリーコードの（−）端子（2）を外した後、（+）端子（3）を外します。（図 4-170）
5. バッテリーを抜き出します。
6. バッテリーの取り付けは、逆の手順で行います。
7. 作業終了後、カバーを元通りに閉じます。

補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、つぎの要領で補充電をしてください。

1. バッテリーを外します。（前項参照）
2. 液口栓を外し、バッテリーの（+）を充電器の（+）に、バッテリーの（−）を充電器の（−）に接続します。
3. 3アンペア程度で8〜10時間行います。
4. 充電が完了したら、充電用の接続を外し、液口栓を取り付けます。
5. バッテリーをコンバインに、元通りに取り付けます。

[重要]

- **急速充電はしないでください。**
- **取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。**
- **バッテリーの（+）ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。**
- **充電完了後は、液口栓を確実に締め付けて取り付けてください。**

バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐蝕していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

パイプ類の点検のしかた

⚠警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどから高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでいないか点検してください。燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。
燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（204ページ参照）

[重要]

- 燃料パイプを交換するときは、ホース、またはサプライポンプに異物が入らないように注意してください。サプライポンプが故障するおそれがあります。
- 廃油チューブも必ず点検してください。廃油チューブが破損していると、エンジン焼付きの原因になります。

電気配線の点検のしかた

⚠警告

- ワイヤハーネスおよびバッテリーケーブルが損傷しているとショートを起こします。
- バッテリーや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。ワラクズやゴミが付着していますと、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、特販店、またはJAで修理してください。配線コードは、傷みがなくても50時間使用または、1年ごとに定期点検を受けてください。

ヒューズ･スローブローヒューズの点検･交換のしかた

⚠警告

ヒューズおよびスローブローヒューズは､必ず規定アンペアのものを使用してください｡火災につながるおそれがあります。

ヒューズの交換のしかた

1. エンジン後カバーを開いて､ヒューズを点検します。（158ページ参照）

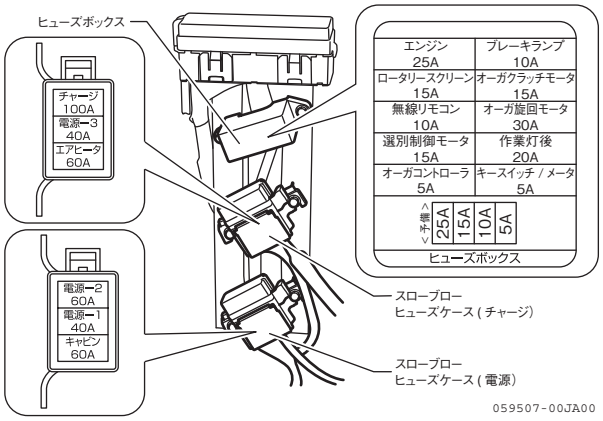


図 4-171 ヒューズの交換

2. ヒューズが切れていれば､規定容量のものと交換します。

[重要]

規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

スローブローヒューズ60A・100Aの交換のしかた

1. バッテリーコードの（−）端子を外します。
2. スローブローヒューズケース（1）を固定しているボルト（2）2本を外します。（図 4-172）

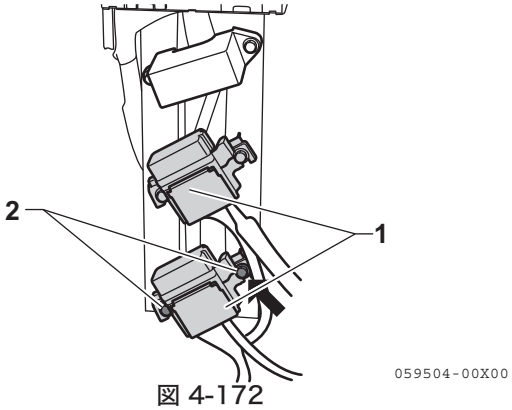


図 4-172

3. ヒューズケース両側面のカバー（1）を開き、スローブローヒューズを固定しているボルト（2）（2本）を外します。（図 4-173）

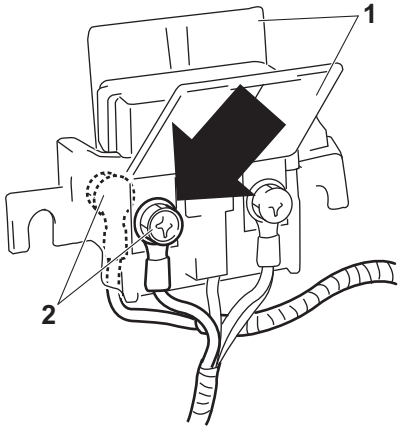


図 4-173

[参考]

ボルト（2本）は、スローブローヒューズごとにあります。

4. ヒューズケース上面のカバーを外し、スローブローヒューズを交換し、元通りに取り付けます。

[参考]

スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

ヒューズボックス（キャビン室内）

シート下のノブネジ（1）（2本）を外し、カバー（2）を外してください。（図 4-174）



図 4-174

刈刃の調節のしかた

⚠警告

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

⚠注意

刈刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。ケガをするおそれがあります。

[重要]

刈跡が揃わなくなったときは、刈刃のすき間を調節してください。

表 4-29 調節時期

調節時期	100時間または1シーズンごと

調節のしかた

1. リールを最上げにします。
2. 受刃（1）と刈刃（2）上下面のすき間は、受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか、締付ナット M10 をゆるめて、シムで調節します。（図 4-175）

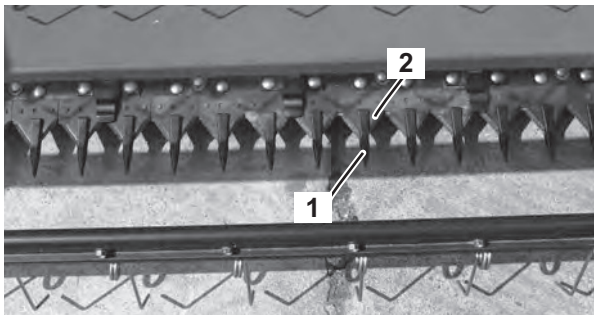


図 4-175

[参考]

- シムの位置については、図 4-176を参考にしてください。
- 受刃と刈刃上面……最大すき間1.2mm
- 受刃と刈刃下面……すき間0.3mm～0.8mm

3. 刈刃の前後すき間は、締付ナット M10 をゆるめて、摩擦板を前後に動かして、最大0.8mmに調節します。
4. 締付ナットM10を締め付けて固定します。

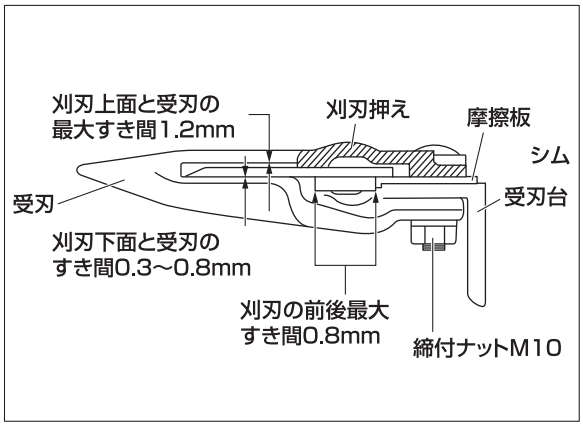


図 4-176 調節のしかた

[重要]

刈刃には食品衛生上、食品機械用潤滑スプレーを使用して、たっぷり注油してください。
シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やワラクズを取り除き、注油してください。

プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた

⚠警告

プラットホームオーガ(1)を手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。（図 4-177）

調節のしかた

1. リールを最上げにします。
2. プラットホーム底板（2）とスクリューコンベア（3）とのすき間が、稲・麦の場合は６～８mm、大豆の場合は12～15mmになるように調節します。（図 4-177）

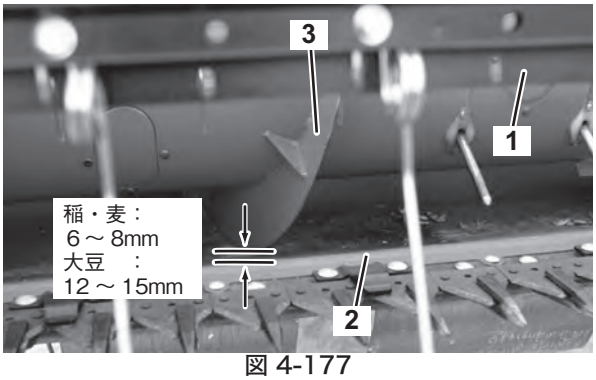


図 4-177

〈プラットホーム左側〉

オーガハンガ調節ボルト（1）で調節します。(図 4-178)

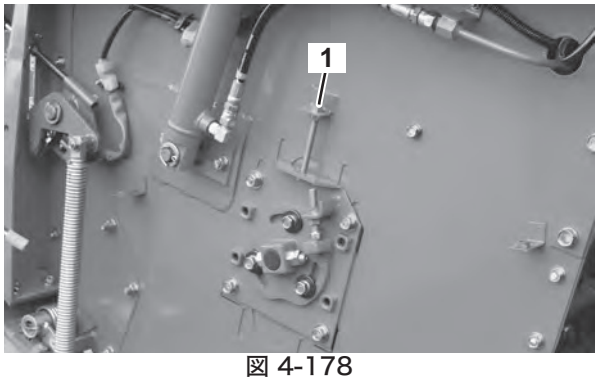


図 4-178

〈プラットホーム右側〉

オーガハンガ調節ボルト（1）で調節します。(図 4-179)

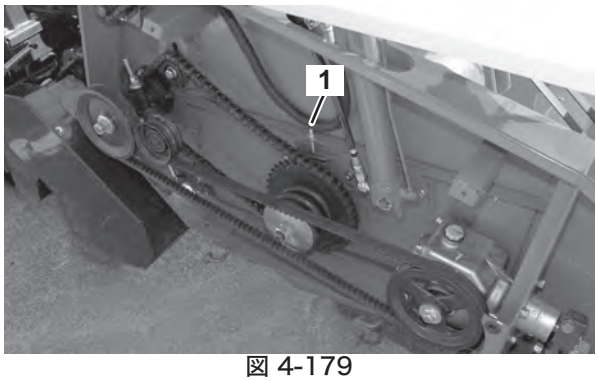


図 4-179

リール変速ベルトの交換のしかた

⚠警告

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

調節のしかた

1. リール変速ベルトカバー（1）を外します。(図 4-180)

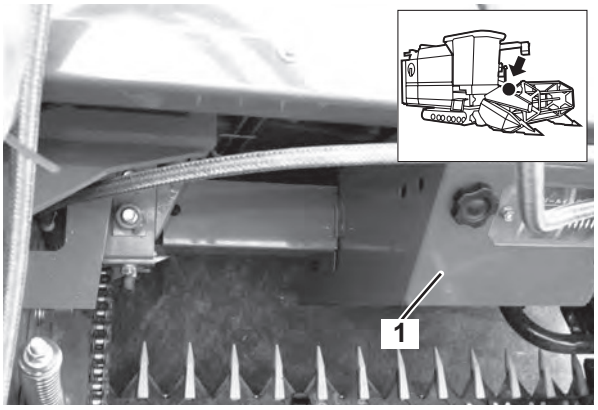


図 4-180

2. 軸継手のスナップピン・平頭ピン（1）を外し、軸継手をプラットホーム側へ寄せて、軸継手を外します。(図 4-181)
3. 止めボルト（2）(2本) と平頭ピン・スナップピンを外して、変速ヨーク（3）を外します。(図 4-181)
4. リール変速ベルト(4)を交換します。(図 4-181)

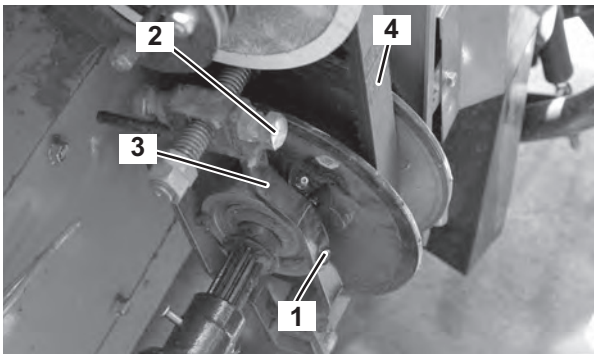


図 4-181

5. 作業終了後、カバーは元通りに取り付けます。

プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節のしかた

⚠警告

プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

点検のしかた

1. リールを最上げにします。
2. プラットホームオーガを手で回転させ、中央部のオーガフィンガ（1）が、プラットホーム底板（2）に最も近い位置で、底板からフィンガ先端までの寸法を測定し、4～6mmになっていることを確認します。（図 4-182）

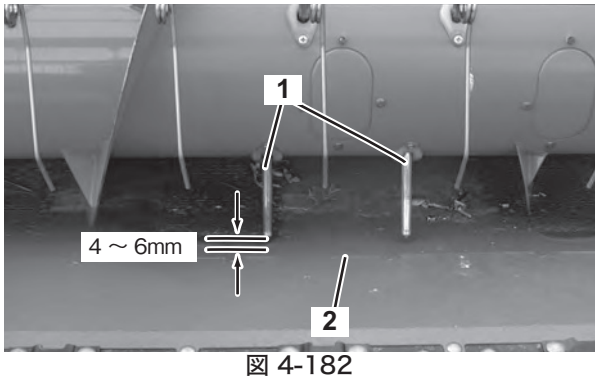


図 4-182

調節のしかた

1. 基準範囲内（4～6mm）にないときは、ボルト（1）（3 本）と左のフィンガアジャスタ（2）のロックナット（3）をゆるめます。（図 4-183）

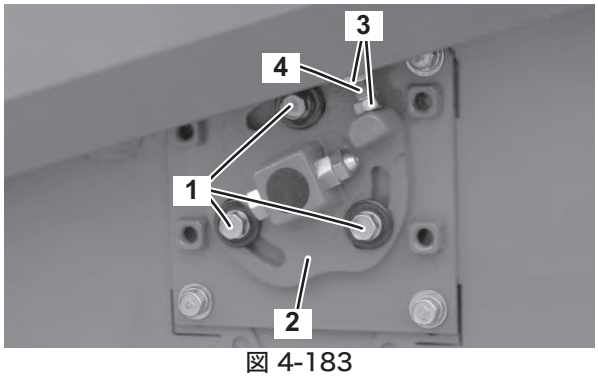


図 4-183

2. フィンガアジャスタを回転させて調節します。
3. ストッパボルト（4）で固定します。（図 4-183）

フィーダチェンの張り調節のしかた

⚠警告

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

点検のしかた

1. FHソウジカバー（1）を外します。（図 4-184）

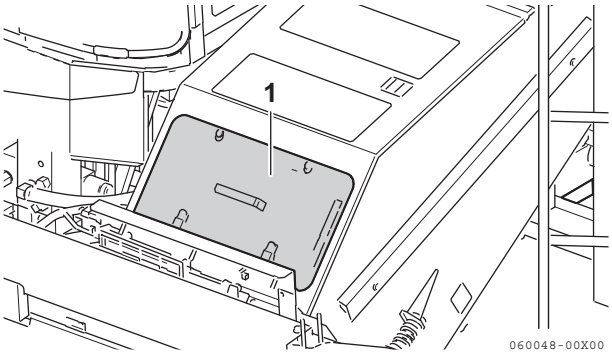


図 4-184

2. フィーダチェン（1）を手で回し、スラット（2）をフィーダハウスドラム下部の位置にしたとき、スラットとフィーダハウス底板のすき間寸法を確認します。（図 4-185）

中央部……すき間3～7mm

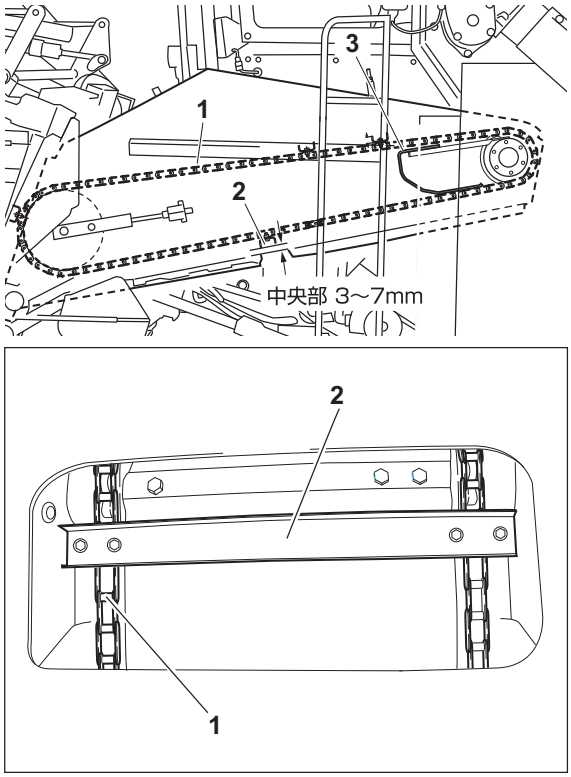


図 4-185

中央部の調節のしかた

調節は、左右同時に行います。フィーダハウスドラムテンション固定ボルト（1）をゆるめて、調節ナット（2）で調節します。（図 4-186）

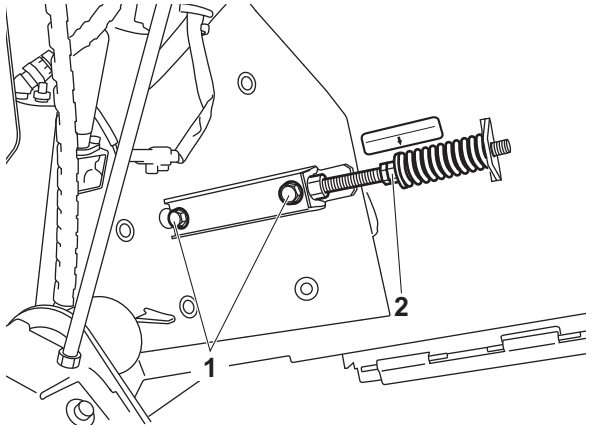


図 4-186

1. FHチェンササエバネ（1）の板厚が1mm以上であるか確認します。（図 4-187）

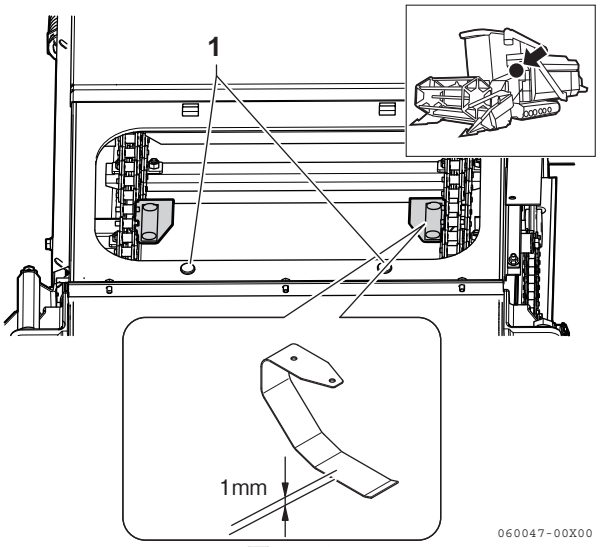


図 4-187

2. 基準範囲内（1mm以上）にないときはFHチェンササエバネの左右を入れ替えます。
3. 調節終了後、カバーを元通りに取り付けます。

プラットホームオーガリミットクラッチの点検･調節のしかた

刈取サイドカバー右を外して（153ページ参照）、つぎの点検・調節をしてください。点検・調節後は元通りに取り付けてください。

点検のしかた

リミットクラッチバネ（1）のバネ長が63～65mmであるか確認します。（図 4-188）

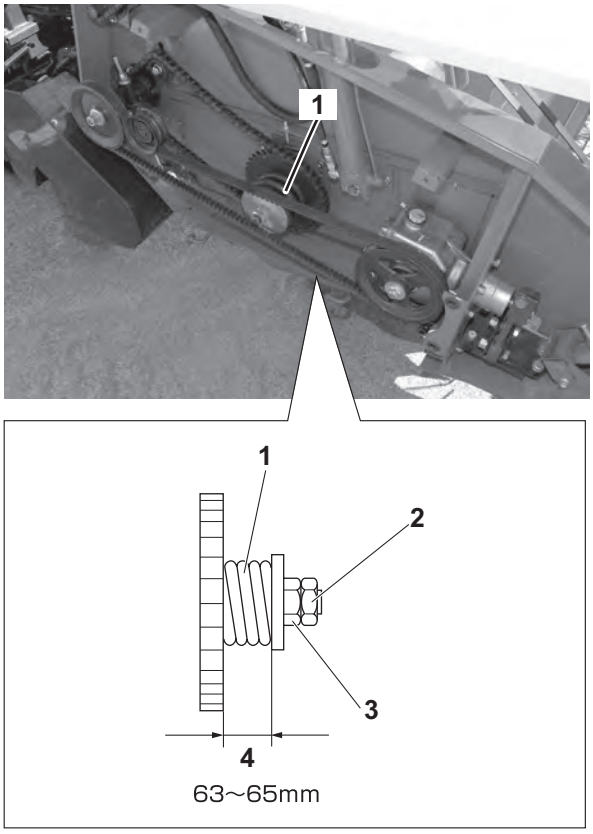


図 4-188

調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-188）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長（4）を調節します。（図 4-188）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

リール調節のしかた

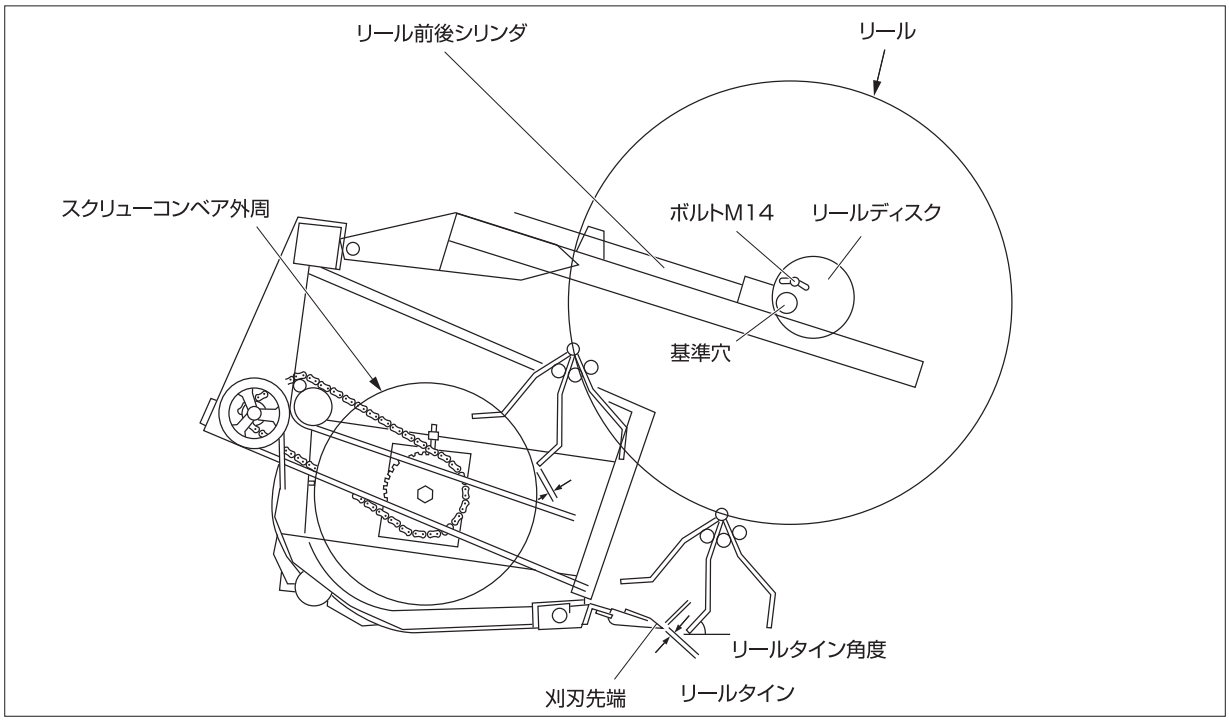


図 4-189 リール調節のしかた

刈刃上面のリールタイン先端のすき間調節のしかた

1. ボルト（1）M14をゆるめます。（図 4-190）

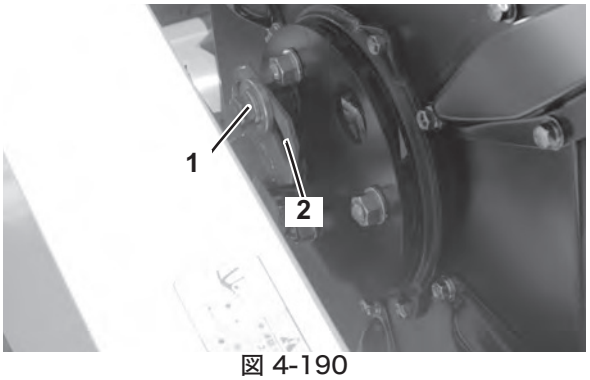


図 4-190

2. ボルトM14の中心とリールブラケットRの長穴部（2）の中心が合うように、リールディスクを動かします。（図 4-190）
3. ボルトM14を締め付けます。
4. エンジンを始動します。
5. リール前後・リール速度スイッチを「後」側にしてリールを後方へ移動し、リール高さ調節スイッチを「下降」側にして、リールをいっぱいまで下げます。
6. エンジンを停止します。
7. 刈刃（1）上面とリールタイン（2）先端のすき間が、刈刃先端で10～20mmになるように、リール上下シリンダ（3）のアイボルト（4）で調節します。（図 4-191）

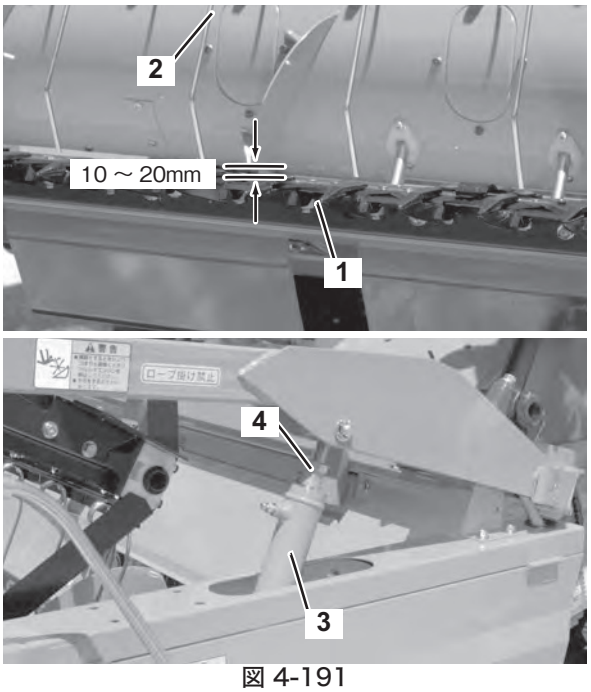


図 4-191

8. リールを回転させて、プラットホームオーガのスクリューコンベア（1）の外周とリールタイン（2）先端のすき間が、10～20mmでスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認します。（図 4-192）

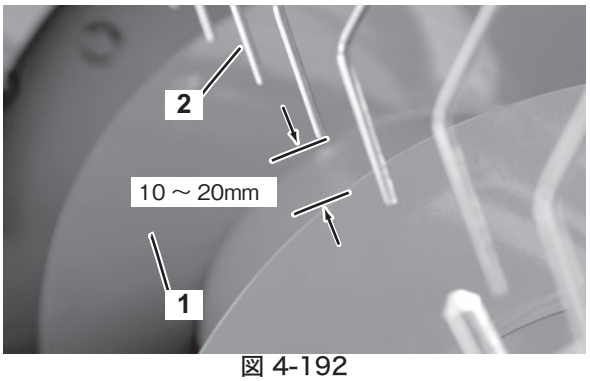


図 4-192

スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、適正でない場合の調節のしかた

1. ボルト（1）M14をゆるめ、すき間が10～20mmで、スクリューコンベア（2）の外周と接触しないように調節します。（図 4-193）

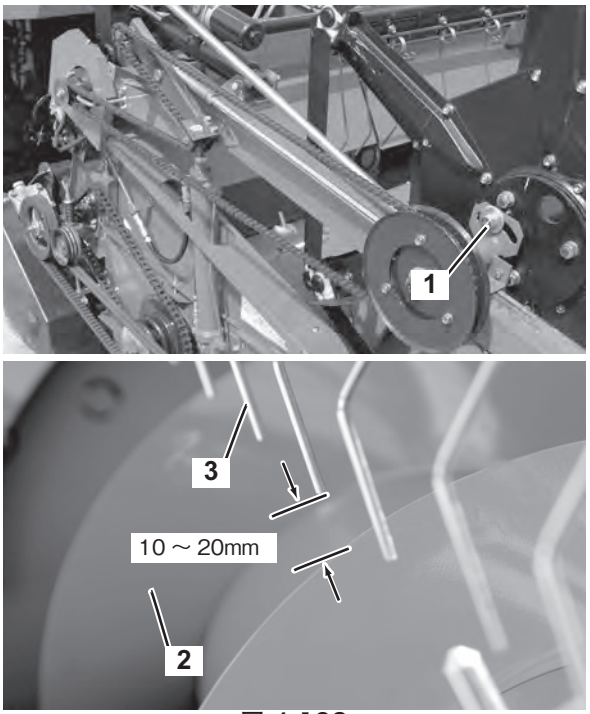


図 4-193

2. ボルトM14を締め付けます。
3. 再度、刈刃上面とリールタイン（3）先端のすき間を確認します。（図 4-193）
   このとき、リールタインとオーガフィンガが接触し、音がでる場合は、リールタインが当たらないように、リールタインを左右方向に動かします。

倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合

1. リールディスクの位置を前に動かし、タイン角度を小さくします。（220ページ参照）
2. 小さくしすぎると、プラットホームオーガと当たる場合があります。このときはリールを少し前へ出します。

立毛した作物で、リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合

リールディスクを後に動かし、タイン角度を大きくします。（220ページ参照）

各部チェンの点検･調節のしかた

リールカウンタチェン

リールチェンカバーと刈取サイドカバー右を外して（153ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

チェン（1）の中央を軽く指で押さえたときのたわみ量（2）が、10～16mmであるか確認してください。（図 4-194）

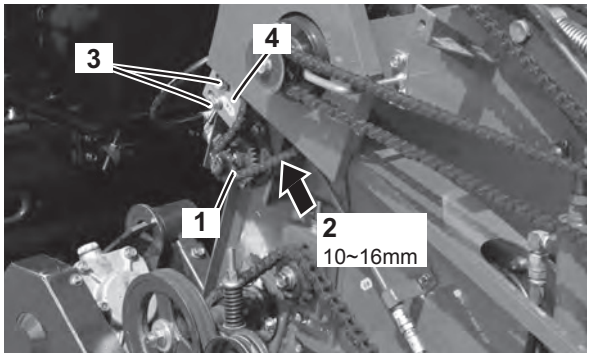


図 4-194

■ 調節のしかた

1. ロックボルト（3）M8（2本）をゆるめます。（図 4-194）
2. テンショナ（4）を移動させてチェンを張ります。（図 4-194）
3. ロックボルトを締め付けて固定します。

プラットホームオーガチェン

刈取サイドカバー右を外して（153ページ参照）、つぎの点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

プラットホームオーガチェン（1）の中央を指で押したとき、たわみ量（2）が14～20mmであるか確認します。（図 4-195）

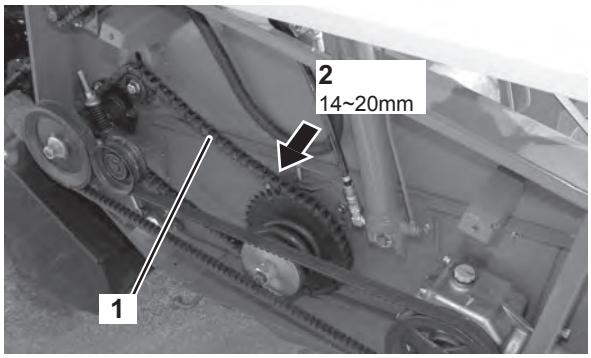


図 4-195

■ 調節のしかた

1. ロックナット（1）をゆるめます。（図 4-196）

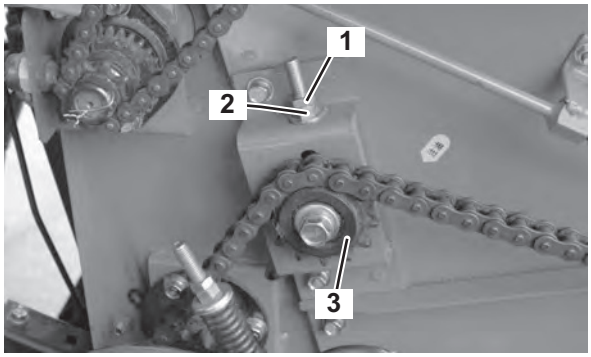


図 4-196

2. 調節ナット（2）を回して、テンションプーリ（3）を調節してチェンを張ります。（図 4-196）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

刈取駆動チェン

■ 点検のしかた

座金（1）とカラーのすき間が、0～1mmであるか確認します。(図 4-197)

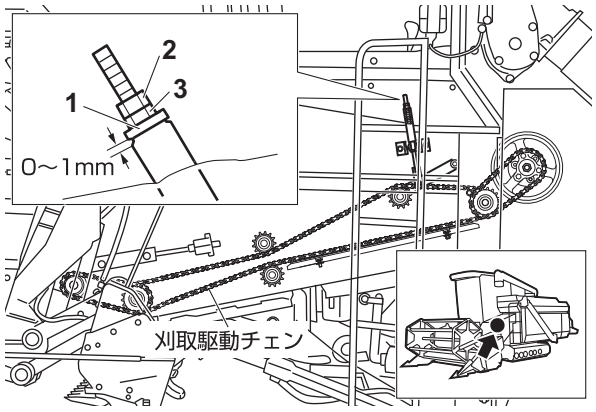


図 4-197

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-197)
2. 調節ナット（3）を回して、座金とカラーのすき間を調節します。(図 4-197)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

バケットチェン

ベルトカバーを外して、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

座金（1）とカラーの間が、0～0.5mmであるか確認します。(図 4-198)

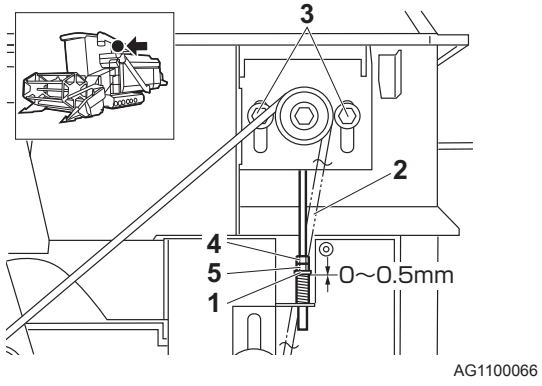


図 4-198

■ 調節のしかた

1. レベリングディスクベルト（2）を外します。(図 4-198)
2. バケット左右のボルト（3）M10×20（2本）をゆるめます。(図 4-198)
3. ロックナット（4）をゆるめます。(図 4-198)
4. 調節ナット（5）を左右交互に回して、チェンを引っ張ります。(図 4-198)
5. 座金とカラーのすき間を調節します。
6. ロックナットを締め付けて固定します。
7. バケット左右のボルトM10×20（2本）を締め付けて固定します。

[参考]

調節後には、バケットチェンのたわみ量を昇降機内部の点検口から確認してください。
チェンを指で、50 ～ 60mm であるか確認してください。(図 4-199)

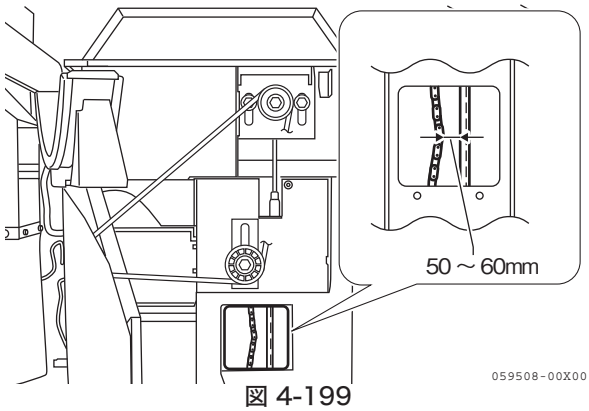


図 4-199

グレン駆動チェン

■ 点検のしかた

チェン（1）の中央を軽く指で押さえたときのたわみ量（2）が、14～20mmであるか確認します。（図 4-200）

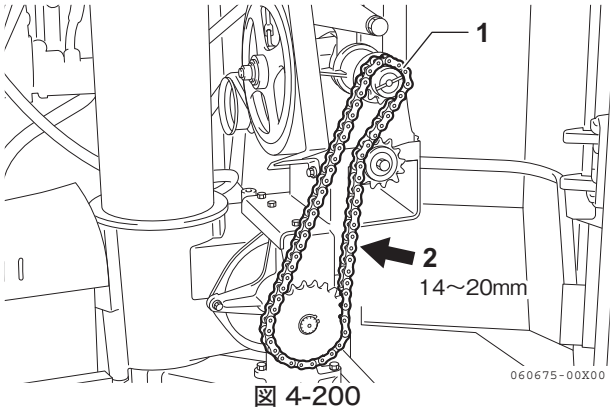


図 4-200

■ 調節のしかた

1. ロックボルトM8（1本）をゆるめます。
2. テンショナを移動させてチェンを張ります。
3. ロックボルトを締め付けて固定します。

各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（280ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

[参考]

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。

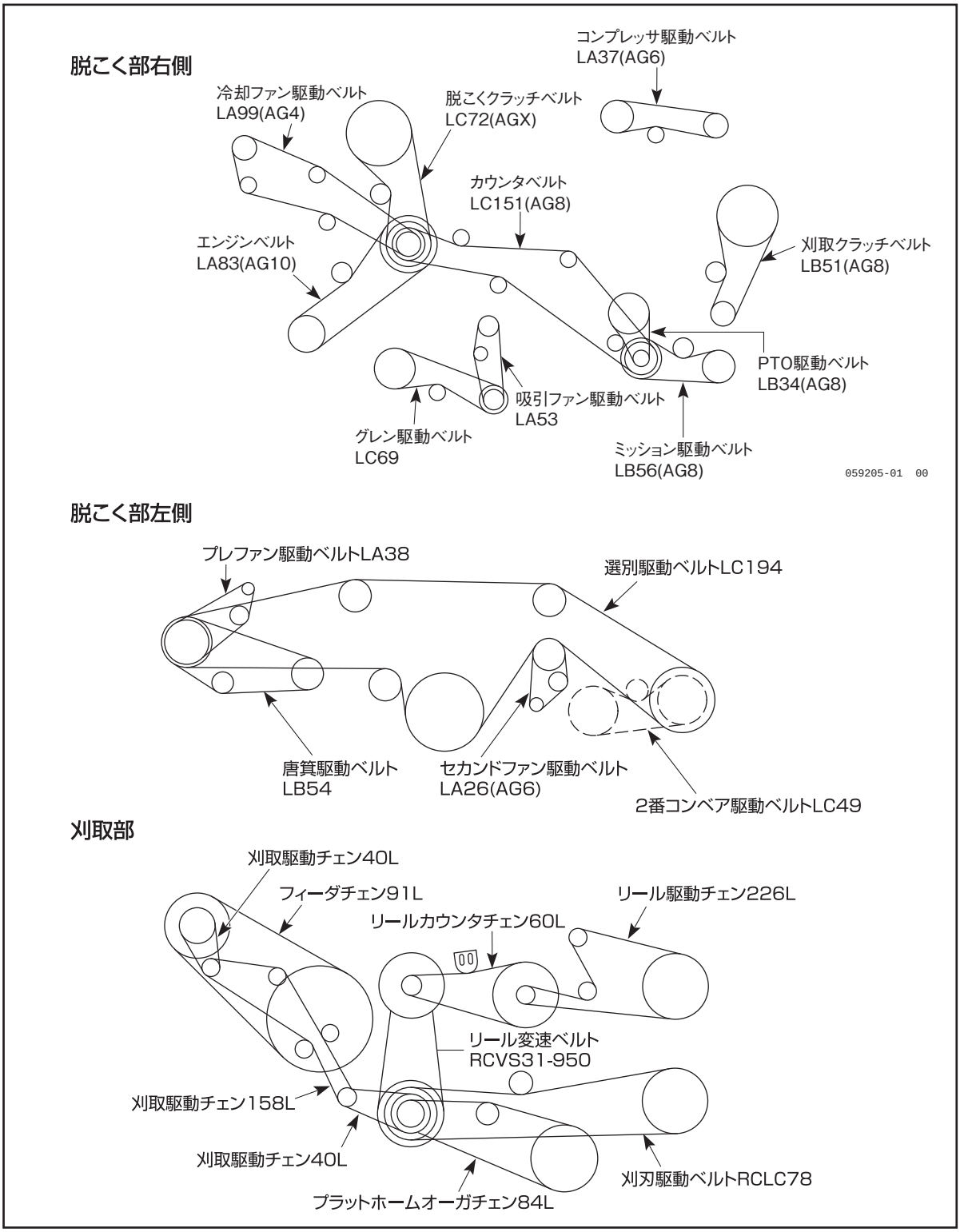


図 4-201 各部ベルト

2番駆動ベルト

点検・調節後は元通りに取り付けてください。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、90〜94mmであるか確認します。（図 4-202）

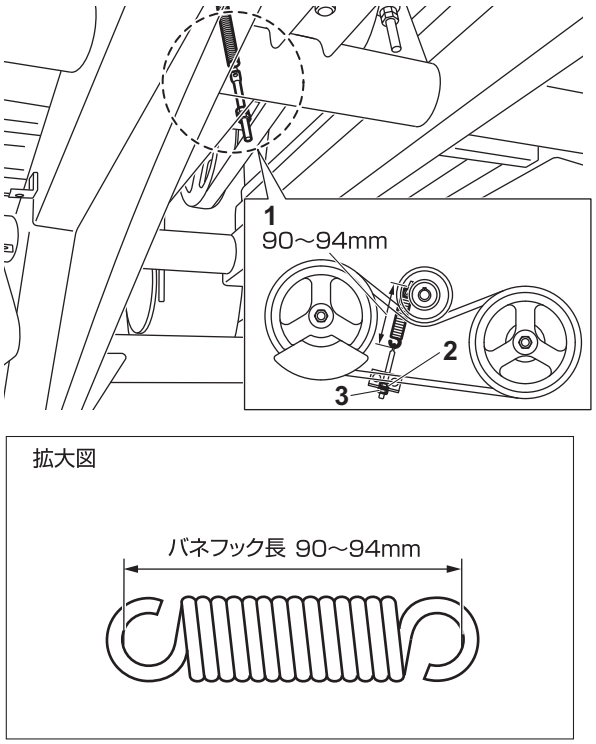


図 4-202

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-202）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-202）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

選別駆動ベルト

脱こく左前カバーを外して（157ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、151 〜155mmであるか確認します。（図 4-203）

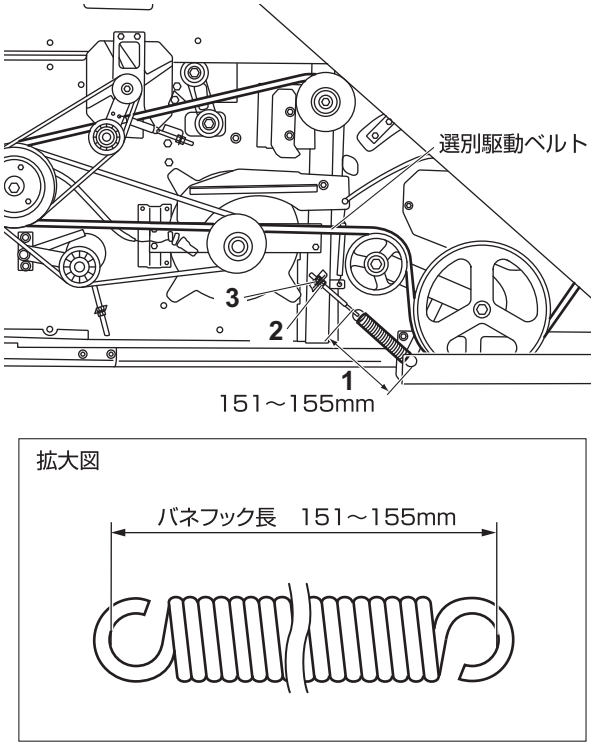


図 4-203

■ 調節のしかた

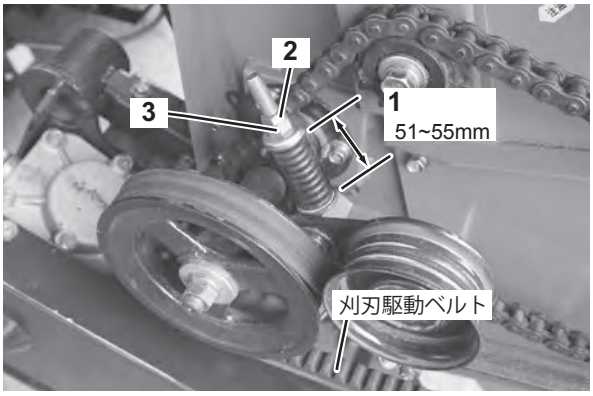
1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-203）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-203）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

刈刃駆動ベルト

刈取サイドカバー右を外して（153ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネ長（1）が、51～55mmであるか確認してください。（図 4-204）



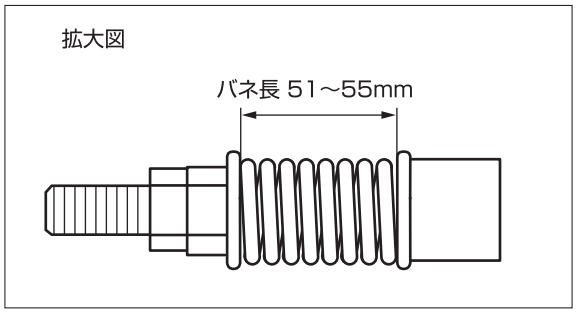


図 4-204

■ 調節のしかた

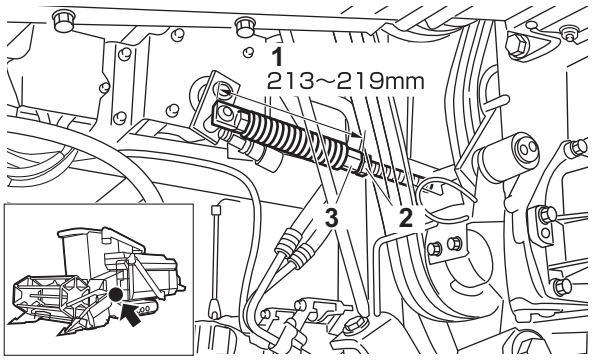
1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-204）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。（図 4-204）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

刈取駆動ベルト

刈取部を上げて刈取部ストッパで固定し、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。
3. テンションバネの金具を含む全長（1）が、213～219mmであるか確認します。（図 4-205）



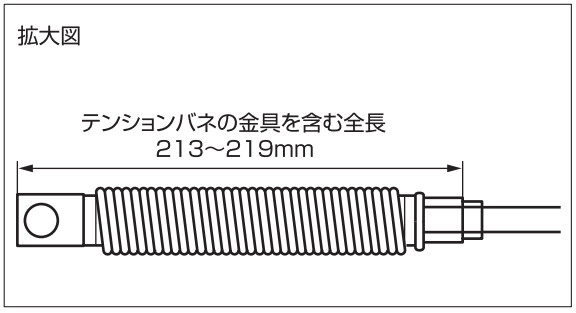


図 4-205

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-205）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。（図 4-205）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

[重要]
点検・調節後は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。

ロータ駆動ベルト

エンジン後カバーを開き（158ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネ長（1）が、つぎの寸法であることを確認してください。（図 4-206）

- 稲・麦・大豆作業時……163～167mm

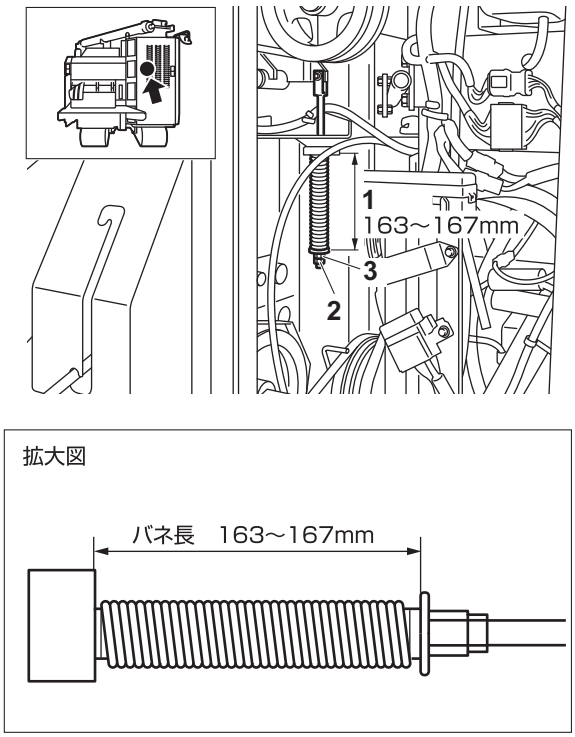


図 4-206

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-206）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。（図 4-206）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

脱こく駆動ベルト

グレンタンクを開き、カバー（1）を開けて、つぎの点検・調節をします。（図 4-207）
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. 作業クラッチレバーを「脱こく」位置にします。
3. テンションバネの金具を含む全長（2）が、239～243mmであるか確認します。（図 4-207）

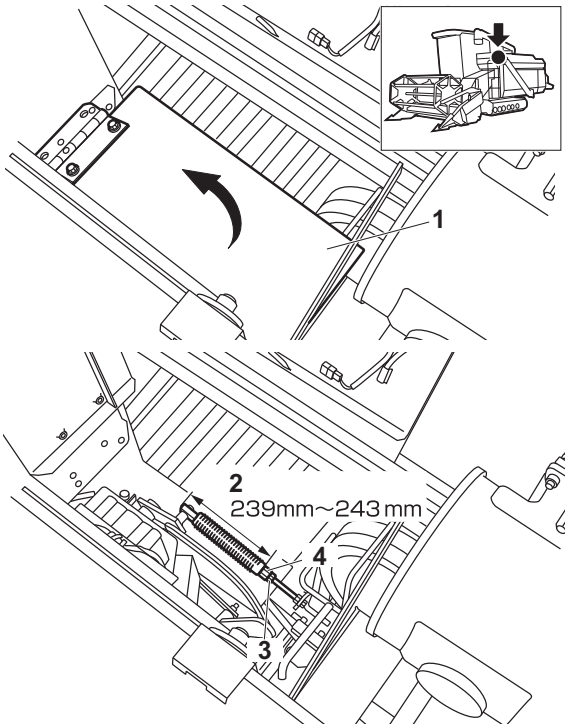


図 4-207

■ 調節のしかた

1. ロックナット（3）をゆるめます。（図 4-207）
2. 調節ナット（4）を回して、テンションバネの金具を含む全長を調節します。（図 4-207）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

[重要]

点検・調節後は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。

グレン駆動ベルト

エンジン後カバーを開いて（158ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに閉じます。

■ 点検のしかた

1. エンジンを始動して、オーガをオーガ収納位置からキャビンを越えるまで移動させます。（71ページ参照）
2. 一度エンジンを停止して、再びキースイッチを「ON」位置にします。
3. 排出オーガクラッチスイッチを押して「入」にします。
4. テンションバネのバネフック長（1）が、122 ～126mmにあることを確認します。（図 4-208）

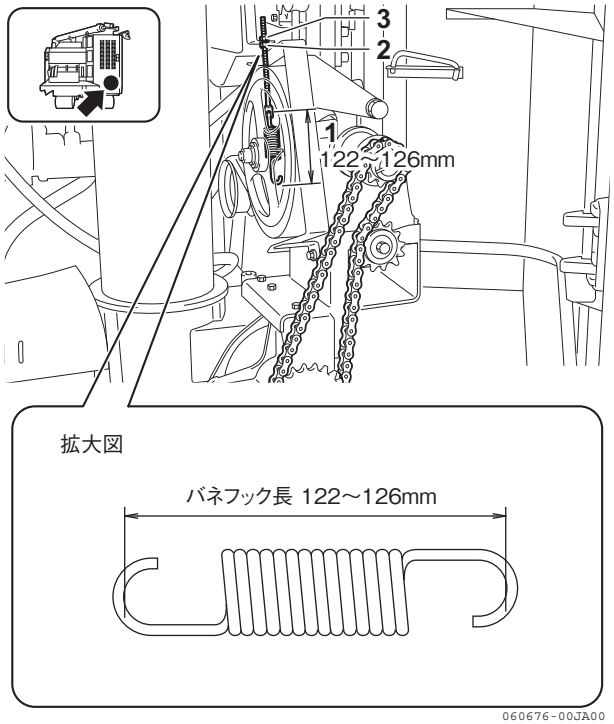


図 4-208

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）（2か所）をゆるめます。（図 4-208）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-208）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

[重要]

- **点検・調節後は、必ず排出オーガクラッチスイッチを「切」にして、キースイッチを「ON」位置にしてください。**
- **排出オーガが、オーガレストの収納位置付近にあるときは、オーガ先端およびオーガマルチリモコンの排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押しても、オーガクラッチは「入」になりません。**

エンジンベルト

エンジン後カバーを開いて（158ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに閉じます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネ長（1）が、143～147mmにあることを確認します。（図 4-209）

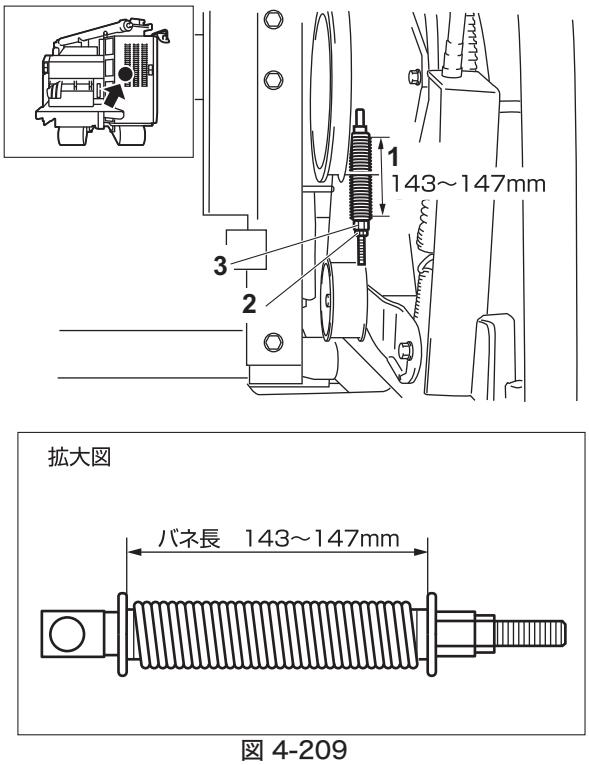


図 4-209

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-209）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。（図 4-209）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

ジェネレータ駆動ベルト

エンジン右カバーを開いて（153ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに閉じます。

■ 点検のしかた

ベルト（1）の中央を軽く指で押さえたとき、たわみ量（2）が10〜14mmにあることを確認します。（図 4-210）

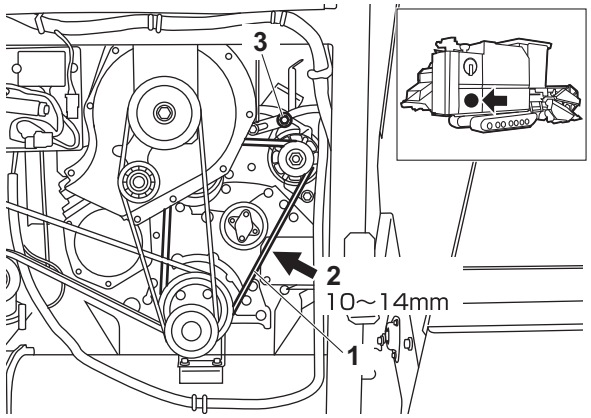


図 4-210

■ 調節のしかた

1. ジェネレータ取付ボルト（3）をゆるめます。（図 4-210）
2. ジェネレータを引っ張って、ベルトを張り、たわみ量を調節します。
3. ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してます。

[参考]

ジェネレータをいっぱいまで動かしても張りが不足する場合は、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後20時間・50時間目に必ず点検してください。

冷却ファンベルト

エンジン後カバーを開いて（158ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに組み立てます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、143 〜 147mmにあることを確認します。（図 4-211）

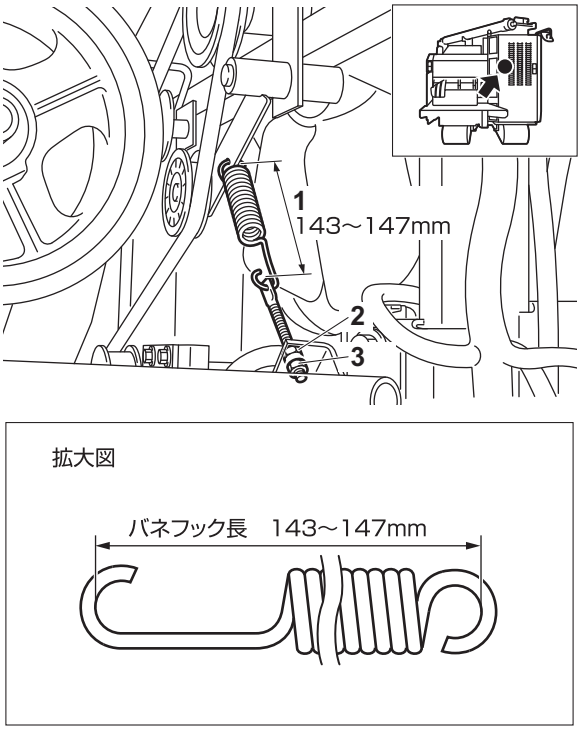


図 4-211

■ 調節のしかた

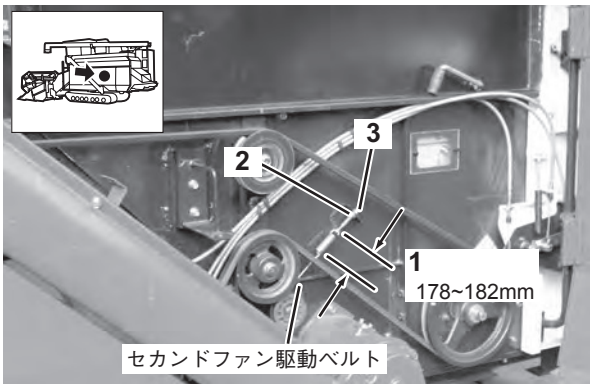
1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-211）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-211）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

セカンドファン駆動ベルト

脱こく左後カバーを開いて（157ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、178～182mmにあることを確認します。（図 4-212）



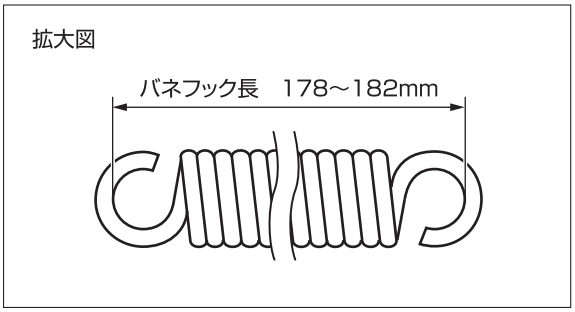


図 4-212

■ 調節のしかた

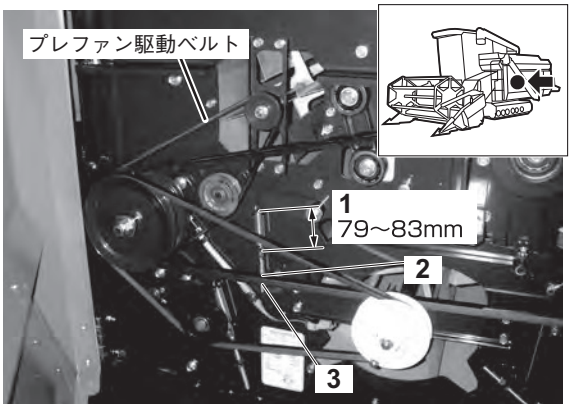
1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-212）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-212）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

プレファン駆動ベルト

脱こく左前カバーを開いて（157ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、79～83mmにあること確認します。（図 4-213）



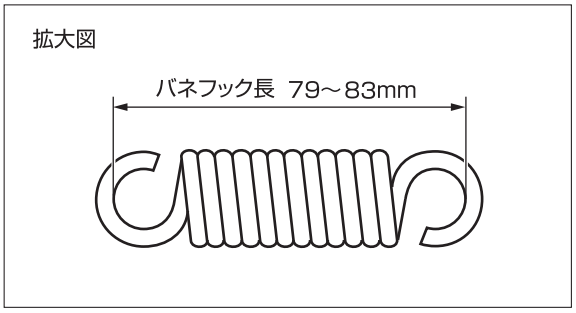


図 4-213

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-213）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-213）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

唐箕駆動ベルト

脱こく左前カバーを開いて（157ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、93～97mmにあることを確認します。（図 4-214）

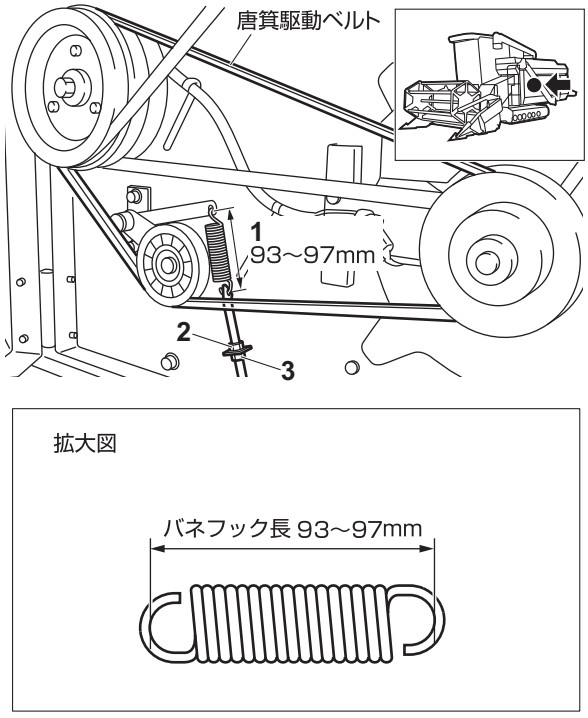


図 4-214

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-214）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-214）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

HST駆動ベルト

刈取部を最上昇位置にして、刈取部ストッパで刈取部を固定して（168ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りにセットします。

■ 点検のしかた

テンションバネの金具を含む全長（1）が、232～236mmにあることを確認します。（図 4-215）

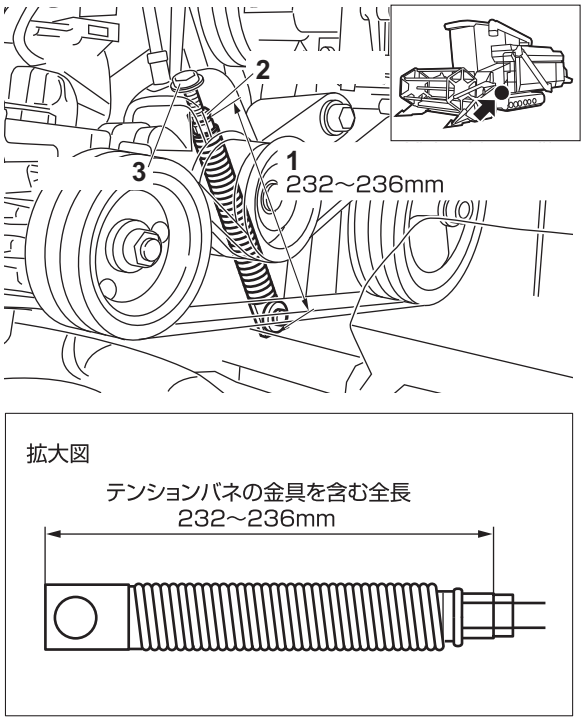


図 4-215

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-215）
2. テンションボルト（3）を回して、テンションバネの金具を含む全長を調節します。（図 4-215）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

レベリングディスクベルト

コンベアカバーを開いて、つぎの点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

1. ノブボルト（1）（4 個）を外して、コンベアカバーを開きます。（図 4-216）

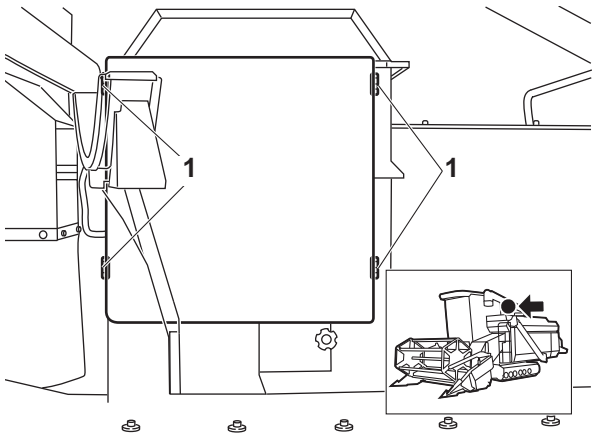


図 4-216

2. テンションプーリのボルト（1）（M10）をゆるめてプーリを下方に押し下げます。（図 4-217）
3. ベルト中央部を軽く指で押さえたとき、たわみ量が10～15mmにあることを確認し、テンションプーリのボルトを締め付けて固定します。

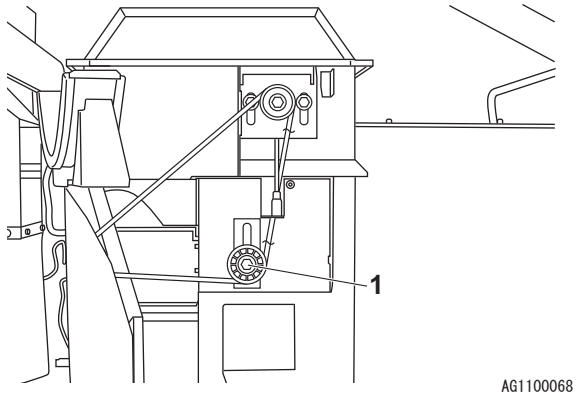


図 4-217

カウンタベルト

グレンタンクを開いて（156ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

■ 点検のしかた

テンションバネのフック長（1）が、312～316mmであることを確認します。（図 4-218）

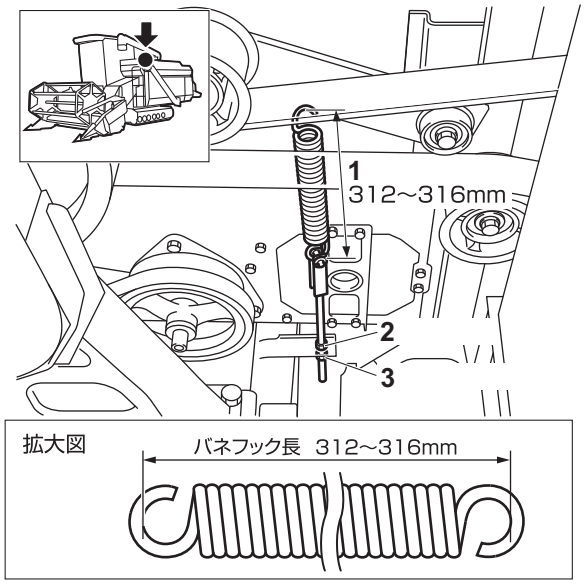


図 4-218

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-218）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-218）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

PTO駆動ベルト

グレンタンクを開いて（156ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのフック長（1）が、146〜150mmにあることを確認します。（図 4-219）

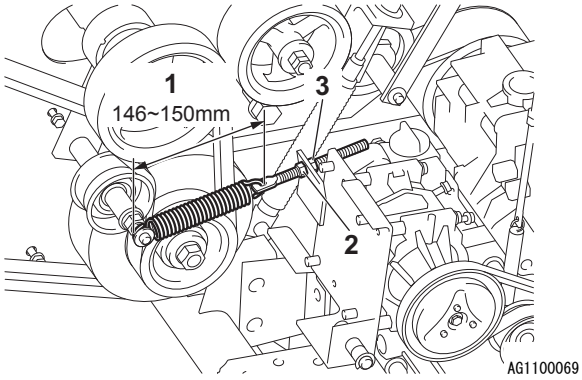


図 4-219

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-219）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-219）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

コンプレッサ駆動ベルト

刈取部を最上げ位置にして、刈取部を刈取部ストッパで固定して（168ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りにします。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、121 〜 125mmにあることを確認します。（図 4-220）

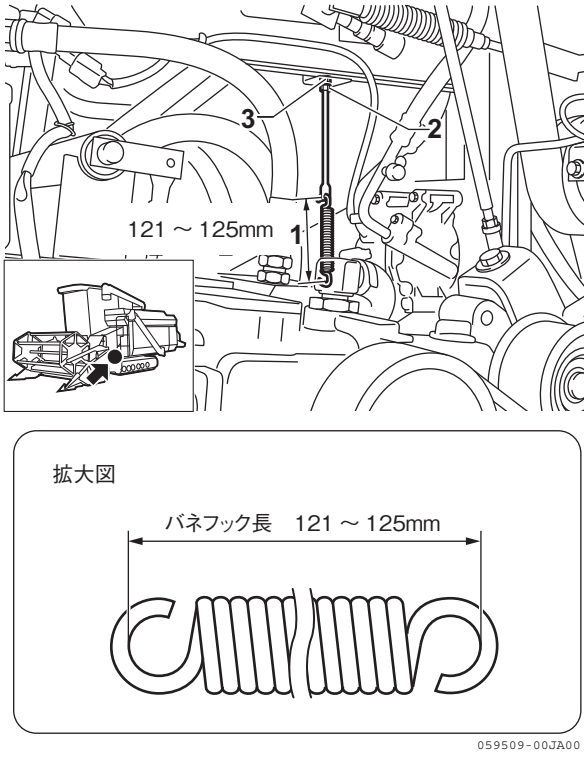


図 4-220

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-220）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-220）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

ロータリースクリーン 吸引駆動ベルト

エンジン右カバーを開いて（153ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長 (1) が、63〜67mm であることを確認してください。(図 4-221)

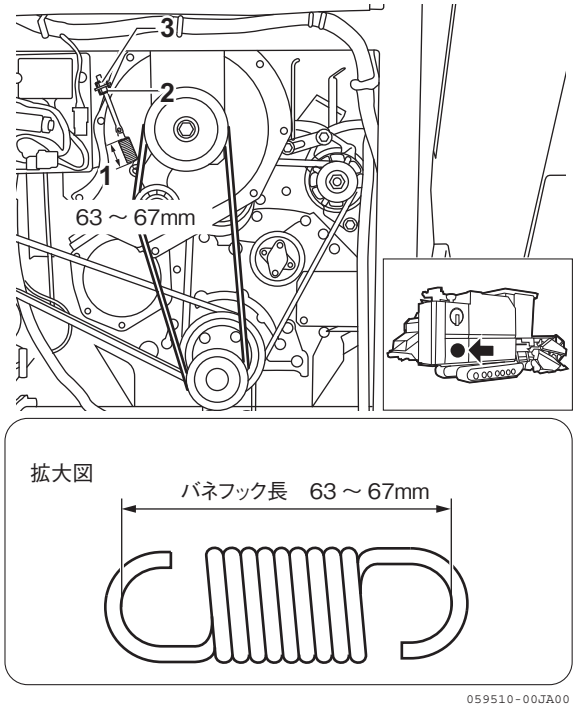


図 4-221

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-221)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-221)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

駐車ブレーキの点検･調節のしかた

駐車ブレーキをかけてつぎの点検・調節をします。
点検・調節後は、駐車ブレーキを解除します。

■ 点検のしかた

1. 刈取部を最下げ位置まで下げます。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. サイドパネル外 (1) を開けます。（図 4-222）

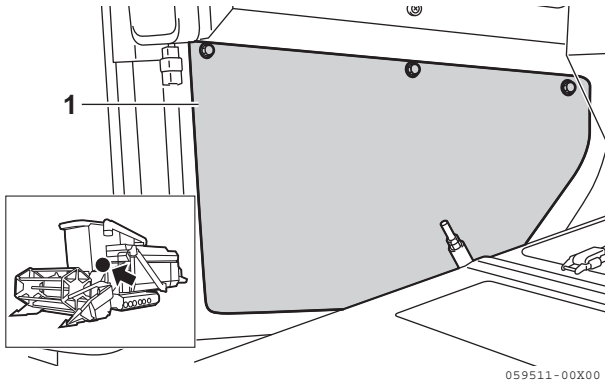


図 4-222

4. 駐車ブレーキバネのバネフック長 (1) が、105 〜109mmにあることを確認します。(図 4-223)

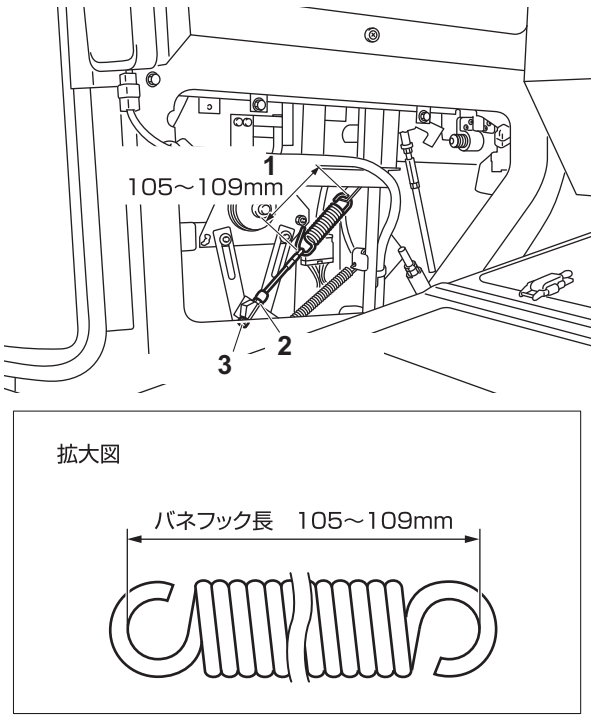


図 4-223

■ 調節のしかた

1. 刈取部を最下げ位置まで下げます。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. サイドパネル外を開けます。
4. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-223）
5. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-223）
6. ロックナットを締め付けて固定します。

クローラの点検･調節のしかた

ジャッキをかける位置

つぎの4ヶ所にジャッキをかけてください。

⚠警告

ジャッキアップをするときは､地面が固く､平たんな場所で､必ず5トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください｡バランスをくずして転倒し､傷害事故を引き起こす原因になります。

■ ミッション下部(2か所)

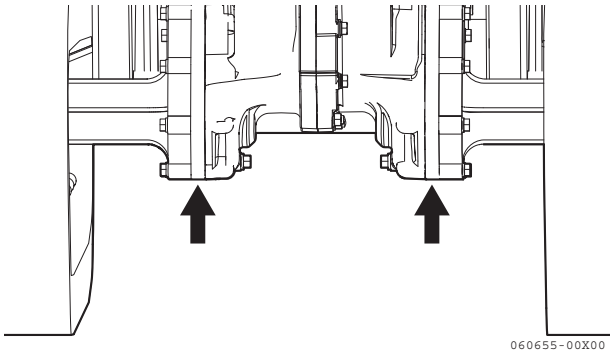


図 4-224 ミッション下部

■ シャーシ後方の角パイプ(2か所)

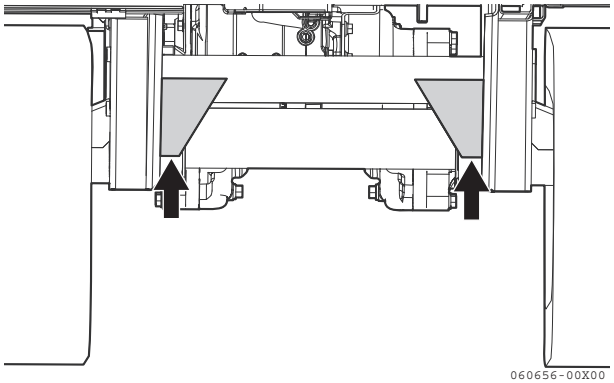


図 4-225 シャーシ後方の角パイプ

■ 点検のしかた

イコライザ（1）（前側）を水平にし、クローラ（2）と第3転輪（3）のすき間（4）が、20～25mmにあることを確認します。（図 4-226）

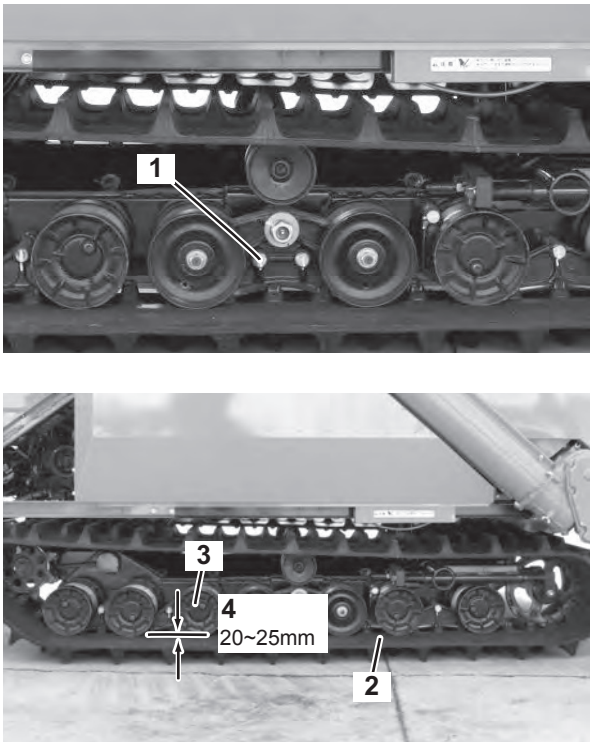


図 4-226

■ 調節のしかた

1. ロックナット（1）をゆるめます。（図 4-227）

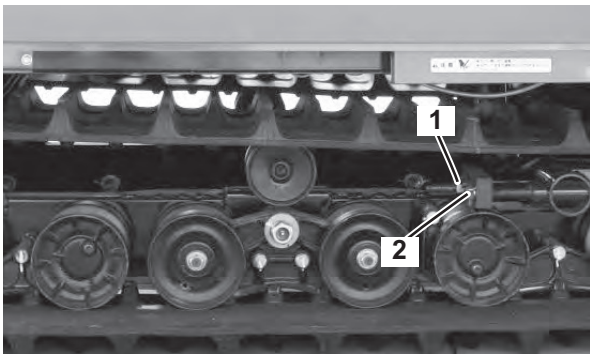


図 4-227

2. 調節ナット（2）を回して、クローラと転輪のすき間を調節します。（図 4-227）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

強力ピンの交換のしかた

⚠注意

コントローラの初期設定は正しく行ってください。初期設定を正しく行わないで、オーガ自動旋回をすると、オーガが思わぬ方向に動き、ケガをしたりするおそれがあります。

[重要]

万一、強力ピンが切れたときは、特販店、またはJAにご相談ください。コントローラの初期設定が必要です。

■ オーガ回動モータ

過負荷から駆動部を保護するために、オーガ回動モータ（1）には強力ピン（2）を設けています。（図4-228）

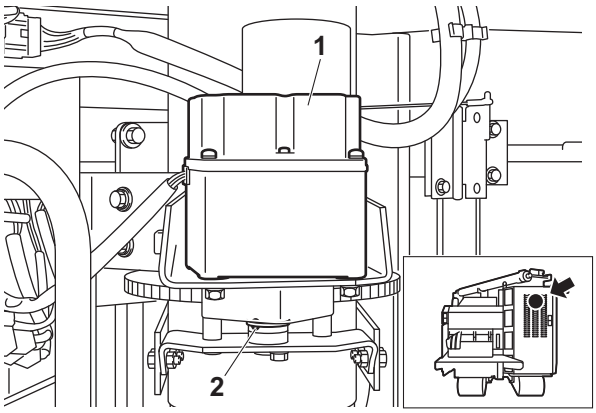


図 4-228

※図は、エンジンルーム後カバーを開いています。

■ グレン駆動チェン

過負荷から駆動部を保護するために、グレン駆動チェン（1）には強力ピン（2）を設けています。（図4-229）

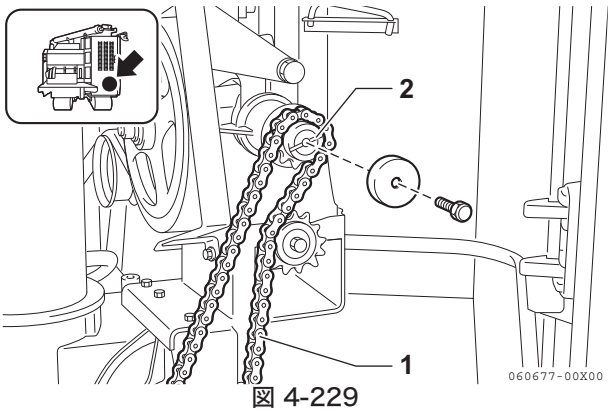


図 4-229

※図は、エンジンルーム後カバーを開いています。

送信機の電池の交換のしかた

⚠警告

電池を取り出した場合は、電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。

[重要]

- ご使用済みの電池は、速やかに交換するか、送信機から外してください。そのままにしておくと、電池の特性上、液もれを起こすおそれがあります。
- 交換した古い電池は、新しい電池を購入したお店に処分を依頼するか、各自治体の処分方法にしたがって処分してください。
- 電池は、リチウム電池CR2032タイプを必ず使用してください。
- 電池を交換するときは、金属製のピンセットで持ったり、ボールペンなど金属性のものの先で外したりしないでください。
- 電池をセットするときは、＋ーを間違えないように正しく行ってください。
- 長期間使用しないときは、電池を本体から抜いてください。
- 電池を交換するときは、2 個の電池を新しいものに交換してください。（新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください）
- 電池は分解したり、ショートさせないでください。
- 加熱したり、火の中に投入しないでください。
- 充電しないでください。

[参考]

工場出荷時には、送信機にお試し用の電池が入っています。出荷検査用の電池ですので、すぐに電池寿命が切れることがあります。

送信機の電池の寿命について

送信機のONスイッチを長押ししても、赤ランプが点滅しないときは、電池の寿命が考えられます。
電池を交換してください。

交換のしかた

送信機（1）には、電池を2個使用しています。電池を交換するときは、2個とも交換してください。（図 4-230）

1. 送信機裏側のネジ（2）をプラスドライバーで外します。（図 4-230）

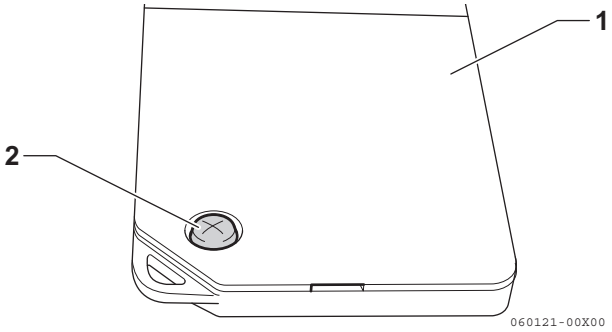


図 4-230

2. 電池カバーをつぎの手順で外します。
   1）送信機の凹み部分（1）に硬貨（2）を押し当て、硬貨を少し持ち上げて、電池カバー（3）を浮かせ、送信機との間にすき間を作ります。（図 4-231）

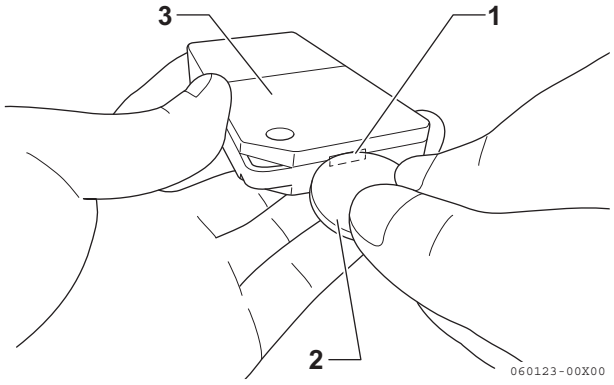


図 4-231

   2）できたすき間に硬貨（1）を挿し込み、指で硬貨を左側にスライド（2）させます。（図 4-232）

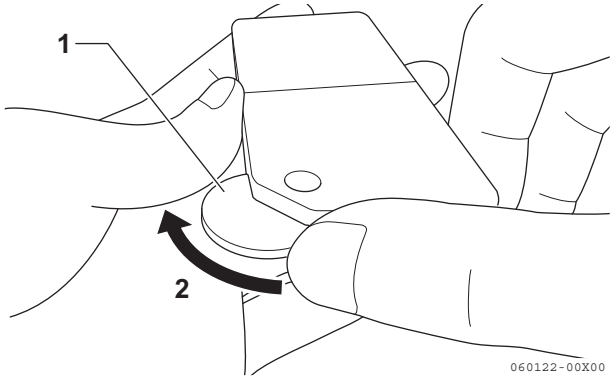


図 4-232

   3）硬貨を挿し込んだままで、送信機の凹み部分に指を掛け（1）、電池カバーを引っ張り上げて（2）、外します。（図 4-233）

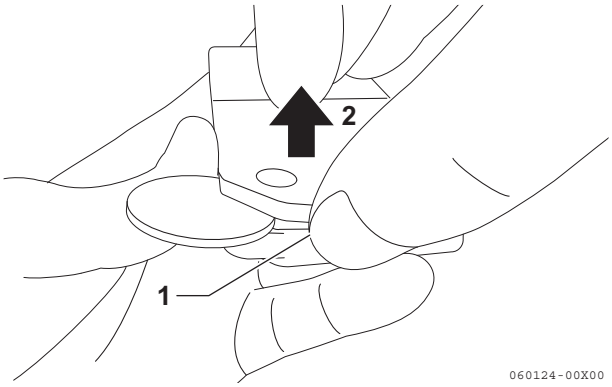


図 4-233

3. 電池（1）を横から押し上げるように外します。（図 4-234）

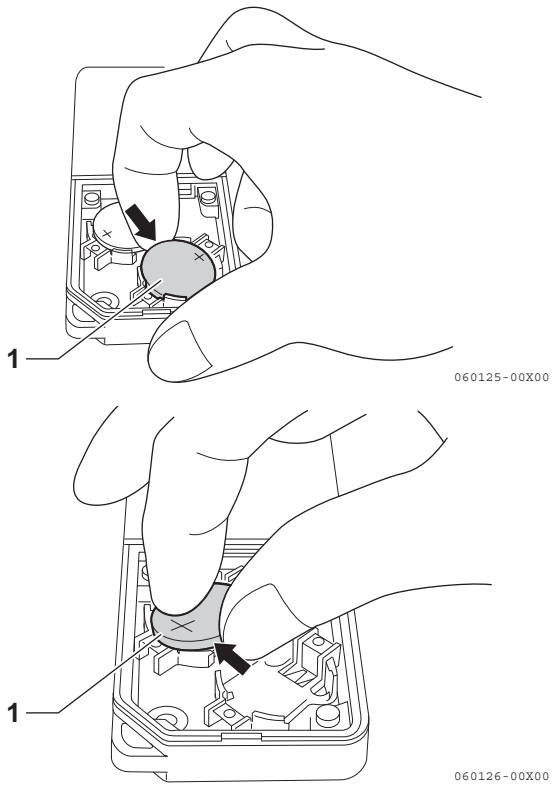


図 4-234

4. 新しい電池（1）を、プラス側を上にして、横から斜めに入れて押えます。（図 4-235）

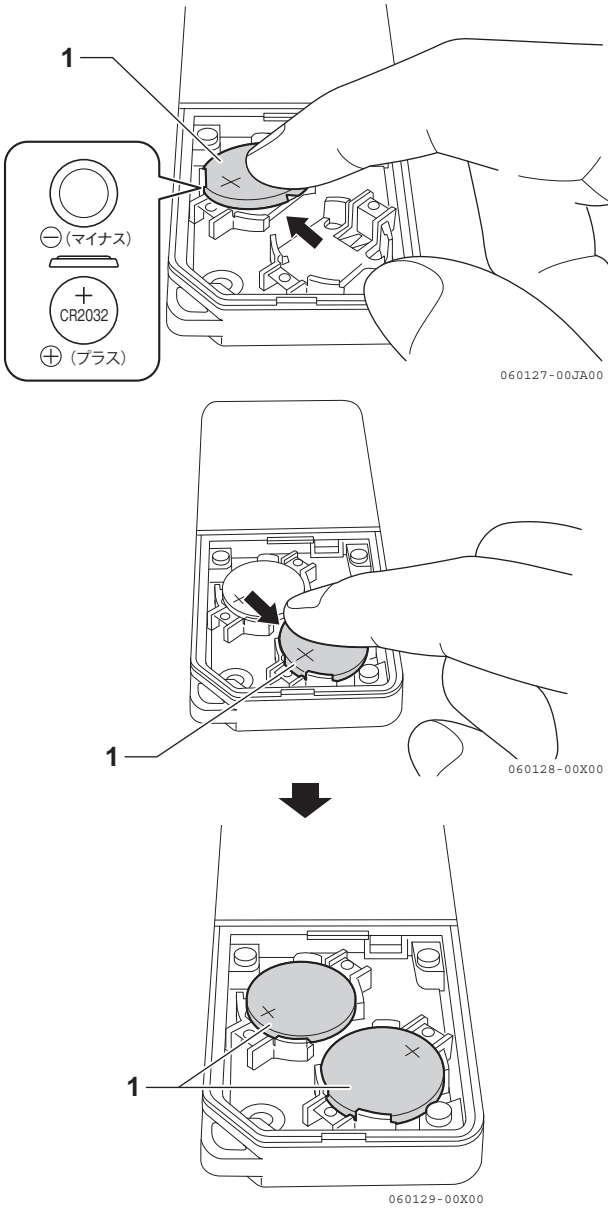


図 4-235

5. 送信機に電池カバーを確実に取り付けて、プラスドライバーでネジを締め付けます。

排出ガスの色について

気温が低い場合は、エンジン始動時に排気フィルターおよび排気管から白煙が出ることがあります。白煙は水蒸気のため問題ありません。
構造上、排気フィルターを搭載していない従来機にくらべ排出ガス中の水蒸気が白煙として見えやすくなります。

クーラーガス（冷媒）の点検のしかた

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。
特販店、またはJAで点検・補充を受けてください。

⚠警告

- 冷媒回路の分解は絶対しないでください。クーラーガスの液が目に入ったり手にかかると、失明したり凍傷にかかるおそれがあります。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

[重要]

- クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

表 4-30 冷媒（クーラー）ガス

使用冷媒（クーラーガス）	フロン　R-134-a
充てん量	730g

- フロン類をみだりに大気中へ放出することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。

点検のしかた

1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にします。
2. ファンスイッチを「HI」位置（最大風量）にします。(図 4-236)

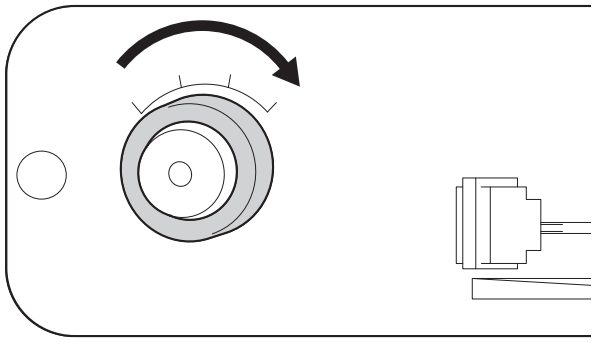


図 4-236

3. 温度コントロールレバーを「COOL」位置（強冷）にします。(図 4-237)

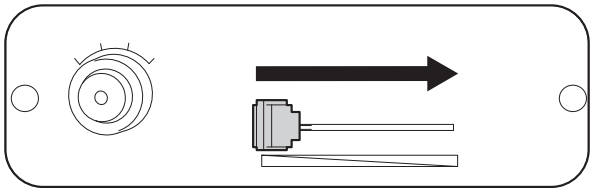


図 4-237

4. エアコンスイッチ（1）を「ON」（ランプ点灯）（2）にします。(図 4-238)

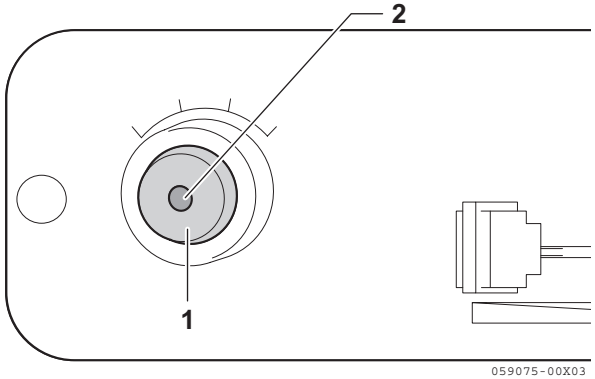


図 4-238

5. リキッドタンク（1）のサイトグラス（点検窓）から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をします。(図 4-239)(241 ページ参照)

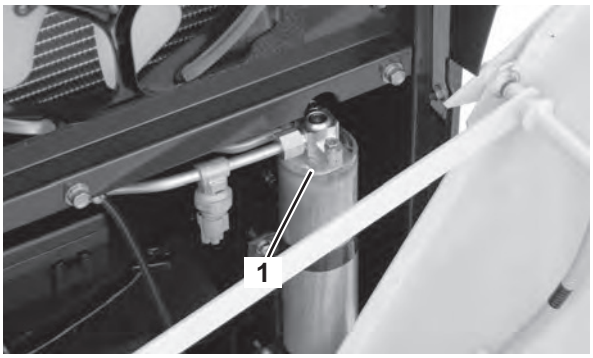
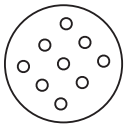
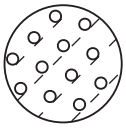
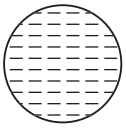
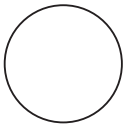


図 4-239

表 4-31 クーラーガス量チェック表

クーラーの状態	異常なし	異常あり		
高･低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 ●コンプレッサ吐出側温度70℃ ●コンプレッサ吸入側温度5℃	高圧パイプは暖かく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや暖かい。温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明。気泡の流れが見えても、エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1 	気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。 	ドアを全開にして、ファンを最大風量にし、アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れが著しい所がある。	異常なし。
このクーラーの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスがもれている所がある。	ガスがほとんどもれてなくなってしまった。	ガスが過充てんになっている。

※1 外気温度が低いときには、ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。
※2 クーラーガスがない場合があるので、高･低圧パイプの温度差がないことを確認してください。
この場合、全く冷えない状態にあります。

[重要]

- 連続した気泡が見えるときは、冷媒が不足していますので、特販店、またはJAですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態で運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。
- 点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしても冷えないときは、冷媒が入っていませんので、つぎの処置を行ってください。
- 冷媒もれによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因になります。

1. 特販店、またはJAで、冷媒もれ箇所のチェックをします。
（配管ジョイント部、ホースなど）
2. 冷媒を規定量補充します。（点検窓でチェック）
3. ND-8 オイルを 120cc、低圧側より追加します。
（コンプレッサ内・低圧ホース内など）

冷媒ガス（フロン類）の処理について

- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）は回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。

不調診断のしかた

⚠警告

コンバインの調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。回転部にはさまれて傷害事故の原因になります。

つぎの処置をしても改善されないときは、特販店、またはJAに連絡してください。

センターディスプレイの注意画面について

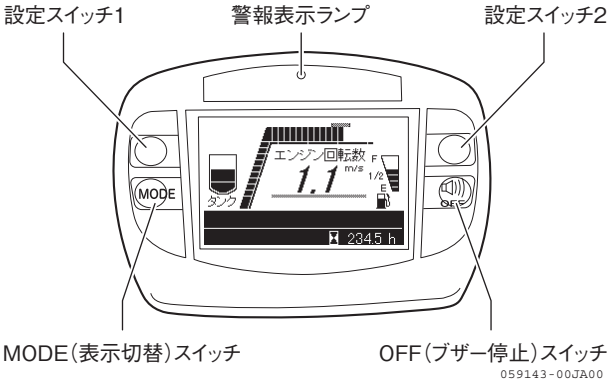
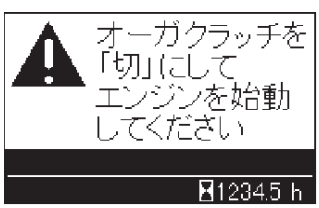


図 4-240

エンジン始動時に表示された画面

キースイッチを「START」位置にしても、つぎの条件の場合はエンジンの始動ができません。表示された注意画面に従って再度エンジンを始動させてください。

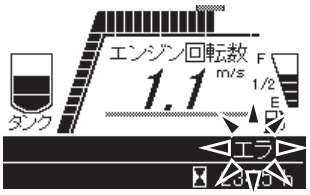
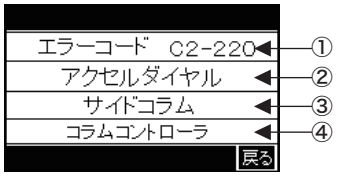
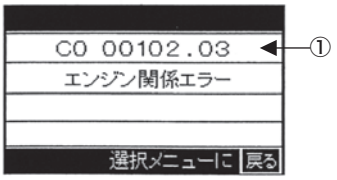
表 4-32 エンジン始動時に表示された画面

表示画面	警報の種類	処置	参照ページ
	–	セフティペダルを踏まずにキーを回した場合は、セフティペダルをしっかりと踏み込んでから、再度キーを回してください。	99
	–	作業クラッチレバーが「脱こく」、または「刈取」位置になっている場合は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてから、再度キーを回してください。	99
	–	排出オーガクラッチスイッチが「入」（ランプ点灯）になっている場合は、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にしてから、再度キーを回してください。（この注意画面が表示された場合は、排出オーガクラッチが故障している可能性があります。点検をしてください。）	99

エラーの表示

エラーが発生した場合は、画面隅に「エラー」の文字が点滅します。OFF（ブザー停止）スイッチを5秒以上押し続けると画面表示が切り替わり、エラーの発生した部品の名称とその部品のある場所、その部品の信号を処理しているコントローラ名称が表示されます。もう一度OFF（ブザー停止）スイッチを押すと元の画面表示に戻ります。

表 4-33 エラーの表示

表示画面	画面表示切替後 （ブザー停止スイッチを5秒以上押す）	警報の種類	備考・処置	参照ページ
	 ①エラーコード ②エラー発生部品 ③エラー発生部品のある場所 ④信号を入力処理している コントローラ	–	チェッカ機能で各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックを行ってください。	268
	エンジン関係のエラーが発生した場合  ①エラーコード	–	お買い上げいただいた特販店、または JA へエラーコードをご連絡ください。	

■ エラーコード一覧表

表 4-34 エラーコード一覧表

C1：コンビネーションメータ　C5：刈取コントローラ
C2：コラムコントローラ　C6：コラムコントローラ
C3：走行コントローラ　C7：翻訳コントローラ

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C1-3B0	燃料センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	燃料計表示ができない。
C1-6E2	コンビネーションメータのEEPROMデータ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	正常作動しない。
C1-801	エンジンコントローラ異常。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	エンジンに関係する表示をしない。
C1-821	コラムコントローラ異常。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	ほとんどの制御が動作しない。
C1-831	走行コントローラ異常。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	走行に関する情報が表示されない。
C1-851	刈取コントローラ異常。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取に関する表示がされない。
C1-861	オーガコントローラ異常。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガに関する表示がされない。
C1-8E1	コンビネーションメータ異常。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C1-8F1	コンビネーションメータ異常。 コラム・走行・刈取・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C2-200	快速調整ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	快速制御「切」
C2-220	アクセルダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	電源投入時より異常の場合はエンジン回転定格となる。
C2-230	傾斜角調節ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	水平傾斜角を変更できない。 自動スイッチ入時はオートリフト高さ以下では常に水平制御（ダイヤル水平位置で制御）を行う。
C2-250	刈高さ調節ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈高さ・オートセット高さの調節ができない。 刈高さ自動制御「切」 刈取オートセット制御「切」

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C2-260	リール高さ調節ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	リールオートセット制御「切」
C2-622	刈高さ調節スイッチの異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	手動で刈取昇降ができない。 刈取手動昇降「切」 　低速昇降スイッチ異常の場合は高速昇降は可能。 　高速昇降スイッチ異常の場合は低速昇降は可能。
C2-631	刈取オートリフト・セットスイッチの異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取オートリフト・セット制御「切」
C2-641	刈取スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取クラッチ作動不能
C2-672	コラムコントローラのセンサ電源の異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	コラムコントローラへ接続しているセンサの値がおかしくなり、関係しているいろいろな制御が正常に動かなくなる。
C2-690	排出オーガ後セットスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガオートセット不能（右セット、後セット）
C2-6A6	セカンドモア自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	セカンドモア自動「切」
C2-6B0	Eモードスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	E モードが働かない。アクセルダイヤルでの回転制御。
C2-6B5	Eモードスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	Eモードが働かない。アクセルダイヤルでの回転制御。
C2-6B6	自動刈高さ高スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈高さ自動制御「切」
C2-6B7	自動刈高さ低スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈高さ自動制御「切」
C2-6C2	コラムコントローラのEEPROMデータ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	すべての制御が正常作動しない。
C2-6D6	リール変速自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	リール自動「切」
C2-6F4	リール昇降・速度スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	リール自動昇降「切」 リール自動変速「切」

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C2-6F5	水平自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	水平自動「切」
C2-6F8	リールクロススイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	リール前後「切」 リール変速「切」
C2-6F9	水平自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	水平自動「切」
C2-802	エンジンコントローラ異常。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	エンジンに関係する制御が動作しない。
C2-812	コンビネーションメータ異常。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	警報時動作など一部の制御が動作しない。
C2-832	走行コントローラ異常。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	走行に関するほとんどの制御が動作しない。
C2-852	刈取コントローラ異常。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取に関するほとんどの制御が動作しない。
C2-862	オーガコントローラ異常。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガに関するほとんどの制御が動作しない。
C2-8E2	コラムコントローラ異常。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C2-8F2	コラムコントローラ異常。 メータ・走行・刈取・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C3-300	トラニオン位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	快速制御「切」
C3-310	快速駆動位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	快速制御「切」
C3-350	刈取位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	オートセット・オートリフト・オートクラッチが作動しない。 刈高さ自動制御「切」 刈取オートリフト・セット制御「切」 刈取バックリフト制御「切」 脱こく入り時、常時選別制御「入」 （回行時制御なし）
C3-450	車速センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	各コントローラが車速値を800mm/sとして制御を行う。
C3-580	排稈口センサの異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	脱穀制御が動作しない。

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C3-633	排出オーガ操作スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	排出オーガが昇降旋回できない。
C3-650	排出オーガリターンスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガオートリターン不能
C3-660	排出オーガクラッチスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	スイッチがON状態になったままになっていませんか？ 電源投入時、スイッチをOFFにしてください。	排出オーガクラッチが「入」「切」できない。
C3-682	走行コントローラのセンサ電源の異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	自動制御（刈高さ・オートセット、リフト・バックリフト・リール高さ・ＵＦＯ・セカンドモア）を「切」とする。
C3-683	排出オーガ右セットスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガオートセット不能（右セット、後セット）
C3-6D2	走行コントローラのEEPROMデータ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	ほとんどの制御が動作しない。
C3-6F3	水平手動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	水平手動「切」
C3-6F6	水平手動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	水平手動「切」
C3-6F7	刈取クラッチボタンの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取クラッチ「切」
C3-803	エンジンコントローラ異常。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	エンジンに関する制御が動作しない。
C3-813	コンビネーションメータ異常。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	警報時動作など一部の制御が動作しない
C3-823	コラムコントローラ異常。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	ほとんどの制御が動作しない。
C3-853	刈取コントローラ異常。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取に関するほとんどの制御が動作しない。
C3-863	オーガコントローラ異常。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガに関するほとんどの制御が動作しない。

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C3-8E3	走行コントローラ異常。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C3-8F3	走行コントローラ異常。 メータ・コラム・刈取・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C5-380	刈高さソリセンサ（左 の異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	自高「低刈」制御「切」 ＯＫリフト制御「切」 自高「低刈」制御時、刈取オートセット制御「切」
C5-390	傾斜センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	自動水平制御作動しない。
C5-391	ストロークスイッチの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	自動水平制御作動しない。
C5-3A6	リール位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	リール自動昇降「切」
C5-470	リール回転センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	リール自動変速「切」
C5-6A2	刈取コントローラのセンサ電源の異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取コントローラへ接続しているセンサの値がおかしくなり、関係しているいろいろな制御が正常に動かなくなる。
C5-6A7	セカンドモアスイッチ上の異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	セカンドモア収納状態となる。
C5-6A8	セカンドモアスイッチ下の異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	セカンドモア収納状態となる。
C5-6F2	刈取コントローラのEEPROMデータ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取に関する制御が正常作動しない。
C5-805	エンジンコントローラ異常。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	エンジンに関係する制御が動作しない。
C5-815	コンビネーションメータ異常。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	警報時動作など一部の制御が動作しない。
C5-825	コラムコントローラ異常。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	ほとんどの制御が動作しない。
C5-835	走行コントローラ異常。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	走行に関するほとんどの制御が動作しない。

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C5-865	オーガコントローラ異常。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガに関するほとんどの制御が動作しない。
C5-8F5	刈取コントローラ異常。 メータ・コラム・走行・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C6-321	排出オーガ上限スイッチの異常です。 ヒューズ切れ・スイッチ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガオートセット・オートリターン旋回動作不能。
C6-3C0	オーガ位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガオートセット・オートリターン不能。先端操作旋回不能。
C6-482	ロータ回転センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	ロータ警報が表示されない。
C6-483	スプレッダ回転センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	特販店、またはJAへご相談ください。	なし(エラーコード送信)
C6-686	オーガコントローラのEEPROMデータ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガに関する制御が正常作動しない。
C6-696	オーガコントローラのセンサ電源のハーネスの異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	オーガコントローラへ接続しているセンサの値がおかしくなり、関係しているいろいろな制御が正常に動かなくなる。
C6-6FE	リモコン装置の異常です。 電源投入時に、スイッチ状態異常でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	リモコン操作ができない。
C6-806	エンジンコントローラ異常。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	エンジンに関係する制御が動作しない。
C6-816	コンビネーションメータ異常。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	警報時動作など一部の制御が動作しない。
C6-826	コラムコントローラ異常。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	ほとんどの制御が動作しない。
C6-836	走行コントローラ異常。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	走行に関するほとんどの制御が動作しない。
C6-856	刈取コントローラ異常。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	刈取に関するほとんどの制御が動作しない。
C6-8E6	オーガコントローラ異常。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	

エラーコード（表示内容）	原因	処置	異常時の動作
C6-8F6	オーガコントローラ異常。 メータ・コラム・走行・刈取・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	特販店、またはJAへご相談ください。	
C7-6FC	再生スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	特販店、またはJAへご相談ください。	排気フィルター再生ができません。
C7-6FD	翻訳コントローラのEEPROMデータ異常。	特販店、またはJAへご相談ください。	正常作動しない。
C7-9FF	エンジンの故障です。 排気フィルター再生できないエラーが発生している。	特販店、またはJAへご相談ください。	排気フィルターの再生ができない、そのまま作業するとエンジン回転が上がらなくなる。

表 4-35 エンジンエラーコード一覧表

エラーコード	部位	エラー内容	処置
00 0001D 3	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3 異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0001D 4	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3 異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00033 3	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00033 4	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0005B 3	アクセルセンサ1	アクセルセンサ1 異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0005B 4	アクセルセンサ1	アクセルセンサ1 異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00064 4	油圧スイッチ	油圧スイッチ断線	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00064 1	油圧スイッチ	油圧低下警報	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00066 3	EGR 低圧側センサ	EGR低圧側センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00066 4	EGR 低圧側センサ	EGR低圧側センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00069 3	吸マニ温度センサ	吸マニ温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00069 4	吸マニ温度センサ	吸マニ温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0006C 3	大気圧センサ	大気圧センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0006C 4	大気圧センサ	大気圧センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0006C 10	大気圧センサ	大気圧センサ異常(特性異常)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0006E 3	冷却水温センサ	冷却水温センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0006E 4	冷却水温センサ	冷却水温センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0006E 0	冷却水温センサ	冷却水温上昇(オーバーヒート)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0009D 3	レール圧センサ	レール圧センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0009D 4	レール圧センサ	レール圧センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0009D 0	レール圧異常	レール圧異常高圧	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0009D 18	レール圧異常	レール圧偏差異常(レール圧減少)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000A7 5	チャージスイッチ	チャージスイッチ断線	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000A7 1	チャージスイッチ	チャージ警報	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000AC 3	新気温度センサ	新気温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000AC 4	新気温度センサ	新気温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000AD 3	排マニ温度センサ	排マニ温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。

エラーコード	部位	エラー内容	処置
00 000AD 4	排マニ温度センサ	排マニ温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000AE 3	燃料温度センサ	燃料温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000AE 4	燃料温度センサ	燃料温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000AE 0	燃料温度センサ	燃料温度上昇	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000BE 0	過回転	回転数超過	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000ED 31	VI(CAN メッセージ)	VI の受信タイムアウト	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 000ED 13	VI(CAN メッセージ)	VI の受信データ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0019C 3	EGR ガス温度センサ	EGR ガス温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0019C 4	EGR ガス温度センサ	EGR ガス温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00276 2	EEPROM	EEOROM 異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00279 3	SCV(MPROP)	SCV(MPROP)H/L サイドVB 短絡	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00279 5	SCV(MPROP)	SCV(MPROP)H サイドGND 短絡/ 断線	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00279 7	SCV(MPROP)	駆動回路異常(SCV 固着)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0028B 5	インジェクタ1 4TNV:Cyl No. 4	インジェクタ1 断線異常 (インジェクタ固有個所)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0028C 5	インジェクタ4 4TNV:Cyl No. 3	インジェクタ4 断線異常 (インジェクタ固有個所)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0028D 5	インジェクタ2 4TNV:Cyl No. 2 3TNV:Cyl No. 2	インジェクタ2 断線異常 (インジェクタ固有個所)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 0028E 5	インジェクタ3 4TNV:Cyl No. 1	インジェクタ3 断線異常 (インジェクタ固有個所)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 004B9 3	EGR 高圧側センサEGR	高圧側センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 004B9 4	EGR 高圧側センサEGR	高圧側センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00543 0	高圧ポンプ	ポンプ保護フェール	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00543 15	高圧ポンプ	ポンプ保護フェール	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 005CD 2	メインリレー	自己保持なしで電源オフ	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AE7 7	EGR	EGR フィードバック異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AE7 9	EGR	EGR ECM データ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AE7 0	EGR	EGR 過電圧異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AE7 1	EGR	EGR 低電圧異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AED 3	インジェクタ共通	インジェクタバンク1 + B ショート	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AED 6	インジェクタ共通	インジェクタバンク1GND ショート	特販店、またはJAにご連絡してください。

エラーコード	部位	エラー内容	処置
00 00AED 5	インジェクタ共通	インジェクタバンク1 断線異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AEE 3	インジェクタ共通	インジェクタバンク2 + B ショート	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AEE 6	インジェクタ共通	インジェクタバンク2GND ショート	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00AEE 5	インジェクタ共通	インジェクタバンク2 断線異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00B86 5	吸気スロットル駆動回路	吸気スロットル駆動回路断線	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00B86 3	吸気スロットル駆動回路	吸気スロットル駆動回路VB/GND ショート	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00B9B 12	EGR	EGR モータコイル間断線	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CAA 3	DPF 入口温度センサ	DPF 入口温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CAA 4	DPF 入口温度センサ	DPF 入口温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CAA 0	DPF 入口温度センサ	温度異常(高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB2 3	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB2 4	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB2 1	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ温度異常低温	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB2 0	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ温度異常上昇(ポスト噴射不良)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB3 3	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB3 4	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00CB3 0	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ差圧異常上昇	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E19 3	DPF 高圧側センサ	DPF 高圧側センサ(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E19 4	DPF 高圧側センサ	DPF 高圧側センサ(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E6F 14	DPF OP インターフェース	リセット再生禁止	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E87 16	DPF OP インターフェース	ステーショナリ再生スタンバイ	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E87 0	DPF OP インターフェース	バックアップモード	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E88 16	DPF OP インターフェース	Ash クリーニング要求1	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 00E88 0	DPF OP インターフェース	Ash クリーニング要求2	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F803 5	始動補助リレー	始動補助リレー断線・VB 短絡	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F803 6	始動補助リレー	始動補助リレーGND 短絡	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F853 0	エアクリーナスイッチ	エアクリーナ詰まり警報	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F859 0	油水分離器スイッチ	油水分離警報	特販店、またはJAにご連絡してください。

エラーコード	部位	エラー内容	処置
00 7F8A0 2	クランク速度センサ	クランク信号異常です。	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F8A0 5	クランク速度センサ	クランク信号なし	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F8A1 2	カム速度センサ	カム信号異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F8A1 5	カム速度センサ	カム信号なし	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F94D 0	DPF	過堆積(C 法)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F94E 0	DPF	過堆積(P 法)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F94F 7	DPF	再生不良(ステーショナリ再生失敗)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F951 11	DPF	再生不良(ステーショナリ再生未実施)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F953 12	EGR	EGR モータコイル間ショート	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F954 12	EGR	EGR ポジションセンサ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F955 7	EGR	EGR 開弁固着異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F956 7	EGR	EGR イニシャライズ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F957 1	EGR	EGR 高温サーミスタ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F958 1	EGR	EGR 低温サーミスタ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F964 9	TSC1(CAN メッセージ)	TSC1 の受信タイムアウト(SA1)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F965 9	TSC1(CAN メッセージ)	TSC1 の受信タイムアウト(SA2)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F968 9	Y_EC(CAN メッセージ)	Y_EC の受信タイムアウト	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F972 9	EGR	EGR バルブからのCAN 受信タイムアウト	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F979 12	EGR	EGR 目標値レンジ外れ	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F97A 9	EBC1(CAN メッセージ)	EBC1 の受信タイムアウト	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7F97B 9	Y_DPFIF(CAN メッセージ)	Y_DPFIF の受信タイムアウト	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FA33 13	高圧ポンプ	ポンプ学習未実施警報	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FAF1 12	ECU 内部異常	CPU 監視用IC 異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FAF2 12	ECU 内部異常	CPU 異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FAF3 12	QR データ	QR データ補正入力異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FAF4 4	インジェクタ駆動回路	ローチャージ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FAF5 3	インジェクタ駆動回路	オーバーチャージ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FAF6 12	ECU 内部異常	Flash ROM 異常(チェックサム)	特販店、またはJAにご連絡してください。

エラーコード	部位	エラー内容	処置
00 7FB42 1	ECU 内部異常	センサ5 V 回路1 異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FB42 0	ECU 内部異常	センサ5 V 回路1 異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FB43 1	ECU 内部異常	センサ5 V 回路2 異常(電圧低)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FB43 0	ECU 内部異常	センサ5 V 回路2 異常(電圧高)	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FBD5 12	QR データ	QR データ未書き込み	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FBD5 13	QR データ	QR データ異常	特販店、またはJAにご連絡してください。
00 7FBF1 5	クランク・カム速度センサ	クランク・カム両センサ同時未入力	特販店、またはJAにご連絡してください。

その他の注意

表 4-36 その他の注意

表示画面	警報の種類	備考・処置	参照ページ
燃料残量表示 	○ ブザーは断続音	燃料の残量が少なくなったときに、給油マークが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。 OFF（ブザー停止）スイッチを押すとブザーが鳴り止みますが 給油マークは点滅したままです。 燃料を補給してください。 満量になると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが断続でなります。 OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みます。	187
タンクシグナル 	○ ブザーは断続音	グレンタンク内がほぼ満量になると、ブザーが断続に鳴り、グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量の画面を交互に表示します。 ブザーを停止する場合は、OFF（ブザー停止）スイッチを押すか、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。ただし「3 ／ 3」のタンクシグナルランプは点滅したままです。 **[重要]** グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。 **[参考]** グレンタンク内のこく粒が無くなると、センサが感知し、ブザーが断続で数秒鳴ります。	146

センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

⚠警告

移動走行中に、警報画面が表示された場合は、安全な場所に停止してから点検・処置を行ってください。

警報が発生した場合は画面が切り替わり、異常箇所が文字とグラフィックで表示されます。

異常が発生したときのスイッチ操作

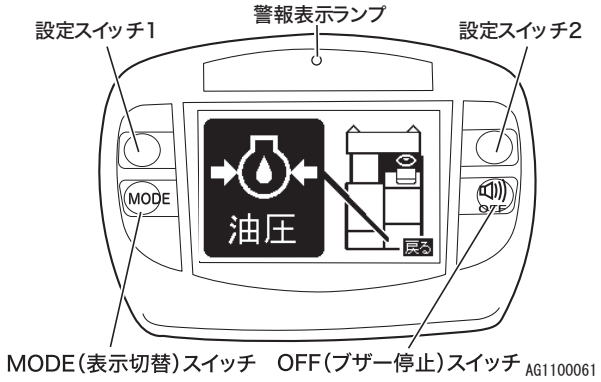
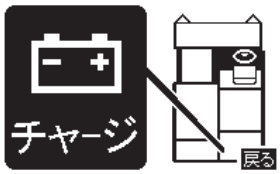
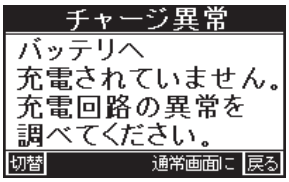
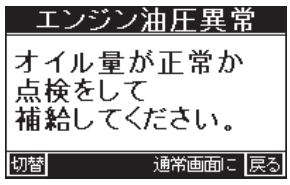
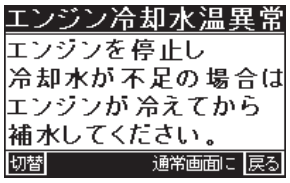
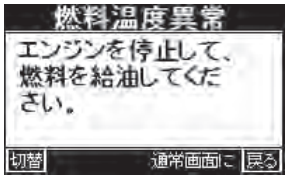
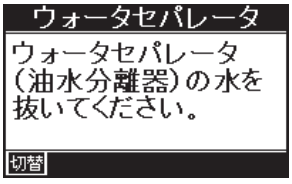


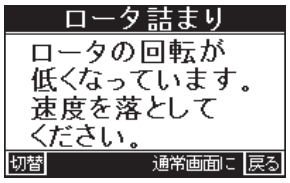
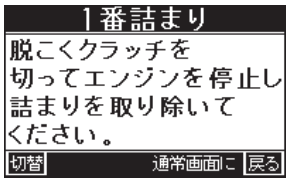
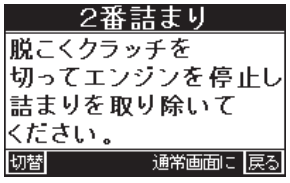
表 4-37 センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

表示画面	点検または処置画面(表示切替スイッチを押す)点検箇所	警報の種類	備考・処置	参照ページ
チャージ警報表示 		◎	エンジン回転中にバッテリーに充電されません。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	211
	ジェネレータ駆動ベルトのゆるみ、または破損していませんか。		ベルトの張り調整、または交換してください。	230
	ジェネレータが故障していませんか。		ジェネレータ故障の場合は特販店、または JA に修理を依頼してください。	–
油圧警報表示 		◎	エンジン潤滑油の油圧が低下しています。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	–
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを規定量まで補給してください。	188〜
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	
	油圧スイッチ(プレッシャスイッチ)が故障していませんか。		油圧スイッチが故障の場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	–
	オイルポンプが故障していませんか。		オイルポンプが故障の場合は、特販店、または JA に修理を依頼してください。	–

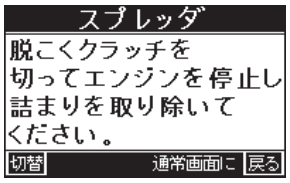
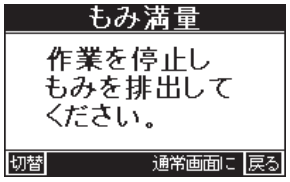
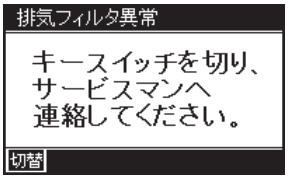
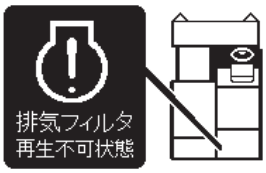
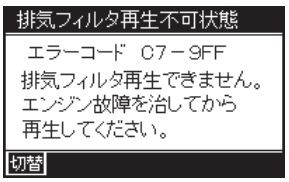
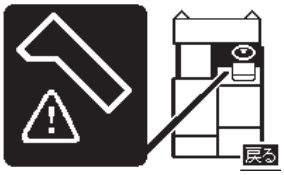
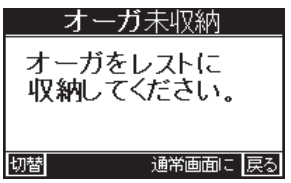
◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
水温警報表示 		◎	エンジンの冷却水温が異常(オーバーヒート)です。すみやかにコンバインを停止し、作業クラッチを「切」、Eモードスイッチを「切」にして、エンジン回転をアイドリング(低回転)に下げ、冷却運転をしてください。「警報表示画面」の表示が消えてからエンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから適正な処置を行ってください。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	–
	冷却水が不足していませんか。		冷却水を補給してください。	193～
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、修理を依頼してください。	–
	冷却ファンベルトがゆるんでいませんか、また破損していませんか。		ベルトの張り調整、または交換してください。	230
	吸気口・ロータリスクリーン・ラジエター冷却フィンが目詰りしていませんか。		掃除してください。	204～
	作業中、ロータリスクリーンは作動(回転)していますか。		ロータリスクリーンが不具合の場合は特販店、または JA に修理を依頼してください。	–
	エンジンオイルが不足していませんか。		オイルを補給してください。	188～
	過負荷運転をしていませんか。		負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。	123～
燃料温度警報表示 		◎	燃料温度が異常です。すみやかに燃料を給油しエンジン回転をアイドリング(低回転)に下げ、冷却運転を行ってください。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。 燃料温度警報判定に 1 分間かかります。1 分以上冷却運転を行い、警報が発生しないことを確認してください。 ロータリスクリーンが不具合の場合は特販店、または JA に修理を依頼してください。 燃料クーラーが不具合の場合は特販店、または JA に修理を依頼してください。	
	冷却ファンベルトがゆるんでいませんか。また破損していませんか。			
	燃料クーラーフィンが目詰まりしていませんか。			
ウォータセパレータ警報表示 		◎	ウォータセパレータに水がたまってます。水を抜いてください。OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	

◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
ロータ警報表示 		◎	ロータの回転が、規定回転より低下しました。 刈取速度を下げて作業してください。 「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、画面表示はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。	―
	ロータ内に作物がいっぱいで過負荷になっていませんか。		車速を落とすなど負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。	123～
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●ロータ駆動ベルト ●脱こく駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	228
	ロータ回転センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		特販店、またはJAでセンサを適正位置に取り付けを行ってください。 または交換してください。	―
1番警報表示 		◎ (エンジン停止)	1番コンベア部に詰まりが発生しました。 「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。処理画面に従って点検処理をしてください。	―
	バケットコンベア部に詰まりがありませんか。		詰まりを取り除いてください。	228
	チェン、ベルトがゆるんでいませんか。 ●バケットチェン ●選別駆動ベルト ●レベリングディスクベルト		チェン、ベルトの張りを適正に調整してください。	223、 226、 233
	1番警報センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		1番警報センサをゆるみのないように締め付けてください。 または交換してください。 籾満量警報(ブザー音連続)後1番警報表示が出た場合は、こく粒を排出してください。	―
2番警報表示 		◎	2番スクリューコンベアにこく粒が詰まり、回転が規定回転より低下しました。 作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。 処置画面に従って点検・処置をしてください。	―
	2番コンベア部に詰まりがありませんか。		詰まりを取り除いてください。	172、 173
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●2番駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	226
	2番警報センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		2番警報センサをゆるみのないように締め付けてください。 または交換してください。	―

◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

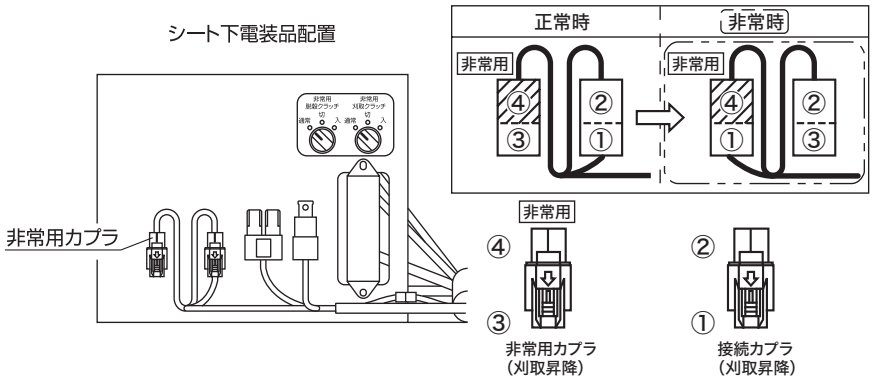
表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
スプレッダ警報表示 		◎ (エンジン停止)	スプレッダ部に詰まりが発生しました。 作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。 処置画面に従って点検・処置をしてください。	—
	スプレッダ部に詰まりがありませんか。		詰まりを取り除いてください。	
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●スプレッダ駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	
	スプレッダ警報センサが故障していませんか。		スプレッダ警報センサを交換してください。	
籾満量警報表示 		◎	グレンタンク内のこく粒が満量になりました。 こく粒を排出してください。 ブザーが断続で鳴り、グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量警報画面を交互に表示します。OFF(ブザー停止)スイッチを押すと、ブザー音は止めることができますが、画面は通常画面と警報画面を交互に表示され続けます。 さらに刈取作業を続けるとブザーが連続で鳴り、もみ満量警報画面が表示されます。この場合、OFF(ブザー停止)スイッチを押してもブザーを停止することはできません。作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとブザーは停止し、通常画面に戻ります。	146
リカバリ再生表示(排気フィルター異常警報) 		—	駐車再生が正常に終了しませんでした。作業を中止し、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。ただちにお買い上げいただいた特販店、または JA へご連絡ください。	—
排気フィルター再生不可状態表示 		—	エンジンの異常により排気フィルターの再生ができません。 作業を中止し、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。ただちにお買い上げいただいた特販店、または JA へご連絡ください。	—
オーガ未収納表示 		◎	排出オーガが収納されていません。オーガを収納してください。	—

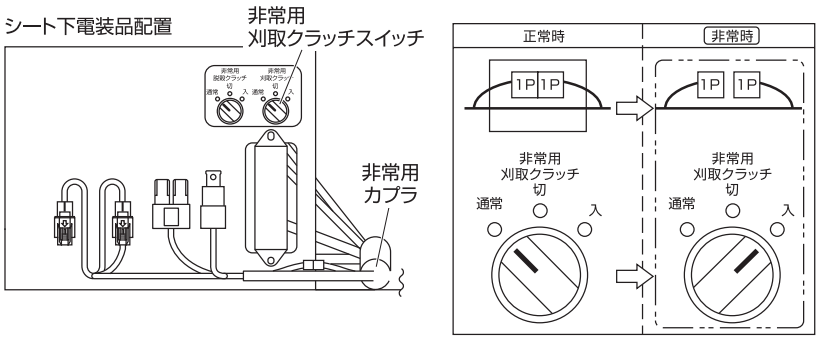
◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

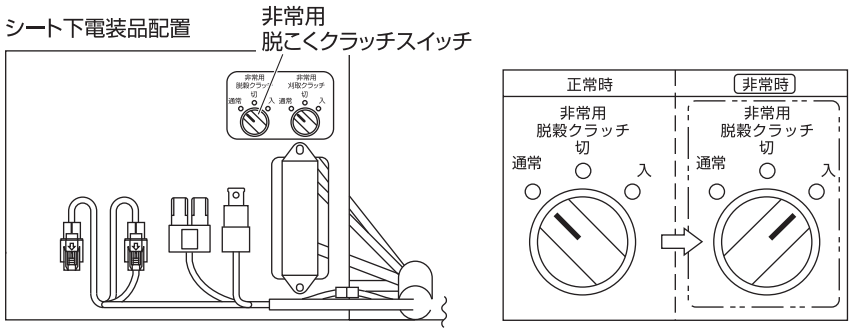
センターディスプレイに表示されない不調について

表 4-38 センターディスプレイに表示されない不調について

状況	点検箇所	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	バッテリー液は規定量入っていますか、また放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電にしてください。	211
	バッテリー端子部のゆるみ、外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けてください。 ※ バッテリー端子を外す場合はまずキースイッチを必ず「OFF」にして、マイナス端子を外し、その後にプラス端子を外してください。 締め付ける場合はプラス端子を締め付け、次にマイナス端子を締め付けてください。	211
	バッテリーの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	プラス・マイナスを正しく接続してください。	211
	ヒューズが切れていませんか。 ●ジェネレータ・スタータスローブローヒューズ 100A, 60A, 40A (エンジン後部) ●キースイッチヒューズ 5A (エンジン後部) ●キースイッチONヒューズ 5A (シート下)	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	脱こくクラッチまたはオーガクラッチが「入」になっていませんか。	脱こくクラッチまたはオーガクラッチを「切」にしてください。	67・71
スタータは回るがエンジンが始動しない。	副変速レバーが「N」(中立)位置になっていますか。	副変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。(走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」(中立)位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。)	66
	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満たんに給油し、エア抜きをしてください。	187・204
	燃料に水が入っていませんか。	ウォータセパレータに水がたまっていれば、水を抜いてください。	202
	燃料にエアが混入していませんか	燃料のエア抜きを行ってください。	204
	エラーが表示されていませんか。 ●エンジン過回転 ●エンジン回転数	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「エンジン制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・リレーのチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	—

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取が昇降できない。	ミッションオイルが規定量入っていますか。	ミッションオイルを規定量補給してください。	190
	ヒューズが切れていませんか。 ●走行コントローラヒューズ　15A （シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	エラーが表示されていませんか。 ●刈取昇降スイッチ ●受信エラー（刈取→走行 ●送信エラー（走行	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「刈高さ制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。 チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
	応急で手動での作業をする場合 シート下内の4Pカプラの接続を変更してください。 1. ①のカプラと非常用銘板が付いている④のカプラを接続してください。 2. ②のカプラと③のカプラを接続してください。  ※作業終了後は、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
傾斜調節できない。	ヒューズが切れていませんか。 ●刈取コントローラヒューズ　5A （シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A （シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→刈取 ●送信エラー（コラム ●水平調節スイッチ ●傾斜センサ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「水平制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取クラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ●刈取クラッチヒューズ　15A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A（シート下） ●走行コントローラヒューズ　15A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→走行 ●送信エラー（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「クラッチ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
	応急で刈取クラッチを入れる場合 シート下の非常用刈取クラッチスイッチを切替えてください。 1. ハーネスに巻かれている非常用カプラ（1P）の黄色のテープを剥がし、カプラ接続を外してください。 2. 非常用刈取クラッチスイッチを「入」側へ回してください。  ※作業終了後は、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
オーガ昇降できない。	作動油が規定量入っていますか。	作動油を規定量補給してください。	208
	ヒューズが切れていませんか。 ●走行コントローラヒューズ　15A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	エラーが表示されていませんか。 ●オーガ操作スイッチ（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
オーガ旋回できない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガ旋回モータヒューズ　30A（エンジン後） ●走行コントローラヒューズ　15A（シート下） ●オーガコントローラヒューズ　5A（エンジン後）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	オーガ旋回モータの強力ピンが折れていませんか。	強力ピンが折れている場合は、コントローラの初期設定が必要です。修理を依頼してください。	237
	エラーが表示されていませんか。 ●オーガ操作スイッチ（コラム ●受信エラー（走行→オーガ ●送信エラー（走行	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。 チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
脱こくクラッチが入らない	ヒューズが切れていませんか。 ●脱こくクラッチヒューズ　15A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	応急で脱こくクラッチを入れる場合 シート下の非常用脱こくクラッチスイッチを切替えてください。 1. 非常用脱こくクラッチスイッチを「入」側へ回してください。  ※作業終了後は、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
排出オーガクラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガクラッチモータヒューズ　15A　（エンジン後） ●走行コントローラヒューズ　15A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	CAN 通信エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→走行 ●送信エラー（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータのチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取オートセット・オートリフト装置が作動しない。	わらくず、泥がたまっていませんか。 ●刈取位置センサ ●刈高さセンサソリ	わらくず、泥を取り除いてください。	―
	エラーが表示されていませんか。 ●刈取位置センサ ●オートセット・オートリフトスイッチ ●オートセット高さ調節ダイヤル ●刈高さセンサソリ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「刈高さ制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
オーガ自動旋回装置が作動しない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガコントローラヒューズ　5A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	エラーが表示されていませんか。 ●排出オーガ自動スイッチ ●排出オーガ位置センサ ●排出オーガ上限スイッチ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
刈取水平制御装置が作動しない。	エラーが表示されていませんか。 ●傾斜センサ ●傾斜設定ダイヤル ●水平自動スイッチ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「水平制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
快速制御が作動しない。	ヒューズが切れていませんか。 ●快速制御ヒューズ（15A）：（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	214
	エラーが表示されていませんか。 ●快速調節ダイヤル ●トラニオン位置センサ ●快速駆動位置センサ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「快速制御」を選択し、スイッチ、センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
作物を搬送しない。	刈刃駆動ベルトがスリップしていませんか。	刈刃駆動ベルトの調節を行ってください。	227
	刈刃や搬送部に、雑草、引き抜き株、泥、石などの異物がかみ込んでいませんか。	刈刃・搬送部を点検して、異物があれば取り除いてください。	―
排出オーガより穀物が排出されない。	グレン駆動チェンの強力ピンが折れていませんか。	強力ピンが折れている場合は、強力ピンを交換してください。	237
株の引き抜きがある。	デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈高さ調節スイッチで、デバイダの先端を地面から５～10cmの範囲に調節してください。	―
	刈取速度が速すぎませんか。	作物・ほ場の状態に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	―
	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のすき間を調節してください。	216

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取部でのロスが多い。	リール速度が間違っていませんか。	リール速度を、走行速度より少し速くしてください。	129
	刈刃の前で作物が滞留していませんか。	リールの高さを低くセットし、作物が刈刃からオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	129
刈取部でのロスが多い。	プラットフォームが高すぎて、作物を短く刈りすぎていませんか。	作物をオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまで、プラットフォームを低くしてください。	129
	向い刈りで、リールが作物を押さえつけていませんか。	リール高さを適正にしてください。	129
リールに巻き上げや巻き付きがある。	リール速度が速すぎませんか。	リールの速度を適正にしてください。	129
	タイン角度が小さすぎませんか。	タイン角度を適正にしてください。	220
	リール高さが低すぎませんか。	リールの高さを適正にしてください。	129
土や石が入る。	プラットフォームが低すぎませんか。	プラットフォームは、できるだけ高く上げてください。	129
	刈高さ自動制御を使っていますか。	刈高さ自動制御を使ってください。	136
こぎ残しがでる。	ロータの回転数が低くありませんか。	エンジン回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モードスイッチを「入」(E モードランプ点灯)にしてください。また、ロータ変速が作物に合っているか、確認してください。	ー
	送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	「7」または、「閉」側にしてください。	118
	作物の供給量が不十分ではありませんか。	走行速度を少し速くしてください。	ー
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	走行速度を少し速くしてください。リールが前過ぎれば、後ろに下げてください。	ー
こく粒の飛散が多い。	送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	送塵調節レバーを「閉」側に調節してください。	118
	エンジンの回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にしてください。	ー
	クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	67
	唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	118
こぎ室内でゴトゴト音がして、能率があがらない。	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから刈取ってください。	ー
	ロータの回転数が低くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モードスイッチを「入」(E モードランプ点灯)にしてください。また、ロータ変速が作物に合っているか、確認してください。	ー
	作業速度が速すぎませんか。	現在の速度より少し落として作業してください。	ー
	送塵調節レバーが「閉」側になっていませんか。	稲の含水率が高いときには、送塵調節レバーを「開」側にしてください。	118
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	ー

状況	点検箇所	処置	参照ページ
選別が悪い。	クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	作物の条件に合わせて、クリーンシフトレバーで適正位置に調節してください。	67
	エンジンの回転数が低すぎませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで正しく調節してください。	―
	唐箕の風路、および風吸入口にワラクズなどがたまっていませんか。	ワラクズなどを取り除いてください。	―
	唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	118
損傷粒が多い。	供給量が不適正ではありませんか。	走行速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは、走行速度を落として作業してください。	―
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	―
	クリーンシフトレバーの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	67
	昇降機、排出オーガパイプに土が付着していませんか。	土をきれいに落としてください。	―
	ロータ回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数に調節してください。	―
キャビン内が冷えない。	風量が少ない。また、風が出ないのではありませんか。	ブロアモータの作動を調べてください。	―
	吹出し空気が送風になっていませんか。	温度コントロールレバーを「COOL」側にしてください。	86
	吹出し空気温度が高くありませんか。	コンプレッサの回転を調べてください。	―
	コンプレッサが回転しないのではありませんか。	ベルトの張りを適正に調整してください。	234
		電磁クラッチの作動を調べてください。	―
	冷媒量が不足していませんか。	補充してください。	239
	コンデンサが詰まっていませんか。	掃除してください。	206

チェッカ機能について

このコンバインには、チェッカ機能が内蔵されています。各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックがセンターディスプレイの画面で行えます。

⚠警告

- 確認する内容によっては、一人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。不意にコンバインが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- チェッカ機能を使用するときには、安全な場所でコンバインを停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「ON」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむを得ずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。不意にコンバインが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

[参考]

非常用カプラが接続されているときは、チェッカ機能による刈取昇降はできません。

チェッカ機能の使いかた

1. MODE（表示切替）スイッチとOFF（ブザー停止）スイッチを、一緒に5秒以上押し続けます。（図 4-241）

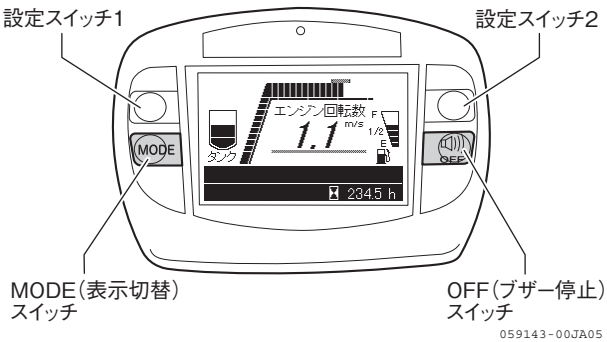


図 4-241

2. ブザーが断続で鳴って、「メンテナンスモードメニュー」の画面に切り替わります。（図 4-242）

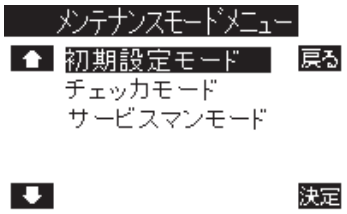


図 4-242

3. 「メンテナンスモードメニュー」の画面で、設定スイッチ 1（⬆）または MODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を「チェッカモード」の項目に移動して、文字を反転させOFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。（図 4-243）

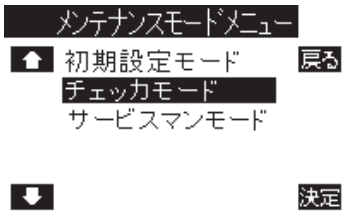


図 4-243

4. 「チェッカメニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい制御の項目に、設定スイッチ 1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。（図 4-244）

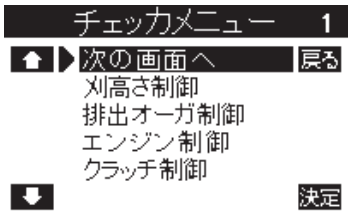


図 4-244

5. 各制御に関連するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などの「各制御メニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい項目に、設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。（図 4-245）

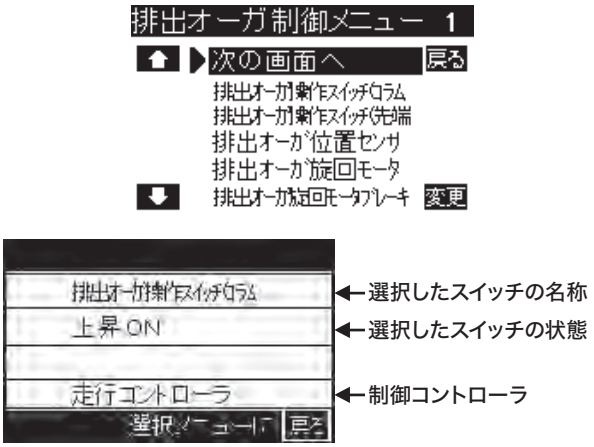


図 4-245

※図は、排出オーガ制御のチェック例です。

6. 以下に、それぞれ選択したチェックしたい項目について説明します。

スイッチを選択した場合（図 4-246）

1）スイッチの状態と、そのスイッチの入力を処理しているコントローラが表示されます。
2）スイッチ操作と表示が異なるときは、スイッチの故障か、もしくはスイッチとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
3）カプラの外れやワラクズなどでスイッチが押された状態になっていないか確認します。
4）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、特販店、またはJAに修理を依頼してください。

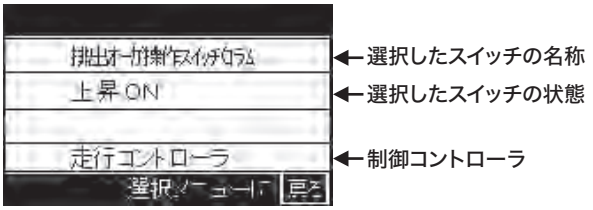


図 4-246

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、排出オーガ操作スイッチコラムを押した状態の画面です。

センサを選択した場合（図 4-247）

1）センサの入力値（電圧・回転数・温度など）と正常なときのセンサ値の範囲、およびそのセンサの入力を処理しているコントローラが表示されます。
2）センサが異常値のときはセンサの故障か、もしくはセンサとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
3）カプラが外れていないか確認します。
4）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、センサ値が正常値にない場合や、エラーが解除されない場合は、特販店、またはJAに修理を依頼してください。



図 4-247

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、排出オーガがオーガレストに収納された状態の画面です。

モータ・ランプ・電磁を選択した場合（図 4-248）

1）設定スイッチ 2（駆動）を押しながら、設定スイッチ1（右）もしくはMODE（表示切替）スイッチ（左）を押して、モータなどを動かすことができます。
2）画面には動かしている状態と、出力しているコントローラが表示されます。
3）もし動かないときは、モータなどの故障か、もしくはモータなどとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
4）カプラが外れていないか確認します。
5）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、特販店、またはJAに修理を依頼してください。

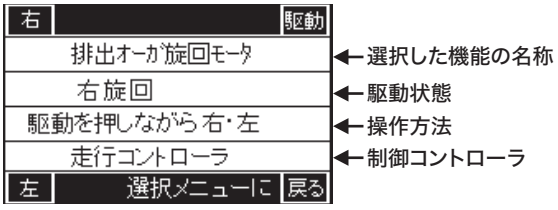


図 4-248

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、設定スイッチ 2（駆動）を押しながら設定スイッチ 1（右）を押した状態の画面です。

7. OFF（ブザー停止）スイッチ（戻る）を押して、「各制御メニュー」の画面に戻ります。さらに、制御に関するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などをチェックする場合は、手順4.の要領で行います。
8. 通常の画面に戻る場合は、キースイッチを「OFF」位置にして、再度「ON」位置にするか、画面表示に従って、設定スイッチ2（戻る）を押して戻ります。

短期保管するときは（2か月以内）

[重要]

- 各部にこく粒やワラクズが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。
- 無線リモコンのアンテナを外して保管する場合は、アンテナ基部に雨などが入らない場所で保管するか、シートをかけてください。

保管のしかた

コンバインを保管する場合は、つぎの要領で整備し、保管してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（88 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。
3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」（177 ページ）に従って、グリスアップします。
5. サイドデバイダを収納します。
6. 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

[重要]

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

7. 刈取部をいっぱいまで下げます。

[参考]

やむをえず刈取部を上げたまま保管する場合は、必ず刈取ストップバルブをロック位置にしてください。

8. 各操作スイッチ・レバーを「切」位置、または「N」位置にします。
9. バッテリーの（−）側ケーブルを外します。

[重要]

バッテリーは、使わなくても自然放電します。1 カ月に 1 度は充電器で完全充電してください。
（213ページ参照）

10. 必ずキーを抜き取って保管します。

長期保管するときは（2か月以上）

⚠警告

長期保管するときは、バッテリーを外し、キーを抜き取ってから保管してください。電気配線被覆の劣化による漏電で火災事故を起こすおそれがあります。

[重要]

- 各部にこく粒やワラクズが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。
- 無線リモコンのアンテナを外して保管する場合は、アンテナ基部に雨などが入らない場所で保管するか、シートをかけてください。

保管のしかた

コンバインを長期間使用しない場合は、つぎの要領で整備し、格納してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器
- ポリエチレンなどの袋

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（88 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。

[重要]

「定期点検一覧表」（182ページ）でメンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをしてください。

3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」（177 ページ）に従って、グリスアップします。
5. サイドデバイダを収納します。
6. 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

[重要]

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

7. 刈取部をいっぱいまで下げます。
8. さびを防ぐため、燃料タンクの燃料を最小量まで抜きます。
9. ウォータセパレータは OFF（閉の状態）にします。
10. 冷却水を抜き取ります。

[重要]

整備等でエンジンを運転する場合は、規定量の冷却水を給水して行ってください。エンジンが破損します。

[参考]

純正不凍液を入れた冷却水でも、凍ることがあります。（185ページ参照）

11. 各操作スイッチ・レバーを「OFF」、「切」位置、または「N」位置にします。
12. バッテリーを完全充電し、コンバインから外し、風通しの良い冷暗所に保管します。

⚠警告

バッテリーを、外すときは（－）側のケーブルから外し、取り付けるときは（＋）側のケーブルを（＋）側の端子に取り付けてください。ショートによるヤケドや火災の原因になります。

[重要]
バッテリーは、使わなくても自然放電します。1カ月に1度は充電器で完全充電してください。
(213ページ参照)

13. エアクリーナ・排出ガス出口・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉します。
14. 必ずキーを抜き取って保管します。

[参考]
長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。

運転を再開するときは

長期間保管後、再使用するときはつぎの要領で準備してください。

1. 塗布した防錆油をふき取ります。
2. さびや部品などの劣化がないか確認します。
3. 燃料タンク、燃料フィルターに異常がないことを確認し、新しい燃料を補給します。
4. 「定期点検一覧表」(182ページ) でメンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをします。
5. バッテリーをコンバインに取り付けます。
6. エンジンを始動し、異常がないことを確認します。

[重要]
エンジン始動後は、暖機運転を長く行い、各部を十分になじませてください。

保管中の整備のしかた

保管中は、つぎのような整備を行ってください。
また、作業装置を作動させるときは油圧シリンダロッドに塗った防錆油をふき取ってください。

- 1か月に一度はエンジンをかけて、コンバインを動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。
- バッテリーは、使用しなくても自然に放電します。1か月に一度は、充電してください。(213ページ参照)
- 2～3週間ごとに1～2回は、エンジンをアイドリング (低回転) で、エアコンを10分以上作動させてください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠警告

- 長距離の移動などでトラックを使用されるときは、安全のため、必ず最寄りの特販店、またはJAまでご連絡ください。
- ほ場間の移動でトラックを使用される場合は、十分な強度のあるトラック（積載荷重6t以上）を使用してください。
- 積み・降ろしをする場所は、平たんで安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。転落事故の原因になります。
- 積み・降ろしのコンバイン方向は、「コンバインの積み込みかた」（275ページ参照）の表 6-2に従い行ってください。バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- アユミ板の上では、副変速の操作をしないでください。コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、傷害事故の原因になります。
- コンバインが不意に動いたときに危険なので、コンバインの直前・直後には、絶対に立たないでください。
- コンバインがアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだコンバインは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。また、コンバインは強度が十分にあるロープで確実に固定してください。転落事故の原因になります。

⚠注意

移動走行時およびトラックなどの積み降ろしをするときは、必ず作業クラッチレバーを「OFF」、E モードスイッチを「切」（E モードランプ消灯）にしてください。また、リール、セカンドモア（オプション）、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。刈取部が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。

アユミ板について

アユミ板は、つぎの基準に合ったものを使用してください。

- 長さ…トラックの荷台の高さの4倍以上
- 幅…55cm以上
- 強度 …1 枚がコンバインの重量に十分耐えられるもの
  （コンバイン質量約5000kg〈MCH1140-SMU〉）
- 表面…すべらないように処理してあるもの
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの

トラックの準備

⚠警告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

[重要]

荷台からコンバインがはみださないトラックを準備してください。やむをえず、コンバインが荷台からはみだす場合は、道路交通法規を守って積み込んでください。

表 6-1 準備するトラック

最大積載荷重	荷台長さ	荷台幅	荷台高さ
6t 以上	5300mm 以上	2400mm 以上	1050mm 以下

1. トラックの変速は、オートマチック車は「P」、マニュアル車は「1 速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
2. トラックのタイヤに車止めをします。

3. トラックの荷台にアユミ板（1）のフックを、段差（2）がでないように確実に掛けます。（図 6-1）

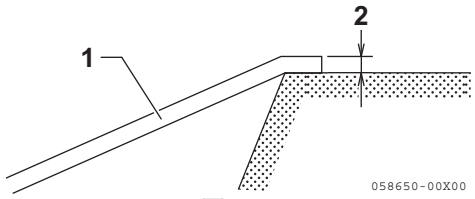


図 6-1

[重要]

- デバイダヘッドは外して移動してください。
- トラックの荷台に、ダンプ機構が付いていない場合は、基準に合ったアユミ板を使用してください。

コンバインの積み込みかた

1. ワイドヘッダの場合は、ヘッダ部を外します。外しかたは160ページを参照してください。
2. コンバインは、移動走行時の走行姿勢と同じ状態にします。（109ページ参照）

[重要]

乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行うと、ステップの破損・変形の原因になります。

3. Eモードスイッチ（1）を「切」（Eモードランプ消灯）（2）にします。（図 6-2）

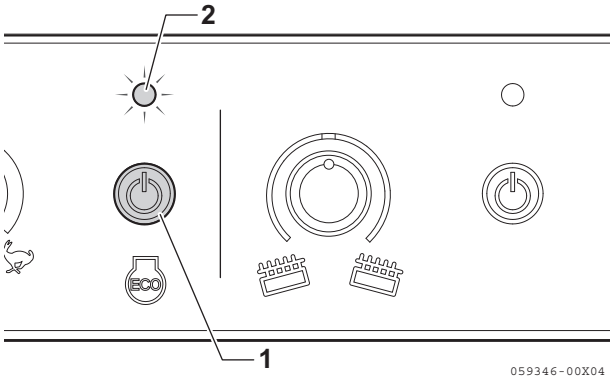


図 6-2

[参考]

E モードスイッチが「入」（E モードランプ点灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

4. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、コンバインの方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めます。
5. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押します。刈取部がアユミ板に接触しないように上げます。（図 6-3）



図 6-3

6. コンバインの積み込み方向は、つぎの表を参照します。

表 6-2 積み込み方向

進行方向	積み込み	後　進
	降ろし	前　進

7. 副変速レバー（1）を「L」位置にして、オールマイティシフトレバー（2）をゆっくり「後進」位置にします。コンバインがゆっくり動き始めます。（図 6-4）

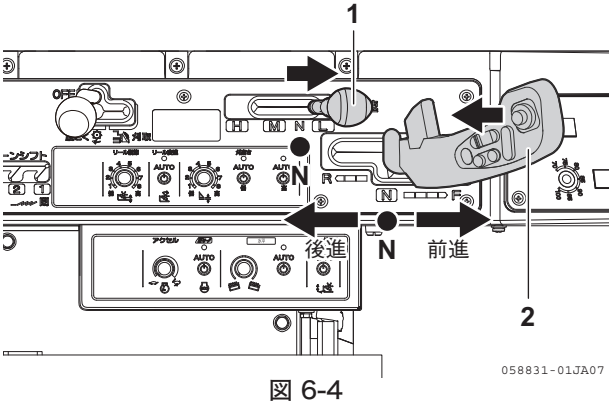


図 6-4

8. コンバインをトラックに積み込んだら、セフティペダル（1）をいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバー（2）を手前に引いて、セフティペダルにフック部（3）をかけ、駐車ブレーキをかけます。（図 6-5）

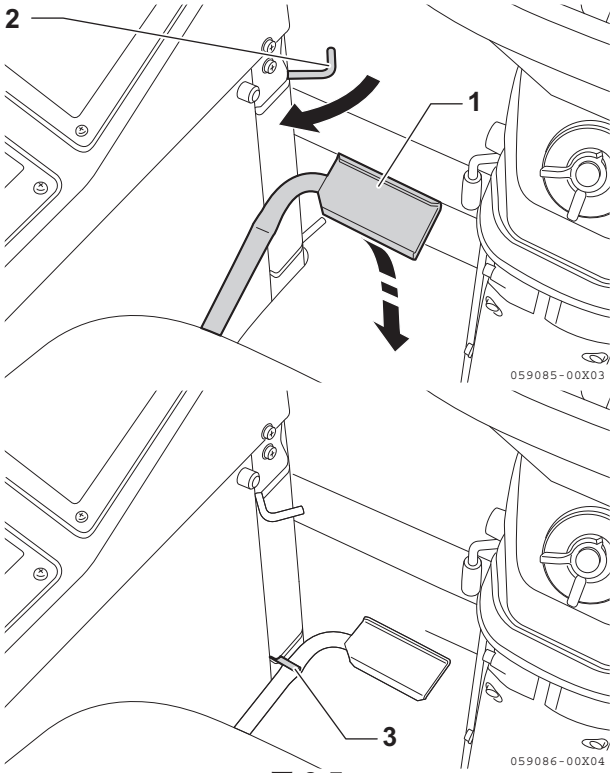


図 6-5

トラックに積み込んだら

1. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押します。刈取部をトラックの荷台に接地させます。（図 6-6）

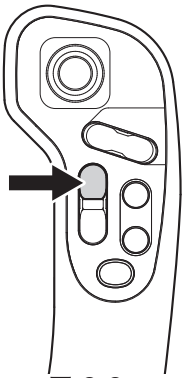


図 6-6

2. エンジンを停止します。（102ページ参照）
3. コンバイン左右のロープフック（4か所）に、十分に強度のあるロープを掛けて、コンバインを確実に固定します。

■ コンバイン左前

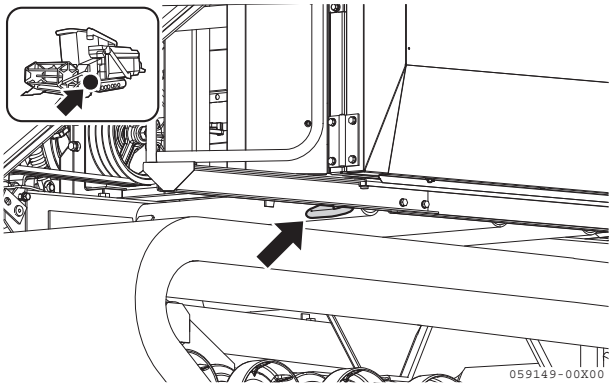


図 6-7 ロープフック左前

■ コンバイン左後

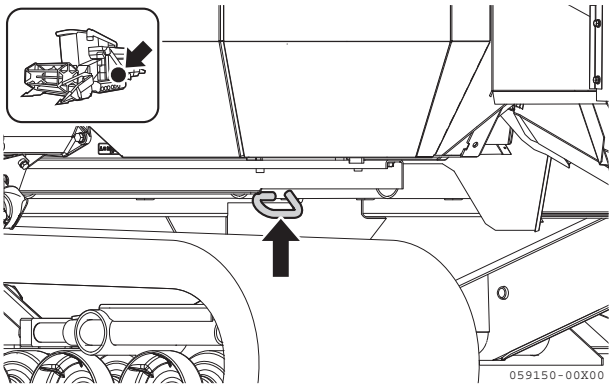


図 6-8 ロープフック左後

■ コンバイン右前

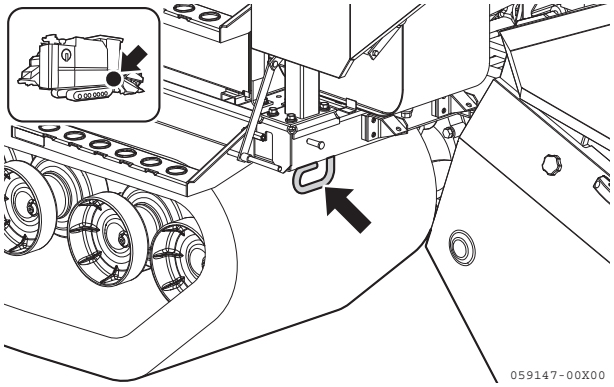


図 6-9 ロープフック右前

■ コンバイン右後

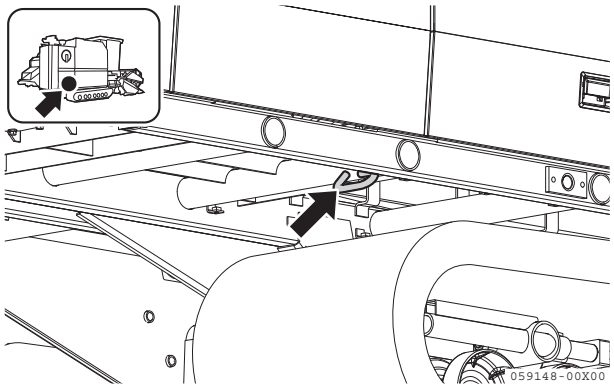


図 6-10 ロープフック右後

[重要]

- ロープフック以外には、ロープを掛けないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

コンバインの降ろしかた

⚠警告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

1. コンバインを固定しているロープを外します。
2. コンバインに破損、または欠落している部品がないかを確認します。
3. エンジンを始動します。（100ページ参照）
4. Eモードスイッチ（1）を「切」（Eモードランプ消灯）にし、アクセルダイヤル（2）を「🐇」側に回します。エンジン回転が上がります。（エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置に調節します。）（図 6-11）

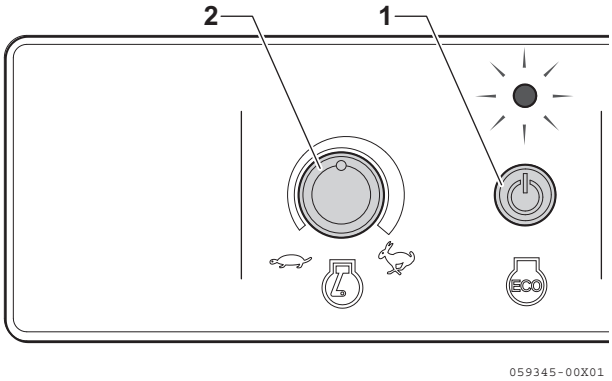


図 6-11

[参考]

Eモードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、E モードが働き、瞬時にエンジン回転が定格回転（グリーンゾーン）になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調整はできなくなります。

5. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押します。刈取部が上昇します。(図 6-12)

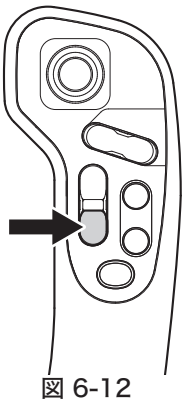


図 6-12

6. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除します。(図 6-13)

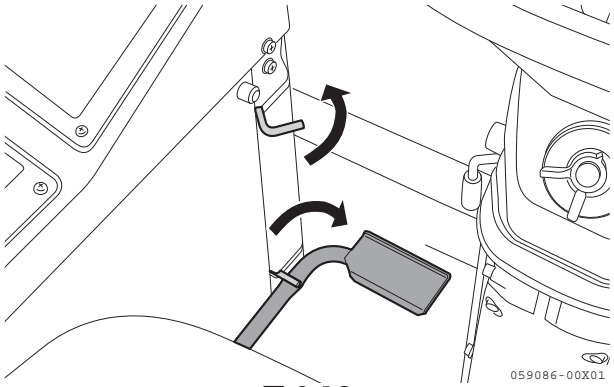


図 6-13

7. 副変速レバー (1) を「L」位置にして、オールマイティシフトレバー (2) をゆっくり「前進」位置にします。コンバインがゆっくりと動き始めます。(図 6-14)

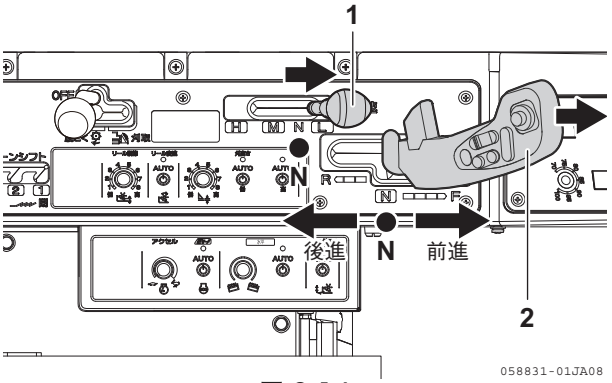


図 6-14

8. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、コンバインの方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めます。
9. コンバインを完全にトラックから降したら、オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にして、コンバインを停止し、駐車ブレーキをかけます。
10. エンジンを停止します。(102ページ参照)
11. 外したヘッダ部 (ワイドヘッダ) を取り付けます。各部の取り付けは、逆の手順で行います。

積み・降ろし中の停止・発進のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にして、コンバインを停止します。(図 6-15)

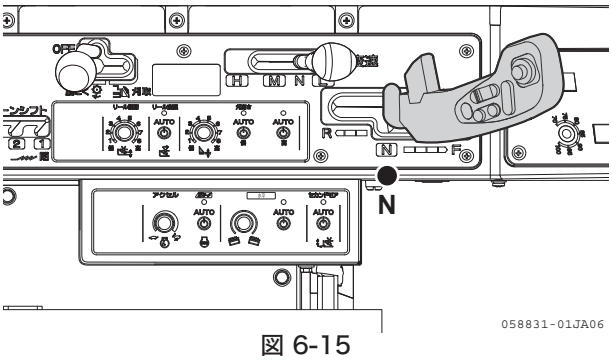


図 6-15

2. 再度動かすときは、オールマイティシフトレバーを操作して、コンバインをゆっくりと動かします。

主要諸元

表 7-1 主要諸元

名称				三菱コンバイン							
販売型式名				MCH1140							
区分				U	SU	SMU	WU	WSU	WSMU	W3SU	W3SMU
コンバイン寸法	全長		(mm)	5960	6240		5960	6240			
	全幅		(mm)	2370			2840			3240	
	全高		(mm)	2760							
コンバイン質量（重量）	コンバイン単体		(kg)	4760	4930	5070	4820	4990	5140	5050	5210
エンジン	型式名			4TNV94CHT-NRC1							
	種類			水冷4気筒立形ディーゼル							
	総排気量		(L{cc})	3.053{3053}							
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	83.8{113.9}/2500							
	使用燃料			ディーゼル軽油							
	燃料タンク容量		(L)	110							
	始動方式			セルスタータ式							
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	550×1960							
		中心距離	(mm)	1235							
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm^2})	21.7 {0.22}	22.4 {0.23}	23.1 {0.24}	21.9 {0.22}	22.7 {0.23}	23.4 {0.24}	23.0 {0.23}	23.7 {0.24}
	変速方式			HST無段変速(FDS)							
	変速段数		(段)	前後進無段×副変速3段							
	変速速度（エンジン定格回転速度時）		(m/sec)	前進=低速:0～1.00, 標準:0～2.00, 走行:0～2.81 後進=低速:0～0.93, 標準:0～1.89, 走行:0～2.62							
刈取部	デバイダ先端間隔		(mm)	2060			2590			2970	
	刈取装置形式			リール+プラットホーム							
	刃幅		(mm)	1976			2508			2888	
	刈高さ範囲		(mm)	-100～1000							
	リール	回転径×幅	(mm)	1000×1915			1000×2450			1000×2830	
		回転速度	(rpm)	15～37(車速同調)							
脱こく・選別部	形式			スクリューロータ(軸流式)							
	ローター	個数	(個)	1							
		こぎ歯の種類		スクリューこぎ歯							
		径×長さ	(mm)	590(オーガ径)×2170							
		回転速度	(rpm)	大豆・そば=310 稲・麦=710							
	コンケーブ面積		(m^2)	2.10							
	チャフシーブ面積		(m^2)	1.47							
	グレンシーブ面積		(m^2)	0.27							
	総選別面積		(m^2)	1.74							
籾処理部	タンク容量		(L)	1900							
	排出高さ		(mm)	5100/4300							
刈取処理装置						セカンドモア			セカンドモア		セカンドモア
排わら処理装置					チョッパースプレッダ			チョッパースプレッダ		チョッパースプレッダ	
諸装置	警報装置・自動化装置 その他装置			自動快速制御・自動刈高さ制御(2モード)・刈取水平制御・バックアップ機構 刈取オートリフト/オートセット・リール車速同調・リール高さ制御 自動選別制御・オーガオートセット/オートリターン・リモコンオーガ ロータリースクリーン・スイングプレート・オーガマルチリモコン オーガ無線リモコン・デュアルモニター・バックモニター オーガ先端モニター							
作業能率（計算値）			(分/10a)	6～39(麦・大豆) 10～39(稲)			5～31(麦・大豆) 10～31(稲)			5～27(麦・大豆) 10～27(稲)	
安全鑑定番号				29055/10							

主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

※ コンバインの使用状況やほ場の状態により、交換時間などは変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。運転・作業中に異常を感じた場合は、速やかに点検を実施し、特販店、またはJAに相談してください。

○：点検と調整・掃除・締結け　●：初期運転後の点検と調整　▲：交換

点検箇所		点検・交換時期																							
		アワメータ表示時間（時間）																					それ以降（時間：h）	
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
エンジン	ジェネレータ駆動ベルト		●			○				▲								▲					50, 200hごと	400hごと
	ラジエータ冷却ファンベルト		●			○				▲		○		○		○		▲		○		○	50, 200hごと	400hごと
	冷却水	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200hごと（1年）
	防塵網、ラジエータフィンの目詰り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
	プレクリーナのほこり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
	エアクリーナエレメント目詰り	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200hごと（1年）
	燃料フィルターエレメント							▲						▲						▲			−	300hごと
	ウオータセパレータコシ器の洗浄		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	毎日	−
	エンジンオイルエレメント		▲					▲						▲						▲			−	300hごと
	エンジンオイル		▲	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	50hごと	100hごと
	燃料タンクのドレン抜き			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	−
	燃料パイプおよび接合部の亀裂・緩み							○						▲									300hごと（1年）	600hごと（2年）
	排気フィルターリセット再生		●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	−
	スートフィルター（排気フィルター）																						3000hごと	9000hごと
ミッション	駐車ブレーキワイヤ		●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	50hごと	300hごと
	ＨＳＴオイルフィルター							▲						▲									−	600hごと
	ミッションオイル		▲					▲						▲						▲			−	300hごと
	スプロケット									○								○					400hごと	−
	車軸オイルシール									○								○					400hごと	−
走行部	エンジンベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	カウンタベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	ＨＳＴ駆動ベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	コンプレッサ駆動ベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	吸引ファン駆動ベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	ブレーキワイヤー		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	50hごと	800hごと
	バッテリー			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと（2~3年）
	作動油							▲						▲									−	600hごと
	クローラ									○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	スプロケット					○				▲								▲					−	400hごと
	転輪																	▲					−	800hごと
	転輪ベアリング																	▲					−	800hごと
	転輪オイル交換									▲								▲					−	400hごと
	転輪オイルシール（メカニカルシール）																	▲					−	800hごと
	アイドラ																	▲					−	800hごと
	アイドラベアリング																	▲					−	800hごと
	アイドラオイル交換									▲								▲					−	400hごと
	アイドラオイルシール（メカニカルシール）																	▲					−	800hごと
	クローラガイド																	▲					−	800hごと
	可動転輪																	▲					−	800hごと
	キャリアローラ																	▲					−	800hごと
	可動転輪, キャリアローラベアリング									▲								▲					−	400hごと

点検箇所		点検・交換時期																					それ以降(時間:h)	
		アワメータ表示時間(時間)																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
走行部	可動転輪, キャリアローラオイルシール									▲								▲					−	400hごと
	内気フィルター																						−	−
	コンデンサフィン			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	−
刈取部	刈取駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	刈刃(含む隙間調整)			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		○	100hごと	300hごと
	刈刃駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	リール変速ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	刈刃駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		−	300hごと
	刈刃駆動アームベアリング							▲						▲						▲			−	300hごと
	刈取駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	フィーダチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
脱こく部	脱こく駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	ロータベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	PTO駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	プレクリーニングファン駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	唐箕駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	選別駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	セカンドファン駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	2番駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	レベリングデイスクベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	インペラ補強											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	ロータオーガ補強											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	扱歯											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	排稈羽根											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	コンケーブ											▲										▲	500hごと	線径1/2摩耗
	1番コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	2番コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	2番縦コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	2番上コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	バケット											▲										▲	500hごと	先端5mm摩耗
	バケットチエン			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	選別ワイヤー		●							○								▲					400hごと	800hごと
	ロータ駆動ケースオイル		▲					▲						▲						▲			−	300hごと
グレンタンク部	グレン駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	下部コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	縦コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	排出横コンベア											▲										▲	500hごと	板厚0.3mm以下
	グレン駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	スイングプレート											▲										▲	−	500hごと
電装	バッテリー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	−
		充電または交換																						
	ワイヤーハーネス、バッテリーケーブル	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	−
		破損しているとき交換																						
	ヒューズ、スローブローヒューズ	破損しているとき交換																					−	−
	ランプ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
		破損しているとき交換																						
	ホーンスイッチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	−
		破損しているとき交換																						
	無線リモコン電池	ランプが点灯しない、または暗くなってきたら2個同時に交換																					毎日点検	−

点検箇所		点検・交換時期																					それ以降(時間:h)	
		アワメータ表示時間(時間)																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
スプレッダ セカンドモア	回転刃、受刃			○		▲		○		▲		○		▲		○		▲		○		▲	−	−
	スプレッダ切換えワイヤ		●							○								▲					400hごと	800hごと
	スプレッダ駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
	セカンドモア駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50, 100hごと	400hごと
その他	強力ピン6.5(オーガ旋回モータ)	破損しているとき交換																					−	−
	ピン(グレン駆動)	破損しているとき交換																					−	−
	アイドラテンションボルト	破損しているとき交換																					−	−

廃棄するときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水・冷媒ガス・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。

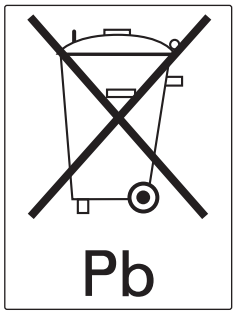


図 8-1

廃油、不凍液の処理

オイル交換で出た廃油や交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご相談ください。

バッテリーの処理

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

冷媒ガス（フロン類）の処理

- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）は、回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。

表 8-1 冷媒ガス

使用冷媒（クーラーガス）	フロン　R-134a
充填量	950g

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせずに、購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

コンバインの調子が悪いときは、287ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してもなお不具合があるときは、つぎの「連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号（車両銘板）
- エンジンの場合は、エンジンの番号（エンジン銘板）
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。

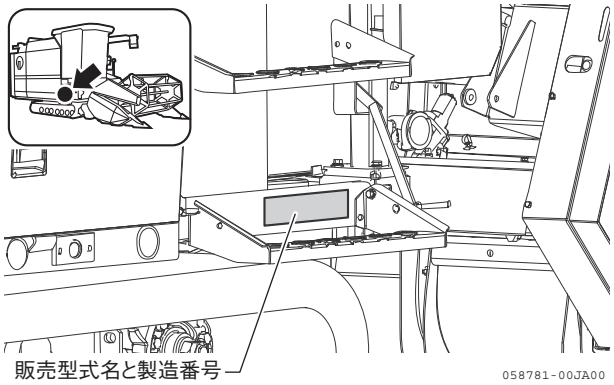


図 9-1 車両銘板

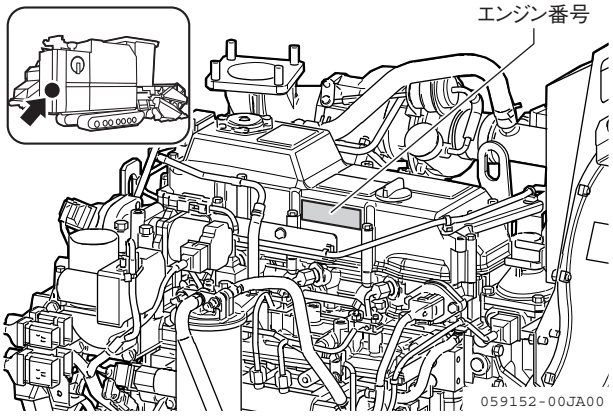


図 9-2 エンジン銘板

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品･オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。
部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

10章 索引

英数字

E モードスイッチ.....63
E モード設定.....96
FM・AM 付 CD ラジオ.....84
HST フィルター.....210

あ

アームレスト.....78
アクセルダイヤル.....63

う

ウォータセパレータ.....202
ウォッシャー液.....210
ウォッシャースイッチ.....82

え

エアクリーナー.....204
エアコン.....111
エアコンスイッチ.....85
エラーコード.....59, 244
エンジン後カバー.....158
エンジンオイル.....185
エンジンオイルエレメント.....195
エンジン銘板.....1

お

オーガ自動旋回スイッチ.....70
オーガ自動旋回装置（オーガオートセット・オーガオートリターン装置）.....143
オーガマルチリモコン.....70
オーガモニターカメラ.....86
オーガリターンスイッチ.....75
オートデセル機能.....63
オールマイティシフトレバー.....67
オイル.....188
温度コントロールレバー.....86

か

快速制御機能.....65
快速制御スイッチ.....64
快速調節ダイヤル.....65
外部電源.....80
刈高さ自動切替スイッチ.....61
刈高さ調節ダイヤル.....62
刈取オートセットボタン.....69
刈取オートリフトボタン.....69
刈取クラッチボタン.....69
刈取昇降スイッチ.....68
刈取水平制御装置.....141
刈取バックアップ装置.....141
刈取部ストッパ.....80
刈刃.....117

き

キースイッチ.....54
キャビン.....81

く

クリーンシフトレバー.....67
グリス.....177
グレンシーブ.....173
グレンタンク.....156

け

傾斜角調節ダイヤル.....64
警報表示ランプ.....57

こ

コンビネーションスイッチ.....54

さ

サイドウインドウ.....82
サイドデバイダ.....116
作業クラッチレバー.....67
作業灯増設用電源①.....80
作業灯増設用電源②.....80

し

自動定回転制御装置.....132
車両銘板.....1
乗降ステップ操作レバー.....79

す

水平自動スイッチ.....64
水平手動スイッチ.....68
スプレッダ（オプション）.....159

せ

セカンドモア（オプション）自動スイッチ.....64
セフティペダル.....75
旋回モード切替ノブ.....76
センサソリ切替レバー.....62
センターディスプレイ.....57

そ

送塵調節レバー.....77

た

高刈モード（自動切替）.....61
高刈モード（調節）.....62
脱こく下網.....159
脱こく制御装置.....143
脱こく左後カバー.....157
脱こく左前カバー.....157

ち

チャフシーブ.....120
駐車ブレーキロックレバー.....76
チルトレバー.....55

つ

詰まりセンサ.....73

て

ディーゼル燃料.....8
デバイダヘッド.....116
デュアルモニター.....86

と

ドア開閉レバー.....81
ドアハンドル.....81
ドライバーシート.....78
取扱説明書収納ポケット.....79

ね

燃料キャップ 187
燃料残量表示 187
燃料フィルター 187

は

バイオディーゼル 8
排気フィルター 175, 197
排気フィルター再生スイッチ 66
排出オーガクラッチスイッチ 71
排出オーガ手動スイッチ 71
バックアップ電源 84
バックモニターカメラ 86
バッテリー 211

ひ

低刈モード（自動切替） 61
低刈モード（調節） 62
ヒューズ・スローブローヒューズ 214
ヒューズボックス（キャビン室内） 215

ふ

ファンスイッチ 85
風向グリル 86
副変速レバー 66
不凍液 185
プレクリーナー 205

ほ

ホーンボタン 56

ま

マルチハンドル 56

み

ミッションオイル 190

む

無線リモコンオーガ 73
無線リモコン用アンテナ 75

め

メンテナンスモード 94

ら

ライトスイッチ（作業灯スイッチ兼用） 55

11章 部品リスト(部品早見表)

オプション

表 11-1 オプション

名称 型式	機能
セカンドモア CSM1100M(MCH1140用) CSM1100,WM(MCH1140,W用) CSM1100,W3M(MCH1140,W3用)	高刈り作業時の残株を、刈取りと同時に再切断します。
スプレッダ CSS1140,CWM CSS1140,CWMH(北海道向け)	排稈・排塵を、ほ場へ均一に拡散します。
ビーンキット(パイプコンケーブ) B1140-K,PM(MCH1140用) B1140-K,WPM(MCH1140,W用) B1140-K,W3PM(MCH1140,W3用) B1140-K,HPM(MCH1140用北海道向け) B1140-K,HWPM(MCH1140,W用北海道向け) B1140-K,HW3PM(MCH1140,W3用北海道向け)	大豆の作物特性に合わせて改装する専用部品で、コンケーブがパイプタイプのもの。
小豆キット RB1140A,M(ビーンキット「有」) RB1140A,MH(ビーンキット「有」北海道向け) RB1140B,M(ビーンキット「無」) RB1140B,MH(ビーンキット「無」北海道向け)	小豆の作物特性に合わせて改装する専用部品です。
ソバキット BW1100A,M(ビーンキット「有」) BW1100A,MH(ビーンキット「有」北海道向け) BW1100B,M(ビーンキット「無」) BW1100B,MH(ビーンキット「無」北海道向け)	ソバの作物特性に合わせて改装する専用部品です。
大豆直接排出キット B1140-L,M B1140-S,M	バケットコンベアで大豆を排出する専用部品です。

主要消耗部品

表 11-2 主要消耗部品

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
1	エンジンベルト　LB75(AG10)	97320000250	3	エンジン～カウンタ1
2	カウンタベルト　LC151(AG8)	97320000270	2	カウンタ1～カウンタ2
3	HST入力ベルト　LB56(AG8)	97280000530	3	カウンタ2～HST
4	脱こくクラッチベルト　LC72(AGX)	97360000260	2	カウンタ1～ロータケース
5	ロータ駆動ベルト　LB76(AG8)	97280000050	4	ロータケース～ロータ
6	冷却ファン駆動ベルト　LA93(AG4)	97320000230	1	カウンタ1～冷却ファン
7	吸引ファン駆動ベルト　LA53	97320000220	1	エンジン～吸引ファン
8	グレン駆動ベルト　LC70H	97090015570	1	エンジン～グレンカウンタ
9	ジェネレータ駆動ベルト　ローエッジコグ B46.0	97320000040	1	エンジン～ジェネレータ
10	コンプレッサ駆動ベルト　LA37H	94950026440	1	T/M～コンプレッサ
11	PTO入力ベルト　トクB34　H4	97320000240	2	カウンタ2～PTOケース
12	プレファン駆動ベルト　LA38H	97320000200	1	PTOケース～プレファン
13	唐箕駆動ベルト　LB54H	08521300054	1	PTOケース～唐箕
14	選別駆動ベルト　LC194H	97280000020	1	PTOケース～揺動
15	セカンドファン駆動ベルト　LA26(AG6)	94690028820	1	選別ベルト～セカンドファン
16	2番コンベア駆動ベルト　LC49	97080008280	1	揺動～2番コンベア
17	レベリングディスク駆動ベルト　LA48H	97320000210	1	1番コンベア～レベリングディスク
18	刈取クラッチベルト　LB51(AG8)	97320000110	3	PTOケース～刈取
19	リール変速ベルト　RCVS31-950	94690002210	1	変速プーリ
20	刈刃駆動ベルト　RCLC78	94690003170	1	FH出力軸～刈刃駆動ケース
21	セカンドモア駆動ベルト　LC42H	97180000080	1	セカンドモア
22	スプレッダクラッチベルト　LB70(AG8)	97320000190	1	エンジン～スプレッダ
23	スプレッダ駆動ベルト　LB48(AG6)	97250011760	1	スプレッダ(低速)
24	スプレッダ駆動ベルト　SB47(AG6)	97250011770	2	スプレッダ(高速)
25	刈取駆動チェン　40L	97320000160	2	刈取駆動
26	チェン　50×158L	97290000660	1	
27	フィーダチェン　91L	97180010320	2	F.H
28	チェン　50×84L	94690003900	1	PFオーガ
29	チェン　415×60L	94690001860	1	リール駆動
30	チェン　415×226L	94690001920	1	リール
31	チェン　43	94690015840	1	2番下ケース
32	チェン　38	94690006000	1	2番上ケース
33	エレベータチェン　160	97320000180	1	昇降機
34	チェン　50×62L	97250010230	1	Gカウンタ～縦オーガ受継下
35	チェン　50×40L	97320000130	1	縦オーガ受継下
36	チェン　50×28L	97320000070	1	縦オーガ受継上
37	チェン　50×34L	97320000080	1	縦オーガ受継上
38	ローラチェン　50×53	97180000200	1	セカンドモア
39	タイン　260	94690029820	87	標準ヘッダ
			108	ワイドヘッダ

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
40	フィンガ	94690013040	13	標準ヘッダ
			15	ワイドヘッダ
41	フィンガガイド	97360000270	13	標準ヘッダ
			15	ワイドヘッダ
42	フィンガベアリング	97360000280	13	標準ヘッダ
			15	ワイドヘッダ
43	ブラケット　A	94950000430	18	リールスパイダ
44	ブラケット　B	94950000440	18	リールスパイダ
45	刈刃　CMP	97320000150	1	標準ヘッダ
46	刈刃　CMP	97290000260	1	ワイドヘッダ
47	FHチェン ササエバネ	97180010850	2	F.H
48	刈刃	94950000010	19	標準ヘッダ
			26	ワイドヘッダ
		94690003420	7	標準ヘッダ
			7	ワイドヘッダ
49	受刃 AM	94690003331	13	標準ヘッダ
			17	ワイドヘッダ
50	受刃 C	94950001010	1	刈刃
51	ガイド　L	94690003430	1	刈刃
52	リールプレート	94690029882	6	リールプレート
53	リールテンショナ　A	94690001910	1	リールカウンタ
54	グロメット　30	94690029930	10	リールスライド
55	FH駆動テンショナ	97180010310	1	FH駆動
56	シートメタルゴム	94690014990	1	FHシートメタル
57	シートメタル	97180000120	2	FHシートメタル
58	扱歯　(H-1100)	97290001120	45	ロータ
59	扱歯　SK27.5	97280000430	44	ロータ
60	六角ボルト　6×12(11T)	94690028960	17	ロータ
61	六角角穴ボルト　6×16	AAAA0000231	170	ロータ
62	六角角穴ボルト　6×20	97280000390	16	ロータ
63	コーンケーブ　18(950)	97280000150	6	コーンケーブ
64	送塵弁　B	94690004790	9	送塵弁
65	弁	97320000170	1	送塵弁
66	インペラ補強前	94690028890	2	ロータ
67	インペラ補強　A	94690028900	3	ロータ
68	インペラ補強　B	94690028910	1	ロータ
69	ロータオーガ補強	97290000510	8	ロータ
70	排稈羽根	97290000540	3	ロータ
71	スロワ羽根	94690006040	2	2番コンベア上
72	入口供給板	97290000431	1	上本体入口
73	1番コンベア	1E9441-47000	1	1番コンベア
74	バケット　120	1E8680-45310	40	バケットエレベータ
75	2番コンベア横	94690015801	1	2番コンベア横
76	2番コンベア縦	97280000710	1	2番コンベア縦
77	2番コンベア上	94690006020	1	2番コンベア上

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
78	下部コンベア	97290001190	1	グレン
79	縦コンベア	97290000310	1	排出パイプ
80	横コンベア元	97290000700	1	排出パイプ
81	横コンベア先	97320000140	1	排出パイプ
82	チャフ切換ワイヤ	97320000090	1	
83	選別ワイヤ	97280000041	1	
84	シャッターワイヤ	97320000100	1	
85	駐車ブレーキワイヤ	97320000120	1	
86	選別クラッチワイヤ	97280000720	1	
87	エレメント　ASY	94690071390	1	HST
88	エレメント(インナ	90350032600	1	エアクリーナ
89	エレメント(アウタ	90350053800	1	エアクリーナ
90	フィルタ150メッシュ	94690070810	1	油圧タンク
91	エレメント	97250002650	1	油水分離器
92	バッテリー　115D31R	97320000060	1	
93	強力ピン6.5	94950000750	1	オーガ旋回モータ
94	ピン14	97250010080	2	グレン駆動
95	FOフィルタ	97320000050	1	燃料フィルタ
96	LOフィルタ	99430000040	1	エンジンオイルフィルタ
97	ノコハ	1J5101-81400	15	スプレッダ
98	ナイフ T5	1S7302-32100	16	スプレッダ

memo

memo

フロン排出抑制法によるお客様点検

フロン排出抑制法とは
「フロン類の使用の合理化および管理の適正化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）として施行されました。

対象機種	エアコン装備（キャビン仕様）のトラクター・コンバインや玄米低温貯蔵庫、ガスヒートポンプなど、第一種特定製品が該当します。 ※ 13 馬力以上のガスヒートポンプは、ガスエンジンの定格出力が7.5kW 以上となり、別途「定期点検」が必要となります。詳細は販売店にご確認ください。

機械の管理者（お客様）は、以下のことを行う必要があります。	
1. 簡易点検の実施 3ヶ月に1回以上の目視による簡易点検（外観点検※）を行う必要があります。 点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、速やかに販売店にご連絡ください。 ※ 目視で確認可能な配管部分などの異音・異常振動、製品外観の損傷・腐食・錆、油のにじみなどの点検です。簡易点検はお客様自身でもできる点検のため、資格などは必要はありません。	**2. 記録の保管** 簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械を廃棄・譲渡するまで保管が必要となっています。 ※ 機械を他者に売却・譲渡する場合は、点検記録表またはその写しを相手に引き渡す必要があります。点検記録表はつぎのページを参照してください。
点検サービスについて	お買い上げいただいた販売店では、簡易点検に関するアドバイスを行っております。点検に関するご相談や代行の依頼など、お気軽にご相談ください。

お客様点検用

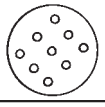
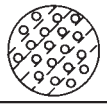
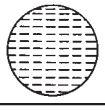
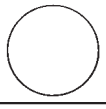
フロン排出抑制法に基づく
第一種特定製品（農業機械用エアコン機器等）

簡易点検記録表

機　種		管理責任者	
型　式			
機　番			

点　検				項目	機器の損傷・腐食	機器の冷媒の漏れ	冷媒量 サイトグラスの状態・点検	機器の騒音	機器の振動	機器の温度調整機能	気づいたこと
点検者	年	月	日	基準	損傷・著しい腐食	油漏れ・にじみ		異常な音	異常な振動	温度変化があること	
				3ヶ月に1回以上点検すること	有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	

■冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
サイトグラスの状態	ほとんど透明 泡の流れが見えてもエンジン回転をあげると透明になる 	気泡の流れるのが見える。 透明または白泡のときもある 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える 	ファンを最大で回し、窓を全開にしてアイドリングで回しても気泡が見えない 

※不具合や不明なことがあった場合は、販売店にお問い合わせください。
　冷媒の漏えいを発見した場合は、速やかに漏えい箇所の特定および修理を依頼してください。漏えい箇所が不明の場合は充填しないでください。
※［記録の保管］エアコン機器を廃棄するまで点検記録表を保管してください。
※点検記録表は、この用紙を複写してお使いください。

0 1250-00　00